

2019年度

# 年 報

Annual Report

April **2019**~March **2020**



島根県立大学出雲キャンパス

---

*The University of Shimane Izumo Campus*



## 年報について

島根県立大学出雲キャンパスにおいては、平成30年4月に山陰初の管理栄養士養成施設として、健康栄養学科が新しく加わり、看護栄養学部が開設されました。また、大学院看護学研究科では平成31年4月に博士後期課程が開設しました。更には、大学院博士前期課程に令和2年4月、高度実践者養成コースに助産学領域と診療看護師（NP）プライマリケア領域が開設いたします。

教育面では、学科にカリキュラム検討ワーキンググループを置き、時代が求める人材育成に対応できるようカリキュラム改正に臨んでいます。そして、「自ら考え行動できる視野の広い専門職」の育成を目指し、島根県をフィールドとした実習・演習などを通して、2学科の連携を重視したカリキュラムにも取り組んでいます。

看護栄養交流センターでは、地域貢献と専門職の現任教育の二本柱で、出雲キャンパス全ての教員が関わり、現在多くの事業が動いております。島根県立大学出雲キャンパス支援ネットワーク事業費を活用させていただき、いずも健康市民大学の開講や学生ボランティアの推進など行いました。また、メディア図書においても10月より地域住民の方に図書館を開放しました。今年度も全学中村ブレイス、平田高校などと連携協定を結び、地域貢献がより一層出来る状況になっております。専門職の現任教育では、島根県の委託事業として2019年7月17日～9月18日まで看護職員実習指導者養成講習会を開催し、22名の看護職の方が修了されました。

国際交流については、異文化研修Ⅱでは今年から両学科からの合同参加となり、米国のシアトル・ウェナチー、セントラルワシントン大学での研修が行われ19名が参加しました。異文化研修Ⅰでは、昨年度より両学科の合同参加となり、韓国大邱市の啓明大学、大邱韓医大学と大邱保健大学での研修の2か所で行い、28名と多くの学生が参加しました。また、Global Dream Hunt 事業には、出雲キャンパスからフィンランド、台湾と合計6名の学生も参加してくれました。さらに、サクラサイエンスプランを活用し大邱保健大学より学生が島根に短期留学をし、学生間の交流を図ることができました。

研究面では、科研費新規9件を含み25件、自治体・企業等受託研究・共同研究棟が6件、民間財団等研究助成金4件に取り組み、地域や学問領域の課題解決に取り組んでおります。

このように出雲キャンパス開設以来、大学のあるべき姿について不断の議論を重ね、改革・進化を遂げて参りました。今後も将来を見据えた大学改革を推進し、島根の地域に貢献して参りますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。

令和2年3月

島根県立大学出雲キャンパス  
副学長 石橋照子

## ◆ 公立大学法人島根県立大学が目指すもの

公立大学法人島根県立大学は、島根県立大学及び島根県立大学短期大学部の自主的、自立的な運営を行いつつ、さらに地域における総合的な知的拠点として、教育の質をより高めるため、次の3つの目標を達成するための取り組みを通じて、より魅力ある大学づくりを目指します。

- 学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学
- 地域に根ざし、地域に貢献する大学
- 北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学

## ◆ 島根県立大学が目指すもの

島根県立大学は、豊かな教養と高い専門知識及び技術を備え、北東アジアをはじめとする国際的な視野を持ちつつ地域に貢献し、創造性豊かで実践力のある人材を育成するとともに、地域に知の還元を行うことで、地域社会の活性化及び発展に寄与し、さらに国際社会に貢献することを目指します。

## ◆ 島根県立大学短期大学部が目指すもの

島根県立短期大学部は、地域における研究教育の拠点として、学生の学ぶ意欲を高め、豊かな人間性を育むことによって、課題研究力及び実践力を兼ね備えた人材を育成するとともに、地域への知の還元や地域課題解決への支援を通じて地域と協働し、地域社会の文化及び福祉の向上並びに地域の人々の健康の増進に寄与することを目指します。

## 1. 島根県立大学憲章について

島根県立大学は、21世紀を担うべき創造性豊かで実践力ある人材を育成し、教育研究を通して地域の発展に資するため、平成19年4月に既存の島根県立大学（浜田）、島根県立島根女子短期大学（松江）及び島根県立看護短期大学（出雲）の3つの大学を統合して開学しましたが、従来3キャンパスがそれぞれ歴史的に蓄積してきた成果を継承し、21世紀における新たな飛翔をめざす大学の姿勢を内外に示すため、平成22年4月に「島根県立大学憲章」を定めました。

### 島根県立大学憲章

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とする。

#### ①市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

## ②現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する

島根県立大学は、複雑化する現代社会の諸課題に対処するため、人間と社会に関する専門諸科学を総合的に研究する学問の府となることをめざす。

## ③地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

## ④北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する

島根県立大学は、今後ますます重要度を増す北東アジア地域、および世界の諸地域との教育的・学術的ネットワークの展開を通じ、国際的視野と豊かな研究蓄積を集約した北東アジアの知の拠点となることをめざす。

## ⑤自律と協同、透明性が高く機能性に優れた大学運営を行う

島根県立大学は、3キャンパスがそれぞれ学生と教職員一体となって独自性を発揮し、かつ、有機的結合を図り、たえず自己検証と改善に努めながら、情報を積極的に公開し、社会や時代の変化に即応できる大学運営を行う。

## 2. マスコットキャラクター「オロリン」について

平成22年9月1日に島根県立大学マスコットキャラクター「オロリン」を制定しました。

マスコットキャラクターについては、一般公募（公募期間 平成22年6月1日～7月14日）により、全国から244点の応募作品が集まり、これらの作品は、まず学生代表、事務局にて審査基準に基づき129点まで絞り込み（第1次審査）、次に学生・教職員によるインターネット人気投票（第2次審査）を実施し、その上位11点について、学内に設置した審査委員会で最終選考（第3次審査）を行い「オロリン」に決定しました。

「オロリン」は、日本神話に出てくるヤマタノオロチの精がモチーフで、愛くるしく明るい表情の中にも熱い志を持ち、常に本を片手に学ぶ姿勢からは、本学に関わるすべてのもののあるべき姿を象徴しているように見えます。

## 3. 大学歌「鳥とともに」について

島根県立大学では、平成22年4月に制定した「島根県立大学憲章」のもと、浜田・松江・出雲の3キャンパスの一体感を一層強めるよう、平成22年9月1日に大学歌「鳥とともに」を制定しました。

作詞は島根県出身で、詩人・小説家としてご活躍の平田俊子さん、作曲は作曲家、ピアニストとしてご活躍の寺嶋陸也さんです。

鳥とともに

作詞 平田俊子

作曲 寺嶋陸也

朝がつれてくる 鳥の歌声  
 心に響く  
 鳥の言葉はわからないのに  
 いとおしいのはなぜだろう  
 見上げれば はるかな空  
 見渡せば ゆたかな海  
 ゆるぎない 大地のただなか  
 人は 人を愛し  
 人は 人を信じ  
 生きる きょうを  
 生きる あしたを  
 鳥の歌声と ともに

夜がつれてくる 星の輝き  
 心を照らす  
 星の言葉はわからないのに  
 なつかしいのはなぜだろう  
 いつまでも 忘れなければ  
 いつの日か 夢はかなう  
 果てしない 時のただなか  
 人は 人を求め  
 人は 人を赦し  
 生きる きょうを  
 生きる あしたを  
 星の輝きと ともに

♩ = 100

1. あさがつれてくる とり  
 2. よるがつれてくる ほし

の う た ご え こ こ ろ に ひ び く と り  
 の か が や き こ こ ろ を て ら す ほ し

の こ と ば は わ か ら な い の に い と お し い の は な ぜ だ ろ う  
 の こ と ば は わ か ら な い の に な つ か し い の は な ぜ だ ろ う

み あ げ れ ば は る か な そ ら ー み わ た せ ば ゆ た か な う み ゆ る ぎ な  
 い つ ま で も わ す れ な け れ ば い つ の ひ か ゆ め は か な う は て し な

い だ い ち の た だ な か ひ と は ひ と を あ い し  
 い と き の た だ な か ひ と は ひ と を も と め

ひ と は ひ と を し ん じ い き る き よ う を い き る あ し た を  
 ひ と は ひ と を ゆ る し い き る き よ う を い き る あ し た を

1. と り の う た ご え と と も に  
 2. ほ し の か が や き と と も に



# 目 次

年報について

## ● 一般報告

### I. 大学組織

1. 大学運営機構	1
2. 名誉教授	2
3. 教職員の配置状況	3
4. 非常勤講師の配置状況	6
5. 各種委員会の構成委員	8
6. 教授会からの付託事項及び報告内容	13
7. 専門・特別委員会の活動	14
8. 大学院看護学研究科委員会	41
9. 看護栄養交流センター	44

### II. 教育活動

1. 看護栄養学部 目的等	46
2. 看護学科	47
3. 健康栄養学科	66
4. 別科助産学専攻 目的	70
5. 別科助産学専攻	70
6. 大学院看護学研究科 目的等	80
7. 大学院看護学研究科	80
8. 客員教授による特別講義	89

### III. 学生入学支援活動

1. オープンキャンパス	90
2. 入学者の選抜方針・方法	96
3. 受験者・合格者・入学者・在学者の推移	101
4. 受験状況と合格者の現状と課題	103
5. 科目等履修生	104
6. 高大連携	104
7. 大学院 入学選抜・方法・現状と課題	105

### IV. 学生生活支援活動

1. 在籍学生数	107
2. カリキュラムガイダンス	107
3. 学生生活ガイダンス	108
4. 学生自治会活動	109
5. チューター制度	110
6. 学生の健康管理・カウンセリング	110
7. キャンパス・ハラスメント防止	112

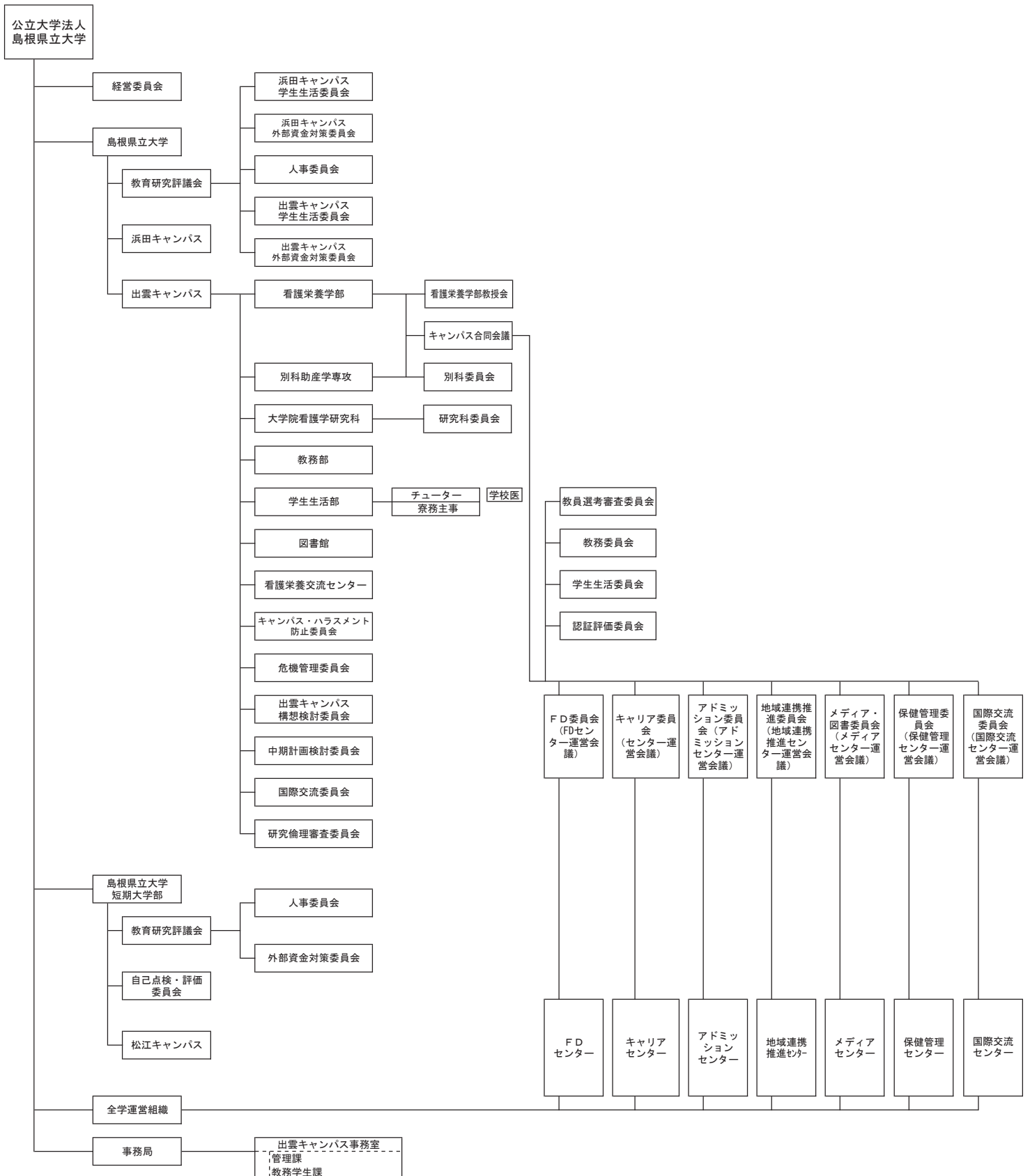
8. 奨学金制度	112
9. 学修支援制度	113
10. 入学時特待生制度	114
11. 国家試験	114
12. 就職・進学状況	115
13. キャリア支援活動	116
14. 学生寮	117
15. 学生の表彰	119
V. 国際交流	
1. 異文化研修（米国）	120
2. 異文化研修 I（韓国）	120
4. 国際交流に関する協定締結等	120
VI. 研究活動	
1. 外部資金導入	121
2. 学内の競争的資金	123
3. プロジェクトセンターの活動	123
4. 紀要の発行状況	126
VII. 地域貢献活動	
1. 公開講座等	127
2. 地域交流事業	128
3. 受託共同事業	129
4. 視察・見学・体験学習	135
5. 学外者の施設・設備利用状況	137
VIII. 施設・設備	
1. 施設設備の整備・運営状況	138
2. 情報ネットワークシステムの整備・運営状況	138
3. 出雲キャンパス図書館	140
<b>● F D 活動報告</b>	
I. 組織的活動	
1. FD 研修会	145
2. 授業参観	146
3. 授業アンケート	146
4. フィードバックレポートの公開	152
5. 研究成果の共有	153
II. 教員の個人的活動	
1. 研究活動	154
2. 学外での社会活動	199
3. 教育活動	217
4. FD 活動	239
付) 資料	
平成31年度/令和元年度主要行事の概要	262



# ● 一般報告

## I 大学組織

### 1. 大学運営機構



## 2. 名誉教授

### 1) 島根県立大学短期大学部名誉教授

島根県立大学短期大学部名誉教授称号授与規程附則により、教育上の功績が特に顕著であった教員に名誉教授の称号を授与する。

なお、島根県立看護短期大学の名誉教授の称号を授与された者はこの規程により名誉教授の称号を授与されたものとみなしている。

本キャンパスの名誉教授は、次のとおりである。

	氏 名	称号授与年月日	備 考 (在職時職名)
1	大石 益 男	平成 8 年 3 月 7 日	教 授
2	杉 谷 藤 子	平成 10 年 4 月 1 日	副学長, 教授
3	倉 鋪 桂 子	平成 11 年 4 月 1 日	教 授
4	國 本 紘 子	平成 13 年 4 月 1 日	教 授
5	礮 岩 壽満子	平成 13 年 4 月 1 日	教 授
6	恒 松 徳五郎	平成 15 年 4 月 1 日	学 長
7	瀬 戸 武 司	平成 19 年 4 月 1 日	学 長
8	江 角 弘 道	平成 20 年 4 月 1 日	教 授
9	長 崎 雅 子	平成 20 年 4 月 1 日	教 授
10	飯 塚 雄 一	平成 21 年 4 月 1 日	教 授
11	福 澤 陽 一 郎	平成 24 年 4 月 1 日	教 授
12	三 島 み どり	平成 25 年 4 月 1 日	教 授

### 2) 島根県立大学名誉教授

島根県立大学名誉教授称号授与規程により、教育上の功績が特に顕著であった教員に名誉教授の称号を授与する。

本キャンパスの名誉教授は、次のとおりである。

	氏 名	称号授与年月日	備 考 (在職時職名)
1	齋 藤 茂 子	平成 28 年 4 月 1 日	教 授
2	長 島 玲 子	令和 2 年 4 月 1 日	教 授
3	平 野 文 子	令和 2 年 4 月 1 日	教 授
4	伊 藤 智 子	令和 2 年 4 月 1 日	教 授

### 3. 教職員の配置状況

本キャンパスの教職員の配置状況については、次のとおりである。

#### 1) 教 員

令和2年3月31日現在(単位:人)

職名等	(学長)	出雲キャンパス専任教員							助手	認定看護師 教育課程 専任教員	計	嘱託助手	
		学長代行 (教授)	副学長 (教授)	教授			准教授	講師					助教
人数	(1)	1	1	22			20	5	17	1	1	68	4
備考													欠員補充 育休代替

#### 2) 職 員

令和2年3月31日現在(単位:人)

職名等	派遣職員				法人職員							計	
	事務局長	事務室長	課長	企画員			課長	主任	主任主事	主事	任期付職員		嘱託職員等
人数	(1)	1	1	1			1	5	6	3	3	6	23
備考													

3) 教職員名簿

(1) 教員

職名及び担当科目等		氏 名		職名及び担当科目等		氏 名		
(学 長)		清 原 正 義		看護学科	精神看護学	教授	石 橋 照 子	
学 長 代 行		山 下 一 也				教授	金 城 祥 教	
副 学 長		石 橋 照 子				准教授	大 森 眞 澄	
看 護 栄 養 学 部 長		梶 谷 みゆき				助 教	松 谷 ひろみ	
研 究 科 長		石 橋 照 子				助 教	日 野 雅 洋	
別 科 長		狩 野 鈴 子			在宅看護学	教授	谷 口 敏 代	
教 務 部 長		吾 郷 美奈恵				教授	倉 鋪 桂 子	
学 生 生 活 部 長		名和田 清 子				准教授	加 藤 典 子	
図 書 館 長		安 藤 彰 朗				准教授	阿 川 啓 子	
看護栄養交流センター長		吉 川 洋 子				助 教	吉 松 恵 子	
看護栄養学部	基礎・専門基礎分野	教授	山 下 一 也		看護栄養学部	公衆衛生看護学	嘱託助手	伊 藤 重 美
		教授	秦 幸 吉				教授	吾 郷 美奈恵
		教授	加 納 尚 之				教授	佐 藤 公 子
	基礎看護学	教授	吉 川 洋 子				准教授	落 合 のり子
		准教授	松 本 亥智江	准教授			小 田 美紀子	
		准教授	岡 安 誠 子	助 教		祝 原 あゆみ		
		准教授	川 瀬 淑 子	助 教		小 川 智 子		
		准教授	平 井 由 佳	教授		名和田 清 子		
	成人看護学	助 教	梶 谷 麻由子	教授		赤 浦 和 之		
		教授	平 野 文 子	教授		安 藤 彰 朗		
		教授	矢 田 昭 子	教授		今 中 美 栄		
		准教授	森 山 美 香	教授		直 良 博 之		
		准教授	大 塚 美 樹	教授		亀 山 良 子		
		講 師	渡 邊 克 俊	教授		中 山 真 美		
		講 師	佐 藤 美紀子	准教授	細 川 優			
	老年看護学	助 教	松 本 祐 香	准教授	籠 橋 有紀子			
		教授	梶 谷 みゆき	准教授	原 田 永 勝			
		教授	平 松 喜美子	准教授	橋 本 由 里			
		教授	伊 藤 智 子	講 師	荒 井 恵美子			
		講 師	林 健 司	講 師	中 畑 典 子			
		助 教	加 藤 さゆり	助 教	石 田 千津恵			
		助 教	荒 木 さおり	助 教	中 川 忠 彦			
	小児看護学	嘱託助手	板 持 智 之	助 教	多々納 浩			
		准教授	高 橋 恵美子	助 教	福 田 詩 織			
		助 教	金 山 俊 介	助 手	川 谷 真由美			
		助 教	小 田 香 澄	別科助産学専攻	准教授	狩 野 鈴 子		
	嘱託助手	石 飛 亨 子	准教授		濱 村 美和子			
	教授	長 島 玲 子	准教授		(藤 田 小矢香)			
	教授	三 瓶 まり	助 教		植 田 恵			
	母性看護学	准教授	井 上 千 晶		嘱託助手	玉 串 純 子		
准教授		藤 田 小矢香	認定看護師教育課程	教授	勝 部 真美枝			
助 教		中 谷 陽 子		助 教	(荒 木 さおり)			

## (2) 事務職員

職 名		氏 名	職 名	氏 名
(事務局 長)		(落部 章二)	教務学生課長	坂田 栄一郎
事務室 長		森本 勝志	主 任	澤田 仁美
管理課	管理課 長	吉田 一郎	主任 主事	河瀬 一美
	企画 員	後藤 尊宜	主任 主事	工藤 祐司
	主 任	宮苑 仁美	主 事	小林 洋貴
	主 任	飯島 久美子	主 事	國繁 隆志
	主 任	福間 純弘	主事(任期付)	錦織 亜以
	主任 主事	周藤 祥子	保健師(任期付)	福島 加菜美
	主任 主事	三澤 まり子	嘱託 員	三代 嘉美
	主任 主事	有馬 有佳里		
	主任 主事	佐々木 泰輔		
	主 事	石田 瑠璃		
	主事(任期付)	浅原 雄大		
	嘱託 員	安田 知美		
	嘱託 員	福島 知子		

## (3) 学生の生活に関する部署職員

職 名		氏 名	職 名	氏 名	
学生生活委員会委員長(兼)		名和田 清子	3年次生担当 チューター(兼)	平井 由佳	
寮務主事(兼)		阿川 啓子		松谷 ひろみ	
学校医(兼)		秦 幸吉		祝原 あゆみ	
学校医(内科)(嘱託)		園山 勝久		森山 美香	
看護学科	1年次生担当 チューター(兼)	加納 尚之		加藤 さゆり	
		梶谷 麻由子		日野 雅洋	
		渡邊 克俊	4年次生担当 チューター(兼)	看護研究担当者	
		吉松 恵子		健康栄養学科	1年次担当 チューター(兼)
		矢田 昭子	多々納 浩		
		川瀬 淑子	2年次担当 チューター(兼)	細川 優	
	2年次生担当 チューター(兼)	落合 のり子	福田 詩織		
		金山 俊介	別科	助産学専攻担当 チューター(兼)	狩野 鈴子
		中谷 陽子		濱村 美和子	
		松本 亥智江		植田 恵	
		松本 祐香			
	小川 智子				

## (4) 図書館職員

職 名	氏 名	職 名	氏 名
図書館 長	安藤 彰朗	嘱託 司書	白神 麻衣子
主 任	二瀬 恵子	嘱託 司書	田平 亜香里
嘱託 司書	糸賀 裕美		

#### 4. 非常勤講師の配置状況

令和元年度の非常勤講師の配置状況は、次のとおりである。

単位：人

	島根大学 (医学部除く)	島根大学 (医学部)	島根県立大学・ 短大学部	島根県立 中央病院	その他 民間等	計
看護栄養学部	5	8	7	7	16	43
別科助産学専攻	0	1	0	3	2	6
看護学研究科	0	0	2	0	8	10

##### 1) 看護栄養学部

氏名	所属・職名	氏名	所属・職名
出口 顕	島根大学法文学部 副学長	Scott Menking	島根大学法文学部 教授
橋本 龍樹	島根大学医学部 教授	Carmella Lieske	島根大学 外国語教育センター
仲野 寛	島根大学生涯教育推進センター 教授	並河 徹	島根大学医学部 教授
松本 健一	島根大学総合科学研究支援センター 教授	飯笹 久	島根大学医学部 准教授
金廣 優一	島根大学医学部 助教	小玉 容子	島根県立大学短期大学部 名誉教授
倉田 隆	島根大学 名誉教授	山田 洋平	島根県立大学 准教授
食見 忠弘	島根大学 名誉教授	橋本 道男	島根大学医学部 特任教授
金城 文	鳥取大学医学部 講師	尾崎 米厚	鳥取大学医学部 教授
小柳 正司	島根県立大学 教授	藤原 眞砂	島根県立大学 教授
持田 恭	元島根県立大学短期大学部	姜 英淑	島根県立大学 講師
山村 仁朗	島根県立大学短期大学部	谷河 精規	島根リハビリテーション学院 学院長
磯部 美津子	島根県立大学短期大学部 名誉教授	福澤 陽一郎	島根県立大学短期大学部 名誉教授
飛田 正敏	島根県立中央病院 整形外科 部長	渡邊 正樹	島根県立中央病院 眼科 医師
岡田 千秋	島根県立中央病院 医療安全担当看護部長	卜部 晋平	島根県立中央病院 耳鼻咽喉科 医師
西尾 万紀	島根県立中央病院 副看護師長	妹尾 千賀子	島根県立中央病院 看護師長
馬庭 祐子	島根県立中央病院 主任看護師	鳥居 竜一	岡崎法律事務所 弁護士
田中 芳文	島根県立大学 教授	木原 勇夫	からだ塾「I出雲」 代表
Kenneth C.Fitch	オレゴン外国語スクール 校長	谷口 栄作	島根県健康福祉部健康推進課 医療統括監
宮下 裕一	島根県立大学短期大学部 教授	小林 裕太	島根大学医学部 特任教授

福島 博	元島根県保健環境科学研究所 保健科学部長	原田 守	島根大学医学部 教授
神田 秀幸	岡山大学大学院医歯薬総合 研究科 教授	久松 隆史	島根大学医学部 准教授
一盛 真	大東文化大学 教授		

## 2) 別科助産学専攻

氏名	所属・職名	氏名	所属・職名
岩成 治	島根県立中央病院 元副院長	加藤 文英	島根県立中央病院 新生児科 部長
成相 昭吉	島根県立中央病院 小児科 部長	勝部 愛子	島根県立中央病院 主任助産師
折出 亜希	島根大学医学部産科婦人科 学内講師	岡本 庸子	しまね臨床心理研究所 臨床心理士

## 3) 看護学研究科

氏名	所属・職名	氏名	所属・職名
加納 尚之	島根県立大学看護栄養学部 教授	飯塚 雄一	島根県立大学短期大学部 名誉教授
西藤 真一	島根県立大学総合政策学部 准教授	森山 美知子	広島大学大学院医歯薬保健学 研究科教授
小林 孝文	島根県立こころの医療センター 病院長	狩野 京子	宇部フロンティア大学人間健康 学部教授
田中 美恵子	東京女子医科大学看護学部 教授	片岡 大輔	島根県隠岐支庁隠岐保健所 所長
中本 稔	島根県益田保健所 所長	加藤 節司	社会医療法人仁寿会 理事長



## 5. 各種委員会の構成委員

### 1) 県立大学教育研究評議会専門委員会（常任委員会）

専門委員会等名称	職 名	氏 名	備 考
出雲キャンパス 学生生活委員会	学生生活部長	名和田 清 子	
	准教授	森 山 美 香	
	准教授	阿 川 啓 子	
	准教授	細 川 優	
	講 師	荒 井 恵美子	
	助 教	福 田 詩 織	
	教務学生課長	坂 田 栄一郎	
	主 任	澤 田 仁 美	
	主事（任期付）	錦 織 亜 以	
出雲キャンパス 外部資金対策委員会	学長代行	山 下 一 也	
	副学長	石 橋 照 子	
	看護栄養学部長	梶 谷 みゆき	
	教務部長	吾 郷 美奈恵	
	学生生活部長	名和田 清 子	
	看護学科長	大 森 眞 澄	
	健康栄養学科長	今 中 美 栄	
	事務室長	森 本 勝 志	
	管理課長	吉 田 一 郎	
	主 任	宮 苑 仁 美	

### 2) 県立大学教育研究評議会専門委員会（特別委員会）

専門委員会等名称	職 名	氏 名	備 考
教育研究評議会 人事委員会 (2019-大学院)	学長代行	山 下 一 也	委員長
	副学長	石 橋 照 子	
	教務部長	吾 郷 美奈恵	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-A)	学 長	清 原 正 義	委員長
	学長代行	山 下 一 也	
	副学長	石 橋 照 子	
	看護栄養学部長	梶 谷 みゆき	
	教 授	平 野 文 子	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-B)	学 長	清 原 正 義	委員長
	学長代行	山 下 一 也	
	副学長	石 橋 照 子	
	看護栄養学部長	梶 谷 みゆき	
	教 授	三 瓶 まり	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-C)	学 長	清 原 正 義	委員長
	学長代行	山 下 一 也	
	副学長	石 橋 照 子	

	看護栄養学部長	梶谷 みゆき	
	教授	吉川 洋子	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-D 昇任)	学長	清原 正義	委員長
	学長代行	山下 一也	
	副学長	石橋 照子	
	看護栄養学部長	梶谷 みゆき	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-E 昇任)	学長	清原 正義	委員長
	学長代行	山下 一也	
	副学長	石橋 照子	
	看護栄養学部長	梶谷 みゆき	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-F 昇任)	学長	清原 正義	委員長
	学長代行	山下 一也	
	副学長	石橋 照子	
	看護栄養学部長	梶谷 みゆき	
	教授	三瓶 まり	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-H)	学長	清原 正義	委員長
	学長代行	山下 一也	
	副学長(浜田C)	井上 厚史	
	副学長	石橋 照子	
	看護栄養学部長	梶谷 みゆき	
	准教授	高橋 恵美子	
教育研究評議会 人事委員会 (2019-G)	学長	清原 正義	委員長
	学長代行	山下 一也	
	副学長(浜田C)	井上 厚史	
	副学長	石橋 照子	
	看護栄養学部長	梶谷 みゆき	
	教授	吉川 洋子	
教育研究評議会 人事委員会 (2019- 大学院)	学長代行	山下 一也	委員長
	副学長	石橋 照子	
	教務部長	吾郷 美奈恵	
教育研究評議会 人事委員会 (2019- 大学院)	学長代行	山下 一也	委員長
	副学長	石橋 照子	
	教務部長	吾郷 美奈恵	

### 3) キャンパス合同会議専門委員会（常任委員会－出雲キャンパス）

専門委員会等名称	職名	氏名	備考	専門委員会等名称	職名	氏名	備考	
教務委員会	教務部長	吾郷美奈恵	委員長	保健管理委員会 保健管理センター運営会議	教授	秦幸吉	委員長	
	教授	直良博之			講師	中畑典子		
	教授	亀山良子			助教	祝原あゆみ		
	教授	今中美栄			教務学生課長	坂田栄一郎		
	准教授	大森眞澄			保健師	福島加菜美		
	准教授	狩野鈴子			キャリア委員会 キャリアセンター運営会議	教授	三瓶まり	委員長
	准教授	橋本由里				教授	赤浦和之	
	講師	林健司				准教授	小田美紀子	
	助教	梶谷麻由子				准教授	川瀬淑子	
	教務学生課長	坂田栄一郎				助教	吉松恵子	
	主任	澤田仁美				助教	松本祐香	
	主事	國繁隆志				助教	植田恵	
学生生活委員会	学生生活部長	名和田清子	委員長	助教		石田千津恵		
	准教授	森山美香		教務学生課長		坂田栄一郎		
	准教授	阿川啓子		主事(任期付)		錦織亜以		
	准教授	細川優		アドミッション委員会 アドミッションセンター運営会議		准教授	高橋恵美子	委員長
	講師	荒井恵美子				教授	平野文子	
	助教	福田詩織			教授	直良博之		
	教務学生課長	坂田栄一郎			教授	赤浦和之		
	主任	澤田仁美			准教授	岡安誠子		
主事(任期付)	錦織亜以		准教授		平井由佳			
メディア・図書委員会	教授	安藤彰朗	委員長		准教授	濱村美和子		
	教授	加納尚之			助教	小川智子		
	教授	佐藤公子		助教	中谷陽子			
	准教授	松本亥智江		助教	多々納浩			
	准教授	原田永勝		教務学生課長	坂田栄一郎			
	助教	荒木さおり		主事	小林洋貴			
	助手	川谷真由美		研究倫理審査委員会	教授	秦幸吉	委員長	
	管理課長	吉田一郎			准教授	平井由佳		
主任	二瀬恵子		准教授		森山美香			
主事(任期付)	浅原雄大		准教授		橋本由里			
FD委員会	教授	伊藤智子	委員長		助教	中川忠彦		
	准教授	井上千晶			学外委員	鶴原栄美子		
	准教授	濱村美和子			学外委員	飯塚雄一		
	准教授	籠橋有紀子			学外委員	春日順子		
	講師	荒井恵美子						
	助教	松谷ひろみ						
	助教	日野雅洋						
	助教	小田香澄						
	事務室長	森本勝志						
	教務学生課長	坂田栄一郎						
地域連携推進委員会	看護栄養交流センター長	吉川洋子	委員長					
	教授	亀山良子						
	教授	中山真美						
	准教授	落合のり子						
	准教授	藤田小矢香						
	講師	渡邊克俊						
	講師	佐藤美紀子						
	助教	加藤さゆり						
	助教	金山俊介						
	主任	飯島久美子						
主任	福間純弘							

#### 4) キャンパス合同会議特別委員会等（出雲キャンパス）

名 称	職 名	氏 名	備 考	名 称	職 名	氏 名	備 考	
島根県立大学 出雲キャンパス 構想検討委員会	WG1	教授	吾郷 美奈恵	委員長	衛生委員会	学長代行	山下一也	委員長
		教授	佐藤 公子			教授	秦 幸吉	
		准教授	落合 のり子			教授	谷口 敏代	
		准教授	小田 美紀子			准教授	落合 のり子	衛生管理者
		助教	小川 智子			講師	中畑 典子	
	助教	祝原 あゆみ		事務室長		森本 勝志		
	WG2	准教授	狩野 鈴子	委員長		管理課長	吉田 一郎	
		教授	長島 玲子			主任主事	有馬 有佳里	
		教授	三瓶 まり			主任主事	佐々木 泰輔	
		准教授	濱村 美和子			保健師	福島 加菜美	
		准教授	藤田 小矢香		認証評価 委員会	副学長	石橋 照子	委員長
	准教授	井上 千晶		学部長		梶谷 みゆき		
	助教	植田 恵		教務部長		吾郷 美奈恵		
	助教	中谷 陽子		学生生活部長		名和田 清子		
	教授	吾郷 美奈恵	委員長	看護交流センター長		吉川 洋子		
	WG3	准教授	高橋 恵美子		保健管理センター長	秦 幸吉		
		准教授	岡安 誠子		看護学科長	大森 眞澄		
准教授		小田 美紀子		健康栄養学科長	今中美 栄			
准教授		原田 永勝		事務室長	森本 勝志			
講師		荒井 恵美子		管理課長	吉田 一郎			
危機管理 委員会	副学長	石橋 照子	委員長	教務学生課長	坂田 栄一郎			
	学部長	梶谷 みゆき		外部資金 対策委員会	学長代行	山下一也	委員長	
	教務部長	吾郷 美奈恵			副学長	石橋 照子		
	学生生活部長	名和田 清子			学部長	梶谷 みゆき		
	看護学科長	大森 眞澄			教務部長	吾郷 美奈恵		
	健康栄養学科長	今中美 栄			学生生活部長	名和田 清子		
	別科長	狩野 鈴子			看護学科長	大森 眞澄		
	保健管理センター長	秦 幸吉			健康栄養学科長	今中美 栄		
	事務室長	森本 勝志			事務室長	森本 勝志		
	管理課長	吉田 一郎			管理課長	吉田 一郎		
教務学生課長	坂田 栄一郎		教務学生課長		坂田 栄一郎			
キャンパス・ ハラスメント 防止委員会	学長代行	山下一也	委員長	国際交流 委員会	副学長	石橋 照子	委員長	
	副学長	石橋 照子			教授	梶谷 みゆき		
	学部長	梶谷 みゆき			教授	今中美 栄		
	教務部長	吾郷 美奈恵			教授	中山 真美		
	学生生活部長	名和田 清子			准教授	大森 眞澄		
	看護学科長	大森 眞澄			准教授	阿川 啓子		
	健康栄養学科長	今中美 栄			助教	小川 智子		
	別科長	狩野 鈴子			事務室長	森本 勝志		
	事務室長	森本 勝志			管理課長	吉田 一郎		
	准教授	細川 優			教務学生課長	坂田 栄一郎		
相談員	准教授	井上 千晶		主事(任期付)	錦織 亜以			
	企画員	後藤 尊宜		中期計画 検討委員会	副学長	石橋 照子	委員長	
	主任	澤田 仁美			学部長	梶谷 みゆき		
	主任	飯島 久美子			教務部長	吾郷 美奈恵		
	主事	小林 洋貴			学生生活部長	名和田 清子		
			看護学科長		大森 眞澄			
			健康栄養学科長		今中美 栄			
			看護交流センター長		吉川 洋子			
			准教授		濱村 美和子			
			事務室長		森本 勝志			

名 称	職 名	氏 名	備 考	名 称	職 名	氏 名	備 考	
杉谷藤子 大学院教育 奨学金制度 検討委員会	教 授	吉 川 洋 子	委員長	ダイバー シティ推進 委員会	教 授	今 中 美 栄		
	教 授	石 橋 照 子			准教授	落 合 のり子		
	教 授	平 野 文 子			准教授	籠 橋 有紀子		
	准教授	井 上 千 晶			准教授	阿 川 啓 子		
	事務室長	森 本 勝 志			助 教	金 山 俊 介		
高大連携 プロジェクト 委員会	准教授	高 橋 恵美子	委員長		助 教	松 谷 ひろみ		
	教 授	直 良 博 之			管理課長	吉 田 一 郎		
	准教授	岡 安 誠 子			保健師	福 島 加菜美		
	講 師	林 健 司			広報委員会	副学長	石 橋 照 子	
教務学生課長	坂 田 栄一郎		教 授			直 良 博 之		
利益相反 マネジメント 委員会	教 授	佐 藤 公 子	委員長	准教授		藤 田 小矢香		
	教 授	三 瓶 まり		准教授		森 山 美 香		
	准教授	落 合 のり子		助 教		福 田 詩 織		
	助 教	中 川 忠 彦		管理課長		吉 田 一 郎		
	学外委員	飯 塚 雄 一		主事(任期付)		淺 原 雄 大		
	事務室長	森 本 勝 志		エコキャンパス 推進委員会		教 授	名和田 清 子	
障がいのある学生 の 就学支援委員	副学長	石 橋 照 子	委員長			教 授	平 野 文 子	
	准教授	高 橋 恵美子				主 任	宮 苑 仁 美	
	准教授	小 田 美紀子			主任主事	佐々木 泰 輔		
	准教授	細 川 優			学 生	3 名		
	教務学生課長	坂 田 栄一郎						
動物実験 委員会	教 授	安 藤 彰 朗	委員長					
	教 授	直 良 博 之						
	教 授	加 納 尚 之						
	准教授	籠 橋 有紀子						
	准教授	橋 本 由 里						
	准教授	原 田 永 勝						
	管理課長	吉 田 一 郎						
大学院研究科 助産師教育 準備委員	教 授	三 瓶 まり	委員長					
	教 授	石 橋 照 子						
	教 授	長 島 玲 子						
	准教授	藤 田 小矢香						
	教務学生課長	坂 田 栄一郎						
NP設置準備 委員会	教 授	吉 川 洋 子	委員長					
	教 授	中 山 真 美						
	教 授	勝 部 真美枝						
	准教授	松 本 亥智江						
	講 師	渡 邊 克 俊						
	管理課長	吉 田 一 郎						
	主 任	福 間 純 弘						
ハーブ ガーデン設置 準備委員会	准教授	松 本 亥智江	委員長					
	教 授	安 藤 彰 朗						
	助 教	松 谷 ひろみ						
	助 手	川 谷 真由美						
	主任主事	佐々木 泰 輔						

## 5) 看護栄養学部教授会専門委員会（特別委員会）

教員選考 審査委員会 (2019-B)	看護栄養学部長	梶谷みゆき	委員長
	准教授	大森眞澄	
	准教授	井上千晶	
	准教授	藤田小矢香	
教員選考 審査委員会 (2019-H)	看護栄養学部長	梶谷みゆき	委員長
	准教授	大森眞澄	
	准教授	高橋恵美子	
	准教授	大塚美樹	

## 6. 教授会からの付託事項及び報告内容

### [付託事項]

- 1) 教員選考審査委員会（2019-B）への付託事項  
・教員（助教）の選考について
- 2) 教員選考審査委員会（2019-H）への付託事項  
・教員（助教）の選考について

### [報告事項]

- 1) 教員選考審査委員会（2019-B）への付託事項  
・教員（助教）の選考について  
教員選考（2019-B）（案）を教育研究評議会人事委員会へ上申した。
- 2) 教員選考審査委員会（2019-H）への付託事項  
・教員（助教）の選考について  
教員選考（2019-H）（案）を教育研究評議会人事委員会へ上申した。

## 7. 専門・特別委員会の活動

### 教務委員会

#### 1) 所掌事項

- (1) 看護栄養学部の教育課程に関すること
- (2) 別科助産学専攻の教育課程に関すること
- (3) 客員教授に関すること
- (4) キャンパス行事に関すること
- (5) 入学前教育・リメディアル教育に関すること
- (6) 教職センターに関する事
- (7) 学長が諮問したこと及び教授会が付託したことにに関すること

#### 2) 会議開催状況

12回（定例11回，臨時1回）開催し，必要に応じてメールで意見交換を行った。

#### 3) 令和元年度活動状況および評価

- (1) 看護栄養学部看護学科と健康栄養学科，別科の教育課程に関すること

##### ①休学・退学

学生からの願い出が許可されたら，速やかにキャンパス合同会議に報告した。

##### ②定期試験・再試験

定期試験と再試験の日程を区別して学年暦に明記し，合格者の学籍番号を掲示するボードの設置・管理を実施した。再試験届の提出など，単位取得に伴う体制を徹底した。また，GPA制度導入に伴い，成績入力（休学・放棄）の運用基準を明確にした。

##### ③既修得単位の認定

看護栄養学部看護学科入学前既修得単位認定について提出書類と科目担当教員の判断をもとに行った。また，編入学者については入学前に提出書類を求めて確認した。学習のてびきに「編入学等に関する単位の認定」を追加し，認定単位の上限などを明示した。

##### ④学習のてびき・シラバスに関すること

学習のてびきの内容を加筆・修正し，全学生に配布した。シラバスは例年通り「シラバス作成の手引き」を作成して様式や記載内容，GPC等を念頭に記載することを申し合わせ，科毎に作成した。看護学科は教育課程改正に伴い2種類（1・2年生用，3・4年生用），健康栄養学科は1種類で運用した。別科においては，例年通り学習のてびきにシラバスも掲載して運用した。次年度シラバスは，看護学科は2種類（1・2・3年生用，4年生用），健康栄養学科は1種類を作成することとした（別科は例年通り学習のてびきに掲載）。

##### ⑤学年暦の学期及び休業日

新入生以外の授業開始時に各科目の履修学生が把握できるように履修調査期間，履修登録期間や変更期間，定期試験や追試期間，成績締切日，集中講義や特別講演，保護者懇談会など可能な限り日程を記載した。

##### ⑥令和元年度保健師国家試験受験資格取得希望者選抜試験実施要項

保健師国家試験受験資格取得希望者選抜試験実施要項に，学習のてびきやシラバスと同様に選抜基準を明記した。また，編入学試験と同時に行うことからAD委員会と連携して実施した。

##### ⑦看護栄養学部看護学科の進級・卒業，別科助産学専攻の修了の確認

看護栄養学部の進級・卒業のための修得単位を確認し，看護栄養学部教授会に諮った。また，別科助産学専攻の修了のための修得単位を確認し，別科委員会に諮った。



(2) 客員教授に関すること

3名の客員教授による特別講義を実施し（「客員教授による特別講義」の項を参照）、その結果をホームページに掲載した。

2020年度客員教授の選考手続きを行い、4名が決定した。

(3) キャンパス行事に関すること

①入学式関連行事

入学式や入学時オリエンテーションのプログラムを作成し、その役割分担、来賓等について検討した。入学式は看護栄養学部、別科、研究科の学生を対象に、4月4日、本キャンパスの体育館において挙行了した。

②次年度オリエンテーション

進級判定会議を終えた3月に計画していたが、新型コロナウイルス感染症の予防および拡散防止対策のため延期し、新年度の早い時期の開催を検討することとした。そのため、年度内に通知する必要がある内容についてはメールで周知した。（「カリキュラムガイダンス」の項を参照）

③卒業式・修了式関連行事

新型コロナウイルス感染症の予防および拡散防止対策のため縮小開催とし、看護栄養学部、別科、研究科の学生を対象に卒業証書・修了証書及び大学院学位記授与式3月12日に本キャンパスの体育館において挙行了した。学生と必要最低限の教職員とし、学生間の席を広く取るレイアウトとし、呼名や証書の授与も中止した。また、体調に問題がない学生であっても海外渡航者は帰国後2週間が経過していること、受付で健康観察とマスク着用することなどを周知徹底した。縮小開催としたことから、学長式辞や謝辞等を撮影し、3日間限定で学生や保護者が閲覧できる環境を整えた。

前日のリハーサルや書類等の授受を中止し、当日にピロティで対応した。

④保護者懇談会

保護者懇談会は、本学学生の保護者に、学生の修学・生活・就職等の状況や大学の近況について理解していただくとともに、保護者と大学ならびに保護者同士のつながりを持つ機会とすることを目的に、7月6日に実施した。全体会に続き、地域別交流会、学科・学年別交流会を行い、希望者には学食体験を計画した。また、交流会後には希望者にキャンパスツアーを実施した。全体会においては学長代行が本学の状況について講話を行うとともに、学修の様子や成果をまとめた資料や冊子を掲示等で紹介するスペースを設けるなどした。

参加者（申込者）は全体会58組（59組）で、交流会は38組（42組）であった。全体会、各交流会を通し教員と保護者、さらに保護者同士で活発な意見交換が行われたことで本学への状況理解が深まったと考えられ、参加者の満足度も高かった。また、その結果をホームページに掲載した。

(4) 入学前教育・リメディアル教育に関すること

①看護栄養学部においては、大学における教育課程を学修するために必要な基礎学力および自学自習力の向上を図ることを目的に、入学前教育として（株）ナガセが提供する「文書表現力」と看護学科は「医療系総合講座」、健康栄養学科は「栄養系総合講座」について情報提供した。「文書表現力」の受講は、看護学科、健康栄養学科ともに100%であった。また、看護学科の「医療系総合講座」は62.7%、健康栄養学科の「栄養系総合講座」は77.8%が受講していた。次年度も今年度同様に計画した。

②別科助産学専攻においては、看護基礎教育における母性看護学関連の学力定着、助産学講義への導入、自己学習を進める契機とすることを目的に、第102回助産師国家試験問題の回答とレポート課題を求め、全員が提出した。次年度も今年度と同様の課題で計画した。

③「つわぶき後援会によるリメディアル教育活動支援実施要項」に基づき、「教え隊・教わり隊」を運用した。今年度の登録者数（活動者数）は、「教え隊」42（19）人、「教わり隊」59（59）

人であった。

(5) その他

- ①昨年度同様に、学生情報システムを活用し、保護者に成績照会を行った。学生には、事前にオリエンテーションで周知し、やむを得ない事情がある学生は成績開示を行わないこととし、徹底した。

4) 今後の課題

健康栄養学科の学年進行に伴い複雑さ、過密さは増してくるが、確認と報告・連絡・相談を密にした適切な運営が求められる。また、看護学科は入学年度により異なるカリキュラムで履修することから、間違いが生じないように細心の注意が必要である。引き続き、学生・教職員が納得できる質の高い教育を目指し、他の委員会等との連携・協働による丁寧な教育課程の運用を行う。

次年度も、新型コロナウイルス感染が拡大している現状を踏まえ、柔軟で適切な対応が求められることから、迅速な意思決定と周知を行う。

## 学生生活委員会

1) 所掌事項

- (1) 学生の生活支援に関すること
- (2) 学生寮に関すること
- (3) 学生食堂・売店に関すること
- (4) 学生自治会に関すること
- (5) 学長が諮問したことおよび教授会が付託したことにに関すること

2) 会議開催状況、主要課題

学生生活委員会 13回 [定例 11回 (内 1回は書面審議), 臨時 2回] 及び給食委員会 3回を開催した。

3) 2019 年度活動状況と評価

- (1) 学生の生活支援に関すること

① 学生生活支援に関する講演会の実施

新入生を対象として、入学時オリエンテーションの一環として、防犯、カルト対策、悪質商法について等、学生生活の安全について講演会を、秋学期には、護身術講習会を開催した。

また、人権に関する研修会として、1・2年生を対象に、「女性の人権講座」を、全学を対象に「ソーシャルメディア研修会」を開催した。実施後の評価では、いずれも 90%以上の学生が「役に立った」と回答しており、特に、今年度初めて開催した「ソーシャルメディア研修会」については、日常的に使用しているソーシャルメディアについて改めて考え直す機会となり、トラブルの自分事化を意識付けることができた。

② チューター制度の活用

チューター制度を活用し、チューター別、同学年間、学年間等の交流の機会を設け、学生が大学内のサポーターや学習モデルをみつけ、学生生活を円滑に送るための一助とできるよう支援した。

③ 学生表彰について

候補者の推薦を教職員および学生から求め、1組が受賞した。

④ 新型コロナウイルス感染症予防対策について

令和 2 年度の開始に向けて、学生生活における新型コロナウイルス予防対策について検討を行った。

- (2) 学生寮に関すること

寮務主事が中心となって、寮自治会の活動支援、寮生の安全確保（防犯やインフルエンザ対

策、自然災害等)のための活動を行なった。寮務主事を中心に、寮自治会、寮指導員や事務室管理課、教務学生課と連携を図り、情報共有を行い、問題解決にあたった。必要に応じて、寮生との個別面談を行い、生活全体を視野に入れた継続的な指導を行った。

昨年度、門限に関する規約改正が行われたことから、今年度は特に、門限以降の時間外の出入りのあった学生に対して詳細な個別面談を行い、理由等の調査、今後の対処方法について検討した。

新型コロナウイルス感染症予防対策として、「寮における新型コロナウイルス感染症への指針」を作成し、対応を図った。

#### (3) 学生食堂・売店に関すること

給食委員会を中心に学生の食環境改善のための検討を行った。現時点では、メニュー、価格等について、委託業者へ改善を要望することは困難であることから、今年度は、学生への食育を目的に、学生食堂に、健康・栄養に関する卓上メモを設置した(10種類/2週間)。

#### (4) 学生自治会に関すること

春学期には、大学祭(つわぶき祭)の開催、特に、健康局実施の健康チェックプログラムが円滑に実施できるよう支援を行った。また、秋学期には、体育祭開催にむけての支援を行い、学生自治会活動を促進した。

#### (5) 学長が諮問したことおよび教授会が付託したことに関すること

副学長と新入生のランチミーティングを実施し、学生生活に関する意見聴取、意見交換を行った。

### 4) 今後の課題

学生生活支援のための研修会等は、安全で安心な大学生活に向けて今後も継続していく。また、快適で充実した学生生活に向けて、チューター制度の活用等により学生個々への一層の学習や進路、個人的な問題等の相談に対応する。

課題として、過密な時間割や学業とアルバイトの両立等の問題等から、研修会等、大学行事への参加が負担になっている状況も見受けられる。今後はさらに、学生自治会と連携し、研修会・行事等の開催時期や内容を検討していくことが必要であると考えます。

学生寮について、入寮生の安全確保を最優先に考え対応するとともに、集団生活上のモラルやルール厳守について指導を継続する。

学生自治会の活動を促進し、今後も学生が主体的に取り組んでいけるように支援を行う。

## メディア・図書委員会

### 1) 所掌事項

- (1) 研究紀要の編集、発行に関すること
- (2) 大学図書の整備及び図書館業務の運営に関すること
- (3) 語学情報機器の管理に関すること
- (4) 学術情報の収集・提供に関すること
- (5) その他図書館運営、情報システム管理に関すること
- (6) 学長が諮問したこと及び教授会が付託したことに関すること
- (7) その他メディアセンター運営会議に関すること

### 2) 会議開催状況

令和元年度は、メディア・図書委員会を9回開催した。

### 3) 令和元年度の活動状況と評価

- (1) 研究紀要の編集、発行について

①第15巻は8月30日を原稿提出期限とし、紀要編集委員会を設置した。

・査読は学内の教授、准教授、講師が分担して行い、第1回査読(9月18日)、第2回査読(10

- 月 16 日) を依頼した。10 月 23 日に執筆者に完成原稿の依頼を求めた。
- ・初校 (11 月 27 日), 再校 (12 月 11 日) を経て, 12 月 25 日に発行した。特別寄稿 1 編、原著 1 編, 報告 5 編, その他 6 編であった。
- ②投稿規定の変更について
- ・本学の紀要の発刊について、他の学術雑誌や他大学の紀要の例を参考にして、PDF による電子発刊のみとし冊子体での発刊は行わないこととなった。新しい投稿規定は令和 2 年 4 月以降の使用とする。
- (2) 大学図書の整備について
- ①教員選定図書について
- ・教員選定図書について、看護学、自然科学、人文・社会科学分野について教員からの要望を可能な限り尊重して選書を行った。今年度購入した冊数は 581 冊 (3 月 13 日現在) であり、概ね利用されていた。
- ②学生図書委員会による図書購入について
- ・学生費用と後援会図書購入費による図書購入について検討し、5 月 29 日、6 月 5 日、6 月 12 日に地元の書店での選書ツアーを実施し、図書 257 冊 (生活を豊かにする読み物等を中心に選定) を購入した。
- ③図書館の開館時間を 8 時 45 分にするについて
- ・昨年度 4 月から開館時間を 8 時 45 分としたが、今年度も図書館運営に支障は無かったことから、引き続き継続することとした。
- ④館内での飲水について
- ・昨年度からパソコン実習室でも飲水可にしているがトラブルの発生がないことから、今年度も図書館内において飲水を許可することを継続した。
- (3) 教員・司書・職員からの推薦図書リーフレットの作成について
- ・教員と司書及び職員に対し、学生の読んでほしい本の推薦を依頼した。推薦年度の古いものを整理し、新たに推薦のあったものを加え、令和 2 年 4 月以降に配布予定である。
- (4) 図書館の一般開放について
- ①「保健・医療・福祉に携わる人々」に限らず、当館の蔵書を必要とする方々に広く図書館を開放する目的で、令和元年 10 月 1 日から一般開放を開始した。また一般開放に当たり、記念式典を行った。
- ②一般開放の対象者と受け入れ範囲について
- ・学生の図書館利用を妨げないよう、県内に在住又は在勤されている 18 歳以上 (高校生不可) の方を利用対象とし、試験期間中の入館制限やデータベース利用等についても制限を行いながら、直接来館を受け入れている。
- (5) 学生図書委員会活動について
- ・学生図書委員会の公募を行い 12 名 (看護学科 8 名, 健康栄養学科 4 名) の学生の応募があり、5 月 20 日に委嘱状が交付された。
  - ・6 月 8 日「つわぶき祭」にて「本のしおり作り」のワークショップを開催した。来場者は 61 名であり、体験人数は 50 名であった。また、3 キャンパスの学生交流会は、本学図書館および近隣の大社図書館・多岐図書館の見学ツアーなどを行い、活発に交流できた。
- (6) ブックカフェ (キャリアセミナーⅠB・ⅡB) の開催
- ・今年度は「キャリアセミナー」の一環として、1・2 年生 (看護学科・健康栄養学科) を対象としたブックカフェを 11 月 13 日、11 月 20 日、11 月 27 日に行った。昨年度に引き続き今年度も選書を指定書架から行うこととした。普段手にしない図書に触れる機会となり好評であった。各グループでテーマに沿った本の紹介や感想などの発表を行った後、全体発表を行い、有意義な意見交換の場となった。



#### 4) 今後の課題

- (1) 大学図書の整備について  
各教育課程にあわせ一層の充実を図ると共に、学生の希望に応える選書を考慮する。
- (2) 図書館の利用促進について  
図書館の利用促進に向けて対策を検討する。
- (3) 図書館の一般開放について  
一般開放の運用について点検を行い、改善点を整理する。

### FD委員会

#### 1) 所掌事項

- (1) 学生による授業アンケートの実施に関すること
- (2) FD研修会の実施に関すること
- (3) 年報の編集・発行に関すること
- (4) 学長が諮問したこと及び教授会が付託したことに関すること
- (5) その他 FD センター運営会議に関すること

#### 2) 会議開催状況

6回開催した。

所掌事項に基づき年間計画を立て、運営した。また、全学FDセンターと運営会議やメール等で情報を共有し、連携・協働した。

#### 3) 2019年度活動状況と評価

##### (1) 学生による授業アンケート

各授業において、学生自身の授業に取り組む姿勢と教員が行った授業の感想を「学生による授業アンケート」として調査し、その結果を基に個々の教員が授業の工夫・改善に活用することを目的としている。今年度から学生情報システム UNIPA にアンケート機能を入れ込み、3キャンパス共通項目と出雲キャンパス独自の項目にて実施をした。アンケートは「講義・演習・実験・実習（学内）」「臨地実習」の2種類を実施した。各科目の結果は定期試験終了後、科目主担当教員に UNIPA にて報告をした。また、キャンパス全体の集約結果は年度末にまとめ、報告した。

##### (2) フィードバックレポート

専任教員が各授業科目の授業アンケートの結果を基に、学生にフィードバックすることにより授業改善・向上を図るとともに、教員が学生に対しての説明責任を果たすことを目的としている。

看護栄養学部および別科ともに専任教員が担当する97.2%の科目（講義、演習、実習）から提出があり、学内ウェブ上の大学の学生情報システム（学内リンク・ファイル共有 [office365]）に掲載し、本学の学生および教職員に周知・公開した。

##### (3) FD 研修会

FD委員会主催で1回、大学院看護学研究科と連携して2回、アドミッション主催で1回、大学院設置準備委員会主催で1回、計5回のFD研修会を開催し、その概要はHPに掲載した。引き続き、各委員会と連携・協同してFD・SD研修会を企画・運営し、FDを推進する。

##### (4) 授業参観

教員相互の授業参観を推進し、教員は教育内容・方法の充実を図り、事務職員はカリキュラム・マネジメントに役立てることを目的に実施している。専任教員全ての講義を参観対象とし、参観者が事前に了解を得、参観後に学びや参考になったことなどを、授業者とFD委員会に報告を求めた。

(5) 研究成果の共有

学会発表を行ったポスター等の研究成果を掲示し、相互に学び合う場とすることを目的として実施した。

(6) 学生 FD

2019 年度は学生 FD 委員として学生 18 名（1 年生 4 名，2 年生 7 名，3 年生 6 名，4 年生 1 名）と教職員 9 名（教員 7 名，事務職員 2 名）に副学長名の委嘱状を交付した。学生 FD 委員は、履修登録相談会、新入生歓迎会を開催すると共に、学生 FD サミット 2019 夏に参加し、FD 委員会はその準備や運営の支援を行った。3 月に予定されていた全国 FD サミットは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。

(7) にんげん大好きポスト

『～にんげん大好き～ポスト』は、大学を好くするために、学生の意見が届け、組織的な教育改善を推進することを目的としている。その管理は、常時、鍵をかけて管理し、投函された内容については、副学長をはじめ運営委員会が責任を持って対応した。

(8) 年報の作成

2019 年度年報の執筆要領を作成し、編集、発行作業を行った。年報は、平成 25 年度からホームページで 2 年分を公開し、平成 26 年度から①図書館で PDF 版を保存、②教職員は「ファイル共有」ドライブに保管した PDF（過去 2 年分）、V ドライブ（¥X20. 発行物・成果品¥01. 年報）にて（H24 年度以降のもの）閲覧が可能である。

#### 4) 今後の課題

看護栄養学部開設 2 年目を迎え、看護学科と健康栄養学科が協働し FD 活動を推進することが出来た。また、今年度から大学の学生情報システムの変更に伴い、授業アンケートは 3 キャンパス共通の Web 調査となり、学生・教員にとって実施方法が簡便になった。しかし、学生の誤入力や学科別の集計が困難であること等の問題も出てきているため、今後改善に向けた検討が必要である。一方、看護栄養学部となり教員数は増えたが、「学会発表の共有」や「授業参観」は活性化したとは言えず、その背景や対策を検討する必要がある。引き続き、教・職・学の三位一体による FD 活動に取り組むとともに、3 キャンパス教職員の相互交流を推進する。

### **地域連携推進委員会**

#### 1) 所掌事項

- (1) 地域との連携推進に関すること
- (2) 地域貢献に関すること
- (3) 地域からの要望・相談対応窓口に関すること
- (4) 公開講座等の生涯学習の実施に関すること
- (5) 産官学連携に関すること
- (6) 学長が諮問したこと及び教授会が付託したことにに関すること
- (7) その他地域連携推進センター運営会議に関すること

#### 2) 会議開催状況、主要議題

月 1 回の定例会議を 12 回開催した。

地域連携推進センター全学運営会議は、テレビ会議により 4 回開催された。

#### 3) 2019 年度活動状況と評価

地域連携推進委員会では、中期計画に従って地域貢献を推進してきた。地域連携推進委員会と看護栄養交流センター地域連携推進部の事業を調整しつつ活動を行った。詳細は、本年報 VII 地域貢献活動の章及び看護栄養交流センター成果報告書を参照のこと。

- (1) 地域との連携推進に関すること

#### ①出雲キャンパスモニター会議の実施

本キャンパスと地域の連携を深め、地域住民の方の意見を本キャンパスの今後の運営や事業に活用・反映させることを目的として、会議を2回実施し住民との意見交換を行った。

#### ② 第7回出雲キャンパスタウンミーティング

飯南町で「いーにゃん健康まつり」に合わせて2019年10月5日（土）に開催した。一部と二部に分けて実施し、二部ではグループに分かれて「飯南町の現状と課題、ありたい姿」についてディスカッションを行い、全体に発表し、参加者から好評であった。

#### ③ いずも産業未来博への出展

「いずも産業未来博2019」2019年11月2日・3日に出席し、大学及び看護栄養交流センターの紹介、本学の教育や研究の展示や実演、体験を行い事業の推進に向け広報活動を行った。来場者が選ぶNO.1ブース選挙で優秀賞となった。

#### (2) 地域貢献に関すること

学生のボランティア推進を目的に、ボランティア研修会を開催し、あわせてボランティアマイレージ制度やボランティア保険の加入を勧めた。学外からのボランティアの募集について学生に広報した。さらに、島根県立大学3キャンパスボランティア交流会に参加した。年間を通してのボランティア活動報告件数は合計458件あり前年比で161%と増加した。学生に対して行うボランティア研修会等で活用するため「2019年度学生ボランティア活動報告書」をまとめた。

#### (3) 地域からの要望・相談対応窓口に関すること

教員の地域貢献可能なテーマをホームページに公開した。46件の出前講座を実施した。

#### (4) 公開講座等の生涯学習の実施に関すること

##### ①公開講座等の実施

教員から公開講座登録カードの提出を求め、公開講座の年間プログラムを作成し、15講座の実施にあたって支援した。

また、サテライトキャンパスにおいて「いずも健康市民大学」を前期、後期の開催、「ブラジル人親子の健康交流会」「無理をしないいきかた～ゆるカフェ～」 「初めてのポルトガル講座」を開催した。

公開講座の延べ人数は1,307名で昨年度より約60名増加した。

##### ②ぎんざんテレビ出前講座の実施

10講座を録画し、大田圏域約1万世帯に繰り返し放映された。

##### ③小中学校等出前講座

小中高校において、「課題研究指導・助言」「心と体の健康講座食育講演会」「大学の先生による出張講義」等17講義に講師を派遣した。

#### (5) 産官学連携に関すること

出雲市からの依頼を受け、共同事業「介護予防教室事業」、委託事業「児童虐待防止推進研修事業」を継続して企画・実施した。また、公開講座の一部を出雲市との連携講座として実施した。知夫村の協力を得て、隠岐島前地域での学生の地域活動を支援し、住民の健康増進活動への連携を図った。

#### (6) 広報活動に関する取り組み

ホームページにおいて、取り組みの紹介を行うとともに、公開講座、出雲キャンパスモニター会議、ボランティア研修会等の事業の様子を随時掲載し、広報に努めた。

#### 4) 今後の課題

- (1) 島根県全域において地域での活動を推進してきているが、住民への広報をさらに行い、地域への浸透を図り、連携を図っていく必要がある。また、出雲キャンパスモニター会議等を継続し、地域住民からの意見を大学運営に反映させ、地域に信頼される大学づくりを進める。



- (2) ボランティア研修会をきっかけにボランティアに参加する学生は増加している。次年度もボランティア活動を経験した学生の学びを共有できるボランティア研修会を開催し、学生にボランティア活動が定着する支援をしていく。ボランティア報告書を紙媒体からweb入力に切り替え、学生の使用状況を確認していく。
- (3) 現在取り組んでいるさまざまな事業の成果を分析し、より地域のニーズを踏まえた効果的な地域貢献活動をめざして見直しを行っていく。

## **保健管理委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 健康診断に関すること
- (2) こころとからだの健康相談に関すること
- (3) 救急処置に関すること
- (4) 健康診断結果に基づく、健康の保持増進についての必要な指導に関すること
- (5) 環境衛生の維持、改善及び感染症予防の指導助言に関すること
- (6) 保健管理の充実向上のための調査研究に関すること
- (7) その他健康の保持増進について、必要な専門的業務に関すること

### 2) 委員会開催状況

月1回の定例委員会を11回開催した。

### 3) 具体的な取り組みと課題

#### (1) 保健管理委員会の所掌事項に基づく活動

保健管理委員会の年間計画に基づいて、所掌事項で検討すべき内容とキャンパス合同会議に報告すべき内容を整理した。年間活動が計画的に実施、評価できる基盤ができ、活動の蓄積ができる体制になっている。年間の活動の流れが定着、保健師が保健室常駐になり保健管理担当者の役割が発揮できる体制づくりを目標として活動を行った。

#### (2) 健康診断に関すること

全学生に対して4月、5月に定期健康診断を実施し看護学部100%、別科100%の受診率であった。健診結果は5月中旬から総合判定の個人通知を行った。結果返しの際に再検査についても個別説明を実施し、健診結果を自身の健康管理に生かすことが出来るように働きかけていった。また、健康診断の結果をキャンパスの健康の現状としてまとめるとともに、教職員で共有していった。今後も健康診断の計画・実施・評価を計画的に進める体制をつくっていききたい。また、健康への関心が低い学生もみられ、所見ある学生への受診勧奨を行い自身の健康管理に役立てていけるよう支援していきたい。

#### (3) こころとからだの健康相談に関すること

##### ①こころの健康づくりと相談

非常勤カウンセラーによる相談を実施するとともに、保健管理担当者が対応した。また、保健室での相談、チューターからの情報提供、精神健康調査(GHQ)をきっかけに継続的にカウンセリングを受ける学生もいた。

心の健康づくりに対する一次予防対策として、健康教育講演Ⅱとして、原美貴非常勤カウンセラーを講師に「心の健康づくりについて」を開催した。また、GHQを4年生は3月の次年度オリエンテーション時に、新入生は大学生活に少し慣れてくる4月中旬に実施した。5月の健康教育講演Ⅱにおいて結果の見方や活用方法について説明し、GHQの結果を返却した。

GHQ得点を評価して面接が必要と思われた学生に対しては、各チューターに面接を依頼した。各チューターは所定の様式にて面談内容を保健管理担当者に報告することとした。また、カウンセリングを希望する学生にはカウンセリングを行った。

## ②からだの健康相談

からだの健康相談に関しては、持病に関して症状や受診についての相談や月経に関する自覚症状がある学生の相談が多く見られた。

### (4) 救急処置に関すること

救急処置の内容は打撲・捻挫・切傷、擦過傷が多く、原因としては本人の不注意によると考えられる場合が多かった。雨の日の転倒、自転車での転倒などで来室する学生もあった。学内外の事故の多い箇所を確認したり、歩きスマホなどについては注意喚起をしたりなど検討していく必要がある。

### (5) 健康診断結果に基づく健康の保持増進についての必要な指導に関すること

総合判定の個人通知あわせて、個別に定期健康診断結果の説明を行った。その際に、判定が要精査者に対しては、精密検査を勧奨し、「視力低下」「甲状腺腫大」「高血圧」の軽度異常、要観察者に対しては、問診を行い、必要時医療機関受診を勧奨した。「尿検査」の軽度異常、要観察者に対しては保健室で二次検査を実施した。問診の心身の自覚症状結果は上位 10 項目が前年度と同様の傾向であった。これらの結果を受け、次年度の健康教育講演を検討した。

### (6) 環境衛生の維持、改善および感染症予防の指導・助言に関すること

別科生と看護栄養学部の実習開始に間に合うように、小児感染症の抗体検査の個別通知とワクチン接種の勧奨を実施した。健康管理ハンドブックに検査を受ける場合の注意事項を記載し、健康管理ハンドブックに基づき、個別に説明を行った。今年度は看護栄養学部 1、2 年生へ B 型肝炎ワクチン接種の推奨も行った。

季節性インフルエンザについては、学内メールやメッセージボードなどを活用して予防接種と予防法について啓発を行った。校医である園山先生に来校していただき、学内で予防接種が行うことができる環境を整えた。10 月、11 月の 3 日間で 130 名（学生、教職員を含めて）が学内での集団予防接種を行うことができた。今年度の予防接種率は、後期に実習のある看護学科 3 年次生で 73.9% と高率であったが、看護学科 1 年次生は 31.0%、看護学科 2 年次生は 23.1%、看護学科 4 年次生は 47.5%、健康栄養学科 1 年次生は 17.5%、健康栄養学科 2 年次生は 11.9%、別科助産学専攻生は 50.0%であった。

実習がインフルエンザの流行時期にあるため、今年度も実習のある 3 年生の学内集団予防接種の申込を優先的に受け付けた。実習で忙しい 3 年生に対し、予防接種しやすい体制を整えることができた。今後も継続的に流行に入る前の注意喚起、予防接種を受けたことの報告を徹底し、学内の更なるインフルエンザ対策に努めることが課題である。

2019 年 12 月以降中国湖北省を中心として新型コロナウイルス関連肺炎が発生し、日本でも感染が拡大した。本学でも感染拡大防止のため、保健管理センターより学内メールの配信や大学の HP から現状や生活の中で注意してほしいこと等逐次更新した。いまだ終息しておらず、新年度も引き続き学生が安全に生活できるように日常生活の健康管理を徹底していけるよう支援していきたい。日々変化していく情報に合わせて対応していく必要がある。

### (7) 健康教育講演

新入生を対象に健康教育講演を 3 回開催した。健康教育講演Ⅰ（子宮頸がんヒトパピローマウイルス-子宮頸がん検診の重要性-）は、4 月 17 日に開催。講師は島根県立大学保健管理センター長秦幸吉先生。健康教育講演Ⅱ（こころの健康づくり）は、5 月 15 日に開催。講師はエスポール出雲クリニック原美貴先生。健康教育講演Ⅲ（大学生における食生活と精神健康状態との関連）は、1 月 22 日に開催。講師は島根県立大学保健管理センター長秦幸吉先生。

## キャリア委員会

### 1) 会議開催状況

令和1年度に10回の委員会を開催した。具体的には、所掌事項ごとにワーキンググループを作り活動計画を立案し、活動に取り組んだ。

### 2) 活動内容

#### (1) 所掌事項1：キャリア教育に関すること（主に卒業生・修了生を対象）

##### 【活動項目】

- ① 卒業生・修了生のキャリアに関する相談窓口の運営
- ② キャリアノート（在校生版・卒業生版）の作成・配布
- ③ 新卒者のフォローアップ交流会の企画・実施・評価
- ④ 令和1年度キャリア支援プログラムの企画・実施・評価
- ⑤ 健康栄養学科キャリア支援計画の検討

##### 【活動内容】

- ① について：看護師，保健師，助産師，栄養士別に担当者を設置した。学生や卒業生から直接委員会の窓口相談の申し込みはなかったが、教員が個別に卒業生から大学院進学等の相談を受けていた。
- ② について：卒業生・修了生に卒業後の研修受講内容，看護研究内容を記録しやすいノートを作成し配布した。在学生版のキャリアノートも作成し，活用方法をガイダンスし配布した。1年生については，専用ファイルも配布し，キャリアノートとともにセミナーで活用した。
- ③ について：令和1年6月8日（土）に開催した。卒業生・修了生18名と教職員8名の合計23名が参加した。就職施設が実施するリフレッシュメント事業を利用して参加する者も2名あった。卒業生の参加者は，全員が29年度の看護学部卒業生であり，別科に進学した学生もあった。参加者全員が同級生ということもあり，和気藹々とした雰囲気であり，同じ悩みを共有し合い，学生時代を懐かしみ，リフレッシュメントにつながっている様子がみられ，予定時間を30分延長して終了した。卒業生は教員との交流を求めており，大学祭と合わせて行う大学説明会等のため教員の参加がむずかしい現状である。教員の参加数が増えるように働きかける必要がある。
- ④ 対象学年全員を対象として令和1年度キャリア支援プログラムを企画し，実施・評価を行った。参加学生からの評価はアンケート結果より好評であった。

4月3日：キャリアガイダンス（別科生）

4月17日：エントリーシート対策講座，面接対策講座（看護学科4年生，別科生）

4月27日：キャリアガイダンス（看護学科1年生）

4月24日：小論文対策講座（看護学科4年生，別科生）

6月5日：マナーアップ講座（看護学科2年生）

10月16日：キャリアデザイン講座（看護学科1年生）

10月30日：キャリアアンカー講座（看護学科2年生）

3月15日：キャリアプラン構築講座（看護学科3年生）⇒新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため中止

加えて，希望者に就職対策総合講座の基礎編を9月17日から19日，応用編を3月3日から6日に実施した（令和1年度より後援会主催となりキャリア委員会所掌活動には該当しない）。

- ⑤看護栄養学部健康栄養学科と連携しながら，令和2年度看護栄養学部と助産学別科のキャリア支援プログラムを作成した。令和2年度は，2学科合同を基本とした。

#### (2) 所掌事項2：学生の進学・就職の支援に関すること（主に在学生を対象）

##### 【活動項目】

- ① 卒業生・修了生台帳作成，OB・OG 訪問マッチングサービスの運営
- ② 進路希望および進路状況の把握・分析（就活システムの管理・運営）
- ③ 進路情報室の整備
- ④ 進学・就職情報の把握・提供
- ⑤ インターンシップに関すること
- ⑥ 同窓会との連携

#### 【活動内容】

- ① について：卒業生に呼びかけ，卒業生・修了生台帳の作成，OB・OG 登録の依頼をした。4 年生に OB・OG 訪問マッチングサービスについてガイダンスし，2 名の利用があった。利用しなかった学生に利用しなかった理由をアンケートで聞いたところ，「時間がなかった」「必要なかった」「利用の仕方がわからなかった」という回答だった。今後もこのサービスを PR し，必要な学生に対して活用を促す。
  - ② について：就活システムを活用して，進路希望および進路状況の把握・分析を行った。今年度は看護栄養学部看護学科学生・別科助産学専攻学生併せて 86 名の卒業生・修了生のうち 8 名が進学，86 名が就職予定である。県内就職率は 56%（看護学科生 57%，別科生 56%）であった（2 月 20 日現在）。
  - ③ について：看護学科についてはラウンジの進路情報室を整備し，広く情報が得られるよう配慮した。健康栄養学科については，5 号館 1 階に進路情報コーナーを設置した。
  - ④ について：県内保健医療機関からの募集に伴う来学に際してキャリア委員の教員が面会し，当該施設に就職した卒業生の様子，採用に求める能力や人物像，当該施設のキャリア支援体制，就職試験科目等について情報収集した。また，企業主催の就職セミナーに参加するなどして看護の就職に関する動向を把握した。
  - ⑤ について：島根県の市町村保健師を確保するために島根県健康福祉部が主催する「市町村と県内看護系大学と連携した市町村保健師活動体験の取り組み」に参加し，保健師としての就職を検討している学生の参加を促した。23 名の学生が参加し，保健師の職業に対する理解を深めた。保健師国家試験受験資格取得コース教育の成果と相まって，今年度は保健師として就職する学生が 4 名，そのうち県内の市町村への就職を決めた学生が 3 名であった。看護師のインターンシップも積極的に参加を促した。
  - ⑥ について：同窓会総会にて，OB・OG 訪問や講演・相談会等のキャリア支援事業を大学側と連携しながら推進していくことが承認された。フォローアップ交流会において同窓会から開催費用の一部助成を受けた。
- (3) その他：キャリアセンター運営会議に関すること  
 令和 1 年度 全学キャリアセンター運営会議に参加し，第 3 期認証評価における点検・評価報告書の作成，第 3 期中期計画，令和 1 年度業務実績，令和 2 年度計画について協議した。

### 3) 今後の課題

- (1) 県内就職率および西部地区就職率向上
  - ・最新の求人情報を発信し，4 年次チューターに就職指導に役立ててもらおうよう依頼する。
  - ・各学年のキャリア支援の内容に島根県で働くことの良さを盛り込む。
  - ・県内外の就職動向と本学学生の就職動向の分析を継続する。
- (2) 県内保健師就職率向上
  - ・令和 2 年度においては「保健師体験事業」を 8～9 月に実施する計画とし，「島根県市町村と県内看護系大学と連携した市町村保健師活動体験の取り組み」に参加するように働きかけ，進路検討の一助とする。
- (3) 学生満足度の高いキャリア支援体制の整備
  - ・健康栄養学科の学生と看護学科の学生がお互いのキャリアに関心を持ち，自らのキャリア形



成ができるよう両学科のキャリア支援プログラムを充実させる。

- ・健康栄養学科は、就職先が多岐にわたりまた就職活動が早期に始まるため、3年次秋学期からきめ細やかな就職指導ができるように、令和2年度の計画をたてた。

## アドミッション委員会

### 1) 所掌事項

- (1) 学生募集に関すること
- (2) 高大連携に関すること
- (3) 入学者選抜に関すること
- (4) 入学者選抜方法等に係る調査研究に関すること
- (5) 入学試験結果の分析・評価その他入試に関する調査研究に関すること
- (6) その他入学者受入に関すること
- (7) 学長が諮問したことおよび教授会が付託したことに関すること
- (8) その他アドミッションセンター運営会議に関すること

### 2) 委員会の開催状況

月1回の定例委員会を12回（内1回は電子会議）と臨時のアドミッション委員会6回、合計18回開催した。

### 3) 現状と課題

#### (1) 学生募集に関すること

大学案内、各入試の学生募集要項を作成配布した。また県立大学が主催する入試説明会（松江C、浜田C、広島会場）の3か所に参加した。

平成22年度より開催している看護学志望者セミナー（松江北高校、松江南高校、松江東高校）、昨年度から開催した管理栄養士セミナー、看護栄養学部並びに別科助産学専攻を対象にオープンキャンパス1回を開催した。また、今年度から新たにアカデミック・インターンシップを実施した。アカデミック・インターンシップは、2日間にわたり大学で学生が授業を受けているのを高校生に開放し、大学での授業を体験してもらおう試みであり、好評であった。詳細については「Ⅲ. 学生入学支援活動、1. オープンキャンパス」に掲載した。

また、アドミッション委員による高校訪問を実施した。春から秋にかけて島根県内外の高校延べ97校を訪問し、看護栄養学部の教育や入試の特色について説明した。また別科助産学専攻については、募集定員の減に伴い訪問施設を縮小し、島根県内看護師養成校5校、および鳥取県の看護師養成校1校に訪問し、入試や教育に関する情報提供を行った。その他、新聞紙上や各チラシへの広告掲載を行った。

#### (2) 高大連携に関すること（Ⅲ. 学生入学支援活動を参照）

島根県内高等学校の依頼を受けて、高校生を対象とする出前講義を実施した。また、島根県内高等学校から大学見学を受け入れ、看護栄養学部の説明、講義体験、在学生との交流等を実施した。

#### (3) 入学者選抜に関すること

本誌「Ⅲ. 学生入学支援活動」に記載した。また、島根県中山間地域および離島地域の医療に貢献するための特別枠入試を行った。

#### (4) 入学者選抜方法等に係る調査研究に関すること

県内高校訪問の機会を活用して、看護職志願者および栄養系職種志願者の状況等について情報収集を行った。看護職志願者は、各校ともに一定数の希望者が見込まれる。地元志向（県内）が強いが、学力等で大学か専門学校かの選択をしている状況である。栄養系職種志願者は、年によってばらつきがあり、志願状況が読みにくいということであった。身の周りに栄養系職種の見本が少なく、将来像がイメージできないことも関係があるとの意見があった。令和3年度入試から

始まる共通テストに関して、外部英語検定の導入などに対する不安や質問が多く寄せられた。

(5) 入学試験結果の分析・評価、その他入試に関する調査研究に関すること

大学入試センター試験の結果をもとに、学科毎に選抜試験ごとの特性分析を行い、入試制度の評価と課題を整理した。

令和元年度入学生に対して、看護栄養学部看護学科入学生 83 名および健康栄養学科 40 名を対象に「大学入試志願動向調査」を実施した。それぞれの学科の進路決定時期は、看護学科は 1/2 が中学生の時に、健康栄養学科は 2/3 が高校生の時にそれぞれの進路決定をしていた。また、実際に本学への進学決定は、看護学科は 2/3 が高校 3 年の 2 学期以降であり、入試に向かい自己の学力を見極めて進学先を決定している傾向であった。健康栄養学科は高校 3 年の 1 学期から徐々に本学への進学を希望していた。両学科とも進路決定に役に立った情報として、大学案内や高校の先生からのアドバイス、オープンキャンパスが高かった。大学案内に、さらに授業の様子など大学生活をイメージしやすい内容を盛り込むことや、高校訪問や大学説明会において、高校の先生との連携を密にすることが学生獲得に重要であることが示唆された。

(6) その他入学者受入に関すること

① 科目等履修生について

春学期・秋学期ともに希望者はいなかった。

② 入学者選抜実施要項について

大学案内と合冊で作成し、高校や希望者に送付するとともに、入試説明会やオープンキャンパス、高校生対象のセミナーなどで配布した。今年度は、大学案内のデザインを 3 キャンパスで統一したことで、大学としての一体感がありよかった。大学案内と入試制度が一冊で把握でき、高校生に好評であった。大学案内は、やや文字の分量が多く、高校生が手に取って読みやすいような工夫が必要との意見が一部あった。

(7) アドミッションセンター運営会議に関すること

センター運営会議を開催した。3 キャンパスの入試に関する協議、特に令和 3 年度の大学共通テスト導入に関連する協議事項や大学案内や広報活動に関する協議を行った。

また、アドミッションセンター事務職員による連絡会を開催し、3 キャンパスの連携強化を図った。

## **研究倫理審査委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 「人を対象とする研究又は人体より採取した材料を用いる研究」についての倫理上の審査を行うこと
- (2) 学長が諮問したことおよび教授会が付託したことに関すること

### 2) 委員会開催と活動状況

- (1) 「島根県立大学出雲キャンパス研究倫理審査規程」および関係規程、様式に係る改正に準拠した研究倫理審査の実行

近年の研究倫理を取り巻く現状に合致する水準で適切に研究倫理審査ができるよう「科学者の行動規範-改訂版-」（日本学術会議：平成 25 年 1 月）、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成 26 年 8 月）、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年 12 月文科省厚労省公布・平成 27 年 4 月施行）、「科学の健全な発展のために」（日本学術振興会：平成 27 年 3 月）等を背景に、本キャンパスの研究倫理審査規程や運営要領等関係書類について平成 30 年 1 月 1 日より改正し、令和元年度もこれに準拠した研究倫理審査を実行した。

新規申請の研究課題 29 件、および変更申請の研究課題 6 件があった。研究倫理審査委員会を 5 回（うち 1 回はコロナウイルス感染予防対策のため書面審査を実施）、迅速審査に係る委員会を

27回開催した。審査の結果、29件を承認と判定した。

### 3) 成果

委員会所掌事項や計画に沿って円滑に活動した。

申請された研究課題について、改正後の審査手順に則り、一定の研究倫理に関する水準を維持し首尾一貫した研究倫理審査ができたものとする。研究課題承認後、各研究過程において不具合等が生じた旨の報告はみられなかった。また、「研究実施状況報告書」(提出時期：各年度末)が提出された。文科省や日本学術会議のガイドライン等に基づく研究倫理を取り巻く現状に合致する水準を担保し、適切な研究倫理審査が円滑に実施されたものとする。

「看護研究倫理審査事業」(試行)については、事業計画・内容に沿って円滑に実施し、申請者に対して看護専門職としてのキャリア支援および看護研究支援につながり、研究力の向上に寄与したものとする。

### 4) 課題

- (1) 「島根県立大学出雲キャンパス研究倫理審査規程」、関連書類および各様式における実用性や実効性、適切性を継続的に確認していく。
- (2) 各年度末に申請者から提出される「研究実施状況報告書」について、研究倫理審査承認後の事後審査および点検を進める。
- (3) 「看護研究倫理審査事業」(試行)については、本事業を通じて一定の研究成果が得られていることから、島根県における看護職員の研究力向上にむけて事業内容に意義はある。本事業は2014年度から実施の試行事業であり、試行期間について事業導入時の趣旨に照らした検討が課題である。

## **島根県立大学出雲キャンパス構想検討委員会**

### WG1

#### 1) 所掌事項

保健師教育に関すること

#### 2) 会議開催状況

公衆衛生看護学領域のミーティングで協議するなど効率的な運用に努め、5回の会議を開催した。

#### 3) 2019年度活動状況と評価

全国保健師教育機関協議会の情報や本学における「保健師に求められる実践能力」の学生自己評価、国家試験合格率、就職状況などを確認し、県内からの要望書に応えるためにも、島根県立大学における保健師基礎教育のあり方を検討した。その結果、現在の選択制に加え、大学院での養成が必要であると考えられた。

また、厚生労働省の看護基礎教育検討会報告書を確認し、2022年度からのカリキュラムについて検討した。

#### 4) 今後の課題

引き続き、教員の質向上に務めるとともに、学部と大学院における保健師養成のカリキュラム等について具体的に検討する。

### WG2

#### 1) 所掌事項

助産師教育に関すること

#### 2) 会議開催状況

メール等による情報共有や意見交換を必要に応じて行い、1回の会議を開催した。



### 3) 令和元年度活動状況と評価

令和2年度の別科助産学専攻，看護学科母性看護学，研究科高度実践者養成コースの教育について情報共有を行った。

その他，全国助産師教育協議会の本学担当，交流センター事業担当等について協議を行った。

### 4) 今後の課題

必要に応じて，情報共有等を引き続き実施していく。

## WG3

### 1) 所掌事項

教員の資質向上のためのプログラムに関すること

IRに関すること

### 2) 会議開催状況

メール等による情報共有や意見交換を必要に応じて行い，2回の会議を開催した。

### 3) 2019年度活動状況と評価

2018年度のIR（Institutional Research）コンソーシアムの学生調査の結果を学科別・学年別に集計し，コンソーシアムの結果と比較した資料を作成し，キャンパス合同会議で報告した。また，詳細な検討は，各学科に依頼した。

今年度も看護栄養学部の学生全員にIR（Institutional Research）コンソーシアムの学生調査・データ登録を行った。

### 4) 今後の課題

引き続き，IRデータから島根県立大学出雲キャンパスにおける学士課程の強みと弱みを明らかにし，教育の質保証を促進する。

## **危機管理委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 危機管理に関すること
- (2) 学長が諮問したことに関すること

### 2) 令和元年度の活動状況と評価

#### (1) 緊急連絡網

危機管理委員会の決定事項等を全教職員に迅速かつ確実に伝達するため，携帯メールへの一斉送信の運用を継続した。

#### (2) 学生安全安心

- ① ポケットマニュアルを学生全員に配布した。
- ② 学内メールを利用し，適宜，島根県警の不審者情報配信制度「みこびー安全メール」による情報を全学生，教職員に送信し，注意喚起を行った。

#### (3) 火災避難訓練

- ① 学生生活委員会と共催して令和元年5月29日（水）午後0時25分から，夜間の学生寮厨房からの出火を想定した火災避難訓練を実施した。寮生50名が参加して，火災発生時の速やかな伝達手順，避難方法を確認し，さらに消火器の使用方法について研修した。
- ② 令和元年6月26日（水）午後0時10分から，4号館厨房からの出火を想定して，キャンパス全体の火災避難訓練を実施した。学生146名，教職員63名の計206名が参加し，非常時の行動と避難経路を確認し，さらに消火器の使用方法について研修した。

#### (4) 感染拡大防止

- ① 新型コロナウイルス感染拡大防止のため，入試，国際交流，卒業式・入学式などのイベント，学生生

活、学習環境などについて4回に渡り、危機管理委員会を開催し検討・対応した。

## **キャンパスハラスメント防止委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) キャンパスハラスメントの学生・教職員への啓発に関すること
- (2) 相談員の研修に関すること
- (3) 学長が諮問したこと及び教授会が付託したことに関すること

### 2) 2019年度の活動状況と評価

#### (1) 相談員について

キャンパスハラスメント学生相談員4名、所属相談員2名を選任すると共に、キャンパスハラスメント救済制度について、学習のてびきにより学生に周知した。

#### (2) 人権・同和問題職場研修実施について

コロナウイルス感染のために今年度開催予定の講演会を中止とした。

### 3) 今後の課題

法人の中期計画では「人権の尊重」について、教職員や学生を対象とした人権に関する研修会等を実施することとしている。今後も、研修会を継続して実施し、人権感覚の高揚とキャンパスハラスメント未然防止についてさらに認識を深める必要がある。

## **衛生委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 職員の健康管理、作業環境管理等に関すること
- (2) 職員の健康の保持増進、健康経営に関すること
- (3) 学長が諮問したことに関すること

### 2) 会議開催状況

毎月1回、9月を除く計10回開催した。

### 3) 2019年度の活動状況と評価

#### (1) 働き方・休み方の改善

年間を通して教職員の長時間労働の実態把握および健康状態の把握を行い、必要時、産業医面談を実施して、過重労働の防止に努めた。時間外の勤務の平均時間は年々減少傾向にはあるが、繁忙期や特定の職員の長時間労働是正が課題である。夏季休暇取得率は89.61%（昨年比5.47%↓）、年次有給休暇の取得率は43.20%（昨年比3.53%↓）であった。年次有給休暇取得義務者（H31.4.1以降に年10日以上付与された者）は全員5日以上の年次有給休暇を取得した。年次有給休暇の取得義務および労働時間の状況記録簿の記載について、キャンパス合同会議で周知した。

#### (2) 「健康いきいき職場づくり」の推進

6月に「ダイバーシティ現状調査・働き方改革実施結果報告会」において、昨年度人権問題職場研修会で実施した「働きやすい職場づくりの意見集約結果」および「ワークショップ参加者のアンケート結果」を報告した。

#### (3) ストレスチェック制度

ストレスチェックを6月と12月に実施した。12月の受検率は79.3%（昨年比7.6%↑）で昨年を上回った。集団分析の結果では、特出した傾向は見られなかったが、就労時間が長いとストレス度が高くなるため、時間外労働の削減に努める必要がある。

#### (4) 定期健康診断の実施とフォローアップ

教職員の健康診断を出雲キャンパスで実施し、人間ドック等の受診と併せてすべての教職員が

受診した。精密検査の未受診者に対しては丁寧な受診勧奨を行った。

(5) 職場の環境管理および快適職場づくり

2か月ごとの空気環境測定結果をコミュニケーションボードで紹介した。

9月の職場巡視の結果、1階事務室の照度測定を行い、照度を適正に調整した。

4) 今後の課題

教職員の働き方・休み方に関する問題意識を共有する機会を持ち、課題解決を進めていく。

## **認証評価委員会**

1) 所掌事項（年度計画）

- ・ 認証評価に関すること
- ・ 学長が諮問したことに係ること

2) 会議開催状況、議題

全学の自己点検評価委員会が2回開催され、大学基準協会の認証評価を受けるため、資料作成と共に、大学運営の状況について自己評価した。

令和元年10月に大学基準協会の書面審査とヒアリングによる認証評価を受けた。その結果、概ねよい評価であった。一部、改善課題の提言があったが、出雲キャンパスについてはなかった。全学として評価のための自己点検評価ではなく、内部質保証を推進できるようPDCAサイクルに基づく改善・向上のプロセスを確立する必要性が指摘された。

3) 今後の課題

現在、出雲キャンパスでは中期計画を専門委員会や特別委員会で所掌し、年度初めに活動計画を立案する。キャンパス合同会議に議題提出・報告し、年度途中と年度末には実績報告・評価し、次年度計画を立案している。

今後は、各委員会だけのPDCAサイクルシステムではなく、自己点検評価委員会において、キャンパス全体としてPDCAサイクルに基づく改善・向上のプロセスを確立していく必要がある。

## **外部資金対策委員会**

1) 所掌事項（年度計画）

- ・ 科研費など獲得にむけての啓発に関すること
- ・ 外部資金獲得支援に関すること
- ・ 学長が諮問したことに係ること

2) 会議開催状況、議題

- ・ 科研費アドバイザーによる具体的支援を実施したところであり、会議は開催していない。

3) 2019年度活動状況と評価

(1) 科研費アドバイザー

平成23年度から設けている科研費アドバイザー制度に基づき、5名の教員（谷口敏代教授、阿川啓子准教授、森山准教授、籠橋准教授、原田准教授）を配置し、若手教員を中心として科研費採択に向けた具体的な相談に応じる体制を整え、支援した。

(2) 令和元年度科研費申請に向けた説明会

9月25日に科研費獲得を目指す教員及び研究費を管理する事務職員計13名に対して、説明会を開催し「研究者としての心構え」「科研費申請のポイント」などについて研修した。

(3) 不正防止に関する取り組み

科研費等の外部資金を獲得するために求められている不正防止に対する取り組みとして、11月11日に研究費に特化した会計監査を3月6日にコンプライアンス研修を3キャンパス合同により実施した。

#### 4) 今後の課題

##### (1) 大学全体での取り組みの検討・実施

研究費不正使用及び研究不正を防止するための具体的な対策を、今後も大学全体として検討し、実施する必要がある。

### **国際交流委員会**

#### 1) 所掌事項

- (1) 国際交流事業に関すること
- (2) 学長が諮問したことに関すること

#### 2) 委員会開催状況

計 10 回開催した。

#### 3) 2019年度の活動状況及び評価

- (1) 異文化研修Ⅰ（韓国）・異文化研修Ⅱ（米国）について募集、引率などについて検討した。
- (2) 異文化研修Ⅰ（韓国）・異文化研修Ⅱ（米国）の報告会を計画した。
- (3) Global Dream Hunt (GDH)について、出雲キャンパスは2団体採択された。【台湾：発行長寿の国で食べ歩く】健康栄養学2年生3名、【フィンランド：「フィンランドのネウボラ」と「日本の子育て支援」の違いを発見！】看護学科3年生3名が実施した。
- (4) 大邱保健大学の学生3名と引率教員1名を受け入れることとなった。財源確保の為、日本・アジア青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプランに申請、採択された。
- (5) インドネシア栄養士会（INA）とユークリダワチャナクリスチャン大学（UKRIDA）と島根県立大学との間で包括協定を締結した。
- (6) 沖縄研修について企画し、9月は実施できたが3月分については新型コロナウイルス感染症防止のため中止となる。
- (7) 台北医学大学（TMU）の栄養学部・看護学部と出雲キャンパス看護栄養学部との間で交流のあり方について検討し、学部間交流協定を交わすこととした。
- (8) JASSO海外留学支援制度採択に、異文化研修Ⅱ（米国）プログラムの継続申請を行い、採択された。
- (9) 新型コロナウイルスの影響に伴い、今後の海外研修実施について全学方針に従い募集時期や開催の有無等について検討をしていくこととした。

#### 4) 今後の課題

科目に位置付けられた異文化研修以外の海外研修先の開拓により、インドネシアや台湾などメニューが増える予定である。学生にとって有意義な研修となるよう4年間のメニューを提示し、計画的に研修参加できるよう勧めていく必要がある。

異文化研修Ⅱ（米国研修）のウェナチについて、ホームステイ先の確保が不十分であったことや研修意義を見直した結果、看護学科の学生もセントラルワシントン大学に変更し、プログラムを検討することとした。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、開催等の決定がずれ込む可能性がある。次年度開催について、感染拡大状況を鑑みながら両学科の学生にとって安全で有意義な研修にするために、適切に状況判断していく必要がある。

## 中期計画検討委員会

### 1) 所掌事項（年度計画）

- ・中期計画に関すること
- ・学長が諮問したことにすること

### 2) 会議開催状況、議題

各委員会、学部学科及び大学院研究科、別科において中期計画の年次計画の実施状況について評価し、中期計画検討委員会で評価内容を中心にメール会議により点検した。

### 3) 今後の課題

今年度の評価内容を次年度計画に反映できているか、早めの会議開催により確認・検討していく必要がある。

## 杉谷藤子大学院教育奨学金制度検討委員会

### 1) 所掌事項

- (1) 杉谷藤子大学院教育奨学金制度に関すること

### 2) 会議開催状況、主要議題

会議を2回開催した。

### 3) 2019年度活動状況と評価

- (1) 杉谷藤子大学院教育奨学金について

2019年度杉谷藤子大学院教育奨学金申請3件について、審査を行い、3名を出雲キャンパス研究科運営会議に奨学金候補者として推薦した。

2020年度杉谷藤子大学院奨学金給付要綱及び募集要項を検討し、給付奨学生採用数をこれまでの博士前期課程2名程度・博士後期課程2名程度を看護学研究科で4名に変更した。給付要綱の改正については本部を経て学長決裁を受けた。募集要項については研究科委員会に報告した。

- (2) 看護学研究科セミナーについて

杉谷藤子氏の寄付の意思を尊重し、奨学金に加えて学生の教育研究活動を支援する資金として活用することとし、第5回および第6回の看護学研究科セミナーの開催を支援した。また、2020年度の看護学研究科セミナーの開催に向けて、研究科に高度実践者コースの設置をうけ、高度実践者養成コースのPR等を兼ねたセミナーを開催することについて研究科委員会に提案し、了承された。

### 4) 今後の課題

大学院教育において、本奨学金が学修を支援する資源として有効に活用されるために、活用状況を踏まえ検討を継続していくことが必要である。

## 高大連携プロジェクト委員会

### 1) 所掌事項

- (1) 高大連携を進展させ、高校生の学習評価の方法に関すること
- (2) 高校のキャリア教育の調査に関すること
- (3) 学長が諮問したことにすること

### 2) 委員会の開催状況

審議事項に合わせて5回の委員会と1回のメール会議、合計6回の委員会を開催した。

### 3) 現状と課題

- (1) 高大連携を進展させ、高校生の学習評価方法に関すること



全学高大連携室会議での事業を受けて、出雲キャンパスでの県内高等学校との連携に関わる事業を実施した。

#### 内容一覧

事業	日時	内容	担当
出雲高等学校 『PDG z』	10月17日 11月14日 3月11日	PDG z セミナー（1年生）への講師 派遣	松本玄智江准教授 渡邊克俊講師 赤浦和之教授
『SS 探求発展 A』	9月11-12日 1月29-30日	SS 探求発展 A（2年）への講師 派遣	加納尚之教授 籠橋有紀子准教授
平田高等学校 『平田プラタナス プラン』	8月23日	平田高校卒業生 TA による プレゼン指導	看護学科1年生1名
隠岐島前高等学校 『まちづくり甲子園』	7月13-15日	県内外の高校生が集まり、まちづ くりについて話しあう大会への大 学生の参加	看護学科4年生2名
大社高等学校 『総合的な学習 の時間』	10月30日	高校2年生の課題探求学習に関する プレゼンに対してアドバイス	教員4名 看護学科4年生5名
隠岐島前高等学校 大学訪問	11月15日	大学紹介・学科紹介 授業見学（小児臨床看護論）	岡安准教授 高橋准教授

高校生の学習評価方法に関して、大学入学者選抜にかかる近年の動向および大学入試制度の改革に伴い新たに他大学で導入された入試について情報収集した。提出書類として「学びの設計書」を課している大学があること、選抜方法および基準の中で、試験で何を評価するのかを明確にする必要があること等が明らかになった。

#### (2) 高校のキャリア教育の調査に関すること

高校生のキャリア教育に関する取り組みについて、県内高校の状況を情報収集した。キャリアパスポートを紙管理で行っているのは3校で、他は Benesse マナビジョンやスタディサプリなどを利用していることが分かった。

#### (3) 課題

高大連携事業を通して高校との連携をより強めるとともに、本学の入学者選抜方法および評価の基準について検討するための資材を収集する。また、今後も増加することが予想される高大連携事業について、大学と高校のいずれかに多くの負担が偏ることがない、望ましい連携の在り方について模索する。

### 利益相反マネジメント委員会

#### 1) 所掌事項

(1) 利益相反マネジメント委員会の運営に関すること

#### 2) 会議開催状況

令和元年度は、利益相反マネジメント委員会を1回開催した。

#### 3) 令和元年度の活動状況と評価

(1) 自己申告書（概要版）実施

- ① 実施期間：令和元年5月31日～7月5日
- ② 対象者：本学教員
- ③ 審議結果：自己申告書(詳細版)ならびにヒアリングの必要な教員は認められなかった。

## **障がいのある学生の修学支援委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 障がいのある学生への支援に関すること
- (2) 障がいのある学生支援室の設置・運営に関すること
- (3) 個別支援チームの設置・運営に関すること
- (4) 学長が諮問したことに関すること

### 2) 会議開催状況

開催予定を決め、年6回開催した。

### 3) 令和1年度活動状況および評価

- (1) 障がいのある学生への支援に関すること
  - ・ 支援組織があることやその利用方法について広報が必要と考え、ホームページに利用方法を掲載し、申請書をダウンロードできるように掲載した。
  - ・ 学生への掲載し、年度初めのオリエンテーションで紹介してもらうようにした。
  - ・ トイレや図書室、教務学生課窓口などに名刺サイズのカードに連絡先を記し設置した。
  - ・ キャンパス合同会議やメールで教員に周知し、チューターから必要な学生に制度利用を勧めってもらうよう依頼した。
- (2) 障がいのある学生支援室の設置・運営に関すること
  - ・ 教務学生課に支援室を設置し、広報した。
  - ・ 平成29年度の委員会のできた支援組織を見直し、簡便に動きやすいようメンバー構成等見直した。
- (3) 個別支援チームの設置・運営に関すること
  - ・ 今年度学生からの申請はなかった。
- (4) 研修会の開催
  - ・ 障がいのある学生の修学支援室の広報と支援のあり方について学修目的で教職員を対象に研修会を開催した。
  - ・ 島根大学の支援室より専門家を招き講演してもらい、3キャンパスをテレビ中継で結び実施した。

### 4) 今後の課題

学生が利用しやすいよう支援室の広報活動と利便性を高めていく必要がある。また、全教職員が障がいのある学生の修学支援に関心をもってかかわれるよう研修会企画についても継続の必要がある。

## **動物実験委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 実験計画並びに当該実験計画の実施状況及び実施結果の適正性に関すること
- (2) 施設等及び実験動物の飼養保管状況の適正性に関すること
- (3) 動物実験等の実施に係る教育訓練、自己点検・評価に関すること
- (4) 学長が諮問したことに関すること



## 2) 委員会開催と活動状況

「島根県立大学出雲キャンパス動物実験規程」により、各種申請に対する審査等を行った。

委員会開催：2回開催

- ・動物実験計画変更承認申請 1件 承認1件
- ・島根県立大学出雲キャンパス実験動物飼育施設緊急時対応マニュアルを作成した。
- ・「動物実験の外部検証2020年度の実施準備に向けた事前説明会」に出席し、資料をもとに概要について委員会で情報共有した。

## 3) 今後の課題

- (1) 「島根県立大学出雲キャンパス動物実験規程」に基づく実験計画並びに当該実験計画の実施状況及び実施結果、施設等及び実験動物の飼養保管状況の適正性に関する事等について、継続的に確認していく。
- (2) 「動物実験の外部検証の事前説明会」資料に示された留意点を踏まえつつ適切な自己点検に努める。

## **大学院研究科助産師教育準備委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 大学院における助産師教育に関する事
- (2) 学長が諮問した事に関する事

### 2) 会議開催状況、主要議題

会議を3回開催した。

### 3) 2019年度活動状況と評価

#### (1) 申請準備

高度実践者養成コース助産学領域の設置に向け、養成する人材像を明確にし、教育課程やカリキュラム、臨地実習の内容・指導スケジュールの検討を行った。また、設置の趣旨や関連する資料作成、学生確保の見通しに関するアンケート調査を行い申請の準備を行った。

これらの進捗状況を看護学研究科委員会に報告した。

#### (2) 申請

2019年5月に助産師学校指定申請を行い、8月末に設置が認可された。

#### (3) 開設記念講演会およびシンポジウムの準備

4月開設にあわせて、記念講演会およびシンポジウムの実施に向けて、企画を検討した。

### 4) 今後の課題

教育課程の円滑な運営を行い、学生に質の高い教育を実施する。大学院における助産師養成の重要性を伝え、学生の確保につなげる。

## **N P 設置準備委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) NP教育課程設置に関する事
- (2) 学長が諮問した事に関する事

### 2) 会議開催状況、主要議題

会議を4回開催した。

### 3) 2019年度活動状況と評価

#### (1) 申請準備

診療看護師（NP）教育課程設置に向け、カリキュラム、シラバス、実習要項、課題研究につい

て、検討し修正を加えた。進捗状況を看護学研究科委員会に報告した。

カリキュラムに含める看護師特定行為研修の区分および行為について、厚労省の特定行為研修の一部修正を受けて検討し、8区分12行為に変更した。

厚労省中国四国厚生局に事前相談をおこない、特定行為研修の指定機関の申請に向けて申請書類の作成、実習施設、非常勤講師との交渉を行った。

設置について、大学本部、島根県との協議を行った。

#### (2) 申請

厚労省の看護師の特定行為における指定研修機関の申請を11月末に行い、12月20日に大学及び実習施設において実地調査をうけた。2020年2月26日付で承認された指定教育機関として認定された。

日本NP教育大学院協議会事務局に教育機関としての申請を行い、NP教育課程認定審査結果が2020年1月29日付であり認定された。

#### (3) 開設記念講演会およびシンポジウムの準備

4月開設にあわせて、記念講演会およびシンポジウムの実施に向けて、企画を検討した。

#### 4) 今後の課題

教育課程の円滑な運営を行い、学生に質の高い教育を実施する。診療看護師の認知度を高め、学生の確保につなげる。

### **ハーブガーデン設置準備委員会**

#### 1) 所掌事項（年度計画）

- ・ハーブガーデン設置に関すること
- ・学長が諮問したこと

#### 2) 会議開催状況、主要議題

- ・会議を7回開催した。

#### 3) 令和元年度活動状況と評価

##### (1) 散策し花や香りを楽しむハーブ園を設置する…担当：安藤，松谷

- ・学生の園芸サークルと連携した活動

正面玄関ロータリーに花壇を整備し、マリーゴールド、サルビア、ビオラなどを植えた。練香水作りの活動支援をおこなった。

- ・鳶巣地区「すみれの会」との連携した活動

「すみれの会」から寄贈されたマリーゴールド、サルビアのプランターを食堂前に設置した。

##### (2) 飲んだり食べたりハーブクラフトを楽しむハーブ園を設置する…担当：松本，川谷

- ・「仕事終わりのリラクゼーションtime」の企画・実施をした。
- ・ハーブクラフトのワークショップ「クリームクレンザー作り」を企画・実施した。

##### (3) 珍しい薬草の収集や研究用のハーブ園を設置する…担当：松本

- ・飯南町のむらさき草栽培の支援を行った。

##### (4) 施設管理、経理…担当：佐々木，松本

- ・次年度作成するハーブ園の候補地を決定し、土壌整備を行った。
- ・ハーブ園にかかる土壌整備の委託先の決定と、経費の管理を行った。

#### 4) 今後の課題

- ・次年度から、ハーブガーデン設置準備委員会はエコキャンパス推進委員会に引き継がれることとなった。
- ・今まで整備してきた花壇を学生の園芸サークル、鳶巣地区の「すみれの会」、つわぶきネットと連携し、引き続き整備する。

## **ダイバーシティ推進委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) ダイバーシティ推進に関すること
- (2) その他のダイバーシティ推進についての必要な事項に関すること

### 2) 令和元年度活動状況と評価

隔月第3週の水曜日 14:00～15:00 に定例会議を6回開催。

- (1) ダイバーシティ現状調査・働き方改革実施結果報告会の開催

日時：2019年6月7日（金）10:00～11:30

場所：中講義室

内容：①ダイバーシティ現状調査結果報告

②衛生委員会より報告〔人権研修結果，ストレスチェック結果〕

③ライフイベント時に活用可能な制度に関する勉強会

④意見交換

34名の参加があり，本学の新たな取り組みの一つとして，評価されるものとなった。

- (2) 2019年度ダイバーシティ推進委員会研修会の開催

日時：2019年11月5日（火）14:00～15:15

演題：「働き方改革とプロフェッショナルリズム」

講師：高田朝子氏（法政大学経営大学校イノベーション・マネジメント研究科教授）

場所：1号館 201R

教職員20名の参加があり，日常の業務を振り返り，今後の課題を考える機会となった。

- (3) 多目的トイレの整備

キャンパス内の多目的トイレすべてに，幼児用便座と踏み台を設置した。

- (4) 学生へのサポート体制やアプローチについて

演習・実習等で様々な配慮を必要とする学生のニーズについて，保健室を中心に1年程度をかけて，意見の集約を進める。

### 3) 今後の課題

ダイバーシティを推進していくためには，ともに過ごし，ともに働く人々の目に見えないニーズや困難感などに対応をしていくことが目的となる。それゆえ，なかなか具体的な課題が把握できにくい現状がある。今後とも，声なき声に寄り添うための環境改善や働き方改革などに向けて，継続的に活動を続けていく。

## **広報委員会**

### 1) 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) ホームページに関すること
- (3) 学長が諮問したことに関すること

### 2) 会議開催状況

開催予定を決め，年9回開催した。

### 3) 令和元年度活動状況および評価

- (1) 大学の広報に関すること

・ SNSコンテンツを活用して大学の広報をしていくことを方針決定し，フェイスブックとインスタグラムに出雲キャンパスのアカウントを開設し，運用することとした。それに伴い運用ガイドラインを作成した。

- ・ 大学あるいは出雲キャンパスのグッズを開発し、ロゴや大学名の入ったグッズを通して大学の広報を図ることを検討した。どのようなグッズがよいかアンケートを実施した。
- (2) ホームページに関すること
- ・ ホームページの運用についても業務フローを提示し記事を更新する手順を明確にした。併せて記事に漏れがないよう行事予定表に欄を設け、掲載したい記事に漏れがないようチェックできるようにした。
  - ・ 出雲キャンパスの最初の画面を動画にするよう委員にドローンをを用いて録画を依頼し、編集した。
- (3) その他
- ・ 全学の広報企画の一環で出雲市駅と松江駅のデジタルサイネージの掲載データの編集、テレビ番組の作成に貢献した。
- 4) 今後の課題
- ・ 次年度よりホームページに加え、SNSコンテンツの運用も行う。定期的に評価し不適切記事は削除するなどの対応をしながら、適切に運用していく必要がある。
  - ・ 教職員だけでなく学生にも広報に貢献してもらいたく、学生広報委員会なども検討していく必要がある。
  - ・ グッズ開発について、予算要求したが新規予算は計上されなかった。企業と交渉しながら開発を具現化していきたい。

## エコキャンパス推進委員会

### 1) 所掌事項

- (1) エコキャンパスの構築に関すること
- (2) 学内の省エネ化の推進に関すること
- (3) 学内の緑化推進に関すること
- (4) 環境問題、再生可能エネルギー等の意識啓発及び普及キャンペーン等に関すること
- (5) 学長が諮問したことに関すること

### 2) 会議開催状況、主要課題

4回の会議を開催した。

### 3) 2019年度活動状況と評価

- (1) エコキャンパスの構築に関すること  
今年度初めて委員会が発足したことから、研修会等での啓発活動を中心に実施した。
- (2) 学内の省エネ化の推進に関すること  
出雲キャンパスにおけるエネルギー（ガス及び電気）の月別使用量（2018年度及び2019年度）について取りまとめを行い、エネルギー消費の見える化に取り組んだ。具体的には、研修会での報告及び電光掲示板での広報等を行った。
- (3) 学内の緑化推進に関すること  
学生食堂南側にグリーンカーテン（ゴーヤ）の植え付けを行った。
- (4) 環境問題、再生可能エネルギー等の意識啓発及び普及キャンペーン等に関すること  
再生可能エネルギーについて研修会を開催した。  
テーマ：島根県企業局における再生可能エネルギーへの取り組み  
日時：2020年2月19日（水）11:00～12:00  
講師：島根県企業局西部事務所 所長 福富昭氏  
参加者は31名であり、参加者のほとんどが再生エネルギーについて「理解できた」「やや理解できた」と回答していた。

#### 4) 今後の課題

年度内途中での委員会発足であったこともあり、今年度は十分な活動が行えたとは言えない。令和2年度は、計画的な緑化推進、今年度から開始したエネルギー消費の見える化についても評価を行う。また、学生委員、学生自治会との連携を密にし、学生を主体としたエコキャンパスの構築に取り組む予定である。

## 8. 大学院看護学研究科委員会

### 【構成員】

教授	吾郷美奈恵	石橋 照子	伊藤 智子	梶谷みゆき	金城 祥教
	倉鋪 桂子	佐藤 公子	三瓶 まり	谷口 敏代	中山 真美
	名和田清子	秦 幸吉	平野 文子	平松喜美子	矢田 昭子
	山下 一也	吉川 洋子			
准教授	井上 千晶	大塚 美樹	大森 眞澄	岡安 誠子	藤田小矢香
	松本亥智江	森山 美香			

### 事務室

事務室長	森本 勝志
管理課長	吉田 一郎
教務学生課長	坂田栄一郎 (オブザーバー) 工藤 祐司

### 【看護学研究科の運営に関する事項及び担当】

事項	内容	2019 担当
1. 教育課程, 授業その他 教育全般に関する事 項	大学院便覧の作成 時間割・学年暦作成 専門演習報告会の企画・実施 フィールドワークの手引きの作成	大森眞澄, 松本亥智江 教務学生課
2. 研究に関する事項	合同検討会の運営 研究科セミナーの運営 公开发表会の企画・実施	佐藤公子, 名和田清子 岡安誠子, (大塚美樹)
3. 学生の入学および 修了に関する事項	学生募集要項 学部学生向け説明会 病院・看護学校訪問	石橋照子, 吉川洋子 三瓶まり, 吾郷美奈恵 梶谷みゆき, 矢田昭子 教務学生課
4. 学生生活の支援およ び学生の賞罰に関す る事項	奨学金審査 ハラスメント相談 学長表彰 合同交流会の企画・実施	杉谷奨学金委員 秦 幸吉 平野文子, 教務学生課
5. 学位の授与に関する 事項	学位論文審査委員会設置等に関する事 学位論文執筆要領の作成 学位論文の製本・印刷	研究科運営委員 教務学生課
6. その他研究科の教育 研究に関する重要な事 項	研究科委員会の検討事項 研究指導担当教員審査に関する事 非常勤対応 カリキュラム検討	研究科運営委員 石橋照子, 教務学生課
7. FDに関する事項	教員の資質向上にかかる研修 授業評価アンケート	伊藤智子, 中山真美 井上千晶, 森本事務室長
8. ホームページ他広報に 関する事項	ホームページの更新 フェイスブック, SNS の活用 卒業生, 教員の特集記事 入試情報に関する事 入試問題の公開に関する事	石橋照子, 藤田小矢香 森山美香, 教務学生課
9. 大学院附置 看護教育 研究センター(仮称)設 置準備委員会	看護教育研究センター(仮称)の設置に 関すること	石橋照子, 吉川洋子 梶谷みゆき, 藤田小矢香 井上千晶, 森本事務室長 勝部真美枝



## 【研究科委員会の開催】

看護学研究科委員会において、以下の事項について所掌し、表3のように担当者を決めて運営した。本研究科委員会は2か月に1回を定例会とし、必要時臨時で開催した。今年度は臨時を含め9回の研究科委員会を開催した。

## 【今後の課題】

大学院看護学研究科の博士前期課程に研究者養成コースに加え高度実践者養成コースが設置となる。また博士後期課程も始まり、研究科構成員の増加、組織図も複雑化してきており、潤滑に運営できるように図っていく必要がある。

## 大学院看護学研究科FD委員会

### 1) 所掌事項

- (1) 学生による授業アンケートの実施に関すること
- (2) FD研修会の実施に関すること
- (3) 学長が諮問したこと及び教授会が付託したことに関すること

### 2) 会議開催状況

委員会を3回開催し、必要に応じて担当者同士で、意見交換を行った。

### 3) 2019年度活動状況および評価

#### (1) 学生による授業アンケート

2019年度から博士後期課程がスタートしたため、博士前期・後期課程合わせて14名の学生を対象に、昨年度とほぼ同様の内容で実施し、13名から回答があった。

結果の内容：アンケート結果からカリキュラム全般については概ね満足を得られていた。「基盤科目」は研究や仕事でも生かせる内容で、看護の基礎の学び直しにつながるとの評価であった。一方「専門領域・専門科目」については理解が深まっているものの「どちらかと言えば理解できない」との回答が見られ難しいと感じる学生もあった。研究指導については全員が役立つ適切な指導を受けたと回答し、自由記載からも感謝の言葉が多くみられ担当教員は学生の研究が円滑に進むよう指導を行っていた。この結果を基に、研究科長がFBレポートを提出した。これらの結果は、学生情報システムのお知らせに掲載し、本学の学生および教職員に公開する。

#### (2) FD研修会

1. 日時：2019年8月24日（土）13:30～16:00
2. 場所：鳥取県立大学出雲キャンパス 中講義室
3. 講師：東京大学 高齢社会総合研究機構 教授 飯島勝矢氏
4. テーマ：なぜ老いる？ならば上手に老いるには  
ーフレイル予防を通じた健康長寿のまちづくりー
5. 参加教職員：17名（内研究科教員13名）
6. 評価

大規模高齢者長期縦断追跡コホート研究にて、フレイルのエビデンスを研究すると同時に市民主体（フレイルサポーター）による栄養・運動・社会参加を軸とする包括的フレイル予防教育を全国的に展開しているお話を聞いた。市民の行動変容に結び付く教育内容やフレイルサポーターの意義、フレイルチェックのシステムについても説明があり、参加した教職員にとって学びの多い研修会となった。

#### (3) その他

2科目の授業公開を行い、延べ11名の教員が参加した。

### 4) 今後の課題

今年度から大学院後期課程がスタートし、教員の力量の重要性に対する認識が高まったためか、今年



度は昨年度に比べて非常勤講師の授業参観を希望する教員が多かった。また、学生アンケートから図書館利用の時間延長や発表会やセミナー等、できるだけ早い連絡を希望していることがわかった。今後も引き続き、授業内容・方法を改善し向上させるためのFD研修について検討する。また、計画的に実施するとともに他の委員会等と連携・協働してFD活動を推進する。

## 9. 看護栄養交流センター

### 1) 看護栄養交流センターの設置目的

看護栄養交流センターは、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に前身の「島根県立大学しまね看護交流センター」を設置し、2018年4月に「看護栄養学部」が設置されるのに伴い、「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」（以下「センター」という。）と改称した。

島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士等の質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学及び栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的に、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に設置した。

### 2) 事業概要

センターには、「キャリア・研究支援部」「地域連携推進部」「認定看護師養成部」の3つの部を設置し、大学の機能を活かした地域貢献活動を推進している。

#### (1) キャリア・研究支援部

専門職（看護職、管理栄養士、栄養士）のキャリア形成、研究活動の支援ならびに研究成果を広く社会へ還元するため、以下の4つのプロジェクトを展開している。

①実践力の向上、②教育力の向上、③研究力の向上を目的とした研修事業、④保健・医療・福祉機関等への講師派遣等

#### (2) 地域連携推進部

健康と看護をめぐる地域社会のニーズや課題に応え、地域と協働し、地域に開かれた大学を実現するため、①公開講座等の地域住民の生涯学習を支援する事業、②学生のボランティア活動の支援、③小中学生を対象とした出前講座や体験学習、④産官学連携、⑤地域の声を大学運営に活かすための広報・広聴活動等、幅広い活動を行っている。

#### (3) 認定看護師養成部

島根県の委託を受け、認定看護師を養成する教育課程を開講し、2018年度から開講した「認知症看護」分野では延べ31名が修了した。

### 3) 実施体制

本センターは、島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき運営する。

#### (1) センター構成員

センターの構成員は、出雲キャンパスに所属する全ての専任教職員である。センターには、以下の職員を置く。

- ① センター長：1名（兼務）
- ② 部長：3名（兼務）
- ③ プロジェクトリーダー：11名（兼務）
- ④ プロジェクトスタッフ：部長・リーダーを除く専任教員
- ⑤ 事務職員：1名（認定看護師養成部担当 専任職員）
- ⑥ 管理課地域連携推進室職員：2名（兼務）
- ⑦ ボランティア担当職員：1名（兼務）

### 4) 運営

#### (1) 看護栄養交流センター運営会議

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、学内の教職員を構成員とする島根県立大学看護栄養交流センター運営会議を開催し、センターの運営に関する事、事業計画の策定及び進行管理に関する事、その他センターの運営に必要なことについて協議した。2019年度

は2回開催した。

(2) 外部委員会

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、センターの業務に関し、調査審議を行うため、外部委員会を開催し、センター事業について外部委員との意見交換を実施し、外部評価をセンターの運営および事業に反映することを目的に2月に開催した。

(3) 看護栄養交流センター部長会議

看護栄養交流センター事業を推進するため、センター事業の各部門の部長が協議する部長会議を2回開催した。

詳細は別紙「看護栄養交流センター2019年度成果報告書」を参照

## II 教育活動

### 1. 看護栄養学部 目的等

#### 1) 目的

地域における教育研究の拠点として、学生の学ぶ意欲を高め、豊かな人間性を育むことによって、課題探求力および実践力を兼ね備えた人材を育成するとともに、地域への知の還元や地域課題解決への支援を通じて地域と協働し、地域社会の文化および福祉の向上ならびに地域の人々の健康の増進に寄与することを目的とする。

#### 2) 理念

##### (1) 島根県立大学の理念

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それに基づく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命としている。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とするため、平成22年4月に「島根県立大学憲章」を定め、以下の5つの事項を大学の責務として明らかにしている。

- ① 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する。
- ② 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する。
- ③ 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して地域に貢献する。
- ④ 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する。
- ⑤ 自律と協同、透明性が高く機能的に優れた大学運営を行う。

##### (2) 看護栄養学部の教育研究上の理念

この憲章と看護学を教育研究する学部・学科の専門性を踏まえ、看護栄養学部の教育研究の理念を次のとおりとする。

- ① 市民的な教養を教授するとともに、看護学・栄養学における高度な知識と技術を教授・研究し、深い人間愛と倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本と実践能力を身につけた専門職を育成する。
- ② 看護学・栄養学の教育研究活動を通して地域社会における健康課題を明らかにし、その改善のための研究を行い、研究成果を保健・医療・福祉分野はもとより広く社会に還元する。

##### (3) 育成する人材像

(2) の教育研究上の理念を踏まえた看護栄養学部が育成する人材像は、「自ら考え行動できる、視野の広い専門職業人」であり、具体的には次のとおり学科ごとに示す。

##### [看護学科]

- ① 看護栄養専門職として看護実践に必要な基本的な技術と知識を身につけ、深い人間理解と高い倫理観をもって判断し、行動できる人材。
- ② 市民的な教養と豊かな人間性をもち、保健・医療・福祉等に携わる人々と協働、連携できる人材。
- ③ 地域の人々との関わりを通じて地域の特性と健康課題を明らかにし、課題解決に向けて創造的に行動できる人材。

## [健康栄養学科]

- ①管理栄養士として療養者に対し、高度の専門的知識・技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導を行うことのできる人材。
- ②栄養学・健康科学などの関連する諸科学に基づく判断力を持ち、管理栄養士・栄養士の倫理綱領を基盤として、関連職種と連携して協働できる人材。
- ③地域の特性と健康課題を明らかにし、地域の健康づくり及び公衆衛生の改善に参画できる人材。

## 2. 看護学科

### 1) カリキュラム編成

カリキュラムの編成にあたっては、本学の建学の理念及び教育目的のもとに、カリキュラムポリシーを定め授業科目を置いた。

「自ら考え行動できる視野の広い専門職業人」を育成するため、3つの要素、①看護を実践する能力の育成、②相手を理解し協働する能力の育成、③地域の特性と健康課題を探究する能力の育成を柱として教育課程を編成した。

#### (1) 看護を実践する能力の育成

医療の高度化、入院患者の重症化、在院日数の短縮化に伴う在宅療養移行事例の増加等、看護を取り巻く環境は、大きく変化している。そのような環境の中にあって、医療安全の確保や人権等に配慮しながら複雑多岐にわたる看護業務を的確に遂行できるよう、ヒューマンケアスキルの修得とともに、対象の理解や根拠に基づく的確な臨床判断、エビデンスに基づく看護、チーム医療における役割を理解し、健康の保持増進にかかわる支援、健康問題を抱えた人や家族への看護等、保健医療福祉施設、地域での実習等を通じて看護実践能力の育成を図る。

#### (2) 相手を理解し協働する能力の育成

看護職は、様々な健康問題を抱え、多様な価値観をもつ、幅広い年齢層の人間を対象とするため、多様な価値観や立場の違いを理解し、人間の尊厳と権利を尊重する視野の広い柔軟な思考力、深い洞察力、豊かな人間性や高い倫理観が求められる。加えて、的確な看護を提供するためには、患者・家族等の代弁者・擁護者として、傾聴力や説明力が求められる。また、チームとして保健・医療・福祉等の多職種とも円滑に意思疎通がとれることが求められる。

このため、市民的教養を身につけることで人間と社会への理解を深め、人権を尊重する意識の涵養につなげる教育を行う。また、コミュニケーション能力や豊かな感性、倫理性を基盤に、人に寄り添い、人間性や個別性を尊重した援助的な人間関係を形成できる能力を養成するとともに、広い視野をもち、保健・医療・福祉等に携わる人々や当事者とその家族、市民等と協働できる能力の育成を図る。

#### (3) 地域の特性と健康課題を探究する能力の育成

県内各地での実習や交流を通じて、地域の保健・医療・福祉の現状と課題を認識し、住み慣れた地域における生活の継続性や自立性、意思の尊重等のQOL並びに支援方法を理解するとともに、これらの課題について、批判的・創造的に思考し、その原因や対策を多角的な視点から客観的に分析し、論理的に整理した上で、主体的に発信・行動する能力の育成を図る。社会資源の活用及び保健・医療・福祉に関する法律や制度への理解を深め、政策や組織等の観点も含め多職種間と連携、協働できる能力を育成する。

平成31年度は、3年次・4年次生が平成28年度カリキュラム（後述）、1年次・2年次生が平成30年度カリキュラム（後述）にて教育課程を展開した。特に、1年次生と2年

次生は平成 30 年度に開設した健康栄養学科との連携科目が教育課程の特徴である。

#### [平成 28 年度教育課程の考え方]

平成 28 年度教育課程の変更は、育成する人材像やカリキュラムポリシーへの接近をさらに充実することを目的としている。主な変更点は、以下の 2 点である。

- ① 主体的に学習する能力を強化するために、学習技能や人間関係形成技能、キャリア形成支援に関わる科目を充実する。
- ② 島根の地域特性や地域課題を総合的に学ぶ科目を追加し、地域に根ざした人材育成のための学習機会を充実する。

上記 2 点の変更点に従い、教育内容の充実を図るために措置した事項は以下のとおりである。

#### (1) 区分の変更

『教養と基礎』は、人の支援に関わる看護専門職に必要な一般教養を学ぶ、市民的な教養と多様な価値観を認める豊かな人間性を養うとともに、視野の広い柔軟な思考や科学的・論理的な思考を身につける分野である。領域の名称を【外国語】【自然と情報科学】【社会と生活】【地域と共生】【異文化理解】【専門意識の育成】とし、各科目を配置した。【専門意識の育成】に位置づくキャリアセミナーⅠ・Ⅱは、看護職者のキャリア形成の基盤となる情報リテラシーや論理的思考の育成を目指した履修とした。

『看護専門基礎』は、看護学の基盤となる基礎的・科学的知識を養うよう、【人間の理解】と【健康と疾病の理解】の 2 つの領域で構成した。【人間の理解】では、人体構造学や人体機能学といった生命体としての人間の理解、【健康と疾病の理解】は、病態治療学Ⅰ～Ⅳのように、医学的視点に加え、心理学や公衆衛生学を包含した。

『看護専門分野』は『基礎看護』『臨床看護』『公衆衛生看護』『看護の統合』分野とし、看護の専門的役割と実践力の基盤となる科目立てとした。『基礎看護』は、コミュニケーションや生活援助・診療援助など、看護の展開に欠くことのできない核の部分の科目立てした。『臨床看護』では、成人・老年・小児・母性・精神・在宅の 6 つの領域が発達・臨床・地域の科目を開設し、人間の健康と不健康、療養の場に応じたケアの実践、疾患や障害の有無や程度査定に必要な能力の育成、環境と人間について、総合的に学べる履修とした。また、『公衆衛生看護学』は、保健師国家試験受験資格取得に要する科目と看護職に必要な予防的看護・公衆衛生の要素を科目とした。『看護の統合』では、災害看護やリスクマネジメントなど専門性（プロフェSSIONAL）の要素をもつ科目を配置し、看護総合実習や看護研究では、多重課題に取り組み、看護研究の一連のプロセスを体験的に学ぶ履修形態とした。

#### (2) 科目の一部変更

『教養と基礎』分野に「キャリアセミナーⅠA～ⅣB」を新設した。大学で主体的・能動的に学ぶための学修技能（スタディ・スキル）と友人や教員との人間関係を円滑に進めるための技能（ソーシャル・スキル）を修得するため 1 年次に開講していた「基礎セミナー」を廃止し、入学から卒業まで一貫してキャリア形成に関して学修できるよう「キャリアセミナーⅠA～ⅣB」を設けた。

異文化理解研修（海外研修）を、交流協定校であるシアトル大学とウェナチーバレーカレッジ（アメリカ合衆国）、啓明大学校と大邱韓医大学校（大韓民国）において毎年実施してきた。今回の変更で 1 年次春学期に[異文化研修Ⅰ（韓国）]を、2 年次春学期に[異文化研修Ⅱ（米国）]を開設した。[中国語][北東アジア地域事情]は廃止した。また同じ分野内の『地域と共生』の領域において地域特性を理解し健康課題を探究する能力を高めるための科目として、「島根地域共生学入門」と「地域課題総理解」の 2 科目を新設した。

『臨床看護』の分野の各看護学領域では、その看護領域の専門性を学生がイメージしやす



いよう、2領域にまたがる科目を独立させた。「小児・母性臨床看護技術論」を「小児臨床看護技術論」「母性臨床看護技術論」に、「成人・老年臨床看護技術論」を各看護学領域の科目に包含させた。「健康危機管理論」は「災害看護」と「公衆衛生看護管理論」に分割し教育内容の精選と整理を行った。「医療と安全」と「感染看護」の2科目を廃止し「リスクマネジメント」を新設して内容の重複を整理した。公衆衛生看護学領域の科目においては、保健師国家試験受験資格取得のための科目を選択する学生が学修しやすいよう、科目の順序性を考慮するとともに、教育内容の精選や単位数(時間)の整理を図った。「公衆衛生看護方法論Ⅰ(個人・家族)」「公衆衛生看護方法論Ⅱ(集団)」「公衆衛生看護方法論Ⅲ(組織・地域)」「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護技術演習」を新設した。「ヘルスプロモーション」は他の科目との内容の重複の観点から廃止し「公衆衛生看護技術演習」の教育内容で統合を図った。

### (3) 履修方法の変更

卒業に必要な単位は、看護師国家試験受験資格取得をめざす教育課程は124単位で変更はない。保健師国家試験受験資格取得をめざす教育課程は最低取得単位数138単位とし、保健師国家試験受験資格取得に関わる選択科目の履修は、保健師資格取得をめざす学生限定とした。

#### [平成30年度教育課程]

平成30年度教育課程は、平成28年度教育課程を基盤にして、平成30年度に新たに開設した健康栄養学科との連携科目を加え、育成する人材像やカリキュラムポリシーへの接近をさらに強化することを目的とした。

具体的には、看護学科が健康栄養学科と共通に学ぶ科目、連携して学ぶ科目を分野・領域を整理して区分し、看護学と栄養学に関わる科目を充実した。

### (1) 区分と科目の変更

『教養と基礎』の分野を『共通教養』と『連携』の分野に分け、配置した科目群が理解できる領域に区分した。領域名の変更は無い。

変更前		変更後	
区分		区分	
分野	領域	分野	領域
教養と基礎	外国語	共通教養	外国語
	自然と情報科学		自然と情報科学
	社会と生活		社会と生活
	地域と共生	連携	地域と共生
	異文化理解		異文化理解
	専門職意識の育成		専門職意識の育成

この『共通教養』分野では、各学問に共通する基礎的知識や教養を学び、視野の広い柔軟な思考や科学的・論理的な思考を育成する。また、『連携』分野では、国際的な視野で地域を理解し、看護職としての職業観を培うと共に、多職種と連携・協働できる力を育成する。

新たに配置した科目は、「専門職意識の育成」領域に[口腔・嚥下機能と健康][チーム医療論][リスクマネジメント][看護・栄養研究の基礎][看護・栄養研究の共有]の5科目である。[リスクマネジメント][看護・栄養研究の基礎][看護・栄養研究の共有]の3科目は、『看護の統合』領域に配置していた科目であるが、看護学と栄養学を学ぶ学生が連携して学修できるようにした。他の領域の科目に変更は無い。

### (2) 科目名の変更

『共通教養』と『連携』の区分と科目を変更し、看護学と栄養学に関わる科目を充実させたことから、以下を変更した。

変更前	変更後
精神健康看護論(1単位15時間)	精神看護学概論(1単位15時間)

看護研究の基礎（2単位 30時間）	看護・栄養研究の基礎（2単位 30時間）
看護研究Ⅱ（2単位 60時間）	看護研究Ⅱ（1単位 30時間）
	看護・栄養研究の共有（1単位 30時間）

(3) 開講時期の変更

『共通教養』と『連携』の区分と科目の変更に伴い、各学年の開講時期のバランスと学修の進捗を勘案し、以下を変更した。

変更前		変更後
住居論	1年・春学期	1年・秋学期
ボランティア活動論	1年・秋学期	1年・春学期
カウンセリング	2年・秋学期	3年・春学期
発達健康看護論Ⅳ（母性）	2年・秋学期	2年・春学期
母性臨床看護論	3年・春学期	2年・秋学期
在宅ケアマネジメント	3年・春学期	2年・秋学期

(4) 履修方法の変更

卒業に必要な単位は看護師課程（別表1）の124単位で変更はない。保健師国家試験受験資格を取得する場合に必要な最低取得単位数（別表2）は144単位で、6単位増とした。

引き続き、保健師課程に該当する選択科目は保健師国家試験受験資格取得者に限定し、公衆衛生看護学としての専門性が追求できるように配慮した。

変更前				変更後			
分野	卒業要件			分野	卒業要件		
	必修	選択	計		必修	選択	計
教養と基礎	16	17	51	共通教養	7	15	54
				連携	12		
看護専門基礎	18			看護専門基礎	18	2	
基礎看護	13		73	基礎看護	13		70
臨床看護	44			臨床看護	44		
公衆衛生看護	2			公衆衛生看護	2		
看護の統合	10	4		看護の統合	7	4	
合計	103	21	124		103	21	124

表1. 平成28年度教育課程（平成28～29年度入学生に対応）

区分	分野	領域	授業科目	必修 選択 自由	単 位	時 間 数	区分		授業科目	必修 選択	単 位	時 間 数
							分野	領域				
教養と基礎	外国語	英語Ⅰ	必修	1	30	基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	必修	2	30	
		英語Ⅱ	必修	1	30			コミュニケーション論	必修	1	30	
		英語Ⅲ	選択	1	30			ヘルスアセスメント	必修	1	30	
		英会話Ⅰ	必修	1	30			看護過程論	必修	1	30	
		英会話Ⅱ	必修	1	30			生活援助方法論Ⅰ	必修	1	30	
		韓国語	選択	1	30			生活援助方法論Ⅱ	必修	2	60	
	自然と情報科学	生物学	選択	2	30			診療援助方法論	必修	2	60	
		化学	選択	2	30			基礎看護学実習Ⅰ（家庭）	必修	1	45	
		自然科学の基礎	選択	2	30			基礎看護学実習Ⅱ（病院）	必修	2	90	
		情報リテラシー	必修	1	30			発達健康看護論Ⅰ（成人）	必修	2	30	
		情報処理の基礎	選択	1	30			成人臨床看護論Ⅰ（慢性・終末期）	必修	2	60	
		統計学	必修	1	30			成人臨床看護論Ⅱ（急性・回復期）	必修	2	60	
	社会と生活	現代日本語	選択	2	30			成人看護学実習	必修	5	225	
		社会学	選択	2	30			発達健康看護論Ⅱ（老年）	必修	1	15	
		文化人類学	選択	2	30			老年臨床看護論	必修	2	60	
		日本国憲法	選択	2	30	老年地域看護論	必修	1	30			
		社会福祉論	選択	2	30	老年看護学実習	必修	5	225			
		倫理学	選択	2	30	発達健康看護論Ⅲ（小児）	必修	1	15			
		心理学	必修	1	30	小児臨床看護論	必修	2	60			
		住居論	選択	2	30	小児臨床看護技術論	必修	1	30			
		女性論	選択	2	30	小児看護学実習	必修	2	90			
		健康と運動Ⅰ	選択	1	30	発達健康看護論Ⅳ（母性）	必修	1	15			
	地域と共生	健康と運動Ⅱ	選択	1	30	母性臨床看護論	必修	2	60			
		しまね地域共生学入門	必修	2	30	母性臨床看護技術論	必修	1	30			
		地域課題総合理解	選択	1	15	母性看護学実習	必修	2	90			
		ボランティア活動論	選択	1	30	精神健康看護論	必修	1	15			
		高根の地域医療	必修	1	30	精神臨床看護論	必修	2	60			
	異文化理解	国際保健と国際協力	選択	1	15	精神地域看護論	必修	1	30			
		異文化研修Ⅰ（韓国）	選択	1	30	精神看護学実習	必修	2	90			
	専門職意識の育成	異文化研修Ⅱ（米国）	選択	2	60	在宅看護概論	必修	1	15			
		カウンセリング	選択	1	30	在宅ケアマネジメント	必修	1	15			
		発達心理学	選択	2	30	在宅看護技術論	必修	2	60			
		保健医療福祉制度	必修	2	30	在宅看護論実習	必修	2	90			
		キャリアセミナーⅠA	必修	1	15	公衆衛生看護学概論	必修	2	30			
		キャリアセミナーⅠB	必修	1	15	公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族）	選択	2	30			
		キャリアセミナーⅡA	必修	1	15	公衆衛生看護方法論Ⅱ（集団）	選択	2	30			
		キャリアセミナーⅡB	必修	1	15	公衆衛生看護方法論Ⅲ（組織・地域）	選択	2	30			
		キャリアセミナーⅢA	自由	1	15	公衆衛生看護活動論	選択	2	30			
		キャリアセミナーⅢB	自由	1	15	産業保健論	選択	2	30			
	看護専門基礎	人間の理解	キャリアセミナーⅣA	自由	1	15	学校保健論	選択	2	30		
			キャリアセミナーⅣB	自由	1	15	公衆衛生看護技術演習	選択	1	30		
			人体構造学	必修	2	60	保健医療福祉行政論	選択	2	30		
			人体機能学	必修	2	60	公衆衛生看護管理論	選択	2	30		
		健康と疾病の理解	生命・医療倫理	必修	1	30	コミュニティ実習	選択	2	90		
			生化学	必修	1	30	公衆衛生看護学実習	選択	3	135		
微生物・免疫学			必修	1	30	看護管理論	必修	1	30			
病理学			必修	1	30	看護倫理	必修	1	15			
臨床栄養学			必修	1	30	リスクマネジメント	選択	1	30			
臨床薬理学			必修	1	30	災害看護	必修	1	30			
病態治療学Ⅰ			必修	2	60	発達障がいと看護	選択	1	30			
病態治療学Ⅱ			必修	2	60	がん看護	選択	1	15			
病態治療学Ⅲ			必修	1	30	家族看護	選択	1	15			
病態治療学Ⅳ			必修	1	30	救急看護	選択	1	15			
臨床心理学			選択	2	30	看護総合演習Ⅰ	選択	1	30			
公衆衛生学	必修	2	30	看護総合演習Ⅱ	選択	1	30					
疫学	選択	2	30	看護総合実習	必修	2	90					
保健統計学	選択	2	30	看護研究の基礎	必修	2	30					
								看護研究Ⅰ	必修	1	30	
								看護研究Ⅱ	必修	2	60	

表 2. 平成 30 年度教育課程 (平成 30~31 年度入学生に対応)

区分	分野	領域	授業科目	必修 選択 自由	単位	時間 数	区分		授業科目	必修 選択 自由	単位	時間 数	
							分野	領域					
共通教養	外国語	英語 I	必修	1	30	基礎看護	基礎看護学	看護学概論	必修	2	30		
		英語 II	必修	1	30			コミュニケーション論	必修	1	30		
		英語 III	選択	1	30			ヘルスアセスメント	必修	1	30		
		英会話 I	必修	1	30			看護過程論	必修	1	30		
		英会話 II	必修	1	30			生活援助方法論 I	必修	1	30		
		韓国語	選択	1	30			生活援助方法論 II	必修	2	60		
	自然と情報科学	生物学	選択	2	30		診療援助方法論	必修	2	60			
		化学	選択	2	30		基礎看護学実習 I (家庭)	必修	1	45			
		自然科学の基礎	選択	2	30		基礎看護学実習 II (病院)	必修	2	90			
		情報リテラシー	必修	1	30		看護学 成人	発達健康看護論 I (成人)	必修	2	30		
		情報処理の基礎	選択	1	30			成人臨床看護論 I (慢性・終末期)	必修	2	60		
		統計学	必修	1	30			成人臨床看護論 II (急性・回復期)	必修	2	60		
		現代日本語	選択	2	30	成人看護学実習		必修	5	225			
		社会と生活	社会学	選択	2	30	看護学 老年	発達健康看護論 II (老年)	必修	1	15		
	文化人類学		選択	2	30	老年臨床看護論		必修	2	60			
	日本国憲法		選択	2	30	老年地域看護論	必修	1	30				
	社会福祉論		選択	2	30	老年看護学実習	必修	5	225				
	倫理学		選択	2	30	看護学 小児	発達健康看護論 III (小児)	必修	1	15			
	心理学		必修	1	30		小児臨床看護論	必修	2	60			
	住居論		選択	2	30	小児臨床看護技術論	必修	1	30				
	女性論		選択	2	30	小児看護学実習	必修	2	90				
	地域と共生	健康と運動 I	選択	1	30	看護学 母性	発達健康看護論 IV (母性)	必修	1	15			
		健康と運動 II	選択	1	30		母性臨床看護論	必修	2	60			
		しまね地域共生学入門	必修	2	30	母性臨床看護技術論	必修	1	30				
地域課題総合理解		選択	1	15	母性看護学実習	必修	2	90					
ボランティア活動論		選択	1	30	看護学 精神	精神看護学概論	必修	1	15				
島根の地域医療		必修	1	30		精神臨床看護論	必修	2	60				
国際保健と国際協力		選択	1	15	精神地域看護論	必修	1	30					
異文化理解		異文化研修 I (韓国)	選択	1	30	精神看護学実習	必修	2	90				
		異文化研修 II (米国)	選択	2	60	看護学 在宅	在宅看護概論	必修	1	15			
口腔・嚥下機能と健康		選択	2	30	在宅ケアマネジメント		必修	1	15				
チーム医療論	選択	1	30	在宅看護技術論	必修		2	60					
リスクマネジメント	選択	1	30	在宅看護論実習	必修		2	90					
連携	専門職意識の育成	カウンセリング	選択	1	30	公衆衛生看護	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	必修	2	30		
		発達心理学	選択	2	30			公衆衛生看護方法論 I (個人・家族)	選択	2	30		
		保健医療福祉制度	必修	2	30			公衆衛生看護方法論 II (集団)	選択	2	30		
		看護・栄養研究の基礎	必修	2	30			公衆衛生看護方法論 III (組織・地域)	選択	2	30		
		看護・栄養研究成果の共有	必修	1	30			公衆衛生看護活動論	選択	2	30		
		キャリアセミナー I A	必修	1	15			産業保健論	選択	2	30		
		キャリアセミナー I B	必修	1	15			学校保健論	選択	2	30		
		キャリアセミナー II A	必修	1	15			公衆衛生看護技術演習	選択	1	30		
		キャリアセミナー II B	必修	1	15			保健医療福祉行政論	選択	2	30		
		キャリアセミナー III A	自由	1	15			公衆衛生看護管理論	選択	2	30		
		キャリアセミナー III B	自由	1	15			コミュニティ実習	選択	2	90		
		キャリアセミナー IV A	自由	1	15			公衆衛生看護学実習	選択	3	135		
		キャリアセミナー IV B	自由	1	15			看護の統合	統合看護	看護管理論	必修	1	30
		看護学実習	必修	1	30					看護倫理	必修	1	15
看護学実習	必修	1	30	災害看護	必修	1	30						
看護学実習	必修	1	30	発達障がいと看護	選択	1	30						
看護学実習	必修	1	30	がん看護	選択	1	15						
看護学実習	必修	1	30	家族看護	選択	1	15						
看護学実習	必修	1	30	救急看護	選択	1	15						
看護学実習	必修	1	30	看護総合演習 I	必修	1	30						
看護学実習	必修	1	30	看護総合演習 II	必修	1	30						
看護学実習	必修	2	90	看護総合実習	必修	2	90						
看護学実習	必修	1	30	看護研究 I	必修	1	30						
看護学実習	必修	1	30	看護研究 II	必修	1	30						
看護専門基礎	人間の理解	人体構造学	必修	2	60	看護の統合	統合看護	看護管理論	必修	1	30		
		人体機能学	必修	2	60			看護倫理	必修	1	15		
		生命・医療倫理	必修	1	30			災害看護	必修	1	30		
		生化学	必修	1	30			発達障がいと看護	選択	1	30		
	健康と疾病の理解	微生物・免疫学	必修	1	30			がん看護	選択	1	15		
		病理学	必修	1	30			家族看護	選択	1	15		
		臨床栄養学	必修	1	30			救急看護	選択	1	15		
		臨床薬理学	必修	1	30			看護総合演習 I	必修	1	30		
病態治療学 I	必修	2	60	看護総合演習 II	必修	1	30						
病態治療学 II	必修	2	60	看護総合実習	必修	2	90						
病態治療学 III	必修	1	30	看護研究 I	必修	1	30						
病態治療学 IV	必修	1	30	看護研究 II	必修	1	30						
臨床心理学	選択	2	30										
公衆衛生学	必修	2	30										
疫学	選択	2	30										
保健統計学	選択	2	30										

## 2) 教育・カリキュラムに関する取り組み

中期目標、中期計画に基づき、年度計画を立案し、教育の充実にむけて取り組んだ。

看護学科における年度計画と各ワーキンググループの担当教員を表のように配置し、活動を展開した。

表 3. 令和1年度 看護学科活動計画ならびに役割分担

事項	ワーキンググループ・計画	メンバー
[中期計画 No. 7]	<b>【看護学科カリキュラム検討ワーキング】</b> ・指定規則改正に伴うカリキュラム編成を検討し、教務委員会に提出する。	○阿川啓子，大森眞澄， 梶谷みゆき，岡安誠子， 森山美香，井上千晶， 高橋恵美子，小田美紀子
[中期計画 No. 7] 3つの能力のうち、特に看護実践力（コミュニケーション能力含む）を身につけるための体験型学習を推進する。	<b>【看護実践能力強化ワーキング】</b> ・シミュレーショントレーニングプログラムを実施・評価する。 ・シミュレーショントレーニングプログラムの評価を踏まえ、より有効な方法に改善し定着させる。	○渡邊克俊，阿川啓子， 日野雅洋，中谷陽子， 松本祐香，（小田香澄）
	<b>【臨地実習ワーキング】</b> ・実習要項の作成をする。 ・実習連絡会議の企画・運営をする。 ・学生の技術到達状況を分析し、評価する。 ・その他臨地実習に関して検討すべき事案が生じた場合、課題を整理し必要時対応する。 ・実習施設への移動手手段支援に関して検討する。	○藤田小矢香，平井由佳 森山美香，林健司 小川智子，梶谷麻由子 吉松恵子
	<b>【国家試験対策ワーキング】</b> ・看護師および保健師国家試験合格率 100% 実現に向けて、対策を検討し実施する。 ・1～4年次生に対する、国家試験対策を計画的に行う。	○岡安誠子，松本亥智江， 平野文子，落合のり子， 祝原あゆみ，（伊藤奈美） [連携：4年チューター]
[第3期中期計画 No. 7] 看護を実践する能力、相手を理解し協働する能力、地域の特性と健康課題を探究する能力の3つの能力を柱とし「自ら考え行動できる視野の広い専門職業人」を養成する。	<b>【看護学科カリキュラム評価ワーキング】</b> ・看護学科のカリキュラム全体を評価し、教育目標の到達度と課題を明確にする。 ・学生の看護実践能力を高める教育(体験型教育を中心に)の目標到達度と課題を明確にする。 ・過去のカリキュラム評価や当該年度の評価を踏まえて、カリキュラム改善に向けた提案をする。	○川瀬淑子，伊藤智子， 加納尚之，佐藤公子， 松谷ひろみ， 加藤さゆり
	<b>【学科運営ワーキング】</b> ・看護学科会議の運営に関すること ・看護学科ホームページの充実にに関すること ・看護学科学習会に関すること	○大森眞澄，小田美紀子， 井上千晶，金山俊介 （梶谷みゆき）



<p>〔中期計画 No. 7〕 看護教育及び看護実践の質の向上を図るため、実習施設・機関と連携し、研修会や事例検討、共同研究を実施する。</p>	<p>【看護連携型ユニフィケーション事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設・機関との連携強化を図り、基礎教育や実習指導のあり方について検討する。</li> <li>・看護教育および看護実践の充実を図るため、県立病院と大学において、教育や臨床の場での相互交流を促進する。</li> </ul>	<p>○平野文子，大森眞澄 松本亥智江， 高橋恵美子，林健司</p>
--	--	--

## 【看護学科カリキュラム検討ワーキング】

### 1. 活動計画

指定規則改正に伴うカリキュラム編成を検討し、教務委員会に提出する。

- 1) 指定規則の改正(秋頃)を受けて、2022年(令和4年)のカリキュラム変更を目指し、2021年(令和3年)4月に県総務部を経て5月または6月を目途に文科省に申請する。
- 2) 令和2年度3月末日までに、改正案を作成する。

### 2. 活動内容

- 1) モデル・コア・カリキュラムと各科目の網羅状況の確認をした。
- 2) 平成30年度カリキュラム評価を受けて、改正カリキュラムの骨格の意見交換をした。
- 3) 臨地実習の課題と実習フィールドの検討を行った。
- 4) 令和4年(2022年)度のカリキュラム改正に向けて、新見公立大学健康科学部看護学科長 上山和子氏を招き「看護師の基礎能力強化のためのカリキュラムー看護学教育モデル・コア・カリキュラムを導入してー」と題した研修会を開催した(運営ワーキングと連携)。
- 5) コア・カリ対比表の検討を行った。
- 6) 指定規則との対比を行った。
- 7) 地域包括ケアの修得に関するカリキュラム案の検討を行った。
- 8) 積み上げ式履修課程の検討を行った。
- 9) 連携科目の検討を行った。
- 10) キャリア形成の仕組みの検討を行った。
- 11) カリキュラム改正案を令和2年3月の看護学科会議へ提出(中間報告)した。

### 3. 課題

本学では、平成30年度カリキュラムにおいて、既に「島根の地域医療」、「チーム医療論」、「基礎看護実習Ⅰ(家庭)」、「老年地域看護論」、「精神地域看護論」、「在宅ケアマネジメント」などの科目が開講されており、今回の改正の趣旨を概ね捉えていたとWGでは判断した。よって令和4年のカリキュラム改正において、基本的に平成30年度カリキュラムを踏襲する方向で検討していく。新たに追加された5単位を、地域包括ケアの実践者となる看護職の基礎教育として必要な科目立て(現行科目の統合を含む)と現行の科目における教育内容の点検・精選、さらに科目間の連携や有機的な積み上げ等について検討していく。

## 【看護実践能力強化ワーキング】

### 1. 活動計画

- 1) 急変時シナリオシミュレーショントレーニングプログラムを展開する
- 2) 就職前急変時シナリオシミュレーショントレーニングプログラムを展開する
- 3) 教え隊をシミュレーショントレーニングに活用する

### 2. 活動結果

- 1) 急変シナリオシミュレーショントレーニングプログラムの実施  
対象者：3年次生50名(当日欠席1名) 参加率57.5%

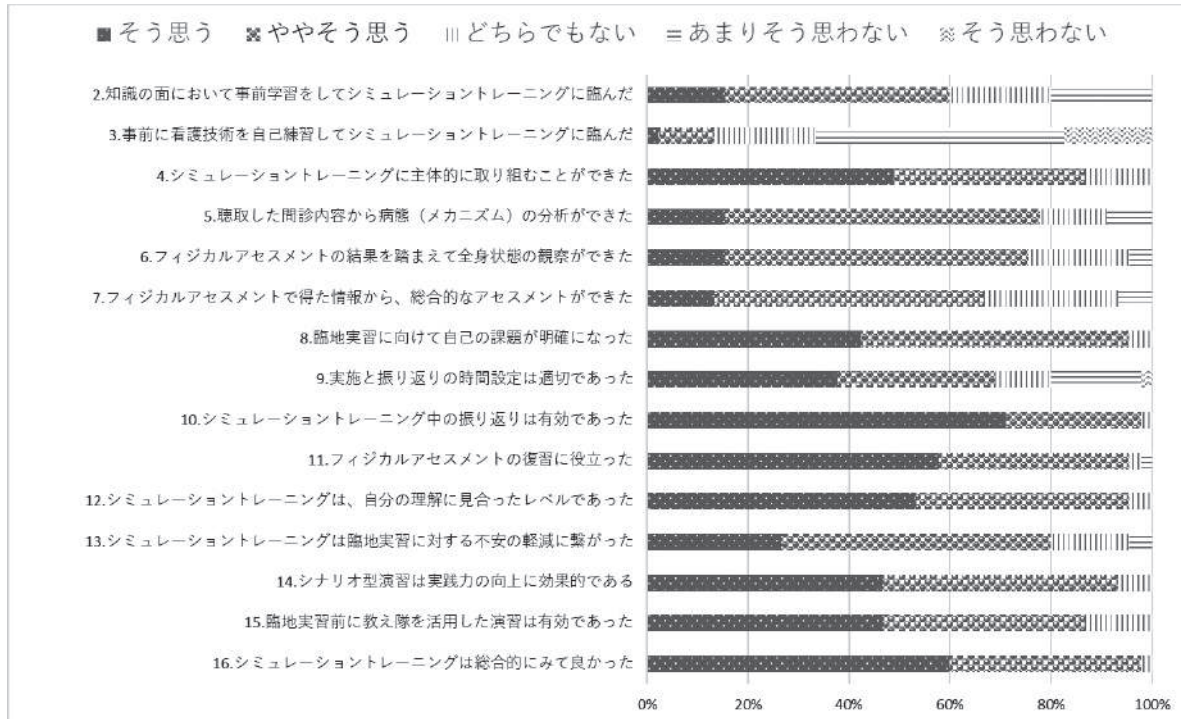


時期： 7/3（水）7名，7/10（水）33名，7/17（水）10名

実施内容：ベッドからの転倒による頭部打撲

- ①患者確認，バイタルサイン測定，②フィジカルアセスメント，③ナースコールで  
応援要請，④SBARで報告

図1. 評価アンケート結果



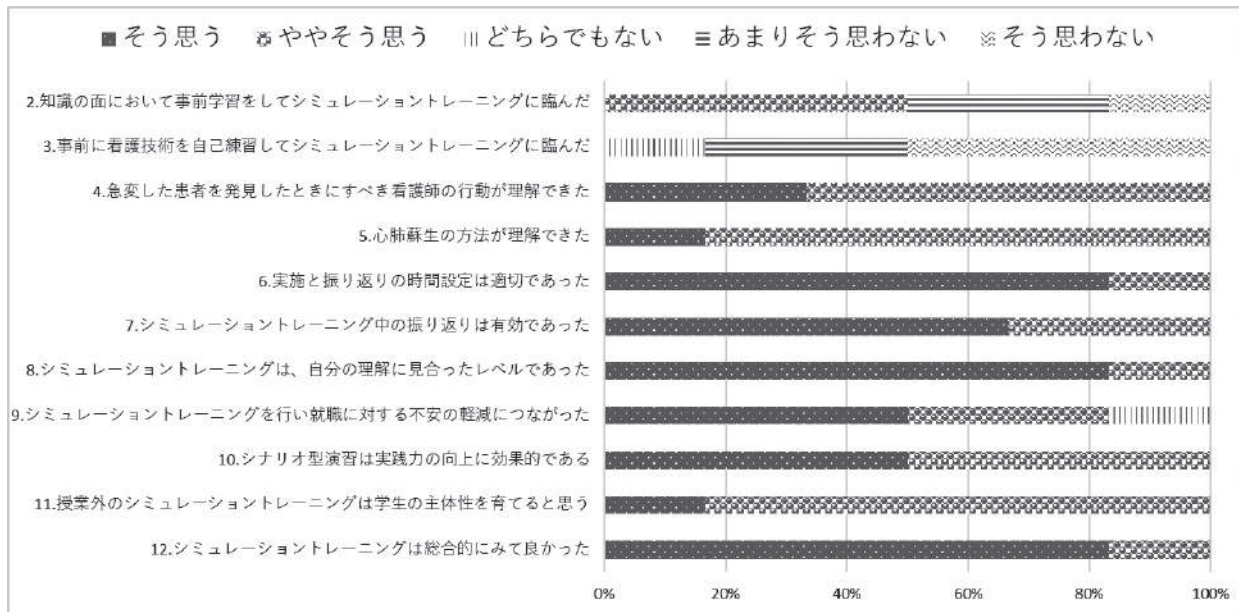
## 2) 就職前急変時シナリオシミュレーショントレーニングプログラム

対象者：4年次生6名 参加率：7.7%，時期：2/19

実施内容：病室内で心肺停止となった症例

- ① シミュレータを使用した急変シナリオシミュレーショントレーニングを実施した。
- ② 1つのグループで演習と振り返りを行ないつつ，学生が体験できるように実施した。
- ③ 学生には，急変時対応のイメージ化，病院での急変時に1年目看護師が取るべき行動の理解，正しいBLSの手技と根拠を理解し，実践できるレベルを求めた。

図2. 評価アンケート結果



### 3) 教え隊の活用の促進

- ・3年生へのシミュレーショントレーニングに、4年生を教え隊として、模擬患者役、アドバイザーとしてプログラムに活用した。
- ・上級生を模擬患者として活用したことは、下級生にとって程良い緊張感があり本番に近い体験となったこと、臨地実習を経験した先輩からのアドバイスが加わり、下級生にとって良い刺激となり、効果的にプログラムが展開できた。

## 3. 課題

### 1) 3年生実習前トレーニングプログラムの検討

参加者が50名（昨年度23名）で、昨年の3年生実習前トレーニングの2倍以上の参加者があった。トレーニング実施日を領域別の実習オリエンテーション日に合わせて設定した効果があったと考える。急変シナリオには様々な場面設定があるが、実践に近いトレーニングプログラムについて検討する必要がある。

### 2) 1・2年生のトレーニングプログラムの検討

### 3) 4年生に行った急変時シナリオシミュレーショントレーニングアンケート結果を来年度のプログラムに反映させていく。

### 4) 引き続き、教え隊の活用を促進していく。

## 【臨地実習に関すること（臨地実習ワーキング）】

### 1. 活動計画

- 1) 次年度実習要項を作成する。
- 2) 実習連絡会議の企画・運営をする。
- 3) 学生の技術到達状況を分析し、評価する。
- 4) その他臨地実習に関して検討すべき事案が生じた場合、課題を整理し、必要時対応を検討する。

### 2. 活動結果

#### 1) 実習要項の作成

- ①次年度は特例的に祝祭日が変更となるため、水曜日を実習日とし実習時間を確保した。

②内容の大きな変更は無いが、領域の実習概要および実習施設の利用方法等について確認をして内容を更新した。

2) 令和元年度 臨床看護実習連絡会議の企画運営

令和元年 6 月 20 日 (木) に下記の内容で実施した。参加は実習指導者 8 名, 教員 29 名であった。

<参加施設>

島根県立大学看護栄養学部, 島根県立中央病院, 島根県立こころの医療センター, 島根大学医学部附属病院, 松江赤十字病院, 玉造病院, 松江医療センター

<会議内容>

①平成 30 年度 臨床実習について

授業 (臨地実習) アンケートの結果報告, 看護基本技術到達状況報告, アクシデント・インシデント報告

②令和元年度 臨地実習の計画について

臨地実習の概要及び実習要項の説明

③講演および意見交換

目的: 看護学教育モデル・コア・カリキュラムの策定に伴う臨地実習への影響

講演: 「今求められる看護基礎教育における臨地実習とは」

島根県立大学看護栄養学部 学部長 梶谷みゆき 氏

3) 卒業時 基本技術到達状況の分析・評価

- ・ 1-① (単独で実施できる), 1-②看護師・教員の指導のもとで実施できる), 1-③ (実習で体験することが望ましい) の経験率・達成率は 2 年次と比べてもすべての項目において向上しており, 3 年次臨地実習, 4 年次在宅看護論実習, 看護総合実習での技術経験・見学の機会をうまく捉えて, 技術の到達につなげていたと考えられる。
- ・ 現 4 年次生と第 3 期生との比較では, 経験率・達成率において 10%以上増減のある項目がいくつかみられたが, 受け持ち患者の傾向も影響していると考えられる。
- ・ 未達成率が 25%以上の項目が, 1-①では 19 項目, 1-②では 31 項目あった。観察に関する未達成率項目については, 学生の看護の視点が不足していることによるものと考えられる。項目内容を意識して取り組みれば達成可能な項目もあることから, 実習オリエンテーションや実習の場において学生に意識づけをしながら, 技術の到達につなげていきたい。
- ・ 各看護基本技術の年次比較から, 第 1 期生, 第 3 期生, 現 4 年次生 (第 4 期生) と経験率はほぼ横ばいであるが, 達成率はやや低めの傾向がみられた。経験を目標達成につなぐことができるよう, 学生支援が必要である。また, 第 2 期生が突出して経験率・達成率が高かった。このことから, 第 2 期生の特性が影響していると考えられた。

4) 3 年次生実習オリエンテーションの実施

令和元年 7 月 10 日 (水) 15:00-17:00 大講義室

- ① 臨地実習に向けて (大森看護学科長)
- ② 実習要項の説明
- ③ 看護基本技術自己評価表について
- ④ 先輩からのアドバイス
- ⑤ 各科目担当からの説明 (成人・老年・母性・小児・精神)

5) 臨地実習に関する調整

実習先での学生の態度やマナーについてその都度注意喚起を行った。

### 3. 課題

- ・ 県立中央病院では, 病棟再編成により, 対象患者の選定が困難な状況があり, 実習目標の達成に苦慮している。また, 卒業時 基本技術到達状況も今後は大きく変わっていくことが考え

- られ、実習要項にある実施機会の水準も見直しについて引き続き検討が必要である。
- ・感染予防については、注意喚起を徹底する必要がある。
  - ・実習施設における学生のマナーについて折に触れ指導を行う必要がある。
  - ・ヒヤリハット用紙について、学生が報告しやすい様式を今後検討する。

## 【国家試験に関すること（国家試験対策ワーキング）】

### 1. 活動計画

- 1) 模擬試験の実施、結果の教員配布（自主模擬試験の実施・集金）
- 2) 国家試験関連情報の提供
- 3) 試験当日の宿泊・交通の役割分担
- 4) 国家試験対策学生・教員、教務による検討会議
- 5) 要請があれば意見交換会
- 6) 学生ラウンジ国家試験対策コーナーの管理

### 2. 活動結果

#### 1) 模擬試験の実施

##### (1) 看護師国家試験

4年生：東アカ模試3回（5/17, 10/28, 12/2）、自主模試2回（9/5, 1/15）

東アカ（必修問題）自主模試1回（6/19）

※自主模試（9/5）11名申込無

※東アカ（必修問題）自主模試2名申込無

3年生：メディックメディア模試2回実施（7/6, 3月末～4月上旬）

2年生：メディックメディア模試1回（3月末～4月上旬）

\*2年生・3年生の3月の模擬試験は、新型コロナウイルス肺炎への対応により実施時期を変更し、自宅受験対応とすることとなった。

##### (2) 保健師国家試験

学内模試1回（5/22）、インターメディカル模試3回（7/10, 11/15, 1/10）

\*看護師国家試験模試および保健師国家試験模試の結果は教務学生課にて学生へ返却した。

\*教員へは国家試験対策WGで配布した。

#### 2) 国家試験対策セミナーの実施（4年生）

##### (1) 看護師国家試験対策セミナー

東京アカデミー広島校の専任講師を招き、2回セミナーを実施した。

第1回（9/24-27）4日間 79名 ※7名申込無

第2回（12/18-20）3日間 56名 ※20名申込無

\*講師の都合により、今年度は下位者に対するセミナーはなかった。

##### (2) 保健師国家試験対策セミナー

第1回（10/1）・・・学内セミナー（模試の解説、模試の自己分析など）

#### 3) 国試学習支援（4年生）

・適宜メールを活用して、国試への心構えや模試までの対策等について通知した。

#### 4) 国家試験の傾向と合否予測

・109回看護師国家試験：これまでの過去問題とは出題の仕方が異なるなど、戸惑った学生があったとの報告もあった。しかし、東アカの約4万人のデータから見ると、得点率は全国で必修90%、一般+状況設定73.3%、本学では必修91.6%、一般+状況設定75.8%と全体的に高い得点率であった。

・106回保健師国家試験：信頼性の高かった業者からの解答速報がなくなったため、採点結果にやや不安定さはあるものの、全体的に本学の学生の得点率は70%を超えており、保健師



国家試験でも高い得点率が見込まれる。

- ・例年、看護師国家試験の翌日に学生を集め、東アカに送るマークシートを記入させていたが、今年度からWEB入力により集合は行わなかった。保健師については、終了後に解答番号を記入させ、国家試験会場からの帰着時に帳票を受け取り、教員が採点を行った。
- ・看護師国家試験についてはWEB採点の結果を受け、心配な人はチューターに報告するよう学生に指導した。

#### 5) 国家試験オリエンテーションの実施

##### (1) 2年生対象

日時：令和2年3月17日（火）

内容：国家試験に向けた年間スケジュールについて

\*上記日程および内容で予定していたが、新型コロナウイルス肺炎に関する対応のため3月は中止となった。

##### (2) 3年生対象

###### ・第1回

日時：令和元年8月9日（金）

内容：第1回看護師模擬試験の結果返却、看護師国家試験合格基準、近年の合格率の推移、夏休みの過ごし方、過去問の勉強方法

###### ・第2回

日時：令和元年10月17日（木）

内容：先輩からの助言（4年生より）

###### ・保健師国家試験に向けて

日時：令和元年8月9日（金）

内容：104回保健師国家試験の分析と今後の対策、問題集紹介、国家試験出題基準

##### (3) 4年生対象

第1回 4/22(保健師)	105回 保健師国家試験分析 国家試験模試日程 問題集紹介と購入取りまとめ（5月～6月）
第2回 7/10 (全体)	模擬試験結果の活用方法・夏期休業中の学習について 願書申請に必要な戸籍抄本の取り寄せについて
第3回 11/20 (全体)	国試に向けて学習指導 提出書類 前日・当日のスケジュール 受験票の記入等
第4回 1/31 (全体)	国試に向けて最終指導 受験票配布 国家試験受験の旅程 国家試験自己採点について：WEB入力の説明 最終模試の返却
*卒業式リハ 3/11	*免許申請の手続き (1/31までに書類が届かなかったため)

### 3. 評価及び課題

第109回看護師国家試験合格率は新卒受験者76名のうち73名合格（合格率96.1%）既卒受験者数3名のうち3名（合格率100%）、第106回保健師国家試験新卒受験者25名のうち24名合格（合格率96.0%）、既卒者1名のうち1名合格（合格率100%）だった。

例年、春期の国家試験対策セミナーの参加率が低いことが課題であったため、今年度は春季セミナーを無くし、夏季セミナーを4日間に延長した。しかし、参加率は高いとはいえ、冬季に至っては60人を切る状況があり、途中から無断で欠席する学生もみられた。セミナーに限らず、低成績の学生ほど国家試験対策支援を活用しない状況があった。学生の国家試験委員の自覚やクラス全体の雰囲気をも高めるためにも、委員を中心としながらも多くの学生が模擬試験の運営に関わる仕組みづくりを構築していく必要がある。教員ができるだけ主導的にならず、年間スケジュールと模擬試験とセミナーの経費を学生に示し、学生が主体的に支援を利用できるように、学生自らが学習の年間計画を作成して申し込むシステムに切り替える。

この年間の学習計画については、4月中にチューターにも提出し、必要な指導を受けることとする。今年度は、資格申請の書類が1月末のオリエンテーションまでに届かない状況があった。開催時期の2月中旬への検討を行う。また、初めてのWEBによる自己採点で、上手くQRコードから登録できなかった学生もあったため、最終のオリエンテーション時に、次年度は更に詳細な説明を行うようにする。

## 【カリキュラムの評価に関すること（看護学科カリキュラム評価ワーキング）】

### 1. 活動計画

1. 学生を対象にカリキュラムに関する質問紙調査を実施し、経年的に比較する。
2. 今までの経年的に蓄積してきたカリキュラム評価に基づきカリキュラム改正にむけての提案を行う。
3. 「看護学部 of 育成する人材像を目指した到達目標」を用いて在校生を対象に目標達成状況、活用状況の調査を行い、データを蓄積する。
4. 学生の看護実践能力を高める教育（体験型教育を中心に）の目標到達度について蓄積したデータをまとめ、課題を明らかにする。
5. 看護学部 of 育成する人材像を目指した到達目標」の活用を高めるために学生への周知をはかる。

### 2. 令和元年度看護学科カリキュラム評価

#### 1). 方法

##### (1) 調査対象・回収率

看護学科の学生 1年次 83 (83) 名, 2年次 78 (78) 名, 3年次 88 (80) 名, 4年次 80 (80) 名が調査対象。※ ( ) 内は配付数。回収数は, 1年次 81 名 (回収率 97.6%), 2年次 68 名 (回収率 87.8%), 3年次 80 名 (回収率 92%), 4年次 64 名 (回収率 80.0%)。

##### (2) 調査実施: 2019年12月~2020年1月

##### (3) 調査方法: 自記式質問紙調査。教室で配布・回収を行った。

##### (4) 調査内容

###### ① 調査対象概要

② カリキュラム評価: 教育目標の達成状況からの評価 (カリキュラムポリシーと育成する人材像から), カリキュラム編成・工夫点からの評価, カリキュラムの運用と学習支援の視点からの評価, 学習環境の視点からの評価

###### ③ 自由記述

##### (5) 分析方法

カリキュラム評価の各項目について、「当てはまる:5」~「当てはまらない:1」の5段階評価を用いて平均値と標準偏差を算出した。自由記述は学年ごとにまとめた。

#### 2). 結果

##### (1) 令和元年度学年別調査結果



表4. 調査対象者の概要

学年		1年	2年	3年	4年
n		81	68	80	64
性別	男性	8	7	7	0
	女性	73	61	72	64
	無回答	0	0	1	0
試験区分	一般入試	40	33	41	28
	推薦入試	41	31	37	34
	社会人・学士	0	2	1	1
	編入学	0	2	0	1
	無回答	0	0	1	0
希望職種 (複数回答あり)	看護師	55	44	48	50
	保健師	11	14	11	5
	助産師	14	7	10	5
	養護教諭	3	2	4	0
	教育・研究	1	0	0	0
	その他	0	0	2	0
保健師選択	無回答	1	2	7	4
	保健師履修あり	42	21	25	22
	保健師履修なし	39	47	51	41
	無回答	2	2	4	1
養護教諭選択	養護教諭Ⅱ履修あり	21	12	16	10
	養護教諭Ⅱ履修なし	59	55	59	53
	無回答	1	1	5	1

表5. カリキュラム評価 大項目平均点・標準偏差 年次推移

学年	大項目	1教育目標達成		2カリキュラムの 編成・工夫		3カリキュラムの 運用・学習支援		4学習環境	
		R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30
1年	平均値	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8
	標準偏差	0.9	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	0.9	1.0
2年	平均値	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0
	標準偏差	0.7	0.7	0.8	0.9	0.8	0.8	0.9	0.8
3年	平均値	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0
	標準偏差	0.9	0.8	0.8	0.8	0.9	0.8	1.0	0.8
4年	平均値	4.2	4.2	3.9	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1
	標準偏差	0.6	0.7	0.8	0.7	0.8	0.7	0.8	0.8

## ①教育目標の達成状況について

21項目の質問項目により、教育目標の達成状況について評価を求めた。

平均値が4.0以上の項目数は、1年次生は12項目、2年次生は9項目、3年次生は15項目、4年次生は21項目全てであった。

1年次生～4年次生において、共通して平均点が4.0以上であった項目は、「1. 専門的知識・技術を身につけることができた」「5. 豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する態度を養うことができた」「7. 他者に対する寛容性を持つことができるようになった」「8. 人間を包括的に理解することができるようになった」「9. 人との信頼関係を基盤とした人間関係を形成できるようになった」「13. チームで共同して活動するための個々の役割や責任について理解できた」「14. チームの一員として他職種と協調・協働できる態度を養うことができた」「21. 看護職として自らの行動に責任を持つ態度を養うことができた」の8項目であった。

## ②カリキュラムの編成・工夫について

8項目の質問項目により、カリキュラムの編成・工夫について評価を求めた。

平均値が4.0以上の項目は、1年次生3項目、2年次生1項目、3年次生4項目、4年次生2項目であった。全学年で、「6. 看護専門分野において、基礎分野及び専門基礎分野で学んだことが役に立った」の平均値が4.0以上であった。平均値が3.5未満の項目は2年次生の「5. 学生が自由に選択科目を選択できるように授業科目が配置されていた」であった。

## ③カリキュラムの運用と学習支援について

11項目の質問項目により、カリキュラムの運用と学習支援について評価を求めた。

平均値が 4.0 以上の項目は、1 年次生 6 項目、2 年次生 5 項目、3～4 年次生 8 項目であった。全学年で「2. 履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた」「3. シラバスは学習の見通しを立てる上で役だった」、「6. 演習のある科目では、演習が効果的に行われていた」「8. 実習のガイダンスならびにオリエンテーションは適切だった」の平均値が 4.0 以上であった。

#### ④ 学習環境について

1～2 年次生 10 項目、3～4 年次生 14 項目の質問項目により、学習環境について評価を求めた。

評価点が 4.0 以上の項目は、1 年次生 5 項目、2 年次生 5 項目、3 年次生 6 項目、4 年次生 9 項目であった。複数の学年で平均値が 4.0 以上の項目は「1. ラーニングコモンズや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった」「3. 図書館の成書や雑誌及び文献検索システムなどは充実していた」「4. 教室環境は適切だった」「8. 学生生活における安全対策が充実していた」「9. 教務課は、学生生活を円滑に送るうえで助けとなった」「10. 保健管理のための設備・サービスは充実していた」等であった。

自由記述において、実習室や自習室、パソコン室の使用時間の延長、パソコン室の台数の増加、暖房設備を整えることなどの希望が出された。

### (2) 平成 28 年度入学生の縦断的な調査結果

#### ① 調査対象概要

平成 28 年度入学生

#### ② 教育目標の達成状況について

学年を追うごとに概ね平均値が高くなった。4 年次では 21 項目全てが 4.0 以上となった。

#### ③ カリキュラムの編成・工夫

1・2 年次の平均値が 3.7～3.9 の間であったのに対し、3・4 年次は 3.6～4.3 と全体的に平均値の上昇がみられた。各学年をとおして値が高かったのは、「6. 看護専門分野において、基礎分野及び専門基礎分野で学んだことが役だった」であった。「5. 学生が自由に選択科目を選択できるように授業科目が配置されていた」は 2 年生は 3.5 未満と低かった。

#### ④ カリキュラムの運用と学習支援について

学年を追うごとに概ね平均値が高くなった。全学年を通して高かった項目は「3. シラバスは学習の見通しを立てる上で役だった」であった。

#### ⑤ 学習環境について

学年を追うごとに概ね平均値が高くなった。「7. 教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在であった」「13. 就職や進学に関するサポートは充実していた」は 1 年次生では平均値が 3.5 未満であったが、これらの項目については、4 年次には上昇している。

### 3. 令和元年度学生の看護実践能力を高める教育（体験型教育を中心に）の目標到達度

#### 1) 方法

##### (1) 調査対象・回収率

看護学科の学生 1 年次 83 (83) 名、2 年次 78 (78) 名、3 年次 88 (87) 名、4 年次 80 (77) 名が調査対象。※ ( ) 内は配付数。回収数は、1 年次 81 名 (回収率 98%)、2 年次 68 名 (回収率 87.2%)、3 年次 73 名 (回収率 92%)、4 年次 70 名 (回収率 91%)。

##### (2) 調査実施：2020 年 12 月～1 月

##### (3) 調査方法：自記式質問紙調査。教室で配布・回収を行った。

##### (4) 調査内容

##### ① 各学年の到達度に関する自記式質問紙調査

##### ② 看護学科の育成する人材像を目指した到達目標の活用状況

#### (5) 分析方法

①について、「できる、まあできる。あまりできない、できない」の4段階評価を行い、②については、「した、まあした、あまりしなかった、しなかった」の4段階評価を行い、それぞれ単純集計をした。到達目標の活用に関する自由記述をまとめた。

#### 2) 結果

##### (1) 看護実践能力育成に向けたシミュレーション教育について

回収率は1,3,4年次生は90%以上であったが2年次生は87.2%であった。1年次生はすべての項目で「できる・まあできる」の項目が9割以上であった。目標別では『看護技術力』の「基本的な生活援助技術とヘルスアセスメントを理解し実施できる」で「あまりできない」と回答した者の割合が多かった。2年次生はすべての項目で「できる・まあできる」と回答した者は8割以上であった。目標別では『援助技術力』の「基本的な生活援助技術とヘルスアセスメントを理解し実施できる」で「あまりできない」と回答する者の割合が多かった。3年次生はすべての項目で「できる・まあできる」の項目が8割以上であり、自己評価では概ね目標達成ができていると考えられる。4年次生はすべての項目において「できる・まあできる」と回答した者は7割であった。

##### (2) 公衆衛生看護学実践能力育成に向けた教育について

回収率は2~3年次生は100%、4年次生は88%であった。ほぼ例年と同様の結果で学年が上がるにつれて、「できる・まあできる」の項目が増加傾向にあった。健康介入の理念とも言えるプライマリ・ヘルス・ケア（PHC）とヘルス・プロモーション（HP）は2~3年では健康への社会的政治的介入を取り入れた理論ならびに地域連携の理解やイメージ化が難しいことが示された。しかし、4年になると「あまりできない」が減少することから、PHC、HPの知識と健康教育、環境整備、多職種連携など体験を通じた学びの中で達成感が高まることが示された。

#### 4. 課題

在学生を対象に「看護学科の育成する人材像を目指した到達目標」を用いた調査を行い、データの蓄積を行ってきた。看護実践能力育成に向けたシミュレーション教育については全学年とも7割以上の目標到達度を示していた。公衆衛生看護学実践能力育成に向けた教育も同様に学年が上がるにつれて7~8割以上が「できる・まあできる」と感じるようになっていた。このことを考えると、基礎教育の充実と臨床との密な連携が重要だと考える。過去のデータの蓄積から4年次生は約8割以上の目標到達度を示している。このため、データの蓄積については、調査間隔をあけるなど検討が必要である。

活用状況についての調査結果をもとに効果的な活用について検討した。授業や科目選択等で意識的に活用するといった意見がみられており、到達目標を提示することは学習を促進するうえで効果的であった。一方、2,3年次生は、活用をしなかった・あまりしなかったと回答する者が多く、また存在を知らないという意見もみられた。今年度は秋学期の始めにも全学年に到達目標の説明を行ったが、引き続き各学年の進級オリエンテーション時の「学生生活の心構え（学科長）」だけでなく、適宜説明を行い到達目標について意識化させる必要がある。

#### 【看護学科運営に関すること（学科運営ワーキング）】

##### 1. 活動計画

- 1) 看護学科会議を開催し学科運営を円滑に進める。
- 2) 看護学科ホームページの充実を図る。
- 3) 看護学科教育課程に関する意見集約を行う。

## 2. 活動結果

- 1) 計画の通り看護学科会議を計 6 回開催（1 月の学会会議は休会とせず開催）し、学科教育の充実に関わる活動計画や進捗状況の確認と課題の検討を行った。また、教育課程履修上の課題を有する学生に関する情報を共有した。臨地実習における冬季交通手段や、つわぶき後援会主導の国家試験対策セミナーなどの協議等を行い教育活動の充実に努めた。
- 2) 令和元年度ホームページの刷新に向けて、学科の特徴ある教育内容についてトピックスの更新に努めた。看護学科の TOP ページの左サイドメニュー名や掲載内容について検討中である。3 月下旬に更新内容を掲載した。
- 3) 令和 4 年（2022 年）度のカリキュラム改正に向けて、新見公立大学健康科学部看護学科長上山和子氏を招き「看護師の基礎能力強化のためのカリキュラムー看護学教育モデル・コア・カリキュラムを導入してー」と題した研修会を開催した（カリキュラム検討 WG との共催）。地域包括ケアシステムの推進や地域共生社会における全ての世代を支える看護専門職の育成など、本学のカリキュラム改正の参考になる内容だった。

## 3. 課題

引き続き、学生の学修上の課題を教員間で共有し、学習環境（人的・物理的）の整備に取り組む。ホームページをタイムリーに刷新し、内外に情報発信していく。教員間の意見交換を促進する。

### 【看護連携型ユニフィケーション事業】

#### 1. 活動計画

- 1) 学習会・事例検討会の実施
- 2) 相互交流
  - (1)職員（島根県立大学と島根県病院看護局）の看護研修
  - (2)現職者の看護教育(演習等)への参画
- 3) ユニフィケーション研修会の企画・実施
- 4) 広報活動：リーフレットの改訂、ホームページへの掲載

#### 2. 活動結果

- 1) 学習会・事例検討会は、島根県立中央病院・こころの医療センターとの協働企画とし、病棟単位の月間部署別研修会、および 5 年目以上のスタッフを対象とした研修会の計 15 回（県立中央病院 10 回、県立こころの医療センター 5 回）を計画し、実施と評価を行った。
- 2) 相互交流
  - (1)職員（島根県立大学と島根県病院局）の看護研修では、島根県立大学の看護教員 1 名が県立中央病院で臨地実習指導のための病棟研修を計画・実施した(7階西病棟・手術室・ICU)。
  - (2)看護現職者の看護教育への参画は、4 領域(基礎・成人・小児・母性看護学)5 科目で 7 回演習への参画について計画・実施および評価を行った。
- 3) ユニフィケーション研修会の企画・実施
  - (1)2020 年 2 月 15 日(土)13:30~16:00  
テーマ：「特別な支援や配慮が必要な看護学生および看護師の理解と対応」  
講師：島根大学教育学部 教授 稲垣卓司氏  
場所：島根県立大学出雲キャンパス 中講義室  
参加者：54 名
- 4) 事業内容の周知を図り理解を促すためにリーフレットを改訂し、ホームページでその都度活動状況を掲載した。

### 3. 課題

学習会等では、勤務時間内で短時間・単発の開催では内容の進化に制限もあるが、シリーズ化の試みや小ユニットでの活動を引き続き丁寧に重ねていくこと、医療施設や部署別を越えた横断的なテーマでの共同研究・人事交流を通してさらに活性化を図っていく。

## 【看護研究科目担当者グループ】

### 1. 活動内容

#### 1) 2019～2020 年度看護研究科目学修ガイド作成・印刷・配布

3年生の看護研究の基礎開始日に合わせて学修ガイドを検討し印刷、配布した。それに伴い、すでに配布済みの4年生の学修ガイドにおける抄録・論文作成方法の改定をした。また論文集・抄録についての字数や頁変更については、文字数ページ数を検討し可能な範囲で文字数を増やした。

#### 2) 抄録集の作成・配布

抄録集の印刷は学内で行い、475部印刷し学生（4年次生・3年次生全員、2・1年次生は希望者分）、教員（看護学科、健康栄養学科）、実習先等に配布した。次年度は事前に使用しやすいフォーマットを提示する。

#### 3) 看護研究発表会の企画・実施

令和元年12月4日（水）9時～14時25分に実施、今年度から発表方法を口演（パワーポイント）とした。1題15分（発表時間10分質疑応答5分）で50演題、3会場で行った。参加者は382名（4年生76名、3年生88名、2年生90名、1年生83名、教職員41名、学外者4名）であった。学生にはUNIPAのアンケート機能を活用し、自由記載も含めアンケートを行った。学生のアンケート結果では抄録集、発表会場、発表・質問時間、発表内容について8割以上が肯定的な回答をしていた。また教員のアンケート結果ではプレゼン能力が向上した、ポスターに比べ発表に集中しやすく聞きやすかった、時間もちょうどよい等概ね肯定的な評価であった。しかし午後に聴衆が少ないなど設定時間や学生の役割や振る舞いについての改善意見が複数あった。

### 2. 課題

1) 初の看護研究発表会（口演）は、休憩時間を10分設けていたが発表時間の延長があった場合、移動距離が長い場合開始時間以降での入場になってしまうため、休憩時間を長めに設定しておく必要がある。キャリアセミナー履修者について、指定された参加時間を満たさない発表途中の入退場者がいたため事前の説明や指導が必要である。また午前ですべて終えるなど時間設定の検討が必要である。

2) 看護研究ⅠとⅡの成績評価の取りまとめと報告、看護研究Ⅰの授業アンケート実施とフィードバックレポートの作成を行った。

3) 2020年度に向け成績評価の指標を改定した。次年度はその評価を行う必要がある。

4) 学生向けオリエンテーションを行った。看護研究の領域希望調査用紙今年度は第1希望だけでなく第2希望の領域に関する研究テーマの記載を求めた。学生の希望と研究したいテーマに基づき第1希望または第2希望で配置案を作成した。配置案の承認後担当学生の決定を依頼した。

5) 今年度から仕上がり3頁に収まるよう字数を制限し業者印刷とした。看護教員と学生分140部作成した。学生には卒業式のリハーサル後に配布する予定である。3頁以内の制限について短いという意見があったが、予算の関係と学生の負担を考慮し3頁以内が妥当と考えた。



### 3. 健康栄養学科

#### 1) カリキュラム編成

看護栄養学部の教育研究上の理念を踏まえ、「自ら考え行動できる、視野の広い専門職業人」の育成を実現するため、4つのカリキュラムポリシーを定め、それに基づいて、教育課程を「共通教養分野」「連携分野」「導入分野」「専門基礎分野」「専門分野」「発展分野」の6つの分野で編成した。

##### (1) カリキュラムポリシー

- ①市民としての教養の修得及び実践力の育成
- ②管理栄養士に必要とされる専門性及び実践力の育成
- ③関連職種連携に必要とされる能力及び職業倫理に基づく実践力の育成
- ④地域の栄養改善のための実践力の育成

##### (2) カリキュラムポリシーに基づいた教育内容及びカリキュラムの編成

###### ①市民としての教養の修得及び実践力の育成

社会構造が複雑化する中で、多様な価値観を理解し、子どもから成人、高齢者に至るまで、ライフステージに応じた食育を推進するためには、人間と社会への理解を深め、豊かな人間性と倫理観を身に付け、広い視野をもって、保健・医療・福祉に携わる人々や市民・地域住民と協働できる能力が求められる。そのため、1・2年次に「共通教養分野」を配置し、言語コミュニケーション能力や、社会と生活、情報処理に必要な基礎知識など、市民に必要とされる教養を培う。

###### ②管理栄養士に必要とされる専門性及び実践力の育成

「偏り」と「過剰」「欠乏」が混在する多様な栄養問題を抱える時代となり、管理栄養士は栄養と食に関する専門職としての職業倫理を基本にした専門性の多様化や深化が求められるようになってきた。そのためカリキュラムに、「専門基礎分野」及び「専門分野」を配置し、「専門基礎分野」では、専門分野を学ぶための基礎となる知識と技術を身につけるとともに、管理栄養士として必要な思考力や分析力を育成する。「専門分野」では、管理栄養士として必要な専門的な知識と技術を身につけ、その発展的活用を通して、課題発見、問題解決能力を培い、個々に応じた栄養の指導ができる能力を育成するとともに、地域社会の成り立ちや関係者・関係機関の連携・協働、行政による健康・栄養改善への取組を理解し、地域の健康づくり、公衆衛生の改善に参画することができる能力を育成する。

###### ③関連職種連携に必要とされる能力及び職業倫理に基づく実践力の育成

保健・医療・福祉の各現場においては、関連職種が互いに尊重、連携し、円滑に業務を遂行することが求められている。そのため、管理栄養士としての倫理観や職業観を培うとともに、専門職が連携して業務を行うために必要な知識や技術を修得することを目的に、カリキュラムに「連携分野」及び「導入分野」を配置した。

###### ④地域の栄養改善のための実践力の育成

都道府県、市町村による健康・栄養課題改善の取組、地域の現状や課題を理解し、そこに参画できる人材を育成するため、連携科目として、「地域と共生」を配置し、地域社会の有り様を体験し、それを分析できる基礎力を養う。その上で、専門基礎科目として、「社会・環境と健康」領域に必修科目4科目を配置し、人間や生活、社会や環境との関わり、社会福祉制度についての理解を深化し、専門科目として、「公衆栄養学」領域に必修科目3科目及び「臨地実習ⅠC（公衆栄養学）」を必修科目として配置し、国際社会や国、地方行政による健康・栄養課題への取組の理念や施策を理解した上で、その改善のためのPDCAサイクルを実施できる能力を育成する。さらに、「臨床栄養学」領域には、「在宅栄養ケアマネジメント」を配置し、医師・保健師・管理栄養士の教員がオムニバスで担当し、在宅療養者の栄養・食事管理、在宅栄養指導を実践するための能力を育成する。



(3) 栄養教諭免許取得のためのカリキュラム

栄養教育を通じて、将来を担う世代の適切な食生活の確立を支援するとともに、地域の地場産物や食文化を理解し、地域の「地産地消」や「食文化」を支える栄養教諭を養成するため、教職に関する科目群を配置した。また、カリキュラム改正に基づき、平成 31 年度教育課程を配置した。

(4) 平成 30 年度教育課程（表 1）

(5) 平成 31 年度教育課程（表 2）

## 2) 教育・カリキュラムに関する取り組み

(1) 平成 31 年度計画に基づき、看護栄養学部健康栄養学科の教育研究を円滑に運営するための取組を推進した。

①健康栄養学科会議において、教育カリキュラムの内容、教員の研究内容について確認、情報共有を行い、学生への履修指導の方法、実験・実習施設の使用方法について検討した。

②チューターを中心として、学生への履修指導、履修状況及び単位取得状況の確認を行い、次年度に向けての指導方法、AC 期間終了後のカリキュラムの改善に向けての評価方法について検討を行った。

③異文化研修Ⅰ（韓国）については、大邱保健大学食品栄養学部、大邱韓医大学韓方食品調理栄養学部との新たな研修プログラムを計画、実施した。また、異文化研修Ⅱ（米国）は、本年度より、健康栄養学科の学生が参加し、Central Washington University（CWU）との新たな研修プログラムを立案・実施した。

④次年度以降、開始する臨地実習ⅠA・ⅠB・ⅠC、ⅡA・ⅡB・ⅡCの実習時期の検討および実習先との調整を行った。また、栄養教育実習（教職）についても実習時期の検討および実習先との調整を行った。

⑤次年度以降開講科目となる、卒業研究について、研究室配属の時期等について検討を行った。同様に、国家試験対策についても次年度からのスケジュールの検討・確認を行った。

⑥栄養教諭養成のための教職課程については、担当教員およびチューターと連携し、履修科目サポート等を行った。

## 3) カリキュラムの評価に関すること

(1) 「授業評価アンケート」を実施し、フィードバックレポートを作成した。

(2) 健康栄養学科会議において、AC 期間終了後のカリキュラムの改善に向けての評価方法について検討を行った。

(3) 厚生労働省 管理栄養士専門分野別人材育成事業（教育養成領域での人材育成）「管理栄養士・栄養士の栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討」（特定非営利活動法人 日本栄養改善学会）の内容について、健康栄養学科教員で情報共有を行った。

## 4) 健康栄養学科運営に関すること

健康栄養学科運営を円滑に進めるため、第 4 水曜日 13:10～14:40 を基本に、健康栄養学科定例会議を開催した。必要に応じて臨時に開催し、平成 31 年度については 11 回開催した。

また、看護栄養学部健康栄養学科の教育研究を円滑に運営するために、以下のワーキンググループ（WG）を立ち上げた。

- ・ 臨地実習準備 WG
- ・ 栄養教育実習（教職）WG
- ・ 国家試験対策 WG
- ・ 卒業研究準備 WG
- ・ 機材管理 WG
- ・ 大学院設置準備 WG
- ・ 新カリキュラム検討 WG

表 1 平成 30 年度教育課程

区分	授業科目		必修 選択 自由	単 位 数	時 間 数	区分	授業科目		必修 選択 自由	単 位 数	時 間 数	区分	授業科目		必修 選択 自由	単 位 数	時 間 数													
	分野	領域					分野	領域					分野	領域																
共通教養	外国語	英語Ⅰ	必修	1	30	社会・ 環境と 健康	公衆衛生学Ⅰ(総論)	必修	2	30	基礎 栄養学	基礎栄養学Ⅰ(基礎)	必修	2	30															
		英語Ⅱ	必修	1	30		公衆衛生学Ⅱ(各論)	必修	2	30		基礎栄養学Ⅱ(発展)	必修	1	15															
		英語Ⅲ	選択	1	30		公衆衛生学実習	必修	1	45		基礎栄養学実験Ⅰ(基礎)	必修	1	45															
		英会話Ⅰ	必修	1	30		社会福祉論	必修	2	30		基礎栄養学実験Ⅱ(発展)	選択	1	30															
		英会話Ⅱ	必修	1	30		人体の 構造と 機能 及び 疾病の 成り立ち	生化学Ⅰ(機能)	必修	2		30	栄養管理学	必修	2	30														
		韓国語		1	30			生化学Ⅱ(代謝)	必修	2		30	応用栄養学Ⅰ(母性・成長期)	必修	2	30														
	自然と 情報科学	生物学	選択	2	30	生化学実験Ⅰ(基礎)		必修	1	45	応用栄養学Ⅱ(成人・高齢期)	必修	2	30																
		化学	選択	2	30	生化学実験Ⅱ(応用)		必修	1	45	応用栄養学Ⅲ(特殊環境)	必修	1	15																
		自然科学の基礎	選択	2	30	人体構造学		必修	2	30	栄養管理学実習	必修	1	45																
		情報リテラシー	必修	1	30	人体構造学実習		必修	1	45	応用栄養学実習	必修	1	45																
		情報処理の基礎	選択	1	30	人体機能学		必修	2	30	スポーツ栄養学	選択	1	30																
		統計学	必修	1	30	人体機能学実習		必修	1	45	栄養 教育論	栄養教育論Ⅰ(総論)	必修	2	30															
		社会と 生活	現代日本語	選択	2	30		臨床医学Ⅰ	必修	2		30	栄養教育論Ⅱ(各論)	必修	2	30														
	社会学		選択	2	30	臨床医学Ⅱ		必修	2	30		栄養教育論Ⅲ(応用)	必修	2	30															
	文化人類学		選択	2	30	臨床薬理学		選択	1	15		栄養カウンセリング演習	必修	1	30															
	日本国憲法		選択	2	30	微生物学		必修	1	15		栄養教育論実習	必修	1	45															
	倫理学		選択	2	30	免疫学		必修	1	15	学校栄養教育論Ⅰ(総論)	選択	2	30																
	心理学		選択	1	30	臨床検査学	選択	1	15	学校栄養教育論Ⅱ(各論)	選択	2	30																	
	教職	教職に 関する 科目	住居論	選択	2	30	食べ物 と 健康	運動生理学	選択	2	30	臨床 栄養学	臨床栄養学Ⅰ(総論)	必修	2	30														
健康と運動Ⅰ			必修	1	30	運動生理学実習		選択	1	45	臨床栄養学Ⅱ(栄養管理プロセス)		必修	2	30															
健康と運動Ⅱ			必修	1	30	食品学Ⅰ(基礎)		必修	2	30	臨床栄養学Ⅲ(栄養治療Ⅰ)		必修	2	30															
現代教職論			自由	2	30	食品学Ⅱ(応用)		必修	2	30	臨床栄養学Ⅳ(栄養治療Ⅱ)		必修	2	30															
教育原理			自由	2	30	食品学実験Ⅰ(基礎)		必修	1	45	臨床栄養学実習Ⅰ(栄養管理プロセスⅠ)		必修	1	45															
教育心理学			自由	2	30	食品学実験Ⅱ(機能・加工)		必修	1	45	臨床栄養学実習Ⅱ(栄養補給)	必修	1	45																
現代社会と教育			自由	2	30	食品衛生学		必修	2	30	臨床栄養学実習Ⅲ(在宅栄養ケアマネジメント)	必修	1	30																
教育課程論			自由	2	30	食品衛生学実験		選択	1	30	臨床栄養学演習(栄養管理プロセスⅡ)	選択	1	30																
道徳の指導法			自由	2	30	地域食料資源論(食品加工)		選択	1	30	公衆 栄養学	公衆栄養学Ⅰ(総論)	必修	2	30															
特別活動の指導法			自由	2	30	調理科学		必修	2	30		公衆栄養学Ⅱ(公衆栄養管理)	必修	2	30															
教育方法学	自由	2	30	食品調理科学実験	必修	1	45	公衆栄養学実習	必修	1		45																		
生徒・進路指導の理論と方法	自由	2	30	調理学実習Ⅰ(基礎)	必修	1	45	エビデンス・ベースド・ヘルスクエア	選択	2		30																		
教育相談	自由	2	30	調理学実習Ⅱ(応用)	必修	1	45	給食経営 管理論	給食経営管理論Ⅰ(総論)	必修		2	30																	
栄養教育実習Ⅰ(事前・事後指導)	自由	1	45	食事設計論	必修	1	30		給食経営管理論Ⅱ(各論)	必修	2	30																		
栄養教育実習Ⅱ(教育実習)	自由	1	45	島根県の食文化	選択	1	15		給食経営管理実習Ⅰ(基礎)	必修	1	45																		
教職実践演習(栄養教諭)	自由	2	30	連携	食べ物 と 健康																									
地域と 共生	しまね地域共生学入門	必修	2																	30	給食経営 管理論	給食経営管理実習Ⅱ(応用)	必修	1	45	総合演習	総合演習Ⅰ(基礎)	必修	1	30
	地域課題総合理解	選択	1					15												給食経営管理論Ⅲ(応用)		必修	1	45	総合演習Ⅱ(応用)		必修	1	30	
	ボランティア活動論	選択	1					30												臨床地 実習		臨床実習ⅠA(給食経営管理論)	必修	1	45	臨床地 実習	臨床実習ⅠA(給食経営管理論)	必修	1	45
	島根の地域医療	必修	1					30														臨床実習ⅠB(臨床栄養学)	必修	1	45		臨床実習ⅠB(臨床栄養学)	必修	1	45
国際保健と国際協力	選択	1	15					臨床実習ⅠC(公衆栄養学)														必修	1	45	臨床実習ⅠC(公衆栄養学)		必修	1	45	
異文化 理解	異文化研修Ⅰ(韓国)	選択	1					30													臨床実習ⅡA(給食経営管理論)	必修	1	45	臨床実習ⅡA(給食経営管理論)		必修	1	45	
	異文化研修Ⅱ(米国)	選択	2					60													臨床実習ⅡB(臨床栄養学)	必修	1	45	臨床実習ⅡB(臨床栄養学)		必修	1	45	
専門職 意識の 育成	口腔・嚥下機能と健康	必修	2					30												臨床実習ⅡC(公衆栄養学)	必修	1	45	臨床実習ⅡC(公衆栄養学)	必修	1	45			
	チーム医療論	必修	1					30												発展	発展	卒業研究	外書講読	卒業研究	必修	2	90			
	リスクマネジメント	必修	1					30																						
	カウンセリング	選択	1					30																						
	発達心理学	選択	2					30																						
	保健医療福祉制度	選択	2					30																						
	看護・栄養研究の基礎	必修	2					30																						
	看護・栄養研究成果の共有	必修	1					30																						
	キャリアセミナーⅠA	必修	1					15																						
	キャリアセミナーⅠB	必修	1					15																						
	キャリアセミナーⅡA	必修	1					15																						
キャリアセミナーⅡB	必修	1	15																											
キャリアセミナーⅢA	選択	1	15																											
キャリアセミナーⅢB	選択	1	15																											
キャリアセミナーⅣA	選択	1	15																											
キャリアセミナーⅣB	選択	1	15																											
導入	専門職	医学概論		2	30																									

表2 平成31年度教育課程

区分	分野	領域	授業科目	必修 選択 自由	単 位 数	時 間 数	区分		授業科目	必修 選択 自由	単 位 数	時 間 数	区分		授業科目	必修 選択 自由	単 位 数	時 間 数
							分野	領域					分野	領域				
共通教養	外国語	英語Ⅰ	必修	1	30	社会・環境と健康	公衆衛生学Ⅰ(総論)	必修	2	30	基礎栄養学	基礎栄養学	必修	2	30			
		英語Ⅱ	必修	1	30		公衆衛生学Ⅱ(各論)	必修	2	30		基礎栄養学実験	必修	1	45			
		英語Ⅲ	選択	1	30		公衆衛生学実習	必修	1	45		栄養管理学	必修	2	30			
		英会話Ⅰ	必修	1	30		社会福祉論	必修	2	30		応用栄養学Ⅰ(母子・成長期)	必修	2	30			
		英会話Ⅱ	必修	1	30		生化学Ⅰ(機能)	必修	2	30		応用栄養学Ⅱ(成人・高齢期)	必修	2	30			
		韓国語	選択	1	30		生化学Ⅱ(代謝)	必修	2	30		応用栄養学Ⅲ(特殊環境)	必修	1	15			
	自然と情報科学	生物学	選択	2	30	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学実験Ⅰ(基礎)	必修	1	45	応用栄養学	栄養管理実習	必修	1	45			
		自然科学の基礎	選択	2	30		生化学実験Ⅱ(応用)	必修	1	45		応用栄養学実習	必修	1	45			
		情報リテラシー	必修	1	30		人体構造学	必修	2	30		スポーツ栄養学	選択	1	15			
		情報処理の基礎	選択	1	30		人体構造学実習	必修	1	45		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ(総論)	必修	2	30		
		統計学	必修	1	30		人体機能学	必修	2	30			栄養教育論Ⅱ(各論)	必修	2	30		
		社会と生活	現代日本語	選択	2		30	人体機能学実習	必修	1			45	栄養教育論Ⅲ(発展)	必修	2	30	
	社会学		選択	2	30		臨床医学Ⅰ(総論)	必修	2	30	栄養カウンセリング演習		必修	1	30			
	文化人類学		選択	2	30		臨床医学Ⅱ(各論)	必修	2	30	栄養教育論実習		必修	1	45			
	日本国憲法		選択	2	30		臨床薬理学	選択	1	15	学校栄養教育論Ⅰ(総論)		選択	2	30			
	倫理学		選択	2	30		微生物学	必修	1	15	学校栄養教育論Ⅱ(各論)	選択	2	30				
	心理学		選択	1	30		免疫学	必修	1	15	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ(総論)	必修	2	30			
	住居論	選択	2	30	臨床検査学		選択	1	15	臨床栄養学Ⅱ(栄養管理プロセス)		必修	2	30				
	健康と運動Ⅰ	必修	1	30	食・物と健康		食品学Ⅰ(総論)	必修	2	30		臨床栄養学Ⅲ(栄養治療Ⅰ)	必修	2	30			
	健康と運動Ⅱ	必修	1	30			食品学Ⅱ(各論)	必修	2	30		臨床栄養学Ⅳ(栄養治療Ⅱ)	必修	2	30			
	教職の基礎的理解に関する科目	現代教職論	自由	2			30	食品学実験Ⅰ(基礎)	必修	1		45	臨床栄養学実習Ⅰ(栄養管理プロセス)	必修	1	45		
		教育原理	自由	2			30	食品学実験Ⅱ(応用)	必修	1		45	臨床栄養学実習Ⅱ(栄養補給)	必修	1	45		
		教育心理学	自由	2			30	食品衛生学	必修	2	30	在宅栄養ケアマネジメント	必修	1	30			
		教育経営論	自由	2			30	食品衛生学実験	必修	1	45	臨床栄養学演習(栄養管理プロセス)	選択	1	30			
		特別支援教育論	自由	1		15	調理科学	必修	2	30	公衆栄養学Ⅰ(総論)	必修	2	30				
		教育課程論	自由	2		30	調理科学実験	必修	1	45	公衆栄養学Ⅱ(各論)	必修	2	30				
	道徳、総合的な学習の時間の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論と指導法	自由	2		30	調理科学実習Ⅰ(基礎)	必修	1	45	公衆栄養学実習	必修	1	45				
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	自由	2		30	調理科学実習Ⅱ(応用)	必修	1	45	エビデンス・ベースド・ヘルスケア	選択	2	30				
		教育方法学	自由	2		30	食事設計論	必修	1	30	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ(総論)	必修	2	30			
		生徒指導の理論と方法	自由	2		30	島根県の食文化	選択	1	15		給食経営管理論Ⅱ(各論)	必修	2	30			
		教育相談	自由	2	30	専門基礎	給食経営管理実習Ⅰ(基礎)	必修	1	45		給食経営管理実習Ⅱ(応用)	必修	1	45			
		教育実践に関する科目	栄養教育実習事前事後指導	自由	1		45	総合演習Ⅰ(基礎)	必修	1	30	総合演習Ⅱ(応用)	必修	1	30			
	栄養教育実習		自由	1	45		臨床実習	臨床実習ⅠA(給食経営管理論)	必修	1	45	発展	卒業研究	必修	2	90		
	教職実践演習(栄養教諭)		自由	2	30			臨床実習ⅠB(臨床栄養学)	必修	1	45			外書講読	選択	1	30	
	地域と共生	しまね地域共生学入門	必修	2	30			臨床実習ⅠC(公衆栄養学)	必修	1	45		小計			59	1515	
		地域課題総合理解	選択	1	15			臨床実習ⅡA(給食経営管理論)	選択	必修	1			45				
		ボランティア活動論	選択	1	30			臨床実習ⅡB(臨床栄養学)										
		島根の地域医療	必修	1	30			臨床実習ⅡC(公衆栄養学)										
		国際保健と国際協力	選択	1	15													
		異文化理解	異文化研修Ⅰ(韓国)	選択	1		30											
	異文化研修Ⅱ(米国)		選択	2	60													
	連携	専門職意識の育成	口腔・嚥下機能と健康	必修	2		30											
チーム医療論			必修	1	30													
リスクマネジメント			必修	1	30													
カウンセリング			選択	1	30													
発達心理学			選択	2	30													
保健医療福祉制度			選択	2	30													
看護・栄養研究の基礎			必修	2	30													
看護・栄養研究成果の共有			必修	1	30													
キャリアセミナーⅠA			必修	1	15													
キャリアセミナーⅠB			必修	1	15													
キャリアセミナーⅡA			必修	1	15													
キャリアセミナーⅡB			必修	1	15													
キャリアセミナーⅢA			選択	1	15													
キャリアセミナーⅢB			選択	1	15													
キャリアセミナーⅣA			選択	1	15													
キャリアセミナーⅣB	選択	1	15															
導入	専門職	医学概論	必須	2	30													

## 4. 別科助産学専攻 目的等

### 1) 目的

助産における高度な知識・技術を教授・研究し、自己の資質向上を図る能力や倫理観を基盤とした実践能力を身につけた専門職を育成する。また、助産師としての自律性を備え、地域に貢献できる専門職を育成するとともに、周産期医療及び母子保健に関する研究成果をより広く社会に還元することを目的とする。

### 2) 理念

#### (1) 島根県立大学の理念

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それに基づく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命としている。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とするため、平成22年4月に「島根県立大学憲章」を定め、以下の5つの事項を大学の責務として明らかにしている。

- ア 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する。
- イ 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する。
- ウ 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して地域に貢献する。
- エ 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する。
- オ 自律と協同、透明性が高く機能的に優れた大学運営を行う。

#### (2) 別科助産学専攻の教育研究上の理念

この憲章を踏まえ、別科助産学専攻の教育研究上の理念を次のとおりとする。

- ア 助産における高度な知識・技術を教授・研究し、自己の資質向上を図る能力や倫理観を基盤とした実践能力を身につけた専門職を育成する。
- イ 助産師としての自律性を備え、地域に貢献できる専門職を育成するとともに、周産期医療及び母子保健に関する研究成果をより広く社会に還元する。

#### (3) 育成する人材像

(2)の教育研究上の理念を踏まえた別科助産学専攻が育成する人材像は、「高度な助産実践能力と倫理観を備え、地域に貢献できる助産師」であり、具体的には次のとおりである。

- ア 助産の実践に必要な専門知識と技術を身につけ、妊産褥婦及び胎児・新生児・乳児の健康状態に関する的確な助産診断並びにその家族への適切な支援が自律して行える人材
- イ 地域における周産期医療及び母子保健の推進に向けて、関連職種や関係機関と連携・協働し、主体的に行動できる人材
- ウ 医療の進歩や社会状況を広い視野で捉え助産師としての社会的責務や役割を遂行するために、不断の修養を積むとともに、助産における倫理的課題に対応できる人材

## 5. 別科助産学専攻

### 1) カリキュラムの編成

別科助産学専攻での人材育成の3つの要素（助産実践能力の育成、関連職種と連携・協働し島根県



の母子保健医療福祉に貢献できる能力の育成、倫理観を備え、広い視野で自己の資質向上を図る能力の育成)を柱として、科目区分を助産基礎領域、助産実践領域及び総合助産学領域の3領域で編成している。

#### <カリキュラムポリシー(教育課程方針)>

- (1) 助産実践能力の育成
- (2) 関連職種と連携・協働し島根県の母子保健医療福祉に貢献できる能力の育成
- (3) 倫理観を備え、広い視野で自己の資質向上を図る能力の育成

カリキュラムポリシーに基づき、教育の内容を以下のように組み立てた。

- (1) 助産実践能力の育成

少子化、核家族化、育児機能の弱体化など母子を取り巻く社会環境の変化に伴い、様々な母子の健康課題が山積しており、妊産婦への指導、分娩への介助、新生児のケア、女性や家族に対する生涯の健康支援などに関わる助産師の専門性や資質の向上を図るための助産師教育の重要性が増している。

妊娠・出産・産褥期が安全安楽に経過するために、対象への理解を深めるとともに妊産褥婦及び胎児・新生児・乳幼児への理解やその健康水準を的確に診断し、育児を主体的に行えるよう支援できるマタニティケアの基礎的能力及び緊急時に対応できる能力の育成を図る。加えて、あらゆるライフステージの女性及び家族などの健康増進にむけて支援できる能力を養う。

- (2) 関連職種と連携・協働し島根県の母子保健医療福祉に貢献できる能力の育成

島根県における母子保健課題を認識し、社会資源の活用や保健・医療・福祉に関する制度を学び、母子保健活動のマネジメント及び政策形成のプロセスを理解する。また、地域の特性と支援内容のアセスメントを基に関連職種と連携・協働できる能力を育成する。

- (3) 倫理観を備え、広い視野で自己の資質向上を図る能力の育成

生殖補助医療や遺伝子診断は急速に発展し続けており、助産師には女性の性・生殖に関する健康課題に的確に対応できる能力が求められる。

最善最良の母子保健をめざして、助産師として豊かな人間性を育み、高いコミュニケーション能力と広い視野で倫理的課題に対応する能力を養う。また、生涯にわたり自己研鑽できる能力や課題解決に向けて積極的に行動できる能力を育成する。

#### <カリキュラムの構成> (表1)

授業科目を『助産基礎領域』『助産実践領域』『総合助産学領域』の3領域に区分し、学習の統合化を図っている。「助産基礎領域」では、助産の基礎となる助産の概念、歴史、助産師の業務、生命倫理・職業倫理について学ぶ。「助産実践領域」では、妊産褥婦および胎児・新生児・乳幼児の健康水準を的確に診断できる能力を養い、育児を主体的に行えるよう支援できるマタニティケアの基礎的知識、および緊急時への対応について学ぶ。「総合助産学領域」では、広い視野で倫理的課題に対応できる能力育成や自己研鑽に対応する科目として助産学研究、情報処理演習、妊産褥婦や家族の満足度を高めるための実践的な支援と方法について探求する母子の健康と代替療法を通して総合的に助産学を捉え、学問として探求できる能力を養う。さらに助産師としての社会的責務と役割を果たすために、自己研鑽できる能力を養うとし、領域ごとに統合しやすいよう構成している。修了必要単位数は33単位以上としている。

表1 教育課程一覧

区分	開講科目名	単位・時間数, 必修選択別
理論領域	基礎助産学	1単位 15時間 必修
	生殖生命倫理学	1単位 15時間 必修
	妊娠期の異常	1単位 15時間 必修
	母子の心理・社会学	1単位 15時間 必修
	母子栄養	1単位 15時間 必修
	女性の健康	1単位 15時間 必修
助産実践領域	助産診断技術学Ⅰ(妊婦)	1単位 30時間 必修
	助産診断技術学Ⅱ(産婦)	1単位 30時間 必修
	助産診断技術学Ⅲ(母子)	1単位 30時間 必修
	総合助産診断技術学	3単位 90時間 必修
	妊娠期におけるME診断	1単位 15時間 必修
	新生児・乳幼児の成長と発達	1単位 15時間 必修
	周産期学Ⅰ(妊娠期の異常)	1単位 15時間 必修
	周産期学Ⅱ(分娩・産褥期の異常)	1単位 15時間 必修
	周産期救急	1単位 15時間 必修
	島根の母子保健	2単位 30時間 必修
	助産業務管理学	2単位 30時間 必修
	助産学実習	11単位 495時間 必修
	地域母子保健実習	1単位 45時間 必修
総合助産学領域	助産学研究	1単位 30時間 必修
	情報処理演習	1単位 15時間 選択
	母子の健康と代替療法	1単位 15時間 選択

## 2) 教育・カリキュラムに関する取り組み

### (1) 中期計画について

令和元年度の中期計画として、助産学実習や地域母子保健実習を通して、関係機関と連携・協働し主体的に行動できる能力、倫理的課題に対応できる能力を養成する。を掲げ取り組んだ。

- ①カリキュラム評価より、講義および助産学実習や地域母子保健実習における学びを通し「地域の母子保健課題に向けて関連職種と連携・協働する視点を養うことができた」「倫理的感応力(倫理理念の理解と行動規範)を高め養う姿勢を培うことができた」「自己研鑽に取り組む職業的意識と姿勢を培うことができた」について高評価であった。
- ②学生が島根県各地域の産科医療に対する理解や関心を高め、より主体的に実習に臨むことを目的とし、5月の実習協議会后、各施設の指導者から施設概要、実習の方法等についての説明会開催を実施した。実施後の学生評価では、「島根県の産科医療に対する理解・関心が高まった」について「高まった」「どちらかといえば高まった」が100%と高評価であった。今後も継続していきたい。

### (2) 助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度について(表2)

修了時「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」(厚生労働省)を用いて評価を行っている。

4個の実践能力、9個の大項目、76個の小項目より成り立ち、到達度レベルは「I:少しの助言



で自立してできる」,「Ⅱ:指導のもとでできる」,「Ⅲ:学内演習で実施できる」,「Ⅳ:知識としてわかる」の4段階で設定されている。

令和元年度の到達割合は表2のとおりである。前年度,到達度が50%に満たない項目は,分娩期の異常発生時における判断と必要な介入【会陰の切開および裂傷に伴う縫合】【急速遂娩の介助】であったが,いずれも70%前後に上がっている。到達度が低い項目は【時期に応じた妊娠の診断方法の選択】であった。実習における学生の経験事例の差はあるが,学内講義・演習に関しては引き続き強化を図りたい。

表2 助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度

		助産師学生修了時の到達目標		到達度	R1 到達割合 n=16	
大項目	中項目		小項目			
1. 母子の命の尊重		1	母体の意味の理解とその保護	Ⅱ	93.8	
		2	子供あるいは胎児の権利の擁護	Ⅱ	93.8	
		3	両者に関わる倫理的な対応	Ⅱ	100	
2. 妊娠期の診断とケア	A. 妊婦と家族の健康状態に関する診断とケア	4	時期に応じた妊娠の診断方法の選択	I	43.8	
		5	妊娠時期の診断 (現在の妊娠週数)	I	75	
		6	妊娠経過の診断	I	68.8	
		7	妊婦の心理・社会的側面の診断	I	62.5	
		8	安定した妊娠生活の維持に関する診断	I	62.5	
		9	妊婦の意思決定や嗜好を考慮した日常生活上のケア	I	50	
		10	妊婦や家族への出産準備・親準備への支援	I	56.3	
		11	現在の妊娠経過から分娩・産褥の予測と支援	I	56.3	
		12	流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊産婦と家族のケア	Ⅱ	62.5	
	B. 出生前診断に関わる支援	13	最新の科学的根拠に基づいた情報を妊婦や家族に提示	Ⅱ	75	
		14	出生前診断を考える妊婦の意思決定過程への支援	Ⅲ	56.3	
	3. 分娩期の診断とケア	C. 正常分娩	15	分娩開始の診断	I	87.5
			16	分娩進行状態の診断	I	62.5
			17	産婦と胎児の健康状態の診断	I	81.3
18			分娩進行に伴う産婦と家族のケア	I	62.5	
19			経膈分娩の介助	I	62.5	
20			出生直後の母子接触・早期授乳の支援	I	75	
21			産婦の分娩想起と出産体験理解への支援	Ⅱ	100	
22			分娩進行に伴う異常発生予測と予防的行動	I	81.3	
D. 異常状態		23	異常発生時の観察と判断及び行動	Ⅱ	81.3	
		24	異常発生時の判断と必要な介入	-		
		(1)骨盤出口部拡大体位	I	75		
		(2)会陰の切開及び裂傷に伴う縫合 (局所麻酔を含む)	Ⅲ	68.8		

4. 産褥期の診断とケア		(3) 新生児の蘇生	Ⅲ	93.8		
		(4) 正常範囲を超える出血への処置	Ⅲ	93.8		
		(5) 子癇発作時の処置	Ⅳ	100		
		(6) 緊急時の骨盤位分娩介助	Ⅳ	100		
		(7) 急速遂娩術の介助	Ⅱ	75		
		(8) 帝王切開前後のケア	Ⅱ	100		
		25	児の異常に対する産婦、家族への支援	Ⅳ	100	
		26	異常状態と他施設搬送の必要性の判断	Ⅳ	100	
	E. 産褥期の診断とケア	27	産褥経過に伴う身体的回復の診断	Ⅰ	87.5	
		28	産褥期の心理・社会的側面の診断	Ⅰ	75	
		29	産後うつ症状の早期発見と支援	Ⅱ	68.8	
		30	産褥期のセルフケア能力を高める支援	Ⅰ	68.8	
		31	産褥期の育児に必要な基本的知識と技術支援	Ⅰ	75	
		32	新生児と母親、父親、家族のアタッチメント形成の支援	Ⅰ	75	
		33	産褥復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア	Ⅰ	75	
		34	生後1か月までの母子の健康状態の予測	Ⅰ	68.8	
		35	生後1か月間の母子の健康診査	Ⅰ	62.5	
		36	1か月健康診査の結果に基づく母子と家族の支援とフォローアップ	Ⅱ	87.5	
		37	母乳育児に関する母親に必要な知識の提供	Ⅰ	62.5	
		38	母乳育児に関する適切な授乳技術、乳房ケア	Ⅱ	93.8	
		39	母乳育児を行えない／行わない母親への支援	Ⅰ	62.5	
		40	母子愛着形成の障害、児の虐待ハイリスク要因の早期発見と支援	Ⅲ	56.3	
		F. 新生児の診断とケア	41	出生後24時間までの新生児の診断とケア	Ⅰ	75
			42	生後1か月までの新生児の診断とケア	Ⅰ	75
		G. ハイリスク母子のケア	43	両親の心理的危機への支援	Ⅱ	75
			44	両親のアタッチメント形成に向けた支援	Ⅰ	75
45	NICUにおける新生児と両親への支援		Ⅳ	100		
46	次回妊娠計画への対応と支援		Ⅱ	81.3		
5. 出産・育児期の家族ケア	47	出生児を迎えた生活環境や生活背景のアセスメント	Ⅰ	75		
	48	家族メンバー全体の健康状態と発達課題のアセスメント	Ⅰ	68.8		
	49	新しい家族システムの成立とその変化のアセスメント	Ⅱ	87.5		
	50	家族間の人間関係のアセスメントと支援	Ⅱ	93.8		
	51	地域社会の資源や機関を活用できる支援	Ⅱ	87.5		
	52	保健・医療・福祉関係者との連携	Ⅱ	87.5		

6. 地域母子保健におけるケア	53	地域の特性と母子保健事業のアセスメント	II	81.3	
	54	消費者グループのネットワークへの参加とグループ支援	IV	100	
	55	災害時の母子への支援	IV	100	
7. 助産業務管理	H. 法的規定	56	保健師助産師看護師法等に基づく助産師の業務管理	IV	100
	I. 周産期医療システムと助産	57	周産期医療システムの運用と地域連携	IV	100
		58	場に応じた助産業務管理の実践	—	
			(1) 病院における助産業務管理	IV	100
			(2) 診療所における助産業務管理	IV	100
	(3) 助産所における助産業務管理	IV	100		
8. ライフステージ各期の性と生殖のケア（マタニティステージを除く）	J. 思春期の男女への支援	59	思春期のセクシュアリティ発達への支援	III	100
		60	妊娠可能性のあるケースへの対応と支援	IV	100
		61	二次性徴の早・遅発ケースの対応と支援	IV	100
		62	月経障害の緩和と生活支援	III	100
		63	性感染症予防とDV予防の啓発	IV	100
		64	家族的支援と教育関係者及び専門職との連携支援	IV	100
	K. 女性とパートナーに対する支援	65	家族計画（受胎調節法を含む）に関する選択・実地の支援	I	56.3
		66	健康的な性と生殖への発達支援と自己決定の尊重	IV	100
		67	DV（性暴力等）による予防と被害相談者への対応、支援	IV	100
		68	性感染症罹患のアセスメント・支援及び予防に関する啓発活動、他機関との連携	IV	100
		69	生活自立困難なケースへの妊娠・出産・育児に関する資源情報の提供と支援	IV	100
	L. 不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援	70	不妊治療を受けている対象の理解と自己決定への支援	IV	100
		71	不妊検査・治療等の情報提供と資源活用の支援	IV	100
		72	家族を含めた支援と他機関との連携	IV	100
	M. 中高年女性に対する支援	73	健康的なセクシュアリティ維持に関する支援と啓発	III	100
74		中高年の生殖器系に関する健康障害の予防と日常生活上の支援	IV	100	
75		加齢に伴う生殖器系の健康管理とQOLへの支援	IV	100	
9. 助産師としてのアイデンティティの形成	76	助産師としてのアイデンティティの形成	I	93.8	

### 3) 臨地実習に関すること

#### (1) 助産学実習について

##### ①助産学実習の目的

助産師に必要な助産学の基礎的理論と技術を統合し、母子保健・福祉ニーズに対応した活動

ができる。妊娠・分娩・産褥期，および新生児・乳児期におけるプライマリ・ケアの重要性を学ぶと共に，母子とその家族を総合的・継続的に理解し助産ケアを実践する能力を養う。

②実習施設・実習学生人数・期間

実習科目	単位	時間数	実習施設・機関	学生数（名）
助産学実習	11	495	益田赤十字病院	2
			浜田医療センター	2
			済生会江津総合病院	1
			大田市立病院	1
			県立中央病院	7
			松江赤十字病院	2
			江田クリニック産婦人科	1
			たがしらレディースクリニック（*）	9
			吉野産婦人科医院 (分娩介助 10 例に達しなかった学生)	0
地域母子 保健実習	1	45	出雲市役所	16

期間：令和元年9月1日～11月30日（期間延長なし）

（\*）松江赤十字病院、県立中央病院の学生：分娩介助のみの実習

③助産学実習内容

- ・事前学習
- ・オリエンテーション
- ・分娩介助実施：10例以上
- ・出生直後の新生児の取り扱い
- ・帝王切開
- ・継続観察事例：1例
- ・妊婦・褥婦・新生児
- ・異常新生児：2日間
- ・婦人科
- ・母親教室の実施：1回以上
- ・カンファレンス，
- ・管理実習，
- ・実習報告会，

④実習に関する主なスケジュール

- 4月 実習要項の作成  
実習オリエンテーション（第1回：概要説明）
- 5月 助産学実習協議会  
実習オリエンテーション（第2回：施設オリエンテーション）
- 6月 実習オリエンテーション（第3回：全体説明）
- 8～9月 実習オリエンテーション（個別施設）
- 9～11月 実習
- 12月 実習報告会・実習協議会

⑤助産学実習協議会

出席者：指導者10名，教員4名

内容：実習目的および内容，協議事項，全体協議および各施設間協議

⑥実習報告会・実習協議会

出席者：学生16名，指導者9名，教員5名

内容：それぞれの実習施設・機関における学びについて報告，質疑応答，指導者からの補足，実習の講評，教員・指導者間協議

⑦実習評価・課題

- ・助産学実習は8施設で行った。たがしらレディースクリニックにおいて，2施設（松江赤十字

病院および県立中央病院)の学生が分娩介助のみを行った。実習開始時からの実施で不足する例数分を早めに補うことができた。結果的に全員が実習期間内に10例の分娩介助を実施することができ、12月以降の追加実習は不要となった。

- ・県全域での分娩例数の減少傾向、夜間実習協力施設の減少により、追加実習を必要とする傾向は続くと思われる。また、今年度は院内助産を立ち上げた施設などで、学生の実習機会が制限されるなどのケースもあった。県内実習施設の動向を確認しつつ、次年度以降も実習期間・方法の検討を丁寧に行っていく必要がある。
- ・分娩介助の到達度に関しては、「少しの助言でできる」以上を目標としているが、到達しがたい経験項目として「必要時人工排尿が援助できる」、到達に時間のかかる項目として「娩出力を調整しながら、児頭を最小周囲径で娩出できる」であった。人工排尿等、経験する機会がなく到達できないものはシミュレーション等での強化を行った。
- ・実習協議会における指導者間の話し合いでは、実習の進め方、学生への対応、次年度の課題等について意見交換を行なった。次年度も引き続き、協議会等を実施し指導への共通理解を図り学生指導を円滑に展開していきたい。
- ・学生による実習評価アンケートの結果について、平均は4.5で前年度に引き続きよかった。高かった項目は、「教員または指導者は、学生が対象者やスタッフとうまく関わられるように配慮していた」4.8「実習に応じて必要な物品や場所は確保されていた」4.8であった。低かった項目は、「オリエンテーションの内容を十分に理解して実習を始めた」3.9であった。学生がレディネスを高めて実習に臨めるよう時期と内容を再検討したい。

(2) 地域母子保健実習について

①地域母子保健実習の目的

地域の母子保健・医療・福祉の現状と課題を理解し、母子保健活動の実際を通して、妊産褥婦や家族のニーズに対応できるケア・保健指導を実践できる能力を養う。

②実習施設・実習学生人数・期間

実習科目	単位	時間数	実習施設・機関	学生数(名)
地域母子保健実習	1	45	出雲市役所	16

期間：令和元年6月22日～11月27日

③地域母子保健実習内容

- ・事前学習
- ・オリエンテーション
- ・健康診査・保健指導  
(3～4か月児健診, 1歳6か月児健診, 3歳児健診など)
- ・子育てサークル
- ・母子関連会議
- ・実習報告会

- ・家庭訪問
- ・健康教育
- ・窓口相談・健康相談

④実習に関係する主なスケジュール

- 4～5月 実習要項の作成
- 5月 実習オリエンテーション(全体)
- 7月 地域母子保健実習オリエンテーション
- 6～11月 実習
- 12月 実習報告会・実習協議会

⑤実習報告会・実習協議会

出席者：学生16名、出雲市保健師1名、教員3名

⑥実習評価・課題



- ・地域母子保健実習において、学生は母子保健活動の実際を通して地域の母子保健・医療・福祉の現状と課題を理解することができた。特に地域全体で母子と家族を支えるための視点、助産師の地域での具体的な活動を学ぶことができた。また出雲市全体の事業の中で主体的に実習ができ、記録についても実習指導者より良い評価を受けた。
- ・学生による実習評価アンケートの結果について、平均は、4.6 で前年度に続き高かった。評価の高い項目は、「実習機関・施設・病棟・部署は学生を受け入れてくれる雰囲気だった」4.9、「実習に応じて必要な物品や場所は確保されていた」4.9、「全体として充実した実習だった」4.9 であった。低かった項目は、「カンファレンスにより、実習での体験の意味づけができた」4.1 であった。事業の内容によってはカンファレンスへの参加が難しいなど、時間的な制約が影響していると思われる。報告会での学習内容の共有により学びを深められるように引き続き充実を図っていく。

#### 4) 国家試験支援に関すること (表3)

入学前教育として直近の助産師国家試験を実施した。入学直後より、出題基準の配布、問題集の紹介を行い、5月に国家試験過去問題1か年分を実施し意識づけを図った。学生国家試験対策委員と年間計画を立案し、計画に沿って業者模試5回と教員模試1回(6月)を実施した。1月に教員作成の正誤問題を配布した。

年間を通して模試結果返却時には、個別に学習方法の確認を行った。また随時チューターによる面接を実施、国家試験前は個別に研究室において学習の支援を行った。今後も前期成績結果および国家模試結果に応じ、早期からの個別学習支援の強化を継続する必要がある。

表3 2019年度国家試験アンケート

設問	n=16
<b>【1年間を通して実施した模擬試験に関して】</b>	
1. 模試(過去問・業者模試・教員模試)の回数は適切であった。	4.8
2. 模試(過去問・業者模試・教員模試)の時期は適切であった。	4.5
3. 業者模試の自己負担金額は適切であった。	4.8
<b>【カリキュラムについて】</b>	
4. 学習は助産師国家試験の学習に適した内容であった。	4.6
<b>【学習支援に関して】</b>	
5. 教務学生課によるサポートは適切であった。	4.7
6. 教員によるサポートは助けになった。	4.5

#### 5) カリキュラムの評価に関すること (表4)

カリキュラム評価を目的として【教育目標の達成状況について】【カリキュラムについて】【学習支援・学習環境について】、学生による評価を実施した。評定は分からない・該当しない0点、当てはまらない1点～当てはまる5点とした。

- ・【教育目標の達成状況について】の6項目において、「2. 緊急的状況に対応できる基礎的能力を養うことができた。」が3.8、その他の項目は4.1～4.3であった。
- ・【カリキュラムについて】の9項目において、「1. 科目の配置は学習しやすい順序であった。」が3.8、その他の項目は4.0～4.4であった。
- ・【学習支援・学習環境について】の18項目において、「6. アメニティ(食堂、売店、ロッカーなど)は整備されていた。」は3.1と低く、「10. 教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在だった。」「18. 別科助産学専攻での学生生活は充実していた。」は4.3と高い評価であった。

【教育目標の達成状況について】【カリキュラムについて】に関する項目は、昨年度より高評価で

あった。【学習支援・学習環境について】に関して、アメニティを含め大学全体で引き続き検討・改善・見直しが必要である。

表4 2019年度カリキュラム評価

設問	n=16
<b>【教育目標の達成状況について（本学の学習を通して）】</b>	
1. マタニティケアを実践する基礎的能力を養うことができた。	4.3
2. 緊急的状況に対応できる基礎的能力を養うことができた。	3.8
3. ライフサイクル各期の女性と家族の健康増進を支援する視点を養うことができた。	4.2
4. 地域の母子保健課題解決に向けて関連職種と連携・協働する視点を養うことができた。	4.1
5. 倫理的感応力（倫理理念の理解と行動規範）を高め養う姿勢を培うことができた。	4.3
6. 学生は自己研鑽に取り組む職業的意識と姿勢を培うことができた。	4.3
<b>【カリキュラムについて】</b>	
1. 科目の配置は学習しやすい順序であった。	3.8
2. 助産基礎領域、助産実践領域、総合助産学領域の科目のバランスは適切だった。	4.1
3. 各科目の授業時間数は適切だった。	4.1
4. 興味や関心のある科目が設定されていた。	4.3
5. 学習に必要な教材（視聴覚教材・演習モデルなど）が充実していた。	4.3
6. 講義・演習は実習に活かせる内容であった。	4.4
7. シラバスは学習の見通しを立てる上で役立った。	4.0
8. 実習（指導体制、実習施設、時期、期間など）は充実していた。	4.1
9. 成績評価方法は適切であった。	4.4
<b>【学習支援・学習環境について】</b>	
1. 教室環境（広さ・机・いすの配置など）は適切であった。	3.9
2. 図書館の成書や雑誌および文献検索システムなどは充実していた。	4.1
3. ラーニングコモンズや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった。	4.1
4. 新生活情報システム（学内メール、成績閲覧等）は使いやすかった。	3.9
5. 自主学習に利用可能なPCや教材は十分揃っていた。	4.2
6. アメニティ（食堂、売店、ロッカーなど）は整備されていた。	3.1
7. 臨地実習の施設で、記録等に活用できるスペースがあった。	3.8
8. 学生生活における安全対策が充実していた。	3.9
9. チューターによるサポート（個別相談、進路相談など）は学生生活を円滑に送るうえで助けになった。	4.2
10. 教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在だった。	4.3
11. オフィスアワーを利用して役立った。	3.6
12. 教務学生課は、学生生活を円滑に送るうえで助けとなった。	4.1
13. 健康的な学生生活を送るうえで保健管理のための設備・サービスは充実していた。	4.1
14. 奨学金制度は充実していた。	3.9
15. 課外活動をサポートする環境が整っていた。	3.5
16. 就職や進学に関するサポートは充実していた。	3.9
17. 研修制度などは充実していた。	3.8
18. 別科助産学専攻での学生生活は充実していた。	4.3

## 6) 別科運営に関すること

### (1) 別科委員会等の開催状況

#### ①別科委員会

令和元年2月6日

・別科修了判定について

上記以外随時ミーティングを開催し、協議しながら教育を行った。

## 6. 大学院 看護学研究科 目的

本研究科は、地域医療を支える看護実践者、研究者の人材育成である。地域で生活する人々を包括的に支援し、安全で質の高い保健医療を提供していくために「優れた看護判断力と調整力をもって、QOLの向上をめざした長期的ケアができる高度専門職の育成」をめざす。地域包括ケアシステムの中で、療養者と家族に対する高度な看護実践と、ターミナルステージを含む長期的ケアが実践できる能力の修得を図る。具体的には、地域での健康増進、疾病予防、そして医療施設から在宅療養に向けた的確な退院支援、生活を重視した療養支援、終末期ケアなど、人々の QOL 向上をめざして、市民・療養者や家族に長期的に関わり続けることができる高度な実践力を有した看護職を育成する。高度な看護実践力として、理論と科学的根拠に裏付けされた的確な看護判断力、多職種と協働できる調整力、療養者の特性を踏まえた個別的で専門性の高い看護技術力を強化する。

また、臨床看護実践に基軸をおく研究力を高め、課題解決に向けた看護の知見を見出す能力を持ち、看護現場のリーダー・管理・教育などの役割を担える研究力を持った実践者を育成する。

## 7. 大学院 看護学研究科

### 博士前期課程

#### 1) 教育研究上の目的

- (1) 人間の尊厳を基盤とし、広い視野に立って看護学の深奥を究め、保健・医療・福祉環境の変化に創造的に対応できる専門知識と技術及び研究能力をもった人材を育成する。
- (2) 実践と研究を通して看護学の発展と島根県の保健・医療・福祉の向上に寄与する。

#### 2) アドミッションポリシー（入学者選抜方法）

- (1) 看護学の基礎的な能力を有する人
- (2) 倫理的感受性をもって保健・医療・福祉の状況を捉え、柔軟に行動できる人
- (3) 倫理的思考力や課題探求心を持ち、看護学の知識を自ら学んでいくことができる人
- (4) 看護学や看護実践の発展に寄与し、地域に貢献する意欲のある人

#### 3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

博士前期課程が目指す「島根県の健康課題を深く理解し、保健・医療・福祉の質の向上に向けて、主体的に探究できる健康能力を備え、地域医療を牽引する優れた看護実践者の育成」を達成するために、教育課程の変死絵には以下3点の特色を持たせた。

- (1) 島根県の健康課題全体を理解するため、基盤科目には必須科目として「島根の健康と長寿」を設けた専門領域においては、更に深く健康課題を探究し、地域を牽引する看護実践者を育成するため、設置の必要性を鑑み、島根県において特に課題とされる分野に直結する「がん看護学領域」「精神看護学領域」「高齢者リハビリテーション看護学領域」「地域保健学領域」「ウィメンズヘルス看護学領域」の5領域を置いた。
- (2) 現場の課題発見・探求・解決に取り組むために、基盤科目・専門科目ともにフィールドワークを含む演習科目を配置した。
- (3) 過疎・高齢化が進む中山間地域・離島に暮らす人々の複合的で困難な健康課題にアプローチができるよう、専攻する専門科目に加え、専攻以外の専門領域の科目を選択必修とした。

#### 4) ディプロマポリシー（修了要件に関する方針）

博士前期課程では、所定の期間在学し、所定の単位を修得するとともに、学位論文審査に合格し、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、修士（看護学）の学位を授与する

- (1) 高い倫理観と広い視野で看護の課題を科学的に探究し、患者及び家族・住民が自ら課題解決を図れるように、介入できる看護実践能力を備えている。

- (2) 長期的展望をもって、患者及び家族・住民の状況を踏まえた最適な保健・医療・福祉サービスを統合して提供できるよう、多職種他機関とのコーディネート能力を備えている。
- (3) 過疎・高齢化が進展する中山間地域・離島における健康課題に関心をもち、課題解決に向けて主体的に取り組む能力を備えている。
- (4) 問題意識をもって看護現象を分析し、論理的に探究できる研究力を備えている。

## 5) 教育課程の概要

表1 看護学研究科博士前期課程 教育課程一覧

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員		
			必修	選択	職名	氏名	
基盤科目	看護理論	1 春		2	教授	吉川 洋子	
	看護倫理特論	1 秋	2		教授	吉川 洋子	
	看護教育方法論	1 秋		2	准教授	松本玄智江	
					非常勤講師	金城 祥教	
	コンサルテーション論	1 秋		2	准教授	大森 眞澄	
					教授	石橋 照子	
	看護研究方法論	1 春	2		教授	石橋 照子	
					教授	佐藤 公子	
					非常勤講師	筒井真優美	
	保健統計学特論	1 春		2	教授	佐藤 公子	
	しまねの健康と長寿	1 春	2		教授	山下 一也	
	看護教育特論	1 春		2	教授	吉川 洋子	
准教授					松本玄智江		
准教授					岡安 誠子		
非常勤講師					山下 政俊		
保健医療福祉政策論 I	1 秋		2	教授	谷口 敏代		
健康栄養特論 I	1 秋		2	教授	名和田清子		
小計 (10 科目)	—	6	14	—	—		
専門科目	専門領域	がん看護学特論 I	1 春		2	教授	矢田 昭子
		がん看護学特論 II	1 秋		2	教授	矢田 昭子
		精神看護学特論 I	1 春		2	教授	石橋 照子
						准教授	大森 眞澄
		精神看護学特論 II	1 秋		2	教授	石橋 照子
						准教授	大森 眞澄
						非常勤講師	岡村 仁
		高齢者リハビリテーション看護学特論 I	1 春		2	教授	平松喜美子
						准教授	松本玄智江
						准教授	岡安 誠子
		高齢者リハビリテーション看護学特論 II	1 秋		2	教授	梶谷みゆき
						准教授	松本玄智江
准教授	岡安 誠子						
地域保健学特論 I	1 春		2	教授	吾郷美奈恵		
				教授	伊藤 智子		
				教授	佐藤 公子		

				教授	谷口 敏代
	地域保健学特論Ⅱ	1 秋	2	教授	山下 一也
				教授	秦 幸吉
				教授	中山 真美
				非常勤講師	小林 孝文
	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ	1 春	2	教授	秦 幸吉
				教授	三瓶 まり
				准教授	長島 玲子
				准教授	藤田小矢香
	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅱ	1 秋	2	教授	秦 幸吉
				教授	三瓶 まり
				准教授	長島 玲子
				准教授	藤田小矢香
	専門演習（ウィメンズヘルス看護学領域）			教授	秦 幸吉
				教授	三瓶 まり
				准教授	長島 玲子
				准教授	藤田小矢香
	専門演習（がん看護学）			教授	矢田 昭子
				教授	平野 文子
	専門演習（精神看護学領域）			教授	石橋 照子
				教授	吉川 洋子
				准教授	大森 眞澄
	専門演習（高齢者リハビリテーション看護学領域）	1 秋	2	教授	平松喜美子
				教授	梶谷みゆき
				准教授	松本玄智江
				准教授	岡安 誠子
				教授	吾郷美奈恵
				教授	伊藤 智子
				教授	佐藤 公子
				教授	谷口 敏代
				教授	中山 真美
				教授	山下 一也
	小計（11 科目）	—	2	20	—
研究	特別研究Ⅰ（ウィメンズヘルス看護学領域）			教授	秦 幸吉
				教授	三瓶 まり
				准教授	長島 玲子
				准教授	藤田小矢香
	特別研究Ⅰ（がん看護学）	1 通	2	教授	矢田 昭子
				教授	平野 文子
	特別研究Ⅰ（精神看護学領域）			教授	石橋 照子
				教授	吉川 洋子
				准教授	大森 眞澄
				教授	平松喜美子



	特別研究Ⅰ（高齢者リハビリテーション看護学領域）				教授	梶谷みゆき
					准教授	松本玄智江
					准教授	岡安 誠子
	特別研究Ⅰ（地域保健学領域）				教授	吾郷美奈恵
					教授	伊藤 智子
					教授	佐藤 公子
					教授	谷口 敏代
					教授	中山 真美
					教授	山下 一也
	特別研究Ⅱ（ウィメンズヘルス看護学領域）				教授	秦 幸吉
					教授	三瓶 まり
	特別研究Ⅱ（がん看護学）				准教授	長島 玲子
					准教授	藤田小矢香
	特別研究Ⅱ（精神看護学領域）				教授	矢田 昭子
					教授	平野 文子
					教授	石橋 照子
					教授	吉川 洋子
	特別研究Ⅱ（高齢者リハビリテーション看護学領域）	2 通	8		准教授	大森 眞澄
					教授	平松喜美子
					教授	梶谷みゆき
					准教授	松本玄智江
					准教授	岡安 誠子
					教授	吾郷美奈恵
					教授	伊藤 智子
	特別研究Ⅱ（地域保健学領域）				教授	佐藤 公子
					教授	谷口 敏代
					教授	中山 真美
					教授	山下 一也
	小計（2科目）	—	10	0	—	—
	合計（23科目）	—	18	34	—	—
修了要件及び履修方法						
<p>本課程研究科に2年以上在学し、基盤科目から6科目12単位以上（必修科目3科目6単位を含む）、専門科目から4科目8単位以上（研究テーマに関する領域の特論Ⅰおよび特論Ⅱの2科目4単位、他領域の特論Ⅰおよび特論Ⅱ（※）から1科目2単位以上、専門演習1科目2単位）、特別研究10単位、合計30単位以上を修得し、かつ、指導教員の指導下に修士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>※他領域の専攻者ががん看護学領域の科目を選択する場合には、「がん看護学特論Ⅰ」の選択とする。</p>						

## 博士後期課程

### 1) 教育研究上の目的

- (1) 人間の尊厳を基盤とし、広い視野と高邁な倫理観に立って、看護学の発展に寄与する研究を自律的に継続できる研究力と、質の高い大学教育及び継続教育を実現するための教育指導力を兼ね備えた人材を育成する。

- (2) 専門的知識・技術を基盤とした科学的根拠に基づく研究成果を産出し、看護学の発展と島根県及び我が国の保健・医療・福祉の向上に寄与する。

## 2) アドミッションポリシー（入学者選抜方法）

看護学研究科（博士後期課程）への入学を目指す人には、以下の能力や特性を備えた者を求める。

- (1) 看護学を専攻する看護専門職として必要な教養と素養、倫理観を備えている。
- (2) 看護学に関連する基礎的な研究能力を有し、自律して研究に取り組む姿勢を備えている。
- (3) 看護学の充実・発展・革新を志向し、専門的知識・技術と教育指導力を備えている。
- (4) 看護学教育者・研究者、継続教育や自律して研究が継続できる看護専門職者のいずれかを志望している。
- (5) 論理的思考と柔軟な発想をもち、真理を探究できる。
- (6) 看護実践や研究を通して取り組むべき研究課題を有していることが望ましい。

## 3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

以下を本研究科博士後期課程の教育課程編成の基本方針としている。なお、授業科目は、基盤科目、専門科目、研究科目に分類している。

- (1) 看護実践並びに看護学の発展に貢献する看護教育者・研究者の養成に必要な基礎的素養を涵養するために「看護研究特論Ⅰ」「看護研究特論Ⅱ」を必修の基盤科目として設定する。

本研究科の教育研究上の目標の一つに、「看護専門職者として必要な高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展に寄与する研究を自律して行える」をあげている。その基礎的素養を涵養するために「看護研究特論Ⅰ」「看護研究特論Ⅱ」を設定し、必修とした。

- (2) 基盤となる理論と知識を学修し、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育を展開できるよう「看護教育学研究」を必修の基盤科目として設定する。

本研究科の教育研究上の目標の一つに、「生涯にわたり研鑽の必要な看護教育学に精通し、高度な専門的知識・技術と教育指導力をもって質の高い教育を展開できる」をあげている。看護教育学を看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育に対応した看護教育を探究する学問領域としてコア科目に位置づけ、本課程修了後に目指す進路に対応できるよう「看護教育学研究」を必修科目として設定する。

- (3) 過疎・高齢化が進展する中山間地域・離島地域における健康課題を把握し、基盤となる知識や地域課題の特性を学修するために「看護研究特論Ⅰ」を必修とし、「島根と地域医療」「保健医療福祉政策論Ⅱ」、「健康栄養特論Ⅱ」を選択必修の基盤科目として設定する。

本研究科の教育研究上の目標の一つに、「過疎・高齢化が進展する中山間地域・離島地域における健康課題を把握し、健康栄養など地域のニーズに合った保健・医療・福祉施策の進展に向けた研究的取り組みができる」としている。本課程修了後に目指す進路並びに研究テーマに合わせて、基盤となる理論と知識の学修をするため「看護研究特論Ⅰ」を基盤科目の必修科目として設定する。また、「島根と地域医療」、「保健医療福祉政策論Ⅱ」、「健康栄養特論Ⅱ」を基盤科目として設定し、選択必修科目とした。

- (4) 専門領域の実践と研究の課題、用いられる研究方法について追究し、学位論文への取り組みへ導くよう「ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ」、「がん看護学特論Ⅲ」、「精神看護学特論Ⅲ」、「高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ」及び「地域保健学特論Ⅲ」の専門科目を設定する。

本研究科の教育研究上の目標の一つに「看護ケアが提供される場に関与する多様な要因を把握して、看護提供システムの改善・改革を目指した研究を指導できる」と「看護の専門分野における多様かつ複雑な問題の研究的解明とその成果を適用しつつ、多職種と連携し研究活動を推進できる」をあげている。修士課程の研究課題を発展させ専門領域の実践と研究の課題、用いられる研究方法について追究し、学位論文への取り組みへ導くよう「ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ」、「がん看護学特論Ⅲ」、「精神看護学特論Ⅲ」、「高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ」及び「地域保健学特論Ⅲ」の5科目を専門科目として設定し、選択できるようにした。

(5) 学位論文の研究に多様な視点で計画的に取り組むために、早期から専門科目と「後期特別研究」を設定する。

本課程において最終的な成果は、学位論文を作成することにある。その成果を標準修業年限の3年間で達成するためには、早期から計画的に取り組む必要があるため、専門科目を1年・通年科目、「後期特別研究」を1～3年・通年科目で設定した。

また、「後期特別研究」は履修する専門科目の分野において研究課題を設定し、主研究指導教員及び副研究指導教員による複数指導体制を基本とするが、他の研究指導教員による共同指導体制を加えることにより多様な視点から研究課題を助言・指導し、この教育研究上の目標を達成し、学位論文の研究への取り組みを導く。

#### 4) ディプロマポリシー（修了要件に関する方針）

本研究科博士後期課程のディプロマポリシーについては、以下のとおりとする。

大学院看護学研究科（博士後期課程）では、所定の期間在学し、所定の単位を取得するとともに、学位論文審査に合格し、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し博士（看護学）の学位を授与する。

- (1) 看護専門職者として必要な高い倫理観と論理的思考力をもち、看護学の発展に寄与する研究を自律して行える。
- (2) 生涯にわたり研鑽の必要な看護教育学に精通し、高度な専門的知識・技術と教育指導力をもって質の高い教育を展開できる。
- (3) 過疎・高齢化が進展する中山間地域・離島地域における健康課題を把握し、健康栄養など地域のニーズに合った保健・医療・福祉施策の進展に向けた研究的取り組みができる。
- (4) 看護ケアが提供される場に関与する多様な要因を把握して、看護提供システムの改善・改革を目指した研究を指導できる。
- (5) 看護の専門分野における多様かつ複雑な問題の研究的解明とその成果を適用しつつ、多職種と連携し研究活動を推進できる。

#### 5) 教育課程の概要

表4 看護学研究科博士後期課程 教育課程一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態
			必修	選択	
基盤科目 5 科目 10 単位 選択	看護研究特論Ⅰ ※	1 前	2		演習
	看護研究特論Ⅱ ※	1 前	2		講義
	看護教育学研究 ※	2 前	2		演習
	島根と地域医療 *	1 前		2	講義
	保健医療福祉政策論Ⅱ *	2 前		2	講義
	健康栄養特論Ⅱ *	2 前		2	講義
専門科目 1 科目 2 単位 選択	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅲ	1 通		2	演習
	がん看護学特論Ⅲ	1 通		2	演習
	精神看護学特論Ⅲ	1 通		2	演習
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ	1 通		2	演習
	地域保健学特論Ⅲ	1 通		2	演習
研究科目 1 科目 6 単位 必修	後期特別研究	1～3 通	6		演習

※：必修

\*：3科目のうち2科目を選択必修

専門科目は5科目から1科目選択必修とする。

## 教育・カリキュラムに関する取り組み

中期目標、中期計画に基づき、年度計画を立案し、教育の充実に向けて取り組んだ。年度計画と活動概要を表2に示す。

表5 年度計画と活動概要

年度計画	活動概要
島根県の保健医療現場における課題発見・探究・解決に取り組むため、基盤科目・専門科目共にフィールドワークを含む演習科目を実施し、地域医療を牽引する優れた看護実践者を養成する。	島根県の保健医療現場における課題発見・探究・解決に取り組むため、基盤科目・専門科目共に「島根の健康と長寿」「専門演習」におけるフィールドワークを含む演習科目を実施し、中山間地域や離島に出かけ健康課題を探索し解決方法を提案する看護実践力や研究力を高めた。現在、博士前期課程の学生はM1,M2とも全員が島根県内で病院や施設等で看護専門職として勤務しており、これらの身に着けた能力を看護実践者として活かすことができている。
社会的ニーズに応えるために、専門的知識・技術を基盤とした学生を受入れ、研究を自律的に継続できる研究力と、教育指導力を兼ね備えた人材を育成するための教育を行う。	専門的知識・技術を基盤とし、島根県内で看護職として勤務する学生を5名を受入れた。研究を自律的に継続できる研究力と、教育指導力を兼ね備えた人材を育成するため、島根県の健康課題全体を理解するための基盤科目や、現場の課題発見・探求・解決に取り組むためフィールドワーク、過疎・高齢化が進む中山間地域・離島に暮らす人々の複合的で困難な健康課題にアプローチができるよう専門外の科目を選択必修とするなど、研究を自律的に継続できる研究力と、教育指導力を兼ね備えた人材を育成するための教育を行った。
2020年4月に大学院看護学研究科博士前期課程に助産師の高度実践者養成コースを設置するための申請手続きを行う。	2020年4月に大学院看護学研究科博士前期課程高度実践者養成コース助産学領域を設置すべく申請手続きを行い、2019年8月に設置認可を受けた。
中山間地域・離島を中心とした在宅医療を支える人材不足に対応するため、高度な専門知識や技術、優れた判断力と調整力を身につけた看護職の養成が求められており、令和2(2020)年度を目途として、看護学研究科(博士前期課程)へ診療看護師(ナースプラクティショナー)養成の専攻分野を設置する。	2020年4月に大学院看護学研究科博士前期課程高度実践者養成コース診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域を設置すべく申請手続きを行い、2020年2月に設置認可を受けた。
大学院看護学研究科博士前期課程に「看護教育学領域」を追加し、看護教育機関及び看護継続教育を実践する機関と連携し、看護教育の質向上に向けた教育研究に取り組む。 また、大学院での教育研究活動をより豊かに推進していくため、入学前からの支援として「看護学研究科セミナー」を開催・公開する。	大学院学則変更の届出を行い、大学院看護学研究科博士前期課程に「看護教育学領域」を設置した。また、大学院での教育研究活動をより豊かに推進していくため、入学前からの支援として令和元年8月に第5回及び第6回「看護学研究科セミナー」を開催・公開した。



## カリキュラムの評価に関すること

カリキュラム評価に関して、学生の授業アンケート結果と対応策について記載する。

### 【学生の授業アンケート結果】

大学院看護学研究科在籍人数 14 名

アンケート回収数 13 名 (M1:5 名, M2:6 名, D1:2 名) (回収率 92.8%)

問 1. 大学院のカリキュラム (科目) について満足していますか。

- ① 満足している (4 名) ② どちらかといえば満足している (6 名)  
③ どちらかといえば満足していない (2 名) ④ 満足していない (0 名)

問 2. 「基盤科目」について授業は理解できましたか。(今年度基盤科目を履修した学生のみ)

- ① 理解できた (3 名) ② どちらかといえば理解できた (4 名)  
③ どちらかといえば理解できなかった (0 名) ④ 理解できなかった (0 名)

問 3. 「専門科目・専門領域」について授業は理解できましたか。

- ① 理解できた (4 名) ② どちらかといえば理解できた (7 名)  
③ どちらかといえば理解できなかった (2 名) ④ 理解できなかった (0 名)

問 4. 「特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 後期特別研究」の指導は適切でしたか。

- ① 役に立った (8 名) ② どちらかといえば役に立った (5 名)  
③ どちらかといえば役に立たなかった (0 名) ④ 役に立たなかった (0 名)

問 5. 授業の選択や履修にあたり、シラバスは役に立ちましたか。

- ① 役に立った (5 名) ② どちらかといえば役に立った (8 名)  
③ どちらかといえば役に立たなかった (2 名) ④ 役に立たなかった (0 名)

問 6. その他、大学院の教育・研究・学習環境に関して、何かご意見があればご記入ください。

<記述欄>

### 【教育・研究】

- ・ 学生の研究が円滑に行える様に教員から適切な指導・配慮があった。
- ・ 専門演習について、学生主体といっても前年度の様子などがわからず困惑した。
- ・ 仕事との両立が本当に大変だった。入学前に知っておけばよかった。
- ・ 研究手法ではなく人間性に関してひどい言葉を言われプライドを傷つけられトラウマになった。

### 【学習環境】

- ・ 院生室が寒いまたは暑いので、環境調整してほしい。(現在は対応していただき、快適に勉強や研究を進めることが出来ている。)
- ・ 出席必須な報告会・発表会・検討会・セミナー、出席任意の講演会等の連絡が早めに通達があり予定がたてやすかった。/早めに連絡が欲しい。
- ・ 夜遅くあるいは年末年始も施設を使用することができたのでよかった。要望を言うと図書館の本の貸し出しが可能であると有難い。
- ・ 時間外の書類提出や相談等対応いただき感謝している。
- ・ 今後も現場にしながら研究活動をしていくためにも、図書館が利用できるとよい
- ・ 学会参加・発表にあたって助成がありよかった。

### 【まとめ】

アンケート結果からカリキュラム全般については概ね満足を得られていた。「基盤科目」は研究や仕事でも生かせる内容で、看護の基礎の学び直しにつながるとの評価であった。一方「専門領域・専門科目」については理解が深まっているものの「どちらかといえば理解できない」との回答が見られ難しいと感じる学生もあった。研究指導については全員が役立つ適切な指導を受けたと回答し、自由記載からも感謝の言葉が多くみられ担当教員は学生の研究が円滑に進むよう指導を行っていた。

学習環境については教員・事務職員の対応、学会発表助成金、図書館や院生室の年末年始を含む夜間休日利用等に関しては高評価であった。学生は就業者が多く勤務等予定を立てるため今後も早めの連絡を行う必要がある。また、院生室の環境整備(寒さ暑さ対策)は引き続き対応が必要である。



## 【今後の課題】

2020年4月開設予定の高度実践者養成コースの助産学領域と診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域について、滞りなく完成年度を迎えられるよう運営していく必要がある。

また、高度実践者養成コースに公衆衛生看護学領域の設置と健康栄養学科の大学院も検討中である。益々大きくなり、定員も増加してくる。学生確保と質の良い教育課程の提供に努めていく必要がある。

## 8. 客員教授による特別講義

- 1) 酒向 正春 氏 (ねりま健育会病院 院長, ライフサポートねりま 管理者)
  - 演 題 目指すは人間回復! —誰もが自分らしく生活できる街づくり—
  - 日 時 令和元年 6 月 21 日 (金) 16:30~18:00
  - 場 所 本キャンパス 2 号館 3 階 大講義室
  - 参加者数 312 名  
(学生 244 名, 教職員 28 名, 学外 40 名)
  
- 2) 桑原 節子 氏 (淑徳大学 看護栄養学部栄養学科教授)
  - 演 題 がん患者の栄養アセスメント
  - 日 時 令和元年 10 月 23 日 (水) 10:40~12:10
  - 場 所 本キャンパス 2 号館 3 階 大講義室
  - 参加者数 240 名  
(学生 223 名, 教職員 17 名)
  
- 3) 岡本 喜代子 氏 (公益財団法人 東京都助産師会館 理事長)
  - 演 題 助産師の専門性と将来展望
  - 日 時 令和元年 11 月 6 日 (水) 10:40~12:10
  - 場 所 本キャンパス 2 号館 3 階 大講義室
  - 参加者数 254 名  
(学生 235 名, 教職員 18 名, 学外 1 名)

### Ⅲ. 学生入学支援活動

#### 1. オープンキャンパス

##### 1) 看護学志望者セミナー実施報告

###### (1) 目的

- ①看護学に関心のある人に対し、講義や看護技術体験により学生と交流する機会を提供し、本学進学への動機づけとする。
- ②本学や看護職への興味関心を高める。

(2) 実施日時：令和元年6月8日（土） 10:00～15:30

(3) 参加者：松江地区の公立高校生 69名、引率教員 6名

###### (4) 実施内容

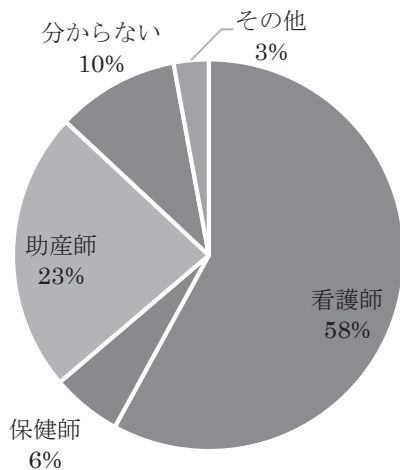
看護学科の紹介、学生生活について、講義（高橋恵美子准教授）、看護技術体験（バイタルサイン、沐浴、泡手浴、超音波を用いた観察（助産学））、大学祭見学

###### (5) アンケート結果

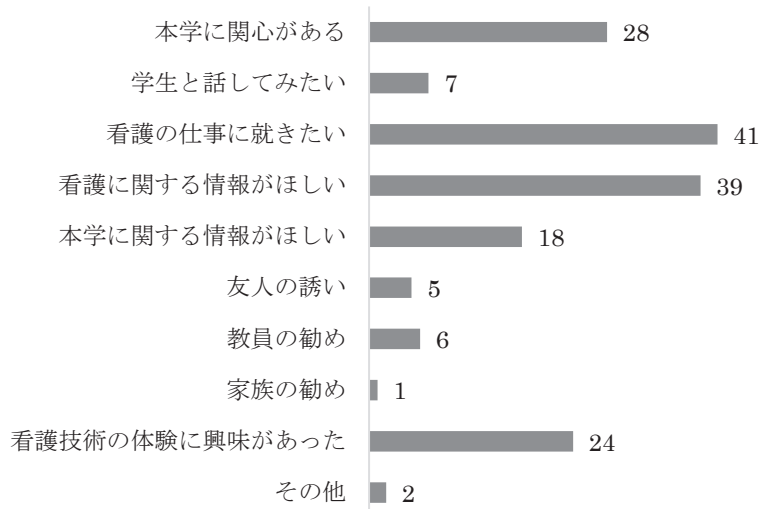
(n=69, 回収率 100%)

1. 所属 ・松江北 22名 (31.9%) 松江南 18名 (26.1%) 松江東 29名 (42.0%)  
 ・高校1年 14名 (20.3%) 2年 44名 (63.8%) 3年生 11名 (15.9%)

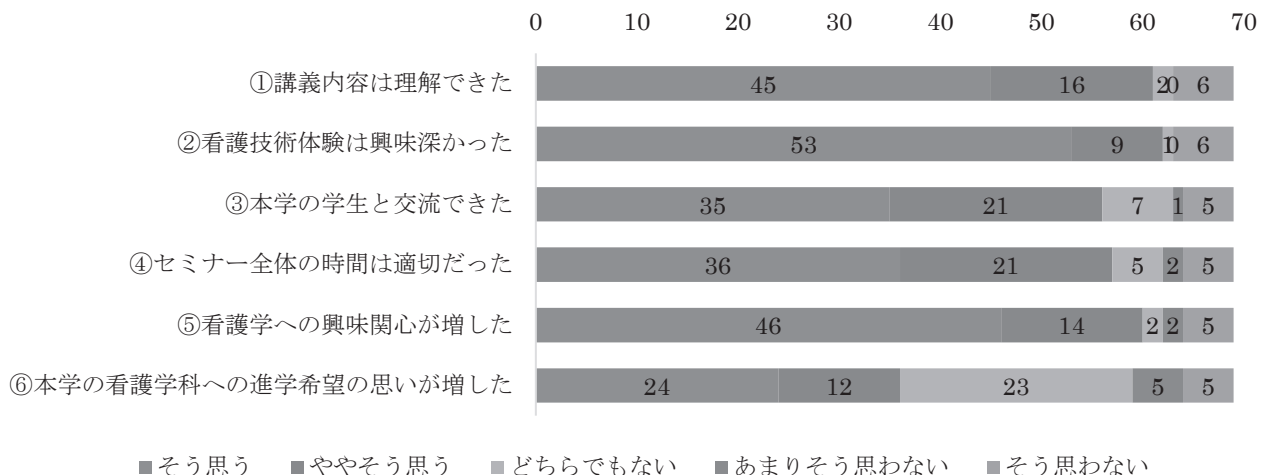
###### 2. 最も関心のある職種



###### 3. 参加理由（複数選択）



###### 4. セミナー内容について



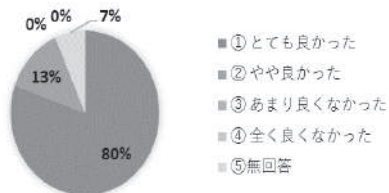
## (6) 課題

アンケートの結果から、模擬講義および看護技術体験に対する高校生の満足度は、非常に高い結果だった。また、看護学への興味が増したと回答した高校生も多く、本セミナーは、看護学に対する興味関心を喚起させる効果があったと言える。しかし一方で、本学への進学を希望する学生は、『ややそう思う』も合わせて5割程度であった。今後は、さらに本学の魅力を伝える工夫が必要であると考ええる。

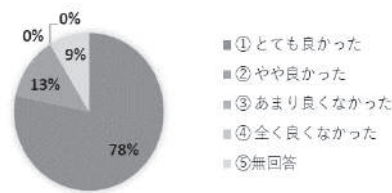
## 2) 管理栄養士セミナー実施報告

- (1) 実施日時：令和元年 10 月 5 日（土） 13:00～16:20
- (2) 参加者：高校生 91 名（保護者 32 名含む）
- (3) 実施内容：オリエンテーション（歓迎の挨拶，学科紹介，入試説明，キャリア・国試対策），現役の管理栄養士による講演，講演者とのフリートーク，キャンパスツアー，個別相談（希望者のみ）
- (4) アンケート結果
  - 1) 参加動機（複数回答；n=46）上位から
    - ①本学への関心（85%）
    - ②栄養関係の仕事に就きたい（80%）
    - ③健康栄養学科に関する情報が得たい（57%）
    - ④「現役の管理栄養士による講演」に興味があったから（40%）
  - 2) 管理栄養士セミナー開催の情報源（複数回答；n=46）上位から
    - ①学校からの紹介（72%）
    - ②本学ホームページ（17%）
    - ③友人・知人・家族・先輩から（9%）
    - ④ポスター・チラシ（2%）
  - 3) 関心のある資格（複数回答；n=46）上位から
    - ①管理栄養士（96%）
    - ②栄養教諭一種（30%）
    - ③食品衛生管理者（9%）
    - ④食品衛生監視員（4%）

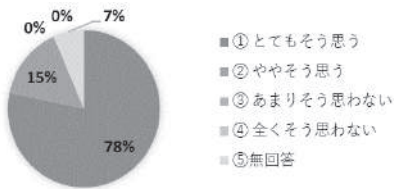
### 4) 全体の印象 (n=46)



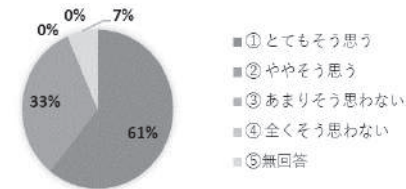
### 5) 「現役の管理栄養士による講演」の満足度 (n=46)



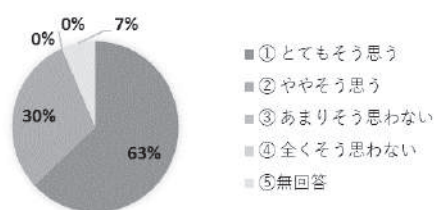
### 6) 栄養の仕事への関心の高まり (n=46)



### 7) 本学への興味の高まり (n=46)



### 8) 本学への進学希望の高まり (n=46)



### 9) 参考になったもの（複数回答；n=46）上位から

- ①現役の管理栄養士による講演（83%） ②学科説明，進路説明，入試説明（70%）  
 ③フリートーク（管理栄養士への質問）（28%） ④個別相談（4%）

### (5) 課題

今年度から10月の実施となったことから，参加人数は昨年よりも増加し，59名の学生，保護者32名の計91名の参加で実施した（昨年度：学生43名，保護者15名）。アンケート結果からは管理栄養士の仕事への関心や，本学への進学への気持ちが上がったとの結果であった。次年度以降も内容を検討しつつ，継続開催が必要と思われる。

## 3) オープンキャンパス実施報告

### (1) 目的

- ①体験型イベントや学生との交流を通して，参加者の本学や看護職・管理栄養職への興味関心を高める。  
 ②本学での学生生活や入試に関する情報を提供し，参加者の本学への進学を動機づける。  
 ③看護栄養学部および別科助産学に関する様々な相談に応じる。

(2) 実施日時：令和元年 7月13日(土) 13:00～16:30

### (3) 実施結果

#### 【看護学科】

①参加者 290名（保護者81名含む）

#### ②実施内容

- ・副学長挨拶，学科説明，進路説明，入試説明，学生寮・奨学金制度等の説明
- ・看護実技体験：バイタルサイン，超音波検査
- ・学生企画カフェ（希望者）・キャンパスツアー（希望者）・個別面談（希望者）

#### ③アンケート結果

参加者数 250名 アンケート回収数 137名（回収率 54.8%）

#### 1) 回答者の内訳

高校生98名（71.5%），大学生27名（19.7%），その他9名（6.5%）

#### 2) 参加動機【複数回答可】 上位3つ

	回答数	割合
本学への関心	104	75.9%
看護の仕事に就きたい	87	63.5%
本学に関する情報収集	70	51.6%

#### 3) オープンキャンパス開催の情報源 上位3つ

	回答数	割合
本学のホームページ	60	43.8%
学校からの紹介	50	36.5%
友人・知人・家族・先輩から	24	17.5%



4) 関心のある資格【複数回答可】

	回答数	割合
看護師	108	78.8%
保健師	23	16.8%
助産師	61	44.5%
まだわからない	4	2.9%

5) 参考になった内容【複数回答可】

	回答数	割合
看護学科長の話	80	58.4%
学生の発表	94	65.7%
今年度の入試	57	41.6%
プレセミナー（自由参加）	4	2.9%
キャンパスツアー（自由参加）	16	11.7%
学生カフェ（自由参加）	33	24.1%
教員の個別相談（自由参加）	4	2.9%
その他	6	4.4%

6) 看護技術体験への参加（参加者のみ n=85）

とても良かった…74名(87.1%), やや良かった…8名(9.1%), 無回答…3名(3.5%)

【健康栄養学科】

①参加者 164名（保護者51名含む）

②実施内容

- ・副学長あいさつ, 学科説明, 進路説明, 入試説明, 学生寮・奨学金制度等の説明
- ・体験講義: 人体構造学, 臨床栄養学
- ・学生企画カフェ（希望者）・キャンパスツアー（希望者）・個別相談（希望者）

③アンケート回収数 81件（回収率71.7%）

④アンケート結果

1) 回答者の内訳

高校生3年生48名(59%), 高校2年生26名(32%), 高校1年生7名(9%)

2) 参加動機（複数回答；n=81）上位から

- ①本学への関心(74%) ②管理栄養士の仕事に就きたい(63%)
- ③本学に関する情報が得たい(42%) ④管理栄養士に関する情報が得たい(40%)

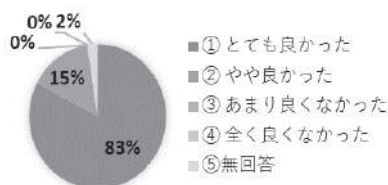
3) オープンキャンパス開催の情報源（複数回答；n=81）上位から

- ①学校からの紹介(38%) ②本学ホームページ(35%)
- ③友人・知人・家族・先輩から(11%) ④ポスター・ちらし(10%)

4) 関心のある管理栄養士の進路（複数回答；n=81）上位から

- ①病院(53%) ②学校(栄養教諭)(37%) ③企業(36%) ④福祉施設(27%)

5) 全体の印象(n=81)

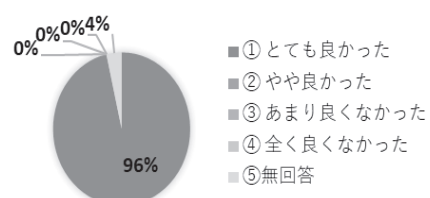


6) 体験講義「人体構造学」の満足度(n=81)



7) 体験講義「臨床栄養学」の満足度(n=81)

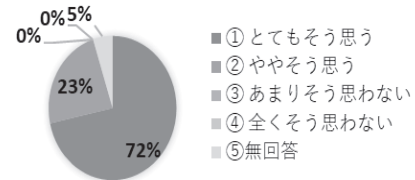
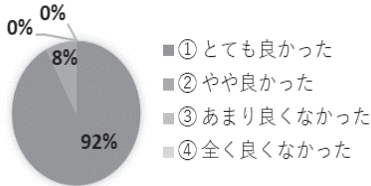
8) 学生カフェの満足度(n=28)





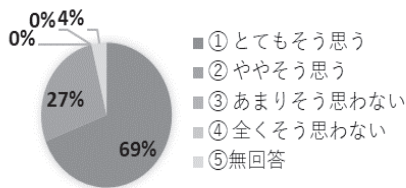
9) キャンパスツアーの満足度 (n=13)

10) 栄養の仕事への関心の高まり (n=81)



11) 本学への興味の高まり (n=81)

12) 本学への進学希望の高まり (n=81)



13) 参考になったもの(複数回答; n=81) 上位から

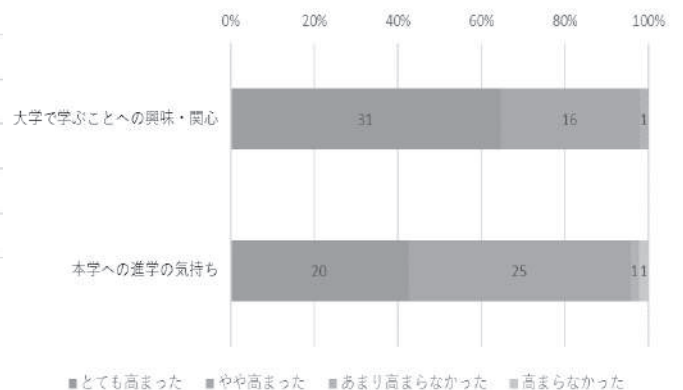
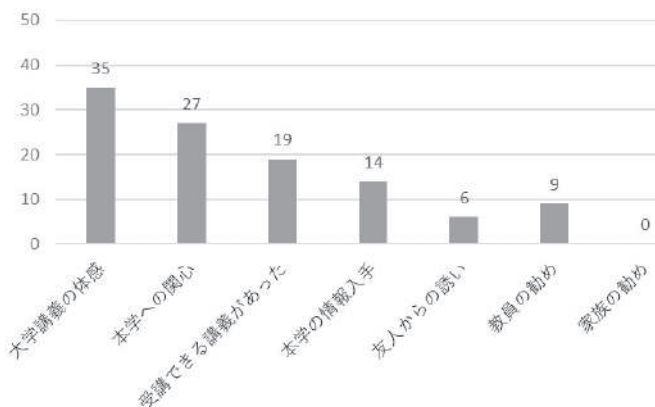
- ① 健康栄養学科長の話 (85%)
- ② 今年度の入試について (41%)
- ③ 学生カフェ (12%)
- ④ キャンパスツアー (10%)

【総評】

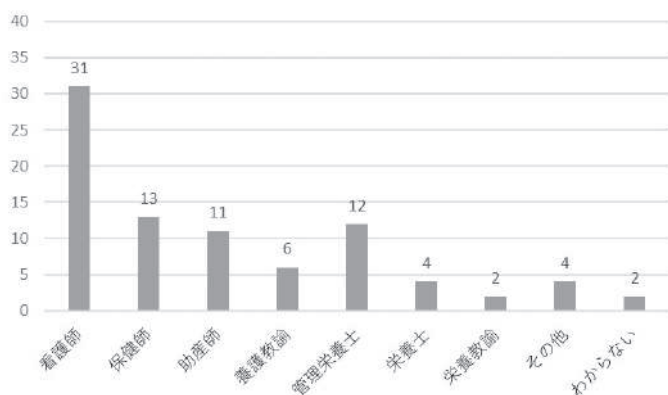
今年度から年1回の実施となったことから、参加人数は昨年よりも増加し、113名の学生、保護者51名の計164名の参加で実施した。アンケート結果からはオープンキャンパス全体の印象も良く、管理栄養士の仕事への関心、受験へのモチベーションが高まったとの結果であった。今年度から実施した体験講義と学生カフェは、大学生活が想像できるため、どちらも満足度が非常に高く好評であった。また、改善点に関して委員からの意見など聴取し次回への開催へつなげたいと考える。

4) アカデミック・インターンシップ実施報告

- (1) 日時 令和元年12月23日(月)、24日(火)
- (2) 参加状況 参加高校13校、参加人数52名、受講者の延べ人数84名
- (3) 実施内容 開講科目: 15科目
- (4) アンケート結果: 回収数48(回収率92.3%)
  - 1) 該当学年
    - 高校1年生14名、高校2年生34名
  - 2) オープンキャンパスへの参加の有無
    - あり...19名 なし...29名
  - 3) 参加理由(複数回答可)
  - 4) 参加した感想



5) 関心を持っている資格（複数回答）



6) 感想（自由記述）

①講義について

- ・大学の講義を体験することができた。
- ・大学のイメージを持つことができた。
- ・高校生でも理解でき、面白かった。
- ・たくさんの知識を得ることができた。
- ・グループ活動の多さから学生同士いろんな関わりができると思った 等

②学生について

- ・本学学生への好感
- ・遅刻者の多さ、受講態度の悪さ 等

③その他

- ・進学への意欲が増した。
- ・本学への関心が高まった。

7) 講義を担当いただいた科目の先生方からの感想

- ・私語はなく、高校生は真剣な面持ちで長時間の講義を聴いていた。
- ・在学生が、講義前に高校生に気さくに話しかけるなど、高校生を温かく迎える雰囲気を感じられた。
- ・実験科目では、高校生は最初実験室の端で見学していたが、実験台の間近まで認めたところ、興味深く実験操作を見ているようだった。

【総評】

今年度初めての取り組みであったが、講義を担当いただいた先生方のご協力により参加者からは概ね好評であった。

開催両日は、県内高校の約半数が学期中であり、参加できる高校生が限られた。次年度は、高校の年間予定と本学の受講できる講義を検討の上、開催日時と開催内容を検討する必要がある。

## 2. 入学者の選抜方針・方法

### 1) 募集人員

#### (1) 看護栄養学部

学科	入学定員	募 集 人 員							
		一般入試				推薦入試（一般推薦）			
		<注1>	社会人・ 学士入試	帰国子女 入試	私費外国 人留学生 入試	<注2>	専門高校 ・総合学 科推薦	地域 特別A	地域 特別B
看護学科	80名	40名	3名以内	1名以内	1名以内	40名	5名以内	2名以内	5名以内
健康栄養 学科	40名	20名	1名以内	1名以内	1名以内	20名	5名以内	—	—

注1 「一般入試」の募集人員には、「社会人・学士入試」「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」の募集人員を含む。

注2 「推薦入試（一般推薦）」の募集人員には、「推薦入試（専門高校・総合学科推薦）」及び「推薦入試（地域特別A・B）」（看護学科のみ）の募集人員を含む。

#### (2) 別科助産学専攻

募 集 人 員 (12名)		
一般入試		
	島根特別入試	推薦入試
12名	6名以内	2名以内

※別科助産学専攻は女子に限る。

### 2) 選抜方法

#### (1) 看護栄養学部

##### ア. 一般入試

(ア) 個別試験日 令和2年2月25日（火）又は26日（水）のいずれか1日

(イ) 試験科目等

##### ① 選抜方法

##### 【看護学科】

大学入試センター試験の受験を要する 教科・科目		個別試験	備 考
教科	科目選択方法		
国語	「近代以降の文章」必須	*面 接	「数学」「理科②」「地理歴史・公民」について、2科目以上受験した場合、「数学」は最高得点
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のいずれか1科目を選択。		

理科	理科①【「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」】から2科目を選択。又は、理科②【「物理」「化学」「生物」「地学」】から1科目を選択。	の1科目を合否判定に使用しますが、「理科②」「地理歴史・公民」は、第1解答科目(注)を合否判定に使用します。  (第2解答科目は合否判定に使用しません。)
外国語	「英語」(リスニングテストを課す)必須	
地理歴史・公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理, 政治・経済」のいずれか1科目を選択。	

\*調査書を評価の参考とする。

【健康栄養学科】

大学入試センター試験の受験を要する 教科・科目		個別試験	備考
教科	科目選択方法		
国語	「近代以降の文章」必須	*面接	「数学」「理科②」「地理歴史・公民」について、2科目以上受験した場合、「数学」は最高得点の1科目を合否判定に使用しますが、「理科②」「地理歴史・公民」は、第1解答科目(注)を合否判定に使用します。  (第2解答科目は合否判定に使用しません。)
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のいずれか1科目を選択。		
理科	理科①【「化学基礎」「生物基礎」】の2科目。又は、理科②【「化学」「生物」】から1科目を選択。		
外国語	「英語」(リスニングテストを課す)必須		
地理歴史・公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理, 政治・経済」のいずれか1科目を選択。		

\*調査書を評価の参考とする。

注)「理科②」「地理歴史・公民」の試験時間に2科目を受験する場合、解答順に、前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」と呼びます。

◆理科の選択パターンごとの合否判定方法

A「理科①から2科目選択」した場合 → 理科①から2科目選択した科目で合否判定

B「理科②から1科目選択」した場合 → 理科②から1科目選択した科目で合否判定



C「理科①から2科目及び理科②から1科目選択」した場合 → 高得点の科目で合否判定

D「理科②から2科目選択」した場合 → 理科②から2科目選択した科目のうち、第1解答科目で合否判定

② 配点

学科	大学入試センター試験					個別試験	合計
	国語	数学	理科	外国語	地理歴史・公民	*面接	
看護学科	100	100	100	100	100	100	600
健康栄養学科	100	100	100	100	100	100	600

\*調査書を、評価の参考とします。

備考1 「外国語（英語・250点満点）」の得点を100点満点に換算して利用します。

イ. 推薦入試（一般推薦・地域特別A・B（看護学科のみ））

(ア) 試験日 令和元年12月7日（土）又は8日（日）のいずれか1日

(イ) 試験科目等

① 選抜方法

【看護学科】

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目		個別試験	備考
教科	科目選択方法	面接	「数学」「理科②」「地理歴史・公民」について、2科目以上受験した場合、「数学」は最高得点の1科目を合否判定に使用しますが、「理科②」「地理歴史・公民」は、第1解答科目（注）を合否判定に使用します。  （第2解答科目は合否判定に使用しません。）
国語	「近代以降の文章」必須		
外国語	「英語」（リスニングテストを課す）必須		
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」		
理科	理科①【「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」】から2科目を選択。又は、理科②【「物理」「化学」「生物」「地学」】から1科目を選択。		
地理歴史・公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」		

【健康栄養学科】

大学入試センター試験の受験を要する 教科・科目		個別試験	備考
教科	科目選択方法	面接	「数学」「理科②」「地理歴史・公民」について、2科目以上受験した場合、「数学」は最高得点の1科目を合否判定に使用しますが、「理科②」「地理歴史・公民」は、第1解答科目（注）を合否判定に使用します。（第2解答科目は合否判定に使用しません。）
理科	理科①【「化学基礎」「生物基礎」】の2科目。又は、理科②【「化学」「生物」】から1科目を選択。必須		
国語	「近代以降の文章」		
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」		
外国語	「英語」（リスニングテストを課す）		
地理歴史・公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」		

注) 「理科②」「地理歴史・公民」の試験時間に2科目を受験する場合、解答順に、前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」と呼びます。

◆理科の選択パターンごとの合否判定方法

A「理科①から2科目選択」した場合 → 理科①から2科目選択した科目で合否判定

B「理科②から1科目選択」した場合 → 理科②から1科目選択した科目で合否判定

C「理科①から2科目及び理科②から1科目選択」した場合 → 高得点の科目で合否判定

D「理科②から2科目選択」した場合 → 理科②から2科目選択した科目のうち、第1解答科目で合否判定

② 配点

【看護学科】

大学入試センター試験			個別試験	書類審査	合計
国語	外国語	選択科目	面接	推薦書・調査書・志願理由書	
600（注）			300	100	1000

注) 大学入試センター試験は、国語（100点）・外国語（英語250点を100点に換算）、選択科目（100点）の合計300点を600点に換算し利用します。

【健康栄養学科】

大学入試センター試験		個別試験	書類審査	合 計
理科	選択科目（3科目）	面接	推薦書・調査書・志願理由書	
400（注）		300	100	800

注) 大学入試センター試験は、理科（100点）・選択科目（3科目で300点、外国語は英語250点を100点に換算）の合計400点です。

ウ. 推薦入試（専門高校・総合学科推薦）

(ア) 試験日 令和元年12月7日（土）

(イ) 試験科目等

試験科目等	配 点	
	看護学科	健康栄養学科
小論文	400点	200点
面接	400点	200点
志願理由書等	200点	100点

エ. 社会人・学士入試, 帰国子女入試

(ア) 試験日 令和元年12月7日（土）

(イ) 試験科目等

試験科目等	配 点	
	看護学科	健康栄養学科
小論文	400点	200点
面接*	400点	400点
志願理由書等	200点	100点

※健康栄養学科は口頭試問を含みます。

オ. 私費外国人留学生入試

(ア) 試験日 令和2年1月28日（火）

(イ) 試験科目等

試験科目等	配 点	
	看護学科	健康栄養学科
面接	400点	400点
日本留学生試験	400点	200点
志願理由書等	200点	100点

(2) 別科助産学専攻

ア. 一般入試

(ア) 試験日 令和元年11月23日（土・祝）

(イ) 試験科目等

試験科目等	配点
学力試験（母性・小児分野・基礎看護学分野からの出題）	200点
面接	100点

イ. 島根特別入試

(ア) 試験日 令和元年9月21日（土）

(イ) 試験科目等

試験科目等	配点
小論文	100点
母性・小児看護学分野に関する口頭試問	50点
面接	50点
志願理由書等	100点

ウ. 推薦入試

(ア) 試験日 令和元年9月21日（土）

(イ) 試験科目等

試験科目等	配点
面接	100点
志願理由書等	100点

### 3. 受験者・合格者・入学者・在学者の推移

令和元年度に実施した令和2年度入学者選抜試験において、看護栄養学部看護学科の一般入試では、志願者数228名（昨年度：119名）、受験者数は187名（昨年度：84名）であり、前年に比し大幅な増加となった。志願者を出身県別に見ると、北海道から鹿児島県まで1都1道2府16県（昨年：1都1道2府16県）から志願者が集まった。なお、社会人・学士入試の志願者は1名（昨年度：3名）受験者1名、帰国子女入試の志願者数は0名（昨年度：1名）受験者1名、私費外国人留学生入試は0名（昨年度：0名）であった。

看護栄養学部健康栄養学科の一般入試においては、志願者数は87名（昨年度：65名）、受験者数は66名（昨年度：51名）となり、前年度と比して増加した。また、社会人・学士入試の志願者は0名（昨年度：1名）、帰国子女入試の志願者数は0名（昨年度：0名）、私費外国人留学生入試は0名（昨年度：0名）であった。志願者を出身県別に見ると、茨城県から宮崎県まで1府23県（昨年度：1府22県）から志願者が集まった。

看護栄養学部看護学科の推薦入試では、県内高校27校から85名（昨年度：30校84名）の出願があり、入試区分別にみると一般推薦枠は17校71名（昨年度：71名）、専門高校・

総合学科推薦枠は6校10名(昨年度:8名),地域特別枠Aは2校2名(昨年度:2名),地域特別枠Bは2校2名(昨年度:3名)の出願があった。

看護栄養学部健康栄養学科の推薦入試では,県内高校16校から24名(昨年度:23校31名)の出願があり,入試区分別にみると一般推薦枠は11校16名(昨年度:24名),専門高校・総合学科推薦枠は5校8名(昨年度:7名)の出願があった。

別科助産学専攻の一般入試では,志願者数20名(昨年度42名),受験者数19名(昨年度38名)であった。また,島根特別入試では,志願者数19名,受験者数18名であった。推薦入試(学内推薦)では,志願者数は8名,受験者数6名であった。



## 4. 受験状況と合格者の現状と課題

### 看護栄養学部看護学科

	募集定員 (A)	出願者数		受験者数		合格者数		入学手続者数		入学辞退者数		追加合格者数	入学者数				志願倍率 (B/A)	実質倍率 (C/(D+F))	入学手続率 (E/D)	
		(B)	県内	(C)	県内	(D)	県内	(E)	県内	県内	県内		県内	男	女					
一般入試 (合計)	40	229	71	188	43	51	7	47	6	0	0	0	(0)	47	6	5	42	5.73	3.69	92.2%
一般入試	40	228	70	187	42	51	7	47	6	0	0	0	(0)	47	6	5	42	5.70	3.67	92.2%
社会人・学士入試	3名以内	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	---	---	---
帰国子女入試	1名以内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	---	---	---
私費外国人留学生入試	1名以内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	---	---	---
推薦入試 (合計)	40	85	85	85	85	40	40	40	40	0	0	0	(0)	40	40	2	38	2.13	2.13	100.0%
推薦入試 (一般推薦)	40	71	71	71	71	30	30	30	30	0	0	0	(0)	30	30	1	29	1.78	2.37	100.0%
推薦入試 (専門学校・総合学科推薦)	5名以内	10	10	10	10	6	6	6	6	0	0	0	(0)	6	6	0	6	---	1.67	100.0%
推薦入試 (地域特別A)	2名以内	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	(0)	2	2	0	2	---	1.00	100.0%
推薦入試 (地域特別B)	5名以内	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	(0)	2	2	1	1	---	1.00	100.0%
合計	80	314	156	273	128	91	47	87	46	0	0	0	0	87	46	7	80	3.93	3.00	95.6%

※1. 「一般入試」の募集定員には、「社会人・学士入試」「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」の募集定員を含みます。

※2. 「推薦入試 (一般推薦)」の募集定員には、「推薦入試 (専門学校・総合学科推薦)」の募集定員、「推薦入試 (地域特別A)」の募集定員及び「推薦入試 (地域特別B)」の募集定員を含みます。

### 看護栄養学部健康栄養学科

	募集定員 (A)	出願者数		受験者数		合格者数		入学手続者数		入学辞退者数		追加合格者数	入学者数				志願倍率 (B/A)	実質倍率 (C/(D+F))	入学手続率 (E/D)	
		(B)	県内	(C)	県内	(D)	県内	(E)	県内	県内	県内		県内	男	女					
一般入試 (合計)	20	87	18	66	6	23	2	21	2	0	0	0	(0)	21	2	2	19	4.35	2.87	91.3%
一般入試	20	87	18	66	6	23	2	21	2	0	0	0	(0)	21	2	2	19	4.35	2.87	91.3%
社会人・学士入試	1名以内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	---	---	---
帰国子女入試	1名以内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	---	---	---
私費外国人留学生入試	1名以内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	---	---	---
推薦入試 (合計)	20	24	24	24	24	20	20	20	20	0	0	0	(0)	20	20	1	19	1.20	1.20	100.0%
推薦入試 (一般推薦)	20	16	16	16	16	15	15	15	15	0	0	0	(0)	15	15	0	15	0.80	1.07	100.0%
推薦入試 (専門学校・総合学科推薦)	5名以内	8	8	8	8	5	5	5	5	0	0	0	(0)	5	5	1	4	---	1.60	100.0%
合計	40	111	42	90	30	43	22	41	22	0	0	0	0	41	22	3	38	2.78	2.09	95.3%

※1. 「一般入試」の募集定員には、「社会人・学士入試」「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」の募集定員を含みます。

※2. 「推薦入試 (一般推薦)」の募集定員には、「推薦入試 (専門学校・総合学科推薦)」の募集定員を含みます。

※3. 入学手続率は追加合格者を除いた数値です。

### 別科助産学専攻

	募集定員 (A)	出願者数		受験者数		合格者数		入学手続者数		入学辞退者数		追加合格者数	入学者数				志願倍率 (B/A)	実質倍率 (C/(D+F))	入学手続率 (E/D)	
		(B)	県内	(C)	県内	(D)	県内	(E)	県内	県内	県内		県内	男	女					
一般入試	12	20	7	19	7	5	1	4	1	0	0	1	(1)	5	2	0	5	1.67	3.80	80.0%
推薦入試	2名以内	8	7	6	5	2	1	2	1	0	0	0	(0)	2	1	0	2	---	3.00	100.0%
島根特別入試	6名以内	19	12	18	11	6	4	5	3	0	0	0	(0)	5	3	0	5	---	3.00	83.3%
合計	18	47	26	43	23	13	6	11	5	0	0	1	1	12	6	0	12	2.61	3.31	84.6%

※1. 一般入試の募集定員(12名)には、推薦入試(2名以内)及び島根特別入試(6名以内)を含みます。

### 出身地別入学人数 (出雲キャンパス)

看護学科	健康栄養学科	別科
北海道	2	
青森県		
岩手県		
宮城県		
秋田県		
山形県		
福島県		
茨城県		
栃木県		
群馬県		
埼玉県		
千葉県		
東京都		
神奈川県		
新潟県		
山梨県		

看護学科	健康栄養学科	別科
長野県		
富山県		
石川県		
福井県	1	
岐阜県	1	
静岡県	2	
愛知県	1	1
三重県	1	
滋賀県		
京都府	6	
大阪府	2	
兵庫県	4	7
奈良県		
和歌山県		
鳥取県	3	4
島根県	46	22

看護学科	健康栄養学科	別科
岡山県	3	1
広島県	8	2
山口県	3	
徳島県	1	
香川県		
愛媛県	1	2
高知県		
福岡県		
佐賀県		
長崎県	1	1
熊本県		
大分県	1	1
宮崎県		
鹿児島県	1	
沖縄県		1
合計	87	41

## 5. 科目等履修生

看護栄養学部では、春学期（前期）、秋学期（後期）とも出願者がなかった。

大学院看護学研究科博士前期課程においては、春学期（前期）1名1科目の出願があり、科目履修が認められた。

## 6. 高大連携

### 1) 出前講座

	開催日	高校名	講座名	場所	講師	参加人数
1	6/8(土)	島根県立 松江北高校 松江南高校 松江東高校	講義 (看護学志望者セミナー)	島根県立 大学 出雲 キャンパス	高橋准教授	69人
2	7/24 (水)	松江市立女子 高校	看護:災害多発時代に、 どうしたら自分や 家族を守れるのか  栄養:おいしく食べる ための感覚生理学	松江市立 女子高校	渡邊講師 直良教授	61人
3	10/28 (月)	島根県立出雲 商業高校	大学説明・授業説明、 がんと食事について	出雲商業 高校	阿川准教授 細川准教授	33人
4	11/7 (木)	島根県立大田 高校	休息の援助技術「人の 睡眠」	大田高校	平井准教授	73人
5	12/13 (金)	島根県立浜田 高校定時制	食育講演会	浜田高校 定時制	今中教授	60人

### 2) 大学見学会

	開催日	高校名	内容	学年	参加人数	
					看護	栄養
1	10/10 (木)	島根県立 安来高校	在学生との交流 学科説明(看護学科・健康栄養学科) キャンパスツアー	2年	22人	7
2	10/23 (水)	島根県立 矢上高校 大東高校	学科説明(看護学科・健康栄養学科) 講義体験【女性論】 キャンパスツアー 学食体験	1年	10人	
				2年	6名	7名

3	11/12 (火)	島根県立 三刀屋高校	学科説明(看護学科・健康栄養学科) 講義体験【ヘルスアセスメント】 キャンパスツアー	2年	20人	6人
4	11/15 (金)	島根県立 隠岐島前高校	学科説明(看護学科・健康栄養学科) キャンパスツアー	1年	11人	
5	12/11 (水)	島根県立 松江農林高校	学科説明(看護学科・健康栄養学科) 在校生との交流 キャンパスツアー	1年	18人	26人

## 7. 大学院 入学選抜・方法・現状と課題

### 1) 募集人員

- (1) 大学院看護学研究科(看護学専攻博士前期課程・後期課程)  
 博士前期課程 8名(一般選抜・社会人特別選抜・NP)  
 研究者養成コース  
 高度実践者養成コース(助産学領域, 診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域)  
 博士後期課程 2名(一般選抜)

### 2) 選抜方法

- 個別試験日 令和1年9月6日(金)(A日程)  
 令和2年3月6日(金)(C日程)

- (1) 大学院看護学研究科(看護学専攻博士前期課程)

#### ① 一般選抜(A日程)

##### a. 試験科目等

- (ア)小論文 配点 100点  
 (イ)個別試験(面接) 配点 100点  
 (ウ)書類審査(成績証明書等) 配点 100点

#### ② 社会人特別選抜(A日程)

##### a. 試験科目等

- (ア)小論文 配点 50点  
 (イ)個別試験(面接) 配点 150点  
 (ウ)書類審査(成績証明書等) 配点 100点

#### ③ 診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域(C日程)

##### a. 試験科目等

- (ア)小論文Ⅰ 配点 50点  
 (イ)小論文Ⅱ 配点 50点  
 (ウ)個別試験(面接) 配点 100点  
 (エ)書類審査(成績証明書等) 配点 100点

- (2) 大学院看護学研究科(看護学専攻博士後期課程)

#### ① 一般選抜(A日程)

a. 試験科目等

(ア) 学力試験 (英語)	配点 100 点
(イ) 口述試験 (面接)	配点 100 点
(ウ) 書類審査 (修士論文及び研究計画書等)	配点 100 点

3) 受験状況と合格者の現状と課題

大学院看護学研究科 (博士課程前期)

試験区分	年度	定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	実質倍率 (C/D)
		(A)	(B)	県内	(C)	県内	(D)	県内		
一般選抜 (研究者養成コース)	H31		1	1	1	1	1	1	1	
	R2		1	1	1	1	1	1	1	
社会人特別選抜 (研究者養成コース)	H31		4	4	4	4	4	4	4	
	R2		4	4	4	4	4	4	3	
一般選抜 (助産学コース)	H31	R2から開設								
	R2	2	4	4	4	4	2	2	2	2.0
社会人特別選抜 (助産学コース)	H31	—	—	—	—	—	—	—	—	
	R2	—	—	—	—	—	—	—	—	
診療看護師 (NP) コース	H31	R2から開設								
	R2	2	4	4	4	4	3	3	3	1.3
合計	H31	5	5	5	5	5	5	5	5	1.0
	R2	8	13	13	13	13	10	10	9	1.3

(注1) 倍率は小数点第2位四捨五入

大学院看護学研究科 (博士課程後期)

試験区分	年度	定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	実質倍率 (C/D)
		(A)	(B)	県内	(C)	県内	(D)	県内		
一般選抜	H31	2	2	2	2	2	2	2	2	1.0
	R2	2	3	3	3	3	3	3	3	1.0
合計	H31	2	2	2	2	2	2	2	2	1.0
	R2	2	3	3	3	3	3	3	3	1.0

(注1) 倍率は小数点第2位四捨五入

## IV. 学生生活支援活動

### 1. 在籍学生数

			学年度始 在籍者数	学年度末 在籍者数	退学者数
看護 栄養 学部	看護学科	1年次生	87	83	4
		2年次生	78	78	0
		3年次生	88	86	2
		4年次生	78	78	0
		計	331	325	6
	健康栄養 学科	1年次生	40	40	0
		2年次生	42	42	0
計		82	82	0	
別 科	助産学専攻		16	16	0
大 学 院	看護学研究科博士前期課程 1年次生		5	5	0
	看護学研究科博士前期課程 2年次生		7	7	0
	看護学研究科博士後期課程 1年次生		2	2	0
合 計			443	437	6

### 2. カリキュラムガイダンス

新入生については、看護栄養学部、別科助産学専攻ともに入学時オリエンテーションとして集中的に大学生活全般にわたるガイダンスを実施した。新2年生、新3年生、新4年生は、目的を「進級年度のカリキュラム・年次計画について理解し、主体的に学修に取り組む心構えができる」とし、秋学期終了時の同一日で計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の予防および拡散防止対策のため延期し、年度内に通知する必要がある内容についてはメールで周知した。

内容は、学生生活と学修の心構え、履修と年間計画、教育課程や国家試験、健康管理、履修登録などである。新入生については、さらに学則、諸規定、学生生活、施設利用、授業料

や奨学金などである。

また、新型コロナウイルス感染が拡大している現状を踏まえ、次年度の入学式やガイダンス、授業開始日、異文化研修など、慎重に検討した。

ガイダンス実施状況

2019年4月2日～4日 入学時オリエンテーション

2020年3月17日 新2年生、新3年生オリエンテーション（メールで対応）

### 3. 学生生活ガイダンス

#### 1) 学生生活支援講演

目的：安全な学生生活を送るために、日常生活において注意すべき点を学ぶとともに、基本的人権について理解し人権意識の向上を図る。

##### (1) 学生生活安全講演

内 容：特殊詐欺やカルト集団、消費者問題、ハラスメント等大学生活を過ごす上での注意点について

開 催 日：2019年4月2日(火) 14:50～15:40

講 師：鳥井 竜一 氏

参 加 者：看護栄養学部及び別科の新入生

##### (2) 防犯講演

内 容：出雲市内及び県立大学周辺での犯罪の状況、自己防衛、交通安全、悪徳商法等について

開 催 日：2019年4月3日(水) 15:10～16:00

講 師：出雲警察署 生活安全課 松原 良典 氏, かわと交番長 吹金原 利昭 氏, 少年補導職員 上田 いずみ 氏

参 加 者：看護栄養学部及び別科の新入生

##### (3) 人権に関する講演

内 容：自分らしく思いを伝えるコミュニケーションについて

開 催 日：2019年12月11日(水) 10:40～12:10

講 師：コーチングルーム OSAWA 大澤 貴子 氏

参 加 者：看護栄養学部1・2年生 172名

##### (4) ソーシャルメディアに関する講演

内 容：ITモラルについて

開 催 日：2019年6月19日(水) 13:10～15:30

講 師：株式会社プロビズモ (Probizmo) 竹下 由起子 氏

参 加 者：看護栄養学部及び別科の学生 395名

##### (5) 護身術

内 容：護身術の実技体験

開 催 日：2019年11月20日(水) 13:00～14:00

講 師：出雲警察署生活安全課, かわと交番

参 加 者：看護栄養学部1年生 67名

#### 2) 学生生活スタートセミナー

内 容：新入生が在 student と語り合うことにより、大学内でのサポーターや学生モデル



をみつけ、自分に適した大学生活を早期に確立できるよう支援する。

開催日：2019年4月10日(水) 13:30~15:40

参加者：看護栄養学部1年生 120名、在校生 40名

### 3) 副学長と新入生のランチミーティング

内容：新入生と副学長等と一緒に昼食をとりながら、学生生活について語り合うことにより、大学内で困りごとや問題点の解決を図る。をみつけ、自分に適した大学生活を早期に確立できるよう支援する。

開催日：2019年5月~6月 12:10~12:40

参加者：看護栄養学部1年生及び別科生、副学長、学部長、学科長、学生生活部長、1年次生チューター

### 4) 評価と課題

安全な学生生活を送ると共に基本的人権について理解し人権意識の向上を図ることを目的に、毎年、「学生生活安全講演」「防犯講演」を新入生オリエンテーションに組み込んで実施しているが、学生の受講態度は熱心であり、新しい生活が始まるこの時期に行うこれらの支援は効果的であると考えられる。護身術の実技体験は、学生生活に慣れてきた時期に改めて防犯意識を高める目的で、秋学期に実施しているが、今年度は、参加者からの感想では好評であったものの、開催日の変更や開催時期の遅れ等があったためか、参加者が67名と少なかった。

これらの講演会や研修は学生が安心・安全な学生生活を送るため、重要な支援であり、次年度も継続したいと考えるが、開催時期や周知方法、学生自治会との連携等についてさらに検討を行う必要がある。

## 4. 学生自治会活動

春学期に実施される大学祭(つわぶき祭)及び秋学期に開催される体育祭について、特に、活動の支援を行った。

### 1) 大学祭(つわぶき祭)

日程：2019年6月8日(土)、6月9日(日)

支援内容：大学祭が円滑に実施できるよう、施設・設備の使用等について、指導・支援を行った。

特に、実行委員会健康局が実施する健康チェック(血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、体組成測定等)において、機器の設置準備、取り扱い指導等、測定等が円滑に実施できるよう支援を行った。

### 2) 体育祭

日程：2019年10月19日(土)

支援内容：実施にあたり、使用器具等の借用、教職員への周知等について支援を行った。

### 3) 評価と課題

現在、健康局が実施している健康チェックにおいては、学生だけで使用するには高価かつ精密な機器を大学から借用し、使用している。このため、実施にあたっては、様々な部分での教員の介入が必要となっている。今年度の大学祭終了後、学生自治会と学生生活委員会で、健康局を学生主体の取組として実施ための協議を行った。令和2年度には、大学祭に向けて協議結果を具体化していく予定である。

## 5. チューター制度

看護栄養学部看護学科においては、1～3年次は各6名のチューター[各学年6グループとし、1グループ12～17名の学生を配置]、4年次は看護研究担当者20名をチューターとし、各学年にチューター長を配置した。看護栄養学部健康栄養学科においては、各学年に2名のチューター（主担当と副担当）、別科においては、3名のチューター（内1名をチューター長）とした。

チューターは学習や進路、個人的な問題等の相談に対応、必要に応じて指導を行ない、カウンセラー、校医、保健室担当者との連携を円滑に図った。また、チューター別、同学年間、学年間等の交流の機会を設け、学生が大学内のサポーターや学習モデルをみつけ、学生生活を円滑に送るための一助とできるよう支援した。

## 6. 学生の健康管理・カウンセリング

### 1) 学生の健康管理

#### (1) 年間の流れ

4月：定期健康診断

GHQ 結果返し,高得点者への面談対応（4年生）

健康教育講演Ⅰ

子宮頸がんヒトパピローマウイルス子宮頸がん検診の重要性-

（講師：島根県立大学保健管理センター長 秦 幸吉先生）

5月：健康教育講演Ⅱ

こころの健康づくり-ストレスマネジメントを中心に-

（講師：エスポアール出雲クリニック 原 美貴先生）

GHQ 結果返し,高得点者への面談対応（新入生）

熱中症予防・対策の啓発

定期健康診断結果個別通知,健康診断事後対応（再検査・保健指導）

6月：小児感染症抗体検査抗体価本学基準値未満者への予防接種説明

熱中症の注意喚起

7月：臨地実習オリエンテーション（実習上の感染予防について）

8月：異文化理解参加者オリエンテーション（研修中の健康管理について）

10月：インフルエンザ集団予防接種の取りまとめ

学内インフルエンザ集団予防接種実施

学内インフルエンザ予防接種状況調査

12月：インフルエンザ予防啓発,ノロウイルス予防啓発

1月：インフルエンザ予防・対策の啓発

健康教育講演Ⅲ

大学生における食生活と精神健康状態との関連

（講師：島根県立大学保健管理センター長 秦 幸吉 先生）

(2) 定期健康診断結果について

①健診項目

項 目	看護栄養 学部 1 年 次生	看護栄養 学部 2 年 次生	看護栄養 学部 3 年 次生	看護栄養 学部 3 年 次編入生	看護栄養 学部 4 年 次生	別科生
身長	○	○	○	○	○	○
体重	○	○	○	○	○	○
血圧測定	○	○	○	○	○	○
視力測定	○	○	○	○	○	○
聴力検査	○	○	○	○	○	○
検尿	○	○	○	○	○	○
胸部 X 線撮影	○	○	○	○	○	○
HBs 抗原・抗体検査 (B 型肝炎)	○	○	/	○	/	○
HCV 抗体検査 (C 型肝炎)	○	○	/	○	/	○
小児感染症抗体検査	○	/	/	○	/	/
内科健診	○	○	○	○	○	○
問診票調査	○	○	○	○	○	○
精神健康調査 (GHQ)	○	/	/	○	○	○
調査票	○	/	/	○	/	○

※小児感染症抗体検査料金は学生自己負担で実施

※看護学研究科生は職場定期健康診断で対応

2) 健診結果

(1) 受診率 100% (425 名)

(2) 内科健診

- ・ 有所見者 (延べ人数) は 370 名 (87.0%) であった。
- ・ 有所見率の高い所見としては、「体脂肪有所見」が 271 名 (63.7%)、「尿潜血有所見」が 81 名 (19.0%)、「視力有所見」72 名 (16.9%) であった。

(3) 結核健診

[胸部 X 線撮影]

- ・ 所見ありは 10 名。軽度異常は 5 名，経過観察 5 名だった。

(4) 尿検査

- ・ 所見ありは 124 名。104 名は再検査を実施する。要精密検査者 7 名中 6 名は受診し，異常なし。

(5) 肝炎検査

- ・ HBs 抗原陰性かつ HBs 抗体陰性と判定された 238 名に，B 型肝炎ワクチン接種 (3 回接種) を推奨した結果，接種者 (3 回終了) は 123 名，未接種者は 52 名であった。

(6) 小児感染症抗体検査 基準値未満者 (のべ検査人数 132 名)

[水痘 (EIA 法)] 14 名 (11.2%)

[風疹 (HI 法)] 89 名 (71.7%)

[麻疹 (EIA 法)] 101 名 (81.4%)

[流行性耳下腺炎 (EIA 法)] 50 名 (40.3%)

予防接種対象者 132 名 (看護栄養学部 1 年次生 116 名, 3 年次編入生 1 名, 別科生 15 名) に対し, 予防接種を推奨。予防接種後 6 週間経過後に, 免疫獲得確認の抗体検査にて抗体価を確認する。ただし, 1 回の予防接種で本学の基準値に満たさない場合は, 2 回目の予防接種を受けることを伝える。

### 3) 健康調査

#### (1) 問診票結果

全学生を対象に行い, 回収率は 98.1% であった。「手足の冷え」, 「緊張しやすい」, 「首筋, 肩がよくこる」, 「便秘になりやすい」, 「腰や背中がよく痛くなる」などの心身の自覚症状が上位であった。

#### (2) 精神健康調査 (GHQ)

4 年生は 3 月末の次年度オリエンテーション時, 新入生には健康教育講演 I の際に調査用紙を配付した。回収率は 100%。GHQ 得点を評価して, 面接が必要と思われた学生に対しては, 各チューターにその旨を伝え, 面接を依頼した。カウンセリングを希望する学生はカウンセリングに繋いだ。GHQ 高得点者の他, 質問 56~60 項目で要観察に該当する学生については面談を行い, 気になる学生としてチューターに報告した。

### 4) カウンセリングについて

2019 年度は月 2 回の実施予定であったが希望者が多く有り, 予定日の対応では間に合わず, 学生の希望や必要に応じて対応した。来談者は昨年度に比べると少なかった。相談内容は, 新しい環境に適応していく際のストレス, 対人関係 (友人・家族) や学業・進路についての悩みを語ることが多かったよう。新入生が新しい環境に適応していく時期, 実習がある時期に来談者が多い傾向にあった。

## 7. キャンパス・ハラスメント防止

キャンパス・ハラスメント防止委員会はコロナウイルス感染症のため開催中止となった。

学生からのキャンパス・ハラスメントについては今年度においては 1 件申告された。また, その他でハラスメントと思われる 1 事案については, 来年度も引き続き審議をしていくこととなった。

## 8. 奨学金制度

平成 24 年度以降入学生を対象に新たな学修支援奨学金制度が設けられたため (後述), 下記の 2), 3) については, 平成 23 年度以前入学生についての状況である。

### 1) 日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構奨学金には, 第一種奨学金 (無利息) と第二種奨学金 (利息付) があり, 平成 27~30 年度の 4 年間における申請者と受給者は表のとおりである。

教務学生課が年度当初のオリエンテーション時に説明を行い, 募集・相談・事務手続きなどを担当している。

		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
		一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種
予約奨学生		22	21	17	21	24	31	29	24	45	18
申請者	1 年次生	4		3		4		7		5	
	2 年次生	2		-		1		0		2	
	3 年次生	-		1		1		0		0	
	4 年次生	1		-		1		2		0	
	別科 (専攻科)	5		3		7		1		5	
受給決定者	1 年次生	1	3	-	3	2	2	7	0	2	4
	2 年次生	-	2	-	1	-	1	0	0	1	0
	3 年次生	-	-	-	-	1	-	0	2	0	0
	4 年次生	-	1	-	-	-	1	0	2	0	0
	別科 (専攻科)	2	3	2	1	5	2	0	1	4	2
受給者別計		25	30	19	26	32	37	36	27	52	24
受給者合計		55		45		69		63		76	

## 2) 授業料減免制度

授業料減免は「公立大学法人島根県立大学授業料等徴収規定」に基づき、学業が優秀で、学資の支弁が困難な学生（科目等履修生，研究生を除く）を対象に実施してきたが、平成 26 年度からは学修支援奨学金（経済支援奨学金）に完全移行となった。

## 3) 成績優秀者奨学金制度

成績優秀な学生に対して奨学金を給付することにより学生の修学意欲の向上を図ることを目的とした成績優秀者奨学金制度により、「公立大学法人島根県立大学成績優秀者奨学金交付要綱」に基づき奨学金の給付を行ってきたが、平成 26 年度からは学修支援奨学金（成績優秀者奨学金）に完全移行となった。

## 9. 学修支援制度

「公立大学法人島根県立大学学修支援奨学金給付要綱」に基づき、意欲ある学生の学修支援を拡充することを目的として新たな学修支援奨学金制度が設けられ、島根県立大学及び島根県立大学短期大学部の平成 24 年度以降入学生を対象に運用が始まった。

この制度は、1) 経済支援奨学金，2) 入学時奨学金，3) 成績優秀者奨学金からなり、従来の授業料減免制度，成績優秀者奨学金制度，入学時特待生制度を引き継ぐものである。

### 1) 経済支援奨学金

この奨学金は従来の授業料減免制度に代わるもので、学修意欲があり学費支弁が困難な学生に授業料半額相当額の奨学金を給付するものである。奨学金の給付状況は表のとおりである。

学科	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	申請者	受給者	申請者	受給者	申請者	受給者	申請者	受給者	申請者	受給者

看護学科	1年次生	3	2	8	8	7	7	6	5	7	7
	2年次生	15	14	5	4	7	7	5	5	5	5
	3年次生	7	7	15	15	4	3	9	8	6	6
	4年次生	15	13	6	6	16	16	5	5	9	9
健康栄養学科	1年次生							1	1	3	3
	2年次生									2	2
別科助産学専攻		2	1	0	0	1	1	3	1	1	1

## 2) 成績優秀者奨学金

この奨学金は従来の成績優秀者奨学金制度に代わるもので、成績優秀な学生に対して奨学金を給付することにより学生の修学意欲の向上を図ることを目的とするもので、成績が優秀で他の学生の模範となる学生に対し、授業料半額相当額の奨学金を給付するものである。奨学金の給付状況は表のとおりである。

学科・専攻		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
看護学科	2年次生	3名	3名	3名	3名	3名
	3年次生	3名	3名	3名	3名	3名
	4年次生	3名	3名	3名	3名	3名
健康栄養学科	2年次生	—	—	—	—	2名
別科助産学専攻		1名	1名	1名	1名	1名

## 10. 入学時特待生制度

この奨学金は従来の入学時特待生制度に代わるもので、入学時の成績が優秀で他の学生の模範となる新入生に対し、授業料半額相当額の奨学金を給付するものである。奨学金の給付状況は表のとおりである。

学科・専攻		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
看護学科	1年次生	4名	4名	4名	4名	4名
健康栄養学科	1年次生				2名	2名
別科助産学専攻		1名	1名	1名	1名	1名

## 11. 国家試験

### 1) 国家試験

	受験者	合格者	不合格者	合格率%
看護師	76	73	3	96%
保健師	25	24	1	96%
助産師	16	16	0	100%



## 12. 就職・進学状況

### 1) 看護学部 看護学科 (78名卒業)

#### (1) 就職(69名)

就職先(県内)	人数	就職先(県外)	人数
松江市役所 (保健師)	1	江東区役所 (保健師)	1
益田市役所 (保健師)	1	宇部市役所 (保健師)	1
江津市役所 (保健師)	1	今治市役所 (保健師)	1
川本町役場 (保健師)	1	順天堂大学医学部附属浦安病院 (看護師)	1
松江記念病院 (看護師)	1	千葉西総合病院 (看護師)	1
松江市立病院 (看護師)	3	国立病院機構東京医療センター (看護師)	1
松江生協病院 (看護師)	3	日本医科大学付属病院 (看護師)	1
松江赤十字病院 (看護師)	7	静岡県立総合病院 (看護師)	1
国立病院機構松江医療センター (看護師)	1	静岡徳洲会病院 (看護師)	1
訪問介護ステーション友喜 (看護師)	1	豊田厚生病院 (看護師)	1
グループホームゆりさわ (看護師)	1	大阪大学医学部附属病院 (看護師)	1
島根県立中央病院 (看護師)	4	馬場記念病院 (看護師)	1
島根大学医学部附属病院 (看護師)	10	神戸大学医学部附属病院 (看護師)	1
出雲市民病院 (看護師)	1	神戸労災病院 (看護師)	1
雲南市立病院 (看護師)	2	兵庫医科大学病院 (看護師)	1
大田市立病院 (看護師)	1	山陰労災病院 (看護師)	1
隠岐広域連合立隠岐病院 (看護師)	1	鳥取県立中央病院 (看護師)	1
		鳥取大学医学部附属病院 (看護師)	2
		倉敷成人病センター (看護師)	1
		広島市立広島市民病院 (看護師)	1
		広島大学病院 (看護師)	3
		大田記念病院 (看護師)	2
		徳山医師会病院 (看護師)	1
		福岡大学病院 (看護師)	1
		中部徳洲会病院 (看護師)	1
小 計	40	小 計	29

(県内就職率:57%)

※県内就職者の状況 県内出身 → 県内就職 38名 県外出身 → 県内就職 2名

※県外就職者の状況 県内出身 → 県外就職 7名 県外出身 → 県外就職 23名

(2) 進学(8名)

進学先(県内)	人数	進学先(県外)	人数
島根県立大学別科助産学専攻	5	山口県立大学別科助産専攻	1
島根県立大学大学院看護学研究科(助産学領域)	2		
小 計	7	小 計	1

2) 別科助産学専攻(16名修了)

就職(16名)

就職先(県内)	人数	就職先(県外)	人数
島根大学医学部附属病院 (助産師)	3	横浜市立大学附属市民総合医療センター (助産師)	1
マザリー産科婦人科医院 (助産師)	1	名古屋大学医学部附属病院 (助産師)	1
益田赤十字病院 (助産師)	1	宇治徳洲会病院 (助産師)	1
済生会江津総合病院 (助産師)	1	関西医科大学附属病院 (助産師)	1
国立病院機構浜田医療センター (助産師)	2	大阪赤十字病院 (助産師)	1
隠岐広域連立隠岐病院 (助産師)	1	倉敷中央病院 (助産師)	1
		広島赤十字・原爆病院 (助産師)	1
小 計	9	小 計	7

(県内就職率:56%)

※県内就職者の状況 県内出身 → 県内就職 8名 県外出身 → 県内就職 1名

※県外就職者の状況 県内出身 → 県外就職 1名 県外出身 → 県外就職 6名

### 13. キャリア支援活動

表1の通り、学部4年間及び別科の講座を企画し、キャリア支援プログラムとして実施した。栄養学部1年生および2年生対象の講座は2学科合同で実施した。

表1 各講座における参加状況と評価

	講師・所属	参加対象者	参加率	概要
1.キャリアガイダンス講座 平成31年4月24日	梶谷みゆき 看護栄養学部 学部長 三瓶まり キャリア副センター長 今中美栄 健康栄養学科 学科長	看護学科1年生 83名 健康栄養学科1年次生 40名	100% 100%	看護師・管理栄養士の様々なキャリアと在学中に学ぶキャリア教育の概要について説明した。アンケート回答者全員が今後の進路を考える上で参考になると回答していた。
2.エントリーシート・面接 対策講座 平成31年4月17日	湯澤 葉月氏 株式会社マイナビ	看護学科4年生 71名 別科生 9名	88.8% 56.3%	就職・進学に備えエントリーシートの基本的な書き方、および面接対策について理解することを目的に実施した。アンケート回答者の9割以上がエントリーシート記入や面接に「役立つ」と答えていた。
3.小論文対策講座 平成31年4月24日	菅野 育雄氏 東京アカデミー広島校	看護学科4年生 69名 別科生 15名	86.3% 93.8%	就職や進学に備え、基本的な小論文の書き方について理解することを目的に実施した。アンケート回答者全員が小論文試験に「活かせる」「やや活かせる」と答えていた。終了後、希望者は小論文添削指導を受けた。

4.マナーアップ講座 令和元年 6 月 5 日	奥山 美奈 氏 TNサクセスコーチング株式会社	看護学科 2 年生 77 名 看護学科 3 年生 1 名 健康栄養学科 2 年生 42 名	100%	医療職としての接遇を学ぶことを目的に実施した。ほぼ全ての学生が、医療食としてふさわしい挨拶や態度、身だしなみが理解できた、実習に活かせると答えていた。
5.キャリアプラン講座 I 令和元年 7 月 17 日	湯澤 葉月 氏 株式会社マイナビ	看護学科 3 年生 81 名	92.0%	自分に合った就職先の探し方を知り、具体的な就職・進学活動を考えることを目的に実施した。多くの学生が、就職先を探し選ぶ方法を理解した、就職・進学活動を考えることができたと答えていた。6～8 月に見学会やインターシップを開催する施設が多いため、講座の時期が遅いと感じた学生が多かった。講座開催時期の検討が必要である。また保健師就職の情報の充実を図る必要がある。
6.キャリアデザイン講座 令和元年 10 月 16 日	●看護師 遠藤 智弘 氏 (島根県立中央病院) 伊藤 和江 氏 (生協のぞみ訪問看護ステーション) ●保健師 峯 彰子 氏 (松江市・島根県共同設置松江保健所) ●助産師 加瀬部 洋子 氏 (島根県助産師会) ●管理栄養士 赤名 奈緒子 氏 (松江市赤十字病院) ●学校栄養士 水野 むつみ 氏 (松江市立南学校給食センター)	看護学科 1 年生 83 名 健康栄養学科 1 年次生 39 名	95.4% 97.5%	保健師・助産師・看護師・管理栄養士・栄養教諭それぞれのエキスパートから職業人生を語ってもらうことでキャリアデザインについて理解することを目的に実施した。アンケート回答者全員が進路選択やキャリアデザインを考える上で「活かせる」、「やや活かせる」と回答していた。看護学科と健康栄養学科合同で開催し、実際の現場での両職種の繋がりを知ることができたとの自由記載もあり、看護職と管理栄養士の連携についての理解にもつながることができた。
7.キャリアアanker講座 令和元年 10 月 30 日	キャリア委員 (三瓶まり, 川瀬淑子, 小田美紀子, 赤浦和之, 石田千津恵) キャリアセミナー II B 担当 (2 年チューター) (落合のリ子)	・看護学科 2 年生 77 名 看護学科編入生 1 名 ・健康栄養学科 2 年生 42 名	94.9% 100.0%	目指す専門職像を明らかにすることを目的に実施した。キャリアのについての説明は両学科合同で行い、その後、学科別を実施した。両学科ともにアンケート回答者の9割以上が目指す専門職像を展望することが「できた」「ややできた」と答えていた。
8.キャリアプラン講座 II 令和 2 年 3 月 3 日	●看護師 上野 綾花 氏 (島根県立中央病院) 岡田 紗羅 氏 (大田市立病院) ●保健師 米田 麻純 氏 (隠岐保健所) 空岡 舞 氏 (飯南町役場) ●助産師 岡田 愛里 氏 (島根県立中央病院)	看護学科 3 年生 88 名		新型コロナウイルス感染症 (covid-19) 拡大防止のため開催中止となった。
9.就職総合講座 平成 30 年 9 月 17～19 日 平成 31 年 3 月 17～20 日	岡崎 倫枝 氏 公務員予備校講師	看護学科 3, 2 年生 9 月 29 名 3 月 9 名	—	希望者に対して、県・市町村職員や公立病院等の一般試験の対策を実施した。9 月実施では、参加者のほとんどが講座内容を「理解できた」「やや理解できた」と答えていた。3 月実施ではアンケート回答者すべてが今後の自己学習に活かせると回答していた。

## 14. 学生寮

### 1) 入寮・退寮に関すること

2019 年度 4 月時点での在寮生は 80 名 (新入寮生 20 名)、年度途中の退寮者が 5 名 (4 年次生 1 名、別科生 1 名、2 年次生 1 名、1 年次生 2 名) あった。在校生に募集をかけたが応募者はいなかった。令和 2 年度新入寮生について、1 月 15 日、2 月 21 日、3 月 12 日に入寮選考を行った。2 年次生 1 名、1 年次生 1 名は、新入生の入寮選考からはずれた上位者に期間限定の入居を条件に募集をかける予定である。

2019 年度より、別科入学定員の変更があること等から、令和 2 年度に検討を行い、入寮選考基準などの見直しを行う予定である。

## 2) 寮生活の支援・指導に関すること

4月の新入生オリエンテーションにおいて、「入寮者説明会」を実施し、寮務主事より寮生活及び寮生活における規定などについて説明を行った。5月には、学生寮の安全な生活を支援するため、夜間での火災による教職員不在の状況下での寮生中心の避難を想定した火災避難訓練を実施した。6月には「寮生活に関するアンケート」を実施し、寮生の意見を集約し、7月に実施された総会において意見交換を行った。12月には「プロから学ぶ、お風呂と台所のお掃除」を開催し、年末・年度末に向けて清掃の徹底を図った。また必要に応じて、寮務主事が寮生と個別面談を行い、生活全体を視野に入れた継続的な指導を行うとともに、寮自治会、寮指導員や事務室管理課、教務学生課と連携のもと、問題の解決にあたった。

### (1) 門限時間外の入寮に対する指導

門限時間外に入寮のあった学生に対しては、寮務主事が個別面談、指導を行った。また、昨年度、門限に関する規約改正が行われたことから、今年度は、門限時間外入寮に対する理由等の調査、今後の対処方法について検討を行い、来年度、門限時間の変更を6か月間試行的に実施することとした。その結果をもとに、再度、門限に関する規約について見直しを検討する予定である。

### (2) 寮の清掃などについて

個室の清掃、キッチンなど共同使用場所などの清掃、ごみ処理などに課題が見受けられたため、清掃方法については、指導・研修の実施、業者への清掃委託を、また、ごみ処理については取り決めの見直しを行うとともに、その周知、徹底を図った。

### (3) 感染症対策など

#### ① インフルエンザ感染予防対策

寮における「インフルエンザ対策指針」の見直しを行った。その結果、今年度はインフルエンザへ感染者は発生しなかった。

#### ② 新型コロナウイルス感染症予防対策

新型コロナウイルス感染症予防対策として、以下の対応を行った。

- ・学生寮の閉鎖：2月24日（月）17時～3月27日（金）9時まで
- ・「寮における新型コロナウイルス感染症への指針」の作成
- ・新入寮生への対応：入寮までの健康チェックなどの依頼
- ・開寮後の対応：「学生寮における新型コロナウイルス感染予防対策」の検討  
対応についての寮生への周知・徹底

#### 【寮生活に関するアンケート結果】

回収率は72%（76人中55人が回答）、寮の設備、寮のルールに対して「満足・やや満足している」と回答した人はそれぞれ58.2%、61.8%であり、設備については、公共部分の清掃、駐輪場の不足、洗濯機の更新、自動販売機の内容変更などについての意見が多かった。また、ルールについては門限を延ばして欲しいとの要望が多かった。また、寮食の改善を求める意見が多数あった。

これらについて、総会の場で意見交換を行い、今後、自治会及び寮務主事、事務局などと継続的に検討を行うこととした。

## 3) 寮自治会の支援に関すること

月1回、寮自治会役員と寮務主事とのミーティングを行い、寮生活の課題解決にあたった。

また、4月には「新入寮生歓迎会」、7月には「総会」、12月には教職員との「餅つき大会」

に参加し、支援を行った。

#### **4) 関係者との連絡調整について**

必要に応じて、寮指導員と連絡をとり、生活指導上の問題点などの情報共有を行い、問題解決にあたった。また、随時、管理課や教務学生課、チューターとの連携を図り、課題解決に努めた。

#### **5) 今後の課題**

寮生の安全確保（防犯、インフルエンザ対策、ノロウイルス対策、自然災害等）については、継続して管理課・教務学生課・危機管理委員会・寮指導員等と連携を図り、予防対策、緊急事態発生時の連絡体制、対応を整えていく必要がある。寮生の生活上のモラルについては、寮生一人ひとりが責任をもって行動できるよう指導するとともに、自治会との連携を図り、学生が主体的に取り組んでいけるように支援を行なう。

## **15. 学生の表彰**

### **1) 島根県立大学賞**

候補者の推薦を教職員および学生から求め、1組の推薦があった。出雲キャンパス学生表彰審委員会にて審査を行い、受賞相当である旨決定された。今後も制度があることを学内に周知し、推薦に値する学生の活動が多くなるように啓発する。

受賞者：災害研究会（対象区分：社会活動）

### **2) 文部科学大臣表彰**

優れたボランティア活動を行なった団体に贈呈される「第14回SYD ボランティア奨励賞」（公益財団法人修養団（SYD））において、全国から79団体の応募があり、出雲キャンパスの献血サークルあかえんぴつくんが、最高賞にあたる文部科学大臣賞を受賞した。

## V. 国際交流

### 1. 異文化理解研修（米国）

- 1) 期間：2019年8月20日～30日
- 2) 場所：米国 Washington州 Wenatchee Valley College  
及び Seattle University (College of Nursing)  
及び Central Washington University
- 3) 参加者：学生19名（看護学科2年次生11名，健康栄養学科2年生8名）  
教員2名 団長 中山真美 教授  
副団長 中谷陽子 助教 福田詩織 助教
- 4) 主な研修内容：医療施設見学（Central Washington Hospital ほか3施設）  
英会話授業（10時間）  
ホームステイ（2泊3日）等
- 5) 報告書作成：『2019年度異文化研修Ⅱ（米国）報告書』

### 2. 異文化研修Ⅰ（韓国）

- 1) 期間：2019年8月20日～25日
- 2) 場所：韓国 大邱広域市 啓明大学校，大邱韓医大学校，大邱保健大学
- 3) 参加者：学生27名（看護学科1年次生23名 健康栄養学科1年次生4名）  
教員3名 団長 細川 優 准教授  
副団長 松谷ひろみ 助教 錦織亜以 職員
- 4) 主な研修内容：特別講義聴講  
医療施設見学（2施設）  
〔Dongsan Medical Center  
Korean Traditional Medical Experience Center〕
- 5) 報告書作成：『2019年度異文化研修Ⅰ（韓国）報告書』  
大学附属病院の見学や研修先学生との交流により，参加者は韓医学の実際や日韓の医療の違いを学んだ。

### 3. 平成30年度異文化理解研修（米国）・異文化研修Ⅰ（韓国）の報告会の実施

異文化理解研修（米国）・異文化研修Ⅰ（韓国）の報告会を11月27日（水）12:20～12:50（大講義室）で行った。アメリカ・韓国で学んだ看護教育・栄養教育や医療，文化について報告し，現地での学びを共有した。

### 4. 国際交流に関する協定締結等

- 1) 台北医科大學および中山医科大学との包括協定事前訪問
  - ・ 期間：2019年6月22日～6月26日
  - ・ 場所：台北医科大學（台北），中山医科大学（台中）
  - ・ 訪問者：山下一也，今中美栄，中山真美，阿川啓子，小川智子（台北のみ）
- 2) クリダワチャナクリスチャン大学，インドネシア栄養学会との包括協定
  - ・ 期間：2019年11月19日～11月23日
  - ・ 場所：クリダワチャナクリスチャン大学，インドネシア栄養学会
  - ・ 訪問者：清原正義，今中美栄，中山真美，福田詩織



## VI. 研究活動

### 1. 外部資金導入

1) 科研費（日本学術振興会：基金分）採択・実施状況

基盤研究（C） 継続9件 新規5件 計14件

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
中山間地域における高齢者の認知機能維持を目的とした社会生活構造の解明	教授 伊藤 智子	800	H31～H33 (新規)
新人看護師の臨床判断力を育成するシミュレーション教育プログラムの開発	准教授 川瀬 淑子	400	H31～H33 (新規)
児童・思春期ケアに活かす看護師のための情動知性の育成モデルの評価	准教授 大森 真澄	600	H31～H33 (新規)
回復期脳血管障害患者と配偶者の家族機能改善を図る看護介入と介入スキルの抽出	教授 梶谷 みゆき	800	H31～H34 (新規)
精神疾患を有し妊娠・出産・育児をする女性のエンパワメント支援プログラムの開発	教授 石橋 照子	500	H31～H34 (新規)
大殿筋の収縮運動は分娩後の尿失禁の慢性化を予防できるか？	教授 長島 玲子	1,200	H30～H32
母体栄養および腸内細菌叢が仔の1型糖尿病発症に与える影響	准教授 籠橋 有紀子	900	H30～H32
ナンセンス変異リードスルー治療のための栄養学(NMD栄養学)の確立	准教授 原田 永勝	1,500	H30～H32
JMJD2Aは進行胃癌においてエピジェネティック調節により薬剤感受性を制御する	助教 中川 忠彦	1,100	H30～H32
子育て世代のがん患者と子どもを含めた家族支援のケアモデルの評価	教授 矢田 昭子	0	H28～H31 (延長)
エゴマ油を用いたMIND食による軽度認知障害の認知機能への影響	教授 山下 一也	1,200	H29～H31
地域で暮らす子どもの母親支援；先天性心疾患を持つ子どもへの看護連携の構築	准教授 阿川 啓子	700	H29～H31
特別養護老人ホーム入所初期における家族支援プログラムの開発	准教授 岡安 誠子	0	H27～H31 (延長)
月経期REM睡眠減少への芳香療法の効果に関する研究	准教授 藤田 小矢香	500	H28～H31

挑戦的萌芽研究 継続1件 計1件

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
行動・視線・自律神経反応から捉える携帯電話使用時の母子相互作用の可視化	准教授 井上 千晶	500	H29～H31

## 若手研究

継続5件 新規4件 計9件

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
DNARの代理意思決定を支援するクリティカルケア看護師の教育支援モデルの評価	准教授 森山 美香	700	H31～H32 (新規)
精神障がい者の就労を促進する農福“医”連携モデルの効果検証	助教 松谷 ひろみ	200	H31～H33 (新規)
他害行為によって隔離となった患者の安楽に向けた看護ケアの定義と実践	助教 日野 雅洋	700	H31～H33 (新規)
メタボローム解析による生活習慣病予防のための客観的な食事調査方法の確立	助教 多々納 浩	1,400	H31～H33 (新規)
大腿骨近位部骨折患者の健康寿命延伸に向けたプログラム開発	講師 林 健司	300	H30～H32
発症の徴候に着眼した小児期・思春期神経性やせ症の新たなアセスメント方法の開発	助教 金山 俊介	600	H30～H32
精神障がい者の就労を促進する農福“医”連携の構築	助教 松谷 ひろみ	0	H25～H31 (延長)
育児休業を取得した看護職のキャリアパス支援モデルの構築	助教 梶谷 麻由子	0	H25～H31 (延長)
訪問看護師のリスク管理に関する安全教育プログラムの構築	助教 吉松 恵子	0	H28～H31 (延長)

## 研究活動スタート支援

継続1件 計1件

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
妊娠期の過剰なリン摂取が新生児のエピゲノム変化と成長期のリン反応性に及ぼす影響	助教 福田 詩織	1,100	H30～H31

## 2) 自治体・企業など受託研究・共同研究等

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
地域住民における測定値自動送信技術を用いた家庭血圧管理状況と血圧変動要因に関する探索的研究	講師 中畑 典子	2,000	国立大学法人島根大学 オムロンヘルスケア(株)
①「七田式いきいき脳開発プログラム」(江津市嘉久志地区)実施 ②被験者の認知機能検査等の結果解析 等	教授 伊藤 智子	147	株式会社しちだ・教育研究所
島根県医療連携推進事業	教授 中山 真美	933	島根県
ライフスタイルに適応した生産・販売を目的とする島根米の特性の見える化	准教授 籠橋 有紀子	500	島根県
地域における救急救命体制に関する市民意識調査	講師 渡邊 克俊	400	浜田市
$\omega$ -5グリアジン欠損食用小麦の開発: $\omega$ -5グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて	准教授 籠橋 有紀子	1,000	公益財団法人ニッポンハム 食の未来財団

## 3) 民間財団等研究助成金

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
韓国と日本の食育における牛乳・乳製品の価値観について ～成長期におけるヘルスリテラシーの醸成教育に向けての比較検討～	教授 今中 美栄	997	牛乳食育研究会 一般社団法人Jミルク
人生の最終段階の決定に関する在宅療養者と家族の話し合いを促進する看護実践方法の開発	准教授 大塔 美樹	179	公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団
ヒストン修飾を介した筋細胞の分化メカニズムの解明	助教 中川 忠彦	500	一般財団法人フォーデイズ 自立支援協会
JMJD2Aによるエピジェネティクスの制御を介した糖代謝メカニズムの解明	助教 中川 忠彦	450	日本イーライリリー株式会社

## 2. 学内の競争的資金

### 1) 令和元年度 学長裁量経費（若手支援枠）

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
糖質制限食・ロスマリン酸・中鎖脂肪酸の継続摂取による血糖値変動の検証	准教授 藤田 小矢香	179	
高齢化が進む地域での地域包括ケアシステムの構築における男性高齢者の役割	助教 祝原 あゆみ	302	
日本における保健師の多文化対応力の概念構造	助教 小川 智子	240	
地域在住高齢者における人生の最終段階の医療についての話し合いのプロセスと課題～アドバンス・ケア・プランニングの説明介入前後話し合い行動の変化～	助教 加藤 さゆり	400	
島根県における妊婦の体重と妊娠中の栄養摂取状況および出生時体重の関係～低出生体重児の出生予防に向けた妊婦への指導内容の検討～	助教 中谷 陽子	370	
成長期における過剰なリン摂取時のカルシウム摂取量がFGF23/ $\alpha$ -klothoシグナルに及ぼす影響	助教 福田 詩織	400	

### 2) 令和元年度 北東アジア地域学術交流研究助成金

研究課題名	研究代表者	助成金額 (千円)	備考
北東アジア地域でのヘルスリテラシーの評価と効果的な醸成教育プログラムの構築～健康長寿社会に向けての勧告と日本における共同研究～	教授 今中 美栄	1,000	共同研究プロジェクト
西条ガキの未利用資源を用いたパンおよびその加工品の開発	教授 赤浦 和之	625	地域貢献プロジェクト 助成事業
炊飯米の特性分析～機能性と良食味を目指して～	准教授 籠橋 有紀子	800	地域貢献プロジェクト 助成事業

## 3. プロジェクトセンターの活動

### 1) 目的

教員の専門領域に関係なく、プロジェクト型の研究活動を推進し、研究活動の一層の活性化を促すことを目的とする。

### 2) 活動方針

- (1) 自主的に定期的な勉強会、活動報告、成果報告を開催する。
- (2) 外部資金などの競争資金を積極的に獲得する。
- (3) 外部の研究者や大学院生などをメンバーに加えて活動する。

### 3) 各プロジェクトセンターにおける活動報告

#### 【ヘルスツーリズムプロジェクトセンター】

メンバー：山下一也，石橋照子，大森眞澄，小田美紀子，濱村美和子，林 健司，日野雅洋  
藤田小矢香，名和田清子，松谷ひろみ，松本玄智江

島根県立大学ヘルスツーリズム研究会として、しまね地域研究センタープロジェクト研究費助成金を獲得して活動した。

教員の専門領域を活かしたプログラムを作成し、実践した。具体的には、「糖尿病療養者のメンタルヘルス」「マイナスをプラスに転じる旅」「成人期の運動に対する行動変容と親子の信頼関係づくりを促すための親子参加型ヘルスツーリズム」「認知症介護家族のメンタルヘルス」「安産祈願・戌の日お参りヘルスツアー」のプログラムが提案され、このうち「糖尿病療養者のメンタルヘルス」「マイナスをプラスに転じる旅」について、それぞれ2回実施した。ツアー参加者を対象として効果検証を実施し、学会で発表を行った。

「糖尿病療養者のメンタルヘルス」では、糖尿病食レシピを開発し、飲食店に提供した。また、島根県内の「マイナスをプラスに変える」温泉図鑑作成にとりかかっており、2019年度は図鑑に掲載する温泉の選考を行った。

#### 【国保プロジェクトセンター】

メンバー：山下一也，吾郷美奈恵

令和元年度島根県保険者協議会医療費等分析を島根県保険者協議会（事務局島根県国民健康保険団体連合会）と共同して行い、2020年3月に様々な指摘を協議会に対して行った。内容は医療費統計，市町村別の状況，特定健康診査結果統計などであった。

また，大学院看護学研究科「地域保健学特論 II」（2019年10月）においては，各種島根県の国保の報告書を使用して院生の講義にも使用して，特に，「生活習慣病費用額の割合」についてテーマを絞って，討論の資料に用いた。

保険者努力支援制度について市町村へ情報提供を行うなど，積極的な指導・助言にも努めている。

#### 【子育て支援プロジェクトセンター】

メンバー：高橋恵美子，狩野鈴子，長島玲子，三瓶まり，井上千晶，濱村美和子，中谷陽子

小田美紀子，祝原あゆみ，金山俊介，小田香澄，植田恵，齋藤暁子，山下一也

子育て支援プロジェクトは，地域と協働し大学を中心とした地域子育て支援拠点づくりを検討することを目的とする。出雲市子育て支援センター「はぐはぐ」においては，看護学生のがん検診啓発サークル「てんしんはん」によるミニ講座や定例で看護教員による子育て相談を開設した。

また，学生が自由に見学できる機会の提供，別科助産学の地域母子保健実習や看護学科4年の研究フィールドとして活用した。いずれもサマースクールは，8月16日から19日の4日間開催し，県外の子どもを含む10名の参加があった。参加した学生の学びを，8月の日本看護研究学会にて「発達障害児支援プログラム参加を通じた看護学生のADHD児に対する理解の過程」として発表した。児童虐待防止推進研修事業では，出雲市要保護児童対策地域協議会と協働し，3回の講座を開催した。今後は，子育て支援センター「はぐはぐ」を中心に，それぞれの取り組みの連携や，子育て支援拠点が大学にあることの意義をまとめていく。

#### 【アクティブラーニングプロジェクトセンター ～パオの活用～】

大学IR（インスティテューショナル・リサーチ）コンソーシアムの学生調査を看護栄養学部の全学年で実施し，各学科で学習プロセスの間接アセスメントとしての利用を推進している。また，ラーニング・コモンズは春学期・秋学期ともに10科目以上の授業で使われるとともに，様々な研修会や報告会でも活用されている。学習環境の整備が教員の教育方法や学生の学習活動に好ましい変化を与えていることが推察できる。一方，学生FD“縁”は「学生FDサミット」開催の大役を終え，高く評価された。改めて，持続可能な活動を確認する必要がある。

今年度は，以下の4演題の学会発表を行い，その内容をキャンパス内で共有した。

- ・ A大学看護学生の学年進行に伴う知識・能力の獲得状況（日本看護学教育学会第29回学術集会）
- ・ 学生による学習活動および能力評価からみた学習環境の意義（日本看護研究学会第45回学術集会）
- ・ A大学看護学生の保健師教育選択の有無による授業経験の機会・学習経験と能力・知識の獲得状況（第8回日本公衆衛生看護学会）
- ・ 学生FD活動と所属する大学への愛校心や満足度の関係（第39回日本看護科学学会学術集会）

引き続き、IRデータから島根県立大学出雲キャンパスにおける学士課程の強みと弱みを明らかにし、学生FDの活動を支援するとともに教育の質保証を促進する。

#### 【高齢者生活機能向上プロジェクトセンター】

メンバー：梶谷みゆき、平松喜美子、林健司、加藤さゆり、荒木さおり、平野文子、渡邊克俊  
松本祐香

人口の高齢化や過疎化が進行する中で、「住み慣れた地域で自分らしく最期まで暮らし続ける」ことをめざす活動が重要視されており、高齢者生活機能向上プロジェクトでは、地域で暮らす人々の介護予防（生活機能の維持・向上）や健康寿命の延伸などを目的とした医療的な支援について研究的に取り組んでいる。

2018年度の研究成果については、老年看護学会学術集会や看護科学学会学術集会等で学会発表した。

2019度は、島根県東部A市中山間地2地区で生活している高齢者を対象に「フレイル予防のための運動に関する介入研究」を実施した。6月に測定会を実施し、測定結果に基づいて個別の運動プログラムを提示、3か月後の9月に確認の測定会を実施した。2地区で60人弱の参加者を得た。結果については、2020年度に学会発表、および、論文投稿予定である。また、B市のCショッピングセンターに訪れる買い物客を対象に運動機能の測定とミニ講義をプログラムした「健幸フェスタ」を9月～1月まで計8回開催した。のべ800人弱の参加者（各回100名程度、リピート率80%程度）があり、介護予防や健康維持に対する市民の関心の高さを確認した。運動機能の測定と結果に基づく個別指導に対するニーズは継続して高い状況であるが、口腔ケアや骨粗鬆症と食生活などに対する学習ニーズも高かった。一方、本活動によって、地域に密着したショッピングセンターを健康づくりの啓発活動や人々の知的交流の場として活用する可能性、ひいては地域活性化に寄与できる可能性について検討する資料を得ることができた。なお、本活動には学部生や大学院生も参画しており、学生の地域貢献にも寄与できた。

高齢者生活機能向上プロジェクトでは、2020年度も市民の介護予防や健康づくりにかかわる活動を継続するとともに、商業施設などと協力しながら地域活性への寄与についても継続していきたい。ことに、この活動の継続性や市民の意識定着などについても検討する必要があると考えている。

研究能力向上を目的に、各研究分野に長けた学外研究者を招いてプロジェクトメンバーで研修会を開催している。3月17日に安田女子大学の吉田いつこ准教授を招き尺度開発と量的分析について研修会を開催する予定であったが、COVID-19感染拡大防止対応でZOOMを用いたWEB研修会とした。

#### 【エンパワメントプロジェクトセンター】

メンバー：石橋照子、井上千晶、大森眞澄、高橋恵美子、日野雅洋、松谷ひろみ、原 広治(島根大学)、金城祥教(元名桜大学)

「精神疾患を有する母親の妊娠・出産・子育て支援によるエンパワメント」について、科研費を獲得して活動した。第2火曜日を基本とし、1回/月のペースで精神疾患を有し就学前の子育てをしている母親の母子教室を「子育て支援センターはぐはぐ」で実施している。2～3名の参加者がいる。

精神疾患を有し就学前の子育てをしている母親を対象とするストレスとサポート状況に関する調査、精神疾患を有する母子への支援に関して保健師、助産師、精神科看護師を対象とした調査結果を学会発表、紀要などに投稿した。

#### 4) 今後の課題

継続して活動できるよう外部資金の確保が必要である。また、今年度プロジェクトセンターとして報告会を実施しておらず、次年度はできるようにしていきたい。さらに、大学院生の参加を進め、研究実践力推進にも役立てていきたい。

#### 4. 紀要の発行状況

「島根県立大学出雲キャンパス紀要」第15巻（特別寄稿1編，原著1編，報告5編，その他6編）を令和元年12月25日付けで280部発行した。（編集等の詳細については，I. 大学組織，7. 専門・特別委員会の活動のメディア・図書委員会の項目を参照）。



## Ⅶ. 地域貢献活動

### 1. 公開講座等

#### 1) 公開講座・ぎんざんテレビ出前講座

##### (1) 目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

##### (2) 事業実施

	講座名	開催状況	延べ受講者数
1	出雲キャンパス公開講座	15 講座 37 回	768
2	サテライトキャンパス公開講座「いずも健康市民大学」	前期 13 回 後期 12 回	197 202
3	サテライトキャンパス公開講座「初めてのポルトガル講座」	全 7 回	88
4	サテライトキャンパス公開講座「無理をしないいきかた～ゆるカフェ～」	全 4 回	14
5	サテライトキャンパス公開講座「ブラジル人親子の健康交流会」	全 6 回	38
合計			1307

##### (3) 広報

リーフレットを県内 186 の施設及び関係者に送付した。出雲キャンパス公開講座では 12 講座を出雲市市民活動支援課生涯学習係と、1 講座をしまね模擬患者の会、出雲保健所、倶楽部 UCD とそれぞれと共催講座とした。公開講座実施後は講座の様子をホームページに掲載した。

##### (4) 成果と課題

今年度は、初めてのポルトガル語講座を開講した。また看護栄養学部の特徴を生かし健康に加え栄養に関する講座や調理実習を昨年引き続き開催した。

受講者のアンケート調査から、講座は概ね高い評価を得た。また、サテライトキャンパス公開講座においても、「多様な分野の専門的な内容を継続的に学習し、健康づくり等の自主的な活動や豊かな市民生活について考える機会とする」という目的を達成していると同時に、参加者が楽しく、いきいきと学ぶ機会になっていると評価する。

出雲キャンパス公開講座といずも健康市民大学が同日開催の日程があり、受講生からどちらも受講したい意見が聞かれた。また客員教授の講座では学生を含め 300 名以上で盛会であった。しかし、一方で受講者が少ない講座があり、周知方法や開講時期、ニーズ等検討が必要である。またいずも市民大学ではリピーターの受講生も増えてい

るため、講座内容の工夫が必要である。今後は、出雲キャンパス公開講座・サテライトキャンパス公開講座共に、住民のニーズに合ったより魅力的なプログラムを企画し、多くの参加者が公開講座に足を運びたいくなるように広報をしていく必要がある。

## 2. 地域交流事業

地域交流事業として、大学の取り組みや地域との連携、大学が果たす役割について住民の人々と意見交換を行い、大学は出された意見を今後の大学運営に反映することを目的に、「キャンパスモニター会議」及び「タウンミーティング」を行った。また、学生の地域交流として、ボランティア活動を推進した。

### 1) キャンパスモニター会議・タウンミーティング事業

#### (1) キャンパスモニター会議

- ・第1回キャンパスモニター会議 令和元年6月28日(金) 13:00～15:00  
参加者：キャンパスモニター8名、学内教職員15名
- ・第2回キャンパスモニター会議 令和2年2月27日(木) 10:00～12:00  
参加者：キャンパスモニター6名、学内教職員14名 (意見交換会 学生5名)

#### (2) タウンミーティング 「タウンミーティング in 飯南町」

飯南町の「い～にゃん健康まつり」に合わせて2019年10月5日(土) 飯南町保健福祉センターにおいて開催した。飯南町民、保健医療福祉・行政・教育関係者29名、飯南高校生5名、大学8名、看護栄養学部生8名の参加があった。一部の話題提供を受けて、2部のグループディスカッションでは、飯南町民に混じって高校生や本学の飯南町出身者等の学生など若い人達の意見が多く出された。

#### (3) 成果と課題

- ・モニターからは、①防犯対策、②公開講座、③地域連携・地域貢献の現状と評価、④学生ボランティア、⑤教育の質の向上など、多岐に渡る意見や提案などが出され、大学側からは取り組みの現状や今後の検討事案等について報告し、活発な意見交換を行った。また、第1回会議の際に「学生との意見交流の時間を」との要望があり、第2回会議において時間を設け、モニター、学生双方から好評であった。
- ・タウンミーティングでは、今回から住民との意見交換をグループに分かれて行ったため、意見交換がしやすく、テーマについて多様な意見が出された。また、高校生や学部生の参加もあり、地域の現状と課題について、幅広い立場で意見交換ができたことは有意義であった。

今後も、地域に開かれた大学を目指して、キャンパスモニター会議、タウンミーティングを継続し、大学の取り組みや地域との連携、大学が果たす役割について住民の人々と意見交換を行い、大学は出された意見を今後の大学運営に反映する。

### 2) 学生ボランティア活動の推進

学生ボランティア研修会、学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア活動保

険の実施，学生へのボランティア情報提供，3キャンパス合同学生ボランティア交流会を実施した。

(1) 成果

① 学生ボランティア・マイレージ登録者数 合計 431 名（前年比：104 %）

② ボランティア活動保険加入者数 合計 362 名（前年比：91%）

③ ボランティア活動報告書提出実人数

看護学科：280 名 健康栄養学科：178 名 合計 458 名（前年比：161%）

前年度に比べ，全体での活動報告は増加した。地域に関する活動報告は，2018 年度 78 件であったが，2019 年度は 125 件に増えた。

④ ボランティア活動保険利用実績 0 件

(2) 課題

学生の参加者が増えることで，安全に参加できる支援が必要である。

### 3. 受託共同事業

#### 1) 令和元年度島根県看護職員実習指導者養成講習会

(1) 目的

看護師等学校養成所の実習施設において実習指導を担当する者又は将来実習指導者となる予定の者が，看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し，効果的な実習指導ができるよう，必要な知識・技術を修得させ，もって実習指導者の資質の向上と看護実習の強化を図ることを目的としている。

(2) 事業内容

島根県より「島根県看護職員実習指導者養成講習会実施事業」の委託を受け，厚生労働省の保健師助産師看護師実習指導者講習会の実施要綱に基づきカリキュラムを作成し実施した。（次ページ参照）

(3) 事業実施状況

① 日時：2019 年 7 月 17 日（水）～9 月 18 日（水） 9：00～16：00

② 場所：島根県立大学出雲キャンパス内講義室

③ 参加者：島根県内の病院の看護職 22 名

④ 講師：次ページ参照

(4) 成果

受講者の講習会へのアンケート調査から，講習会の参加目的の達成度・プログラム・内容・運営・学びの展開についての評価は，「良かった」，「大体良かった」が 95% 以上であり，講習会の受講に対する満足度の高さが伺えた。

指導案作成のグループ編成にあたっては，第 2 希望内でのグループ編成とし，老年領域は 2 グループで編成した。

また，今回の受講者は，実習指導経験者が約 6 割を占めており，自身の看護観や教育観を振り返る良い機会と捉え，認識を新たにし，指導経験のない受講者も含め本講習の講義や演習を基に自信を持って実習指導を行っていく決意の記載も多くみられた。

本講習会の目的である看護教育における実習の意義および実習指導者としての役割を理解し、必要な知識と技術を習得することについては、概ね達成できたと考える。

受講者からフォローアップ研修に限らず、大学における研修会等の開催についての情報を発信して欲しいとの要望があった。継続学習できる機会を提供するよう検討していく必要がある。

(5) 課題

2か月の長期にわたる実習指導者養成講習会への参加にあたり、受講者からは講習会のプログラム内容調整、実習指導案作成へのオリエンテーションについて要望があり、次回の講習会に向けて対策を検討した。学習環境については、学内の講座・研修会との重複により講義室を2階に移動した経緯があった。

空調関係を考慮すると104講義室を2か月間通して使用できるよう調整が必要である。



演習の様子

令和元年度島根県看護職員実習指導者養成講習会講師一覧(敬称略)

区分	授業科目		時間数	R1年度講師案	所属・役職	
教育に関する科目 (60時間)	教育原理		6	山下政俊	元島根大学教育学部/教授	
	教育心理		18	山田洋平	島根県立大学教育心理学/准教授	
				野口寿一	島根大学人間科学部/准教授	
	教育方法		30	15	山下政俊	元島根大学教育学部/教授
				15	原 広治	島根大学大学院教育学研究科/教授
教育評価		6	山下政俊	元島根大学教育学部/教授		
看護教育に関する科目 (39時間)	看護論	看護論	12	6	吉川洋子	島根県立大学看護栄養学部/教授
				3	吾郷美奈恵	島根県立大学看護栄養学部/教授
				3	平野文子	島根県立大学看護栄養学部/教授
	看護技術論		6	川瀬淑子	島根県立大学看護栄養学部/准教授	
	看護教育課程	看護教育課程	15	6	岡安誠子	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				3	狩野鈴子	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				3	吾郷美奈恵	島根県立大学看護栄養学部/教授
				3	池田英子	日本医療学園附属東亜看護/学院長
看護過程の展開		6	松本玄智江	島根県立大学看護栄養学部/准教授		

実習指導に関する科目(120時間)	実習指導の原理	実習指導概論	3	岡安誠子	島根県立大学看護栄養学部/准教授	
		実習指導計画	9	平野文子	島根県立大学看護栄養学部/教授	
	実習指導の評価		15	梶谷みゆき 林健司	島根県立大学看護栄養学部/教授 島根県立大学看護栄養学部/講師	
	実習指導の実際	実習指導の実際		3	平井由佳	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				3	森山美香	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				3	伊藤智子	島根県立大学看護栄養学部/教授
				3	大森眞澄	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				3	高橋恵美子	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				3	井上千晶	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				3	阿川啓子	島根県立大学看護栄養学部/准教授
		実習指導案作成 演習	69	57	平井由佳, 森山美香, 伊藤智子, 大森眞澄, 林 健司	
			6	平野文子	島根県立大学看護栄養学部/教授	
			6			
実習指導方法検討 演習(事例検討)		9	小田美紀子, 藤田小矢香, 梶谷麻由子, 松本祐香, 日野雅洋			
関連科目講義 (21時間)	島根における地域医療の現状と展望		1	山崎一幸	島根県健康福祉部医療政策課/課長	
	看護の動向		3	秦美恵子	島根県看護協会 会長	
	医療安全		3	岡田千秋	島根県立中央病院 医療安全推進室看護師	
	看護倫理		3	吉川洋子	島根県立大学看護栄養学部/教授	
	看護研究		6	吾郷美奈恵	島根県立大学看護栄養学部/教授	
	文献検索		3	渡邊克俊 二瀬恵子	島根県立大学看護栄養学部/講師 島根県立大学/司書	
合計		223				

## 2) 令和元年度島根県看護教員継続研修

### (1) 目的

看護教員のキャリアアップを支援する事業として、看護教員としての資質・能力の向上を図り、看護基礎教育の一層の充実を図る。

### (2) 事業内容

島根県より「島根県看護教員継続研修」の委託を受け、研修会の運営・実施（企画担当/県）を行った。研修は、全ての看護教員を対象とした『組織力を高める研修』、『教育力を高める研修』を実施した。



### (3) 事業実施状況

#### 組織力を高める研修

- ①日時：2019年8月9日（金）10:00～16:00
- ②場所：島根県立大学出雲キャンパス（出雲市西林木町 151）
- ③講師：池西静江氏（Office Kyo-Shien 代表・日本看護学校協議会会長）
- ④対象：島根県の看護教員
- ⑤参加者：看護教員 26 名

#### 教育力を高める研修

- ①日時：2019年9月20日（金）、21日（土）10:00～16:00
- ②場所：独立行政法人 国立病院機構浜田医療センター2階 総合研修センター（浜田市浅井町 777 番地 21）
- ③講師：平岡斉士氏（熊本大学教授システム学研究センター准教授）
- ④対象者：島根県の看護教員
- ⑤参加者：看護教員 17 名

### (4) 成果

研修後の参加者によるアンケートでは、両研修共に受講者全員が「満足、やや満足」としており、研修内容は今後の教育に活用できると回答していた。このことから、満足度有用度はともに高い研修であったと考えられた。

### (5) 課題



8月の研修は20名の募集枠に対して、25名と参加者が多かったものの、9月の研修は20名の募集枠に対して、17名と参加者が定員に満たなかった。各施設で実習や行事の重複によって調整が難しい状況もあることから、継続研修の日程・内容に関する早めの周知と共に、動機付けの方策について検討していく必要がある。

## 3) 令和元年度出雲市受託事業 児童虐待防止推進研修事業

### (1) 目的

年々深刻化する児童虐待の現状を市民一人ひとりが理解し、適切に対応できる力量を高めること、また、児童虐待が複雑、多様化する中で当事者を支援する地域の支援ネットワークづくりの強化が必要とされている。今年度は、支援者や保護者が子どもの心の成長に必要な対応についての理解を深め、子どもとの関わりについて学ぶ。また、支援



者の対人スキルの一つとして、「家族」の視点をもった関わりを学び、子ども虐待の予防、早期発見、対応に役立てる。さらに、多様化する出雲市の子育ての現状と子ども虐待（疑いを含む）を発見した後の具体的な支援について考える機会とする。

(2) 事業内容

出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市子ども家庭相談室）と島根県立大学出雲キャンパス（教員7名）の協働による「児童虐待防止と対応講座（全3回）」の企画・運営を行った。対象は、保健医療福祉関係者、教育関係者、行政関係者、民生委員、学生で、第2回講座は一般市民も対象とした。会場は、島根県立大学出雲キャンパスを使用した。

(3) 事業実施状況

表 プログラム概要と参加者数

	第1回	第2回	第3回
日時	令和元年7月20日（土） 13:30～16:00	令和元年8月31日（土） 13:30～16:00	令和元年11月16日（土） 13:00～16:30
テーマ	「家族支援」ができる 支援者をめざして	子どもの感情を育てる大人の関わり	出雲市における子ども虐待対応と その後の支援
内容	【講演】 「『家族理解』が『家族支援』 である」 ・講師：団 士郎 氏 （漫画家、家族カウンセラー 立命館大学客員 教授）	【講演】 「子どもの『いや』に困ったとき －叱ればいいの？受けとめれば いいの？－」 ・講師：大河原 美以 氏 （東京学芸大学教育心理学 講座 教授）	【活動報告・シンポジウム】 ・活動報告 「出雲市在住ブラジル人の妊娠・出産・ 子育てについてのニーズ調査」 報告者：鈴木 恵美子 氏 （島根県立大学看護栄養学部 看護学科4年） ・シンポジウム 「子ども虐待を通告した後、子どもは どう守られるの？」 シンポジスト 尾添 純子 氏 （出雲市役所子ども家庭相談室 室長） 山根 謙介 氏 （島根県出雲児童相談所相談支援課 課長） 上田 いずみ 氏 （島根県出雲警察署生活安全課 指導官）
参加者数	187名	157名	72名

(4) 成果

講演会は2回とも150名を超える多くの参加者があり盛会であった。アンケート結果から研修会に対する評価は高く、子ども虐待に関して『子ども』と『家族』それぞれの視点から考えることができる講座であった。

(5) 課題

- ①一般参加者が少ない。気軽に参加できる一般向けのプログラムの企画を工夫する。
- ②母性や小児、公衆衛生に関心の深い学生を中心に参加を呼び掛ける必要がある。
- ③地域の現状を共有するために、1回は参加型で意見交換できる研修会を引き続き行う。

4) 令和元年度出雲市受託事業 西田地区介護予防教室事業（和みの会）

(1) 目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスとの協働により、高齢者の認知機能の維持改善や体力作りのみでなく、活動を通して地域での活動に関わる人材の育成、地域のネットワー

クづくりを図ることである。

(2) 事業内容

期間：令和元年年 5 月 22 日～令和 2 年 2 月 26 日

業務受託の場所：西田地区（西田コミュニティーセンター）

事業受託料：660,000 円

関係機関：出雲市健康福祉部医療介護連携課，平田支所市民福祉課，健康づくり推進委員  
出雲キャンパス事業担当者：3名（平松喜美子，小村智子，後藤尊宣）

(3) 事業実施状況

①事前調査	1 回	20 名
②介護予防教室	17 回	平均 19 名
③事後調査	1 回	20 名

教室開始時と終了時に厚生労働省作成のフレイル，社会性，認知機能とこころの健康，栄養状態，体組成，上肢・下肢の周囲径，握力，歩行速度などを測定した。参加者には毎回，「参加簿の記録」に感想を書いていただき，それに対して「はげみ記録」を記入した。終了時には参加者にアンケート調査を行い，今後の介護予防教室の在り方についての参考資料とした。

(4) 成果及び課題

西田地区は高齢化率 37.7%と高いものの，健康な高齢者が多く，健康意識が高く，仲間意識の高い地域である。昨今，高齢者のフレイルやサルコペニアについて論議されるようになり，認知機能の予防を主とした回想法を実施してきたが，参加者の希望により身体機能，運動機能を強化するために運動療法士を招き出雲市いきいき体操の基礎を学んだ。また高齢者の嚥下食の試食会や島根県立大学出雲キャンパスの見学ツアーを実施し「栄養とお口のフレイル」について講義やお口の健康チェック，さらにノルディックインストラクターを招き西田地区コミュニティー周辺を散策した。

成果と課題は，総合的なフレイル評価や栄養面は改善され，認知機能やうつ状態は維持された。しかし，身体機能や運動機能の評価となる筋肉量や握力，歩行速度，骨量などは現状維持であった。また，本事業に関わるマンパワーの件についての課題がある。回想法は 4 グループで実施したことや，フレイル調査のため人的確保が困難であり，いろいろな方のご協力により，何とか終了することができた。今後，これを機会に自主的な会が立ち上がり，次年度からは今回の「和みの会」を基盤に健康教室を継続することになった。企画者としては嬉しいかぎりである。

◆詳細については，令和元年度「和みの会報告書」参照



#### 4. 視察・見学・体験学習

##### 1) シニア・ジュニアキャンパスツアー

###### (1) 目的

ツアーをとおしてキャンパスの広報活動を行うとともにシニア・ジュニアの健康学習の場とする。

###### (2) 事業内容

ジュニアキャンパスツアーでは、学内見学を通して本学の学習環境を説明するとともに、看護職・管理栄養士の役割について説明した。

###### (3) 事業実施状況

	対象者	開催日時	人数 (名)	内 容				
				講 話	協 力	会 場	学内見学	学食体 験
1	出雲市立河南中学校	9月18日(水) 15:00~16:30	350	—	地連推進委員	—	全館	なし
2	出雲市立北陽小学校	10月9日(水) 10:20~11:00	30	—	—	—	2号館・中庭	なし
3	西田地区介護予防教室	10月23日(水) 10:00~12:00	30	栄養と口腔のフレイル 佐藤公子教授	平松教授	215実習室	2号館ほか	なし
参加者合計			410					

###### (4) 成果

出雲市内の小学校1件・中学校1件の受け入れを行なった。いずれも新規に受け入れた学校であったが、好評を得た。

###### (5) 課題

通常のキャンパスツアーは、本学教員が学内を説明しながら案内をする形式をとっているが、今回350名が来学した際は通常対応が難しかったため、教職員を見学コース上の教室に配置し、生徒を誘導する形をとった。しかし人数が多く、説明が行き届かない箇所もあったため、キャンパスツアー受け入れ人数の上限は30名程度とするなどの検討が必

要である。

## 2) 小中学校体験学習

### (1) 目的

小中学生のための保健医療福祉に関する体験学習の依頼に応じる。

### (2) 事業内容

小学校からの依頼に対して、保健医療福祉に関する 1)～3) の体験学習を 2 件実施した。

①高齢者の眼の見え方と指先の動き

②車椅子体験

③ブラインドウォーク & 視覚障害者へのてびき

### (3) 事業実施状況

①日時：令和元年 7 月 11 日（木） 10:00～11:30

対象：出雲市立神西小学校 3 年生

参加者：34 名

②日時：令和元年 9 月 9 日（月） 9:00～11:30

対象：出雲市立高松小学校 5 年生

参加者：97 名

### (4) 成果

車椅子に乗り、車椅子を押される人の気持ちを体験することで、段差やスロープ等の障害になる場所について学ぶことができた。また、高齢者の物の見え方や、アイマスクをして視覚障害者の見えにくさを体験することで、困っている人に対して安心してもらえるための声かけや手助けの工夫について考えることができた。

### (5) 課題

体験型の学習には複数の教員配置が必要となる。体験学習が秋学期になると、本学の人員配置が難しいことから、実施時期を 4 月～9 月に限定して担当者と調整を図った。今後も安全に体験学習をサポートできるよう、同時期での開催を検討し余裕ある人員配置を行い実施する。



## 5. 学外者の施設・設備利用状況

本キャンパスの基準に基づき、学外の各種研修会，講演，シンポジウム等の開催のために，講義室，演習室など学内施設・設備の開放を行ない延べ 54 件 6,324名の利用があった。

体育施設や学内駐車場についても，地元コミュニティセンター他の事業等に事業開放した。

新型コロナウイルスの影響で 3 月中旬以降の学会・研修会等の施設利用については自粛となった。

## Ⅷ. 施設・設備

### 1. 施設設備の整備・運営状況

#### 1) 施設設備の整備・運営状況

本学は平成7年に開学し、平成23年度には3号館増築工事を実施しているが、平成29年度においては新棟5号館の増築工事が竣工した。4号館学生食堂の拡張及び厨房の改修工事、1号館2階旧図書館のラーニングコモンズへの改修工事もあわせて実施している。工事が完了した現在は、キャンパス敷地面積40,894㎡、学生寮敷地面積4,245㎡、キャンパス建物約18,400㎡、学生寮約2,400㎡の規模を有している。

学生用の駐車場については、キャンパス東側に用地取得し、約200台分の新規駐車場を平成25年度に整備した。

3号館および5号館に整備した自習室及び学生ラウンジは、午前6時から午後10時までの間、開放している。利用頻度も高く、毎月2,000名程度の学生が勉学等に使用している。

#### 2) 施設整備の維持管理

平成19年度から、短期大学部として指定管理者制度を導入し、施設管理運営業務や清掃業務等、総合的に保守管理を行い、質の高い業務成果を上げている。

令和元年度は主な工事として、吸収冷温水機保護リレー取替工事、自動力率調整器取替工事、和式トイレ洋式化工事を実施した。

年度	修繕件数	施設等修繕費
20年度	43件	24,095千円
21年度	56件	68,294千円
22年度	58件	42,736千円
23年度	55件	22,586千円
24年度	92件	46,225千円
25年度	100件	46,469千円
26年度	57件	10,746千円
27年度	43件	24,815千円
28年度	43件	20,072千円
29年度	60件	11,758千円
30年度	52件	8,131千円
令和元年度	45件	7,242千円

令和元年度は3月中までの実績

### 2. 情報ネットワークシステムの整備・運営状況

#### 1) 情報ネットワークシステムの整備

##### (1) 概要

今年度は以下の更新を行った。

- ①新入生用パソコン利用の促進
- ②学内無線LANシステムの更新、増強



③学内 Windows7 端末の更新

④学生利用パソコンの増設

## (2) 評価と課題

今年度は、Windows7 のサポート終了に伴い、学生用、教職員用、講義用など約 100 台のパソコン入替を行った。教職員用については、パソコン環境が変わることにより業務が滞らないよう、インストールされているソフトウェアや接続機器の事前調査を行った。これにより、現地での作業を最小限にとどめ、短い時間で、スムーズに入れ替えることができた。

また、無線環境の安定稼働のため、老朽化した無線 LAN 機器の更新、および無線機器の配置見直しを行った。電波が微弱なところは増強を図り、キャンパス内のどこにいても接続可能な電波状況になるよう無線環境を整備した。学内には、導入後 10 年以上経過している無線 LAN 機器も多数あるため、今後はこれらを計画的に更新し、より信頼性の高い無線 LAN システムを構築する必要がある。

## 2) 情報ネットワークシステムの運用

### (1) 概要

学内情報ネットワークシステムは次に挙げるシステムが現在稼働中であり、ネットワークシステム管理運用規程等の情報関連規程に沿って運用が続けられている。

#### 学内情報ネットワークシステム一覧

システム名	内 容
パソコン実習室システム	看護や栄養の現場で必要とされるワープロ・表計算などの操作実習、統計及び基本的 ICT 技術の習得を目的とするシステム。
図書管理システム	図書情報管理・図書検索 (OPAC) 等を行うシステム。
統合学生情報システム	学籍管理、履修管理及び成績管理等を行う教務システム。
	志願者管理及び合否管理等を行う入試システム。
	授業料及び寮費の収納管理等を行う学納金システム。
	学内施設・機器の予約を行うシステム。
健康診断結果等の管理を行う健康管理システム。	
メールシステム	メールの送受信・アドレス等を管理するシステム。
財務会計システム	大学運営経費の執行や旅費計算等の処理を行うシステム。
TV 会議システム	3 キャンパスを結んで実施する TV 会議を管理するシステム。
出出勤システム	研究室前の表示板と Web 画面により、教員の在室状況を把握することができるシステム。
電子掲示板システム	学生、教職員宛ての連絡事項等を学内に設置した大型モニタに表示し、情報共有を図るシステム。
ネットワークシステム	ネットワークの通信の制御、ユーザ認証、セキュリティ強化等を行うシステム。

### (2) 評価と課題

学外からメールシステムを利用することは、いつでも、どこでもメールを送受信できるというメリットがある反面、盗聴やなりすましなどのリスクをはらんでいる。今年度は、セキュリティ強化の一環として、全学で Office365 多要素認証 (2 段階認証) の運用を 2019 年 11 月から開始した。思っていたほど混乱はなかった。Office365 多要素認証の導入を受け、2020 年 1 月からは、これまでテレビ会議を利用していた学長定例記者会見も

office365 (Teams) で、どこにいても、安全に閲覧することができるようになった。今後も、Office365 の利用促進を図り、機能を教育・研究にどう生かしていくか、運用もあわせ検討を行う。

### 3. 出雲キャンパス図書館

#### 1) 図書館の整備状況

出雲キャンパス図書館は、県内では看護関連資料を最も多く所蔵しており、学生や教職員はもとより、地域の保健・医療・福祉関係者に広く利用されている。

図書館の床面積は、896 m<sup>2</sup>、座席数 100 席、収容可能冊数 10 万 1 千冊である。

#### 2) 図書館の蔵書の推移

蔵書構成 (2020 年 3 月 16 日現在)

・ 図書：71,991 冊 (和書 68,908 冊, 洋書 3,083 冊)

※分類別冊数は別表を参照のこと。

・ 購読雑誌数 (冊子体)：95 タイトル (和雑誌 90 タイトル, 洋雑誌 5 タイトル)

(電子ジャーナル)：4 タイトル (洋雑誌 4 タイトル)

・ 視聴覚資料数：3,154 点 (和 2,778 点, 洋 376 点)

※資料種類別

ビデオテープ	2,040 巻	カセットテープ	27 巻
コンパクトディスク	111 枚	CD-ROM	121 点
DVD	855 点		

・ 電子書籍 (買い切り)：37 タイトル

#### ●分類・所在別蔵書統計リスト

分類記号	区分	研究室	図書館	R1 合計	H30年度	H29年度	H28年度	H27合計	H26合計
0	総記	95	1,974	2,069	2,021	1,910	1,900	1,879	1,704
1	哲学	554	2,821	3,375	3,300	3,230	3,133	3,245	3,199
2	歴史	28	1,264	1,292	1,270	1,228	1,278	1,273	1,258
3	社会科学	1,865	10,374	12,239	12,030	11,616	11,192	10,743	10,595
4	自然科学	3,172	21,407	24,579	24,105	22,006	19,020	18,320	17,829
N	看護学	2,619	13,710	16,329	15,966	15,376	16,120	15,743	15,206
5	技術、工学	188	2,696	2,884	2,826	2,307	1,779	1,709	1,687
6	産業	44	777	821	793	470	383	354	343
7	芸術	114	1,855	1,969	1,884	1,817	1,845	1,807	1,772
8	語学	173	2,324	2,497	2,482	2,456	3,335	3,236	3,263
9	文学	104	3,833	3,937	3,838	3,713	4,558	4,354	4,234
合計		8,956	63,035	71,991	70,515	66,129	64,543	62,663	61,090

### 3) 図書館の利用状況

#### (1) 概要

##### ① 図書館の役割

- a. 学生, 研究生, 科目等履修生の学習支援
- b. 教員の研究活動および教育活動の支援
- c. 県内の保健・医療・福祉関連職従事者に対する情報センター

##### ② 活動内容

- ・レファレンスサービス：利用者からの問い合わせに対して随時実施
- ・オンラインデータベースの提供：「医学中央雑誌 Web 版」，「Nursing & Allied Health Database」のほか，新聞記事データベースなど計 14 種類
- ・新聞記事の紹介：出雲キャンパスに関係する新聞記事の目録を作成
- ・学外者への開放：県内に在住または在勤の 18 歳上の方
  - ▼2019 年度新規登録者数：153 人（前年度より 12 人増）
  - ▼2019 年度有効登録者数：432 人（前年度より 12 減）
  - ※学外利用者登録者数は令和 2 年 2 月 29 日現在の人数
  - ※2019 年 10 月 1 日より利用対象者を県内の保健・医療・福祉関係者から島根県内に在住または在勤の 18 歳以上（高校生不可）に変更
- ・各種協議会への参加：日本図書館協会/日本看護図書館協会/島根県医療関係機関図書館(室)懇談会/島根地域図書館連絡会/島根県大学・高等専門学校図書館協議会
- ・ホームページによる情報提供
- ・蔵書検索システムをウェブ上で公開
- ・USAGI（島根県立大学機関リポジトリ）データ更新
- ・教職員推薦図書 of 展示
- ・新入生対象のオリエンテーション，館内ツアーの実施
- ・開館時間を 15 分早め 8 時 45 分とした（規程改正）
- ・学生図書委員会購入図書の展示
- ・看護学科 2 年生必修科目「キャリアセミナーⅡA（文献検索）」への協力
- ・看護学科 3 年生必修科目「看護研究Ⅰ」への協力
- ・図書館システム更新（2019 年 9 月 1 日リリース）
- ・職場体験受入（2019 年 9 月 10，11 日，中学生 1 名）
- ・3 キャンパス学生図書委員交流会（2019 年 11 月 9 日）
- ・島根県教職員互助会学校図書充実事業による寄贈受入：図 43 冊
- ・看護学科 1 年生必修科目「看護学概論」展示：手記を読んで（2019 年 6 月 26 日～7 月 31 日）
- ・しまね国際センター&JICA 企画展示「あなたには何ができますか？」（2019 年 11 月 18 日～12 月 18 日）

## (2) 図書貸出状況

- ① 令和元年度開館日数 209 日  
 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館  
 （2020 年 3 月 3 日～3 月 31 日）
- ② 開館時間 8 時 45 分～20 時（春期・夏期・冬期の長期休業中は 9 時～17 時）
- ③ 利用条件

利用者区分及び人数 ※		貸出条件	
		冊数	期間
学 生	446人 (前年度比+28)	10冊以内	15日以内
科目等履修生	1人 (前年度比±1)	10冊以内	15日以内
教員(常勤)	72人 (前年度比+5)	15冊以内	30日以内
教員(非常勤)	8人 (前年度比±0)	15冊以内	30日以内
職 員	29人 (前年度比+2)	5冊以内	15日以内
学外利用者	432人 (前年度比-12)	臨床教授	
		5冊以内	21日以内
		卒業生・修了生	
		3冊以内	15日以内
		一般	
		2冊以内	15日以内

※2019年度に利用し得た人数（年度途中の有効期限切れ利用者，退職者を含む）

④ 利用資格別貸出冊数（2020年2月29日現在）

	学生	教職員	科目等履修生	学外利用者	他キャンパス学生・教職員	相互利用(ILL)	合計
貸出冊数 (前年度比)	12,228 (-210)	1,298 (+113)	9 (±9)	694 (-101)	0 (±0)	52 (+412)	14,281 (-179)
1人当たり 年間貸出冊数※ (前年度比)	27.4 (-2.4)	-	-	1.6 (+0.2)	-	-	-

※小数点以下第2位を四捨五入

⑤ 分類別図書貸出冊数（2020年2月29日現在）

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	看護学	工学	産業	芸術	言語	文学	その他	合計
R1	51	297	82	916	4,020	6,973	399	28	612	167	730	6	14,281
H30	31	285	58	1,151	3,929	7,423	353	37	347	97	741	8	14,460
H29	37	203	51	882	3,003	8,991	176	12	333	108	816	0	14,612
H28	48	268	65	791	3,181	8,824	184	18	392	110	656	0	14,537
H27	42	186	106	700	3,340	9,563	139	31	395	95	940	68	15,605
H26	32	254	131	866	2,576	7,070	323	32	377	92	969	113	12,835
H25	56	169	101	614	2,334	7,109	272	33	364	80	1,150	133	12,415

⑥ 複写件数（相互利用分を含む，2020年2月29日現在）

図書 373 件，雑誌 851 件

⑦ 相互利用（2020年3月16日現在）

現物貸借 依頼 10 件（前年度比-1）

受付 36 件（前年度比-6）

文献複写 依頼 176 件 (前年度比+4)  
 受付 537 件 (前年度比+45)

#### 4) 学術情報システムの整備・活用状況

図書館蔵書検索システム (OPAC) のほか、表 1 のとおり 14 種類のオンラインデータベースを提供している。そのうち、よく活用されている医学中央雑誌 Web 版の利用状況は表 2 のとおり、メディカルオンラインの利用状況は表 3 のとおり、メディカルファインダーの利用状況は表 4 のとおりである。

表 1 令和元年度提供のオンラインデータベース

番号	種類	データベース名	利用条件
1	新聞記事	聞蔵2 ビジュアル	ID数= 1
2	新聞記事	日経テレコン21 (固定)	ID数= 2
3	新聞記事	日経テレコン21 (プリペイド)	ID数= 1
4	辞書	Oxford English Dictionary	制限なし
5	論文・書誌	医学中央雑誌Web版	ID数= 4
6	論文・書誌	最新看護索引Web	ID数= 3
7	論文・書誌	PsycINFO	ID数= 1
8	電子ジャーナル	メディカルオンライン	制限なし
9	電子ジャーナル	メディカルファインダー (看護プラン)	制限なし
10	電子ジャーナル	Nursing & Allied Health Database	制限なし
11	電子ジャーナル	JSTOR Arts & Science II	ID数= 3
12	法律	D1-Law (判例体系+現行法規)	ID数= 1
13	学習ツール	PEN (Practice-based Evidence in Nutrition)	ID数= 5
14	ディスカバリーサービス	Primo	制限なし

表 2 医学中央雑誌 Web 版 年度別の利用状況 (2020 年 3 月 16 日現在)

月次	検索回数		ログイン回数		同時アクセスオーバー数	
	H30	R1	H30	R1	H30	R1
4月	2,831	3,420	586	668	30	388
5月	3,016	3,276	792	828	8	239
6月	1,999	1,853	510	538	3	145
7月	870	1,344	265	404	-	1
8月	875	1,753	299	371	30	-
9月	955	632	251	208	97	-
10月	1,592	1,251	487	286	2	-
11月	2,876	3,046	667	564	1	-
12月	1,383	1,665	445	361	72	8
1月	948	980	216	286	168	-
2月	534	984	160	302	-	-
3月	390	440	122	121	-	-
合計	18,269	20,644	4,800	4,937	411	781

(「同時アクセスオーバー数」は、契約の同時アクセス数 4 をオーバーした数を指す。)

表3 メディカルオンライン利用状況 (2020年2月29日現在)

月次	文献ダウンロード件数	
	H30	R1
4月	735	755
5月	1150	862
6月	682	680
7月	303	456
8月	477	561
9月	516	231
10月	591	429
11月	1141	1240
12月	605	577
1月	489	339
2月	137	283
3月	213	-
合計	7,039	6,413

(文献ダウンロード件数とは、全文PDFを表示することを指す。アブストラクトのダウンロード件数はこれに含まれない。)

表4 メディカルファインダー利用状況 (2020年2月29日現在)

月次	文献ダウンロード件数	
	H30	R1
4月	7	168
5月	99	164
6月	56	128
7月	56	87
8月	32	83
9月	44	75
10月	101	114
11月	106	156
12月	98	136
1月	35	89
2月	22	16
3月	97	-
合計	753	1,216



## ●FD活動報告

### I. 組織的活動

#### 1. FD研修会

##### 1) 目的

全教職員を対象に研修会を開催し、FDを推進する。

##### 2) 概要と実施結果

5回のFD研修会を開催した。

##### (1) 看護学研究科博士後期課程開設記念講演会（大学院設置準備委員会主催）

日時：平成31年4月24日（水）10：40-12：10

場所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

講師：草間朋子氏（東京医療保健大学 副学長）

テーマ：看護・看護学進展・発展に向けた看護研究への取り組み

結果：看護栄養学部や大学院の学生、教職員、医療関係者等、190名の参加があった。

看護職がプライドを持って最善の医療・保健を提供していくために、「看護基礎教育の充実」「看護の大学院教育の活用」「新人研修を含めた現任教育の充実」により、看護が一丸となる教育現場と実践現場との連携が重要であることを学んだ。

##### (2) 看護学研究科セミナー＜第5回＞（研究科委員会主催）

日時：令和元年8月10日（土）13：30～16：30

場所：島根県立大学出雲キャンパス ラーニングコモンズききょう

講師：小池智子氏

（慶應義塾大学看護医療学部大学院 健康マネジメント研究科 准教授）

テーマ：ケースメソッド教授法：看護学教育への活用

結果：大学院生9名、教員9名、職員1名、計19名の参加があった。本セミナーは事前にケース「組織行動を考える 新国立競技場整備計画問題」を読み、設問に対する自分の考えをメモにまとめて参加するワークショップ形式であった。内容の理解度、満足度は大学院生、教職員ともにすべて高い評価であった。

##### (3) 看護学研究科セミナー＜第6回＞（研究科委員会主催）及び研究科FD研修会（研究科FD委員会）

日時：令和元年8月24日（土）13:30～16:00

場所：島根県立大学出雲キャンパス 中講義室

講師：飯島勝矢氏（東京大学 高齢社会総合研究機構 教授）

テーマ：なぜ老いる？ならば上手に老いるにはフレイル予防を通した健康長寿のまちづくり

結果：94名（研究科学生7名、教職員17名、学外70名）であった。今回の研究科セミナーは研究科生のみでなく、保健医療福祉関係者や近隣の高齢者、また住民の健康寿命の延伸に取り組んでいる「高齢者サポート養成」関連の方々の参加があった。大規模高齢者長期縦断追跡コホート研究にて、フレイルのエビデンスを研究すると同時に市民主体（フレイルサポーター）による栄養・運動・社会参加を軸とする包括的フレイル予防教育を全国的に展開しているお話を聞き、参加した教職員にとって学びの多い研修会となった。

#### (4) キャンパス FD 研修会 (FD 委員会主催)

日 時：令和元年 8 月 28 日 (水) 15:30-17:00

場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

講 師：大江和彦 氏 (海士町長)

テーマ：ないものはない！離島からの挑戦

結 果：参加者は 48 名 (教員 34 名, 職員 14 名) であった。松江キャンパス, 浜田キャンパスからも 7 名の参加があった。本研修は, 島根県立大学の運営や地域貢献, 本学と地域 (海士町含む) の連携について考え, 教職員の今後の取り組みにつながる研修であった。

#### (5) キャンパス FD 研修会 (アドミッション委員会主催)

日 時：令和元年 7 月 31 日 (水) 13:40~15:10

場 所：島根県立大学出雲キャンパス 北会議室

講 師：延原範昭様 (株式会社進研アド 中・四国支社 支社長)

テーマ：「入試環境に関する研修」

結 果：参加者は 54 名であった。本学, 他大学を含めた入試の動向について, 教員の共通認識を得る機会となった。次年度以降も内容を検討しつつ, 継続開催が必要と思われる。

### 3) 今後の課題

引き続き, 各委員会と連携・協同して FD を推進する。

## 2. 授業参観

### 1) 目的

教員相互の授業参観を推進し, 教員は教育内容・方法の充実を図り, 事務職員はカリキュラム・マネジメントに役立てる。

### 2) 方法

専任教員全ての講義を参観対象とし, 参観者が事前に了解を得, 参観後に学びや参考になったことなどを報告書に記載し, 授業実施者と FD 委員会に提出する。

### 3) 実施結果

今年度の実施目標は新任教職員の着任年度に 1 回, 在任・異動教職員は積極的に授業参観を行うこととした。実績は 13 件, 教員 11 件 (10 名) で職員の参観者は 2 件 (2 名) であり, 新任教職員からの実施報告は 3 件 (30%) であった。

### 4) 今後の課題

本取り組みの継続・定着に向けて周知や声掛けを定期的に行う必要がある。

## 3. 授業アンケート

### 1) 授業アンケートの目的

全ての授業科目において「学生による授業アンケート」(以下, 授業アンケートとする) を実施し, 教員はその結果を活用して点検・評価を行い, 授業改善に自主的に取り組み, 教育の質向上に寄与する。

### 2) 方法

#### (1) 調査対象

全ての授業科目 (非常勤講師の科目を含む) を対象とし, 受講した全学生とする。

※ 異文化研修 I, II は対象としない。

## (2) 実施方法

授業アンケートの実施開始は、教務学生課による各学期始めのUNIPAへの履修登録・履修取り消し等の処理完了後とする。

各科目の担当教員は、原則として最終回に10分程度、回答する時間を設ける。また、スマートフォン、インターネット接続したパソコン等から回答するよう指示する。

各科目の担当教員は、担当の科目のみ、UNIPAで集計結果の閲覧と各学生のデータを「V」で確認する。

## (3) アンケート内容

授業アンケートは、学生の受講姿勢の自己評価(4項目)、学生の講義に対する感想(講義・演習9項目、実習9項目)で構成される。5段階評定(5:そう思う, 4:いくらかそう思う, 3:どちらとも言えない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)とした。

## (4) 分析方法

授業科目毎に集計し、年度末に学部別に「講義・演習・実験・実習(学内)」と「臨地実習」で集約する。

## 3) 実施結果

### (1) 回答状況

看護栄養学部の「講義・演習・実験・実習(学内)」および「臨地実習」の実施率は、春学期、秋学期ともに100%であった。また、「講義・演習・実験・実習(学内)」の回収率は、春学期79.9%、秋学期79.8%で、「臨地実習」は春学期79.1%、秋学期51.3%であった。

別科助産学専攻は「講義・演習・実験・実習(学内)」の実施率は、春学期、秋学期ともに100%、回収率は、春学期100%、秋学期21.4%であった。「臨地実習」は秋学期のみ実施され、実施率は100%、回収率は62.5%であった。

## (2) 看護栄養学部の結果

### ①「講義・演習・実験・実習(学内)」(表1)

春学期、秋学期ともに、学生の受講姿勢の自己評価と学生の授業に対する評価、13項目全てにおいて、「そう思う」、「いくらかそう思う」との回答が80%以上を占めた。中でも、「そう思う」の回答が高かったのは、「教員は熱意を持って授業をすすめた」「授業に必要な物品や場所などは整備されていた」であった。

項目		春学期		秋学期		
		数	(%)	数	(%)	
	実施対象科目	90	—	83	—	
	実施科目	90	(100.0)	83	(100.0)	
	回答対象者	5241	—	3666	—	
	回答者	4188	(79.9)	2926	(79.8)	
項目		人数	(%)	人数	(%)	
問1	この授業を理解するため自主的に学習した	そう思う	1427	(34.1)	1064	(36.4)
		いくらかそう思う	1953	(46.6)	1318	(45.0)
		どちらとも言えない	562	(13.4)	408	(13.9)
		あまりそう思わない	208	(5.0)	122	(4.2)
		そう思わない	38	(0.9)	14	(0.5)
問2	学習目標・内容を理解して授業に臨んだ	そう思う	1574	(37.6)	1135	(38.8)
		いくらかそう思う	2105	(50.3)	1449	(49.5)
		どちらとも言えない	368	(8.8)	267	(9.1)
		あまりそう思わない	122	(2.9)	65	(2.2)
		そう思わない	19	(0.5)	10	(0.3)
問3	私は授業に積極的に参加した	そう思う	2299	(54.9)	1513	(51.7)
		いくらかそう思う	1609	(38.4)	1194	(40.8)
		どちらとも言えない	229	(5.5)	181	(6.2)
		あまりそう思わない	42	(1.0)	31	(1.1)
		そう思わない	9	(0.2)	7	(0.2)
問4	私の受講態度は総合的にみて良かった	そう思う	2016	(48.1)	1396	(47.7)
		いくらかそう思う	1857	(44.3)	1311	(44.8)
		どちらとも言えない	255	(6.1)	177	(6.0)
		あまりそう思わない	47	(1.1)	34	(1.2)
		そう思わない	13	(0.3)	8	(0.3)
問5	教材は厳選されたもので、テキスト・配布資料・板書・視聴覚機器等が効果的に使用されていた	そう思う	2146	(51.2)	1479	(50.5)
		いくらかそう思う	1643	(39.2)	1181	(40.4)
		どちらとも言えない	288	(6.9)	211	(7.2)
		あまりそう思わない	81	(1.9)	43	(1.5)
		そう思わない	30	(0.7)	12	(0.4)
問6	教員の説明の仕方や授業の目的・要点・結論が明確であった	そう思う	2110	(50.4)	1479	(50.5)
		いくらかそう思う	1584	(37.8)	1124	(38.4)
		どちらとも言えない	325	(7.8)	228	(7.8)
		あまりそう思わない	115	(2.7)	72	(2.5)
		そう思わない	54	(1.3)	23	(0.8)
問7	教員は熱意をもって授業をすすめた	そう思う	2569	(61.3)	1769	(60.5)
		いくらかそう思う	1392	(33.2)	979	(33.5)
		どちらとも言えない	161	(3.8)	137	(4.7)
		あまりそう思わない	44	(1.1)	29	(1.0)
		そう思わない	22	(0.5)	12	(0.4)
問8	教員は、学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた	そう思う	2166	(51.7)	1452	(49.6)
		いくらかそう思う	1525	(36.4)	1144	(39.1)
		どちらとも言えない	347	(8.3)	235	(8.0)
		あまりそう思わない	102	(2.4)	65	(2.2)
		そう思わない	48	(1.1)	30	(1.0)
問9	教員は受講マナーが守られるように配慮した	そう思う	2250	(53.7)	1577	(53.9)
		いくらかそう思う	1603	(38.3)	1112	(38.0)
		どちらとも言えない	253	(6.0)	195	(6.7)
		あまりそう思わない	56	(1.3)	30	(1.0)
		そう思わない	26	(0.6)	12	(0.4)
問10	学習に必要な資料や物品は整備されていた	そう思う	2437	(58.2)	1663	(56.8)
		いくらかそう思う	1460	(34.9)	1068	(36.5)
		どちらとも言えない	218	(5.2)	165	(5.6)
		あまりそう思わない	46	(1.1)	16	(0.5)
		そう思わない	27	(0.6)	14	(0.5)
問11	この授業の目標が達成できた	そう思う	1723	(41.1)	1285	(43.9)
		いくらかそう思う	2037	(48.6)	1330	(45.5)
		どちらとも言えない	349	(8.3)	271	(9.3)
		あまりそう思わない	55	(1.3)	33	(1.1)
		そう思わない	24	(0.6)	7	(0.2)
問12	授業は興味深く、学習意欲を促す内容だった	そう思う	1896	(45.3)	1386	(47.4)
		いくらかそう思う	1789	(42.7)	1188	(40.6)
		どちらとも言えない	334	(8.0)	263	(9.0)
		あまりそう思わない	110	(2.6)	64	(2.2)
		そう思わない	59	(1.4)	25	(0.9)
問13	総合的に判断して、この授業に満足した	そう思う	2038	(48.7)	1477	(50.5)
		いくらかそう思う	1755	(41.9)	1174	(40.1)
		どちらとも言えない	276	(6.6)	201	(6.9)
		あまりそう思わない	91	(2.2)	56	(1.9)
		そう思わない	28	(0.7)	18	(0.6)

②「臨地実習」(表2)

春学期は、学生の受講姿勢の自己評価と学生の授業に対する評価、13項目全てにおいて、「そう思う」、「いくらかそう思う」との回答が90%以上を占めた。秋学期は、学生の受講姿勢の自己評価の4項目は、「そう思う」、「いくらかそう思う」との回答が90%以上であった。また、学生の講義に対する感想の9項目については、「そう思う」、「いくらかそう思う」との回答が80%以上であった。中でも、「そう思う」の回答が高かったのは、春学期は「実習機関・施設・病棟・部署は学生を受け入れてくれる雰囲気だった」で、秋学期は「実習に応じて必要な物品や場所は確保されていた」であった。

		春学期		秋学期		
		数	(%)	数	(%)	
	実施対象科目	3	—	8	—	
	実施科目	3	(100.0)	8	(100.0)	
	回答対象者	177	—	620	—	
	回答者	140	(79.1)	318	(51.3)	
項目		人数	(%)	人数	(%)	
問1	オリエンテーションの内容を十分に理解して実習を始めた	そう思う	86	(61.4)	144	(45.3)
		いくらかそう思う	51	(36.4)	165	(51.9)
		どちらとも言えない	3	(2.1)	6	(1.9)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	3	(0.9)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問2	日々の学習を振り返り、積み重ねながら実習できた	そう思う	105	(75.0)	173	(54.4)
		いくらかそう思う	35	(25.0)	137	(43.1)
		どちらとも言えない	0	(0.0)	7	(2.2)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	1	(0.3)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問3	積極的に実習を展開した	そう思う	89	(63.6)	200	(62.9)
		いくらかそう思う	46	(32.9)	110	(34.6)
		どちらとも言えない	5	(3.6)	8	(2.5)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問4	対象者(または対象集団)と適切な関係を築きながら実習を展開した	そう思う	92	(65.7)	184	(57.9)
		いくらかそう思う	46	(32.9)	124	(39.0)
		どちらとも言えない	2	(1.4)	10	(3.1)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問5	実習目的・目標と実習の内容や方法は合っていた	そう思う	91	(65.0)	140	(44.0)
		いくらかそう思う	47	(33.6)	174	(54.7)
		どちらとも言えない	1	(0.7)	4	(1.3)
		あまりそう思わない	1	(0.7)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問6	教員または指導者は、必要に応じて助言・指導・説明などを行った	そう思う	102	(72.9)	186	(58.5)
		いくらかそう思う	36	(25.7)	89	(28.0)
		どちらとも言えない	2	(1.4)	24	(7.5)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	17	(5.3)
		そう思わない	0	(0.0)	2	(0.6)
問7	教員または指導者は、学生の考え方や行動を尊重した	そう思う	105	(75.0)	184	(61.7)
		いくらかそう思う	33	(23.6)	67	(22.5)
		どちらとも言えない	1	(0.7)	27	(9.1)
		あまりそう思わない	1	(0.7)	16	(5.4)
		そう思わない	0	(0.0)	4	(1.3)
問8	教員間または教員と指導者の連携がよくなっていた	そう思う	85	(60.7)	152	(47.8)
		いくらかそう思う	47	(33.6)	109	(34.3)
		どちらとも言えない	7	(5.0)	39	(12.3)
		あまりそう思わない	1	(0.7)	16	(5.0)
		そう思わない	0	(0.0)	2	(0.6)
問9	教員または指導者は、学生が対象者やスタッフとうまく関わるように配慮していた	そう思う	102	(72.9)	186	(58.5)
		いくらかそう思う	33	(23.6)	89	(28.0)
		どちらとも言えない	3	(2.1)	31	(9.7)
		あまりそう思わない	2	(1.4)	10	(3.1)
		そう思わない	0	(0.0)	2	(0.6)
問10	カンファレンスにより、実習での体験の意味づけができた	そう思う	89	(63.6)	169	(53.1)
		いくらかそう思う	49	(35.0)	127	(39.9)
		どちらとも言えない	0	(0.0)	18	(5.7)
		あまりそう思わない	2	(1.4)	4	(1.3)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問11	実習機関・施設・病棟・部署は学生を受け入れてくれる雰囲気だった	そう思う	114	(81.4)	199	(62.6)
		いくらかそう思う	25	(17.9)	89	(28.0)
		どちらとも言えない	1	(0.7)	12	(3.8)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	12	(3.8)
		そう思わない	0	(0.0)	6	(1.9)
問12	実習に応じて必要な物品や場所は確保されていた	そう思う	107	(76.4)	206	(64.8)
		いくらかそう思う	32	(22.9)	92	(28.9)
		どちらとも言えない	1	(0.7)	14	(4.4)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	5	(1.6)
		そう思わない	0	(0.0)	1	(0.3)
問13	全体として充実した実習だった	そう思う	107	(76.4)	177	(55.7)
		いくらかそう思う	31	(22.1)	120	(37.7)
		どちらとも言えない	2	(1.4)	12	(3.8)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	7	(2.2)
		そう思わない	0	(0.0)	2	(0.6)



(3) 別科助産学専攻の結果

①「講義・演習・実験・実習（学内）」（表3）

春学期，秋学期ともに，学生の受講姿勢の自己評価の4項目は，「そう思う」，「いくらかそう思う」との回答が90%以上であった。学生の講義に対する感想の9項目についても，「そう思う」，「いくらかそう思う」との回答が80%以上を占めた。中でも，「そう思う」の回答が高かったのは，春学期は，「教員は熱意を持って授業をすすめた」で，秋学期は，「教員は受講マナーが守られるように配慮した」であった。

		春学期		秋学期		
		数	(%)	数	(%)	
	実施対象科目	17	—	2	—	
	実施科目	17	(100.0)	2	(100.0)	
	回答対象者	272	—	28	—	
	回答者	272	(100.0)	6	(21.4)	
項目		人数	(%)	人数	(%)	
問1	この授業を理解するため自主的に学習した	そう思う	172	(63.2)	2	(33.3)
		いくらかそう思う	75	(27.6)	4	(66.7)
		どちらとも言えない	16	(5.9)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	8	(2.9)	0	(0.0)
		そう思わない	1	(0.4)	0	(0.0)
問2	学習目標・内容を理解して授業に臨んだ	そう思う	172	(63.2)	3	(50.0)
		いくらかそう思う	88	(32.4)	3	(50.0)
		どちらとも言えない	10	(3.7)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	2	(0.7)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問3	私は授業に積極的に参加した	そう思う	190	(69.9)	3	(50.0)
		いくらかそう思う	74	(27.2)	3	(50.0)
		どちらとも言えない	6	(2.2)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	2	(0.7)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問4	私の受講態度は総合的にみて良かった	そう思う	184	(67.6)	4	(66.7)
		いくらかそう思う	75	(27.6)	2	(33.3)
		どちらとも言えない	12	(4.4)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	1	(0.4)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問5	教材は厳選されたもので、テキスト・配布資料・板書・視聴覚機器等が効果的に使用されていた	そう思う	185	(68.0)	4	(66.7)
		いくらかそう思う	70	(25.7)	2	(33.3)
		どちらとも言えない	11	(4.0)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	3	(1.1)	0	(0.0)
		そう思わない	3	(1.1)	0	(0.0)
問6	教員の説明の仕方や授業の目的・要点・結論が明確であった	そう思う	187	(68.8)	3	(50.0)
		いくらかそう思う	69	(25.4)	2	(33.3)
		どちらとも言えない	12	(4.4)	1	(16.7)
		あまりそう思わない	4	(1.5)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問7	教員は熱意をもって授業をすすめた	そう思う	215	(79.0)	4	(66.7)
		いくらかそう思う	48	(17.6)	2	(33.3)
		どちらとも言えない	9	(3.3)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問8	教員は、学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた	そう思う	195	(71.7)	3	(50.0)
		いくらかそう思う	65	(23.9)	3	(50.0)
		どちらとも言えない	9	(3.3)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	3	(1.1)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問9	教員は受講マナーが守られるように配慮した	そう思う	208	(76.5)	5	(83.3)
		いくらかそう思う	52	(19.1)	1	(16.7)
		どちらとも言えない	12	(4.4)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問10	学習に必要な資料や物品は整備されていた	そう思う	202	(74.3)	4	(66.7)
		いくらかそう思う	60	(22.1)	2	(33.3)
		どちらとも言えない	10	(3.7)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問11	この授業の目標が達成できた	そう思う	184	(67.6)	3	(50.0)
		いくらかそう思う	77	(28.3)	3	(50.0)
		どちらとも言えない	11	(4.0)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問12	授業は興味深く、学習意欲を促す内容だった	そう思う	197	(72.4)	3	(50.0)
		いくらかそう思う	65	(23.9)	3	(50.0)
		どちらとも言えない	7	(2.6)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	3	(1.1)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)
問13	総合的に判断して、この授業に満足した	そう思う	193	(71.0)	4	(66.7)
		いくらかそう思う	69	(25.4)	2	(33.3)
		どちらとも言えない	9	(3.3)	0	(0.0)
		あまりそう思わない	1	(0.4)	0	(0.0)
		そう思わない	0	(0.0)	0	(0.0)



②「臨地実習」(表4)

秋学期のみの実施で、学生の受講姿勢の自己評価の4項目は、「そう思う」、「いくらかそう思う」との回答が、「オリエンテーションの内容を十分理解して実習を始めた」が75%であったが、それ以外は90%以上であった。学生の講義に対する感想の9項目についても、「そう思う」、「いくらかそう思う」との回答が80%以上であった。中でも、「そう思う」の回答が高かったのは、「実習に応じて必要な物品や場所は確保されていた」であった。

	項目	春学期		秋学期	
		数	(%)	数	(%)
	実施対象科目	0	(-)	2	—
	実施科目	0	(-)	2	(100.0)
	回答対象者	0	(-)	32	—
	回答者	0	(-)	20	(62.5)
項目		人数	(%)	人数	(%)
問1	オリエンテーションの内容を十分に理解して実習を始めた	そう思う	-	8	(40.0)
		いくらかそう思う	-	7	(35.0)
		どちらとも言えない	-	3	(15.0)
		あまりそう思わない	-	2	(10.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問2	日々の学習を振り返り、積み重ねながら実習できた	そう思う	-	12	(60.0)
		いくらかそう思う	-	7	(35.0)
		どちらとも言えない	-	1	(5.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問3	積極的に実習を展開した	そう思う	-	14	(70.0)
		いくらかそう思う	-	5	(25.0)
		どちらとも言えない	-	1	(5.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問4	対象者(または対象集団)と適切な関係を築きながら実習を展開した	そう思う	-	15	(75.0)
		いくらかそう思う	-	4	(20.0)
		どちらとも言えない	-	1	(5.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問5	実習目的・目標と実習の内容や方法は合っていた	そう思う	-	12	(60.0)
		いくらかそう思う	-	7	(35.0)
		どちらとも言えない	-	1	(5.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問6	教員または指導者は、必要に応じて助言・指導・説明などを行った	そう思う	-	11	(55.0)
		いくらかそう思う	-	9	(45.0)
		どちらとも言えない	-	0	(0.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問7	教員または指導者は、学生の考え方や行動を尊重した	そう思う	-	12	(60.0)
		いくらかそう思う	-	7	(35.0)
		どちらとも言えない	-	0	(0.0)
		あまりそう思わない	-	1	(1.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問8	教員間または教員と指導者の連携がよくなっていた	そう思う	-	12	(60.0)
		いくらかそう思う	-	4	(20.0)
		どちらとも言えない	-	2	(10.0)
		あまりそう思わない	-	2	(10.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問9	教員または指導者は、学生が対象者やスタッフとうまく関わられるように配慮していた	そう思う	-	16	(80.0)
		いくらかそう思う	-	4	(20.0)
		どちらとも言えない	-	0	(0.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問10	カンファレンスにより、実習での体験の意味づけができた	そう思う	-	8	(40.0)
		いくらかそう思う	-	8	(40.0)
		どちらとも言えない	-	4	(20.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問11	実習機関・施設・病棟・部署は学生を受け入れてくれる雰囲気だった	そう思う	-	16	(80.0)
		いくらかそう思う	-	4	(20.0)
		どちらとも言えない	-	0	(0.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問12	実習に応じて必要な物品や場所は確保されていた	そう思う	-	17	(85.0)
		いくらかそう思う	-	3	(15.0)
		どちらとも言えない	-	0	(0.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)
問13	全体として充実した実習だった	そう思う	-	14	(70.0)
		いくらかそう思う	-	5	(25.0)
		どちらとも言えない	-	1	(5.0)
		あまりそう思わない	-	0	(0.0)
		そう思わない	-	0	(0.0)

#### 4) 今後の課題

看護栄養学部開設2年目を迎え、授業アンケートは順調に実施でき、良い評価であった。また、今年度から、大学の学生情報システムの変更に伴い、授業アンケートは3キャンパス共通のWeb調査となり、学生ポータルWeb情報システム「UNIVERSAL PASSPORT」(以下UNIPA)の機能を用いて授業アンケートを行うこととし、全学で共通の質問項目を設けた。各科目独自の項目は、必要に応じてアンケート機能等を用いて対応することとした。そのため、学生・教員にとって実施方法が簡便になった。しかし、実施率・回収率が下がることのないよう工夫するとともに、学年進行に注視する必要がある。

なお、UNIPAからのデータ出力は、集中講義の日程や実習の領域ごとに異なる実習期間と、設定可能な期間とが合わないために細かな調整、確認作業が必要であった。また編入学生については、WEB使用の限界などがあった。次年度より健康栄養学科の実習が始まるため、設定についてはフィードバックレポートの記載時期なども考慮し混乱の無いように、事務との連携をもって正確に行う必要がある。

### 4. フィードバックレポートの公開

#### 1) 目的

各授業科目の授業アンケートの結果を基に、学生にフィードバックすることにより授業改善・向上を図るとともに、教員が学生に対しての説明責任を果たす。

#### 2) 方法

専任教員が担当した授業科目毎にフィードバックレポートの提出を求め、学生情報システムに掲載し、本学の学生および教職員に周知・公開する。

#### 3) 実施結果

専任教員が担当する139科目(講義、演習、実習)の提出があった(提出率97.2%)。教員から提出された科目毎のフィードバックレポートは、学内ウェブ上の学生情報システムUNIPA(学内リンク・ファイル共有[office365])に掲載し、本学の学生および教職員に周知・公開した。

#### 4) 今後の課題

今年度より授業アンケート結果の閲覧が学生情報システムUNIPA上となったこと、データの集計結果の表示内容が変更されたこと、閲覧期間が限定されたことなどから、春学期フィードバックレポートの作成・提出への問い合わせが多くあった。スムーズにフィードバックレポートの作成・提出ができるよう、閲覧方法や閲覧期間等についての周知を徹底していく必要がある。また、今年度は提出率100%を達成することができなかった。フィードバックレポートの提出率100%を目指し、教員への協力を求めていく。

## 5. 研究成果の共有

### 1) 目的

学会発表を行ったポスター等の研究成果を掲示し、相互に学び合う場とする。

### 2) 方法と実施結果

場所：「研究成果の共有」スペース（1号館2階）

対象：出雲キャンパスの教員が学会等で発表した研究

方法：学内メールで募集し、提出された成果物を約1か月間掲示する。

結果：「研究成果の共有」は平成26年に開始して6年目を迎えた。今年度の掲示数は19テーマ（前年度からの掲示3テーマを含む）で、その内訳は、看護学科17テーマ、健康栄養学科2テーマであった。昨年度の掲示数27テーマと比較して掲示数は減少した。

### 3) 今後の課題

掲示数を増やす対策として、ポスターのみでなく、口演資料（パワーポイント）、抄録、短報等でも掲載可能であることを周知する。また、学会発表数などの背景を推察しながら、両学科の教員・職員の相互理解を促進し、新たな研究につながる機会として継続していく必要がある。

## II. 教員の個人的活動

### 1. 研究活動

学長代行・教授 山 下 一 也

#### 学会発表

- 1) 第30回日本医学看護学教育学術学会，離島における高齢者の認知機能と心機能の関連，藤田小矢香，山下一也，今中美栄，大草知子，出雲

#### 講演

- 1) 職員を対象とした認知症の知識と周辺症状の講演会「認知症の全て」，さざんか研修棟，2019. 4. 22，浜田市.
- 2) 江津市内の高齢者を対象として開催する「和光園大学」講師「認知症予防最前線」，江津市社会福祉協議会，2019. 6. 10，江津市.
- 3) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会シンポジウムコーディネーター「これからの地域医療・地方が抱える高齢者社会の課題」島根県立大学出雲キャンパス，2019. 6. 15，出雲市.
- 4) 出雲市未来共同創造事業「みんなで創ろう！出雲の未来」パネリスト，ビックハート出雲，2019. 7. 9，出雲市
- 5) いずもJAシニア女子大学講師「食と脳（農）」，JAしまね出雲地区本部，2019. 7. 24，出雲市.
- 6) 出雲南ロータリークラブ例会講演「暮らしやすさとホルモン」，出雲ロイヤルホテル，2019. 8. 30，出雲市.
- 7) パーキンソン患者・家族会（あいじさいの会）学習会講師，隠岐合同庁舎，2019. 9. 13，隠岐の島.
- 8) かわと交通安全教室講演「脳科学者が解く高齢ドライバーの謎」，川跡コミュニティセンター，2019. 9. 24，出雲市.
- 9) 南中校区健康を考える会研修会講演「生活習慣と脳の成長」，出雲市立南中学校，2019. 10. 3，出雲市.
- 10) 令和元年度難病ボランティア養成講座講演「難病の理解を深めよう」，益田合同庁舎，2019. 10. 16，益田市
- 11) 島根県病院協会職員研修会講師「島根の地域医療に県立大学が果たす役割」，ニューウェルシティ出雲，2020. 1. 29，出雲市

副学長・教授 石 橋 照 子

#### 論文

- 1) 精神疾患を有する母親の育児体験の意味，上田明美・石橋照子・吉川洋子，看護研究学会，早期公開.

- 2) 精神疾患を有する母親の育児ストレスとサポートの関連, 日野雅洋・大森眞澄・石橋照子・高橋恵美子・井上千晶・松谷ひろみ, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 57-54, 2019. 12.

#### 学会発表

- 1) 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 2019. 8, 精神疾患を有する女性の育児ストレスとソーシャルサポートの実態, 大森眞澄, 日野雅洋, 井上千晶, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 石橋照子, 大阪市
- 2) 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 2019. 8, 精神疾患を有する母親への保健所保健師の支援の実態, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 井上千晶, 大阪市
- 3) 第 60 回日本母性衛生学会学術集会, 2019. 10, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の課題, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 高橋恵美子, 大森眞澄, web 学会
- 4) 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神科外来において看護師が行う精神疾患を有する母親への支援の実態調査, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 井上千晶, 高橋恵美子, 金沢市
- 5) 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の支援実態, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 高橋恵美子, 金沢市
- 6) 第 30 回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3, 労継続支援 B 型事業所での農作業を通して育まれた精神疾患患者の就労継続につながるエンパワメント, 松谷ひろみ, 石橋照子, Web 開催

#### 講演

- 1) 認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 2019. 9. 21, 看護管理組織論 - 看護組織のナレッジマネジメント -, 西南女学院大学 (福岡市).

## 教授 赤浦和之

#### 学会発表

- 1) 園芸学会令和元年度秋季大会, 2019, 9, カキ‘西条’干し柿およびその加工品乾燥粉末の特性, 赤浦和之, 福岡博義, 松江市

## 教授 吾郷美奈恵

#### 論文

- 1) 広報・国際委員会活動報告, 吾郷美奈恵, 啜素代, 吉川悦子, 小田美紀子, 鈴木良美, 保健師教育, 3(1), 50-51, 2019.
- 2) 学生の授業経験・学習態度や能力・知識の獲得状況からみた A 大学における看護教育の現状～2017 年度 IR コンソーシアム標準調査から～, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 小林洋貴, 山下一也: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 35-43, 2019.

#### 学会発表

- 1) 日本看護学教育学会第 29 回学術集会, 2019. 8. 3-4, A 大学看護学生の学年進行に伴う知識・能力の獲得状況, 吾郷美奈恵・高橋恵美子・岡安誠子・小田美紀子・山下一也, 京都市.
- 2) 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 2019. 8. 20-21, 学生による学習活動および能力評価からみた学習環境の意義, 岡安誠子・高橋恵美子・吾郷美奈恵・小田美紀子, 大阪市.
- 3) 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11. 30-12. 1, 学生 FD 活動と所属する大学への愛校心

や満足度の関係, 金山俊介・吾郷美奈恵・小田香澄・松谷ひろみ・藤田小矢香・長島玲子, 金沢市.

- 4) 第8回日本公衆衛生看護学会, 2020. 1. 11-12, A大学看護学生の保健師教育選択の有無による授業経験の機会・学習経験と能力・知識の獲得状況, 小田美紀子・吾郷美奈恵・高橋恵美子・山下一也, 松山市.
- 5) 第8回日本公衆衛生看護学会, 2020. 1. 11-12, 地区担当制と業務担当制による保健活動体制の特徴, 長谷川伸子・出川洋子・佐藤多津美・山田恭子・吾郷美奈恵, 松山市.
- 6) 第8回日本公衆衛生看護学会, 2020. 1. 11-12, A県における行政保健師の背景と教育ニーズの関連, 戸谷紗嘉・吾郷美奈恵・伊藤智子, 松山市.
- 7) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 27-29, サークルとアルバイトからみたA大学看護学科の学生文化, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 山下一也, 出雲市.
- 8) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 27-29, 行政保健師が行う医療的ケアが必要な未就学児に対する支援内容, 戸谷紗嘉・吾郷美奈恵・伊藤智子, 出雲市.
- 9) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 27-29, 病院において外国人職員と連携・協働するための看護管理者の工夫, 小泉幸ノ輔・吾郷美奈恵, 出雲市.
- 10) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 27-29, コミュニティセンターを利用している者の生きがいや交流頻度の現状とその関係, 有田鈴・吾郷美奈恵, 出雲市.

#### 講演

- 1) 大分県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修講師, 2019. 7. 18, 資源管理Ⅰ－看護実践における報論管理－, 大分市.
- 2) 2019年度島根県免許法認定講習講師, 2019. 8. 5, 看護学, 出雲市.
- 3) 令和元年度島根県看護職員実習指導者養成講習会講師, 2019. 8. 15, 看護教育課程－保健師－, 出雲市.
- 4) 島根県立中央病院看護研究研修会, 2019. 10. 4, 看護研究のまとめ方 ～データから情報へ～, 出雲市.
- 5) 雲南市保健関係者人財育成研修会, 2020. 3. 19, 雲南市で育ち・育てる人財開発(成長), 雲南市.

#### 学会活動

- 1) 一般社団法人日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 一般演題(口演)座長.
- 2) 令和元年度「保健師等ブロック(中国四国ブロック)」, 2019. 9. 3, 実践報告進行.

#### その他

- 1) 令和元年度「KENDAI 縁結びフォーラム」, 2020. 2. 20, 隠岐島前ヘルスサポートプロジェクト - 歌って踊ってエクササイズ-, 吾郷美奈恵, 学生6名, 浜田市.

## 教授 伊藤智子

#### 論文

- 1) Relationship between Individual Social Capital and Cognitive Function among Older Adults by Gender: A Cross-Sectional Study, Tomoko Ito, Kenta Okuyama, Takafumi Abe, Miwako Takeda, Tsuyoshi Hamano, Kunihiko Nakano, Toru Nabika: Int J Environ Res Public Health. Jun ;16(12):2142. Available from: <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC6616497/>
- 2) 七田式脳トレーニング法による健常高齢者の認知機能への影響(2), 伊藤智子, 加藤さゆり, 牛尾巧, 岡本英子, 島根県立大学研究紀要, 15, 15-24, 2019.
- 3) 認知症高齢者に対する「聞き書き」による看護学生の実習での学び, 荒木さおり, 伊藤智子, 加藤さゆり, 林健司, 濱村由香, 梶谷みゆき, 島根県立大学研究紀要, 15, 25-33, 2019.



### 学会発表

- 1) 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, 10, GENDER DIFFERENCES IN THE RELATIONSHIP BETWEEN INDIVIDUAL SOCIAL CAPITAL AND COGNITIVE FUNCTION AMONG RURAL AREAS-DWELLING ADULTS: A CROSSECTIONAL STUDY, Tomoko Ito, Kenta Okuyama, Takafumi Abe, Miwako Takeda, Tsuyoshi Hamano, Kunihiko Nakano, Toru Nabika, Taipei
- 2) 日本老年看護学会第24回学術集会, 2019. 6, 看護学生による認知症高齢者に対する聞き書き実習の学び, 荒木さおり, 加藤さゆり, 林健司, 濱村由香, 伊藤智子, 梶谷みゆき, 仙台市.
- 3) 日本公衆衛生看護学会第8回学術集会, 2020. 1, A県における行政保健師の背景と教育ニーズの関連, 戸谷紗嘉, 吾郷美奈恵, 伊藤智子, 松山市.
- 4) 日本医学看護学教育学会第30回学術集会, 2020. 3, 行政保健師が行う医療的ケアが必要な未就学児に対する支援内容, 戸谷紗嘉, 吾郷美奈恵, 伊藤智子, 出雲市.
- 5) 日本医学看護学教育学会第30回学術集会, 2020. 3, 高齢化が進む地域で暮らす男性高齢者の通所型介護予防事業への継続的参加要因, 祝原あゆみ, 伊藤智子, 出雲市.

### 講演

- 1) NPO 法人なないろネットなないろ教室, 2019. 8. 5, 健康長寿の秘訣, 出雲市.
- 2) 平田コミュニティセンター福祉健康部主催自主企画事業, 2019. 9. 20, レッツトライ回想法, 出雲市.

## 教授 今中美栄

### 論文

- 1) 日韓交流における健康栄養学科の学生の学びについて～異文化研修(韓国)とさくらサイエンスプランの参加報告から～, 今中美栄, 金美玉, 細川優, 多々納浩, 福田詩織, 南星姫: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15. 81-90, 2019.
- 2) アメリカンフットボール選手への栄養指導の現状と行動変容への影響に関する検討, 中木直子, 和田鈴奈, 真幡美千子, 今中美栄: 京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部研究紀要, 57, 55-62, 2019.

### その他

- 1) 2019 年度「食と教育」学術研究委託研究: 韓国と日本の食育における牛乳・乳製品の価値観について～成長期におけるヘルスリテラシーの醸成教育に向けての比較検討～
- 2) 平成31年度北東アジア地域学術交流研究(共同プロジェクト研究助成事業): 北東アジア地域でのヘルスリテラシーの評価と効果的な醸成教育プログラムの構築～健康長寿社会に向けての韓国と日本における共同研究～
- 3) 平成31年度しまね地域研究センタープロジェクト: 隠岐・海士・知夫を巡るおひとりさま食生活支援プロジェクト
- 4) 平成31年度地域貢献推進奨励金活動: 平田高校との連携による旧平田市での「だんだん減塩運動町ぐるみ」プロジェクト

### 学会発表

- 1) THE KOREAN SOCIETY OF FOOD AND NUTRITION 2019, 2019. 5, Effectiveness of Fieldwork Practice for Nutrition Education in Registered Dietician Training Course: Exploring the Challenges of Elderly Support as a Joint Project between Korea and Japan, Mie Imanaka, Masaru Hosokawa, Hiroshi Tatano, Shiori Fukuda, Kim Miok, seoul KORIA.
- 2) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019, 6, 島根県立大学における隠岐の島町と知夫村での地域実践活動教育の評価方 KH Coder による共起ネットワーク分析の試み～, 今中美栄, 細川優,

多々納浩, 福田詩織, 島根県.

- 3) Asian Congress of Nutrition 2019, 2019. August, Effectiveness and Continuity of a Diet Survey Method Using the Social Network Service: A Pilot Randomized Controlled Trial, Mie Imanaka, Ayaka Sagane, Wakaba Oba, Jiro Takeuchi, Bali International Convention Center.
- 4) 第8回日本栄養学教育学会学術総会, 2019.9, 管理栄養士養成課程における日韓交流研修教育の検討～大邱保健大学と島根県立大学での学生交流から～, 今中美栄, 金美玉, 南星姫, 富山県.
- 5) 第8回日本栄養学教育学会学術総会, 2019.9, 栄養学教育におけるIoTおよびAI導入についての検討～健康フェスティバル2019, ロボットに対する意識調査から, 今中美栄, 宮川照代, 富山県.
- 6) 第55回日本栄養改善学会学術総会, 2019.9, 隠岐諸島における栄養教育実践活動の評価～ARCSモデルによる学習意欲の向上について～, 今中美栄, 細川優, 多々納浩, 福田詩織, 富山県.
- 7) THE KOREAN SOCIETY OF FOOD AND NUTRITION 2019, 2019. 11, Comparison of Health Literacy in Milk and Dairy Products between Japan and Korea ～Pre-Survey Report in Kyoto～, Chie Kuwajima, Hiroko Sakamoto, Masaru Hosokawa, Hiroshi Tatano, Shiori Fukuda, Naoko Nakagi, Jiro Takeuchi, Miok Kim, Mie Imanaka, seoul KORIA.
- 8) THE KOREAN SOCIETY OF FOOD AND NUTRITION 2019, 2019. 11, 대학생 대상의 우유 및 유제품의 섭취를 위한 사전 조사 (大学生対象の牛乳や乳製品の摂取のための事前調査), Miok Kim, Chie Kuwajima, Hiroko Sakamoto, Masaru Hosokawa, Hiroshi Tatano, Shiori Fukuda, Naoko Nakagi, Jiro Takeuchi, Mie Imanaka, seoul KORIA.
- 9) THE KOREAN SOCIETY OF FOOD AND NUTRITION 2019, 2019. 11, 한일 식품 영양 전공 학생의 교류 활동에 대한 의견 (日韓食物栄養学専攻の学生の交流活動への意見), Miok Kim, Masaru Hosokawa, Mie Imanaka, seoul KORIA.

#### 講演

- 1) 特定非営利法人健康づくり0次クラブ健康フェスティバル, 2019. 5. 19, 素敵な未来は楽しい食生活から!～今から始めて健康に～, 滋賀県長浜市.
- 2) 鳥取県西部総合事務所 食育推進交流会, 2019. 7. 30, 私から始める連携食育活動～協働こそ地域のちから～, 鳥取県.
- 3) 島根県立中央病院 ユニフィケーション講座, 2019, 9, 24, 栄養とアンチエイジング～今よりもっときれいに, さらに美しくなるためには!～, 島根県出雲市.
- 4) 平田商工会議所女性会, 2019. 10. 6, いつまでも若く美しい「健康」を手に入れましょう!, 島根県出雲市.
- 5) 京都府南丹広域振興局平成29年度職員健康管理セミナー, 2019. 10. 26, 若返りに食は大切!?!～美しく歳を重ねるためのアンチエイジング～, 京都府南丹市.～
- 6) 島根県立中央病院中央診療ユニフィケーション研修会, 2019. 11. 28, 維持透析患者への食生活・栄養サポートのコツ, 島根県出雲市.
- 7) 島根県立浜田高等学校(定時制・通信課程) ころと身体の健康講座, 2019. 12. 13, 活躍できる身体づくりのコツ! スポーツと栄養!!～夢を叶えるための身体づくり!～, 島根県浜田市.
- 8) 第66回鳥取県保育推進研究大会, 2020. 1. 10, みんなでまもる子ども元気!!～チームで考える食のサポート!～, 鳥取県倉吉市.

#### 学会活動

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019, 6, 実行委員長, 島根県.
- 2) 第55回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9, 栄養教育, 食育セッション9, 座長.
- 3) 第55回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9, 研究自由集会世話人, 行動を変える魔法のカウンセリング in Toyama, 今中美栄, 松岡幸代, 和泉正美, 富山県.

## 教授 梶谷みゆき

### 論文

- 1) 学生・教員で取り組む地域貢献活動，高齢者の健康づくり応援プロジェクト，林健司，松本祐香，平松喜美子，石橋鮎美，梶谷みゆき，荒木さおり，福島彩花，今井敬人，大月彩菜，野々村奏子，佐々木朋佳，加藤大志，鹿毛沙綾，出羽葵，前原知佳，柳川莉子，石田菜々美，板持智之：保健師ジャーナル，第75巻，第10号，医学書院，856 - 861，2019.
- 2) 認知症高齢者に対する「聞き書き」による看護学生の実習での学び，荒木さおり，伊藤智子，加藤さゆり，林健司，濱村由香，梶谷みゆき：島根県立大学出雲キャンパス紀要，第15巻，25 - 33，2019.
- 3) ドイツの地方都市における周産期医療の現状，三瓶まり，平松喜美子，梶谷みゆき，島根県立大学出雲キャンパス紀要，第15巻，91 - 97，2019.
- 4) ドイツの高齢者施設の現状，梶谷みゆき，平松喜美子，三瓶まり，島根県立大学出雲キャンパス紀要，第15巻，107 - 112，2019.

### 学会発表

- 1) 日本老年看護学会第24回学術集会，2019. 6. 7，看護学生による認知症高齢者に対する聞き書き実習の学び，荒木さおり，加藤さゆり，林健司，濱村由香，伊藤智子，梶谷みゆき，仙台市.
- 2) 第26回日本家族看護学会学術集会，2019. 9. 14，回復期脳血管障害患者と配偶者の家族機能を高める看護師の面談スキル，梶谷みゆき，加藤さゆり，荒木さおり，林健司，京都市.
- 3) 日本転倒予防学会第6回学術集会，2019. 10. 6，大腿骨近位部骨折術後高齢者の居宅退院後における転倒不安感の変化，林健司，岡安誠子，平松喜美子，荒木さおり，梶谷みゆき，目次早苗，新潟市.
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会，2019. 11. 30，大腿骨近位部骨折術後高齢者における居宅での生活様相，林健司，荒木さおり，岡安誠子，梶谷みゆき，平松喜美子，金沢市.
- 5) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会，2020. 3. 14 (3. 27-29Web 開催へ変更)，高次脳機能障害を持ちながら在宅で生活する人の体験世界，錦織優希，本田侑香，梶谷みゆき，出雲市.
- 6) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会，2020. 3. 14 (3. 27-29Web 開催へ変更)，訪問看護師が実践している終末期在宅療養高齢者の事前意思に基づく支援，煎澤佳奈，馬庭里奈，梶谷みゆき，出雲市.
- 7) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会，2020. 3. 14 (3. 27-29Web 開催へ変更)，商業施設で行う健康増進啓発活動の紹介と参加者におけるサルコペニアの実態，松本祐香，林健司，板持智之，荒木さおり，平松喜美子，梶谷みゆき，出雲市.
- 8) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会，2020. 3. 14 (3. 27-29Web 開催へ変更)，商業施設で行う健康イベントに参加した地方高齢者のフレイルの実態，板持智之，林健司，松本祐香，荒木さおり，平松喜美子，梶谷みゆき，出雲市.

### 講演

- 1) 島根県立中央病院看護局臨床実習指導者研修会，2019. 5. 28，看護教育の動向・制度，出雲市.
- 2) 島根県立大学しまね看護栄養交流センター認知症看護認定看護師教育課程，2019. 6. 18，6. 25，7. 2，認知症ケア原論，出雲市.
- 3) 島根県立大学しまね看護栄養交流センター認知症看護認定看護師教育課程，2019. 8. 6，認知症者

と家族支援，出雲市.

- 4) 島根県立中央病院看護局ナラティブ研修会（3回シリーズ），2019. 7. 1, 8. 20, 9. 10, 出雲市.
- 5) 雲南圏域長寿しまね推進事業研修会，2019. 12. 10, 雲南市

#### 学会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会誌，2019. 8, 査読.
- 2) 日本老年看護学会誌，2019. 10, 査読.
- 3) 日本家族看護学会学会誌（家族看護研究），2020. 3, 査読

#### その他

- 2) 令和元年度「KENDAI 縁結びフォーラム」，2020. 2. 20, 高齢者の健康づくり応援プロジェクト～健康フェスタ 2019～，松本祐香，林健司，板持智之，荒木さおり，平松喜美子，梶谷みゆき，浜田市.

## 教授 加納尚之

#### 論文

- 1) 完全閉じ込め症候群(TLS)となった ALS 患者のコミュニケーションー脳波(ERP)を用いた Android スマートフォンアプリの開発ー，加納尚之，看護理工学会学会誌，6(2) 63-69, 2019

## 教授 亀山良子

#### 著書

- 1) 給食経営管理論 第3版（テキストブックシリーズ）：三好恵子，山部秀子，平澤マキ編著，2019. 9. 20, 第一出版，担当：第18章（pp253-291）.
- 2) PDC Aによる給食マネジメント実習 第2版（増補）：松月弘恵，韓順子，亀山良子編著，2020. 1. 10, 医歯薬出版，

#### 学会発表

- 1) 第8回日本栄養学教育学会学術総会，2019. 9, 「給食経営管理実習」における教育内容のスタンダードは何か，松本美由紀，前田ひとみ，亀山良子，富山.
- 2) 第15回日本給食経営管理学会学術総会，2019. 11, 「給食経営管理実習」における教育の基本的内容の検討，松本美由紀，前田ひとみ，亀山良子，愛知.

#### 講演

- 1) 羽島市学校保健研究大会講演会，2019. 7. 11, 「食育」の教材としての学校給食の活かし方，（岐阜県羽島市）
- 2) 令和元年度保育士等キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】，2019. 9. 26, 心を育てる食育の実践，隠岐の島町.
- 3) 令和元年度保育士等キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】，2019. 10. 17, 心を育てる食育の実践，松江市.
- 4) 令和元年度保育士等キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】，2019. 11. 28, 心を育てる食育の実践，浜田市.
- 5) 益田市保育研究会 調理担当者研修会，2019. 12. 12, 保育所における食育について，益田市.
- 6) 鳶巣コミュニティセンター出前講座，2020. 2. 13, 高齢者の食事について，出雲市.

## 教授 三瓶 まり

### 論文

- 1) ドイツの地方都市における周産期医療の現状, 三瓶まり, 平松喜美子, 梶谷みゆき: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 91-98, 2019 (査読有).
- 2) 大学院修士課程における助産師教育の現状, 三瓶まり, 長島玲子, 藤田小矢香, 井上千晶: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 99-106, 2019 (査読有).
- 3) ドイツの高齢者施設の現状, 梶谷みゆき, 平松喜美子, 三瓶まり: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 107-111, 2019 (査読有).

## 教授 谷口 敏代

### 論文

- 1) 介護福祉士養成施設における教員の移動用リフトに対する教育観—中国地方の養成施設を対象とした質的調査より—, 若林美佐子, 谷口敏代, 介護福祉学, 26(1), 9-16, 2019, 7.
- 2) 障害者支援施設の生活支援員の不適切なケアの実態と関連要因, 岡本健介, 時實亮, 谷口敏代, 厚生学の指標, 67(1), 21-28, 2020. 1.

### 学会発表

- 1) 第92回日本産業衛生学会, 2019. 5. 25, 障害者支援施設の生活支援員における職業性ストレスと不当な言葉遣いとの関連, 谷口敏代, 岡本健介, 名古屋市.
- 2) 第27回日本介護福祉学会大会, 2019. 9. 1, 後期高齢者における下部尿路症状および遂行機能の経年変化, 原野かおり・趙敏廷・谷口敏代, 静岡市.
- 3) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 12. 1, 初期治療過程を経た乳がん患者のがんと共生に対する姿勢, 若崎淳子・谷口敏代・掛橋千賀子, 金沢市.
- 4) 第30回日本疫学会学術総会, 2020. 2. 21, 男性の更年期症状と疾病休業との関連, 廣川空美・藤井保人・谷口敏代・高木二郎・堤明純.
- 3) The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020. 2. 28, Relationships between psychosocial work environment and intention to leave in care workers at dementia elderly person group homes in Japan, Taniguchi Toshiyo, Takaki Jiro and Wakasaki Astuko.
- 4) The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020. 2. 28, Development of a nursing practice model that enhances the resilience of initial breast cancer patients using a nursing intervention program ; Intervention effects and nursing issues for the creation of a model plan, Wakasaki Astuko. Taniguchi Toshiyo and Kakehashi Chikako.

## 教授 直良 博之

### 講演

- 1) 島根県栄養士会生涯教育研修会, 栄養素の消化と吸収, 2019, 10. 6, 出雲市
- 2) 奥出雲八川小学校食育授業, 生物リズムと朝ご飯, 2020, 1. 22, 奥出雲町



## 教授 中山真美

### 論文

- 1) The Impact of Nutritional Status and Body Mass Index on Rehabilitation Outcomes in Patients Receiving Home-Based Medical Care. Nakayama N, Eiwa K, Takami Y, Shuko Iwasaki S, Hino Y, Hirai T, Nakayama K, Eda Y. World Nutrition Journal. Vol.3 No.2 2019
- 2) Sarcopenic factors may have no impact on outcomes in ovarian cancer patients. Nakayama N, Nakayama K, Nakamura K, Sultana R, Kyo S. Diagnostics 9(206) 2019
- 3) 「出雲地域における在宅 NST 活動とその介入効果」 中山真美 その他 学会誌 JSPEN 1(1) 13-23 2019年1月

### 学会発表

- 1) Body composition is not associated with patients' prognosis in Ovarian cancer. Naomi Nakayama.  
48th World Congress of Surgery in Krakow IASMEN free paper session 2019/8/14
- 2) Symposium [Cancer metabolism emerging hallmark of cancer] Naomi Nakayama.  
48th World Congress of Surgery in Krakow IASMEN/ISBI ,main session 2019/8/12
- 3) Symposium-Current Update and Future role of Nutrition in Human Metabolism- 「Nutrition Support in home care using medical ICT」 Naomi Nakayama  
The 14th Symposium on Nutri Indonesia in conjunction with 6th International Nutrition Symposium 2019/7/27
- 4) 一般演題4 異栄養「Body composition は卵巣がん患者の予後に影響しない」 中山真美, 中山健太郎, 他  
第 56 回日本外科代謝栄養学会学術集会 神戸国際会議場 2019年7月5日
- 5) 特別講演「医療 ICT を用いた出雲在宅 NST 活動」 中山真美  
第 15 回日本栄養改善学会中国支部会総会 2019年6月15日
- 6) シンポジウム1 地域一体型 NST の現状とその課題「出雲市での多職種連携在宅栄養サポートチームの活動状況と見えてきた今後の課題」 中山真美, 高見由美, 熊谷岳文, 他  
第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2019年2月14日

### 講演

- 1) 講演「医療 ICT を用いた多職種連携在宅栄養サポートチーム」 中山真美  
兵庫医科大学附属ささやま医療センター多職種連携セミナー 2020年2月28日 予定
- 2) 講演「人生 100 年時代を生きる一栄養の力で健康寿命を引き上げよう」 中山真美  
浜田市社会福祉協議会「いきいき生活講演会」 2020年2月21日 予定
- 3) 講演「人生 100 年時代を生きる, 栄養で健康寿命を引き上げよう」 中山真美  
山陰中央新報社主催いきいきタウンセミナー大田 2019年11月18日
- 4) 講演「人生 100 年時代を生きる, 栄養で健康寿命を引き上げよう」 中山真美  
益田市主催「健康ますだ 21 フェスティバル」 2019年11月17日
- 5) 特別講演「医療 ICT を用いた出雲在宅チーム医療一出雲在宅 NST」 中山真美  
東灘区医師会主催 東灘区在宅 NST 推進研究会 2019年11月9日
- 6) 特別講演「人生 100 年時代を生きる 栄養の力で健康寿命の延伸を」 中山真美  
境港市社会福祉協議会主催 境港市民社会福祉大会 境港市社会福祉協議会  
2019年10月31日
- 7) 特別講演「医療 ICT による多職種連携在宅 NST 活動」 中山真美



- 大阪心不全地域連携の会主催 大阪在宅栄養を考える会 2019年10月26日
- 8) 教育講演「医療 ICT による多職種連携在宅 NST 活動」中山真美  
大田市栄養士会主催 大田地区栄養士会教育セミナー 2019年10月12日
- 9) 講演「人生100年時代を生きる, 栄養で健康寿命を引き上げよう」中山真美  
山陰中央新報社主催いきいきタウンセミナー安来 2019年9月18日
- 10) 講演「医療 ICT を利用した出雲在宅 NST 活動」中山真美  
第3回最後まで口から食べられる街づくりフォーラム全国大会, たべまちサミット 2019年9月1日
- 11) 講演「人生100年時代を生きる, 栄養で健康寿命を引き上げよう」中山真美  
社会福祉法人日南福祉会主催 教育セミナー 2019年8月19日
- 12) Guest lecture Faculty of Medicine, University of Indonesia-Nutrition Support in Home care setting-Naomi Nakayama\*  
The University of Indonesia, Faculty of Medicine. Special lecture 2019年7月26日
- 13) Guest lecture, The University of Krida Wacana Christian Faculty of Medicine-Cancer Metabolism-Naomi Nakayama\*.  
The University of Krida Wacana Christian. 2019年7月25日
- 14) 特別講演「多職種連携による医療 ICT を用いた在宅 NST 活動」中山真美  
第4回福岡 PEG 半固形化栄養法研究会 TKP ガーデンシティ博多 2019年6月29日
- 15) 講演「栄養で高齢者が日本一元気な出雲を目指す」中山真美  
平成31年度出雲商工会議所常議員会 2019年4月22日
- 16) 特別講演「多職種連携による出雲在宅 NST 活動」中山真美  
島根県浜田市薬剤師会主催 浜田薬剤師セミナー 2019年4月18日
- 17) プロフェッショナルセミナー「高齢者の栄養」中山真美  
島根県立出雲高等学校 SSH「プロフェッショナルセミナー」 2019年3月14日
- 18) 特別講演「医療 ICT を利用した出雲在宅 NST 活動」中山真美  
第14回北九州リハビリテーション栄養研修会 2019年2月8日
- 19) 教育講演「在宅ケアにおける栄養管理の重要性」中山真美  
島根県栄養士会主催平成30年度在宅ケア支援研修会 2019年2月3日
- 20) 特別講演「高齢化社会における栄養支援の必要性」中山真美  
平成30年度島根県リハビリテーション専門職協議会研修会 2019年1月27日

## 教授 名和田清子

### 論文

- 1) 血清 25 水酸化ビタミン D 濃度に影響を与える因子についての検討, 名和田清子, 山内美香, 山本昌弘, 杉本利嗣, 日本骨粗鬆症学会雑誌 5(3): 437-444, 2019. 08.
- 2) 大学生における食生活が精神健康状態に及ぼす影響 -第2報-, 秦幸吉, 藤田小矢香, 名和田清子, 島根医学 39(2): 74-81, 2019. 8.
- 3) Papillary thyroid carcinoma is a risk factor for severe osteoporosis, Notsu M, Yamauchi M, Morita M, Nawata K, Sugimoto T, J Bone Miner Metab 38(2): 264-270, 2020. 3

### 学会発表

- 1) 第92回日本内分泌学会学術総会, 未閉経バセドウ病女性における椎体骨折リスクの検討, 2019. 5, 野津雅和, 山内美香, 竹谷海, 竹野歩, 田中賢一郎, 田中小百合, 守田美和, 金沢一平, 山本

昌弘, 名和田清子, 杉本利嗣, 仙台市.

- 2) 第 92 回日本内分泌学会学術総会, 閉経後バセドウ病女性における椎体骨折についての検討, 2019. 5, 竹谷海, 野津雅和, 竹野歩, 田中賢一郎, 田中小百合, 守田美和, 金沢一平, 山本昌弘, 山内美香, 名和田清子, 杉本利嗣, 仙台市.
- 3) 第 15 回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6, 大学生における n-3 系脂肪酸摂取量が精神健康状態に及ぼす影響, 名和田清子, 藤田小矢香, 秦幸吉, 出雲市.
- 4) 一般社団法人日本調理科学会 2019 年度大会, 2019. 8, 揚げ油の新規劣化分析手法の開発, 荒井恵美子, 名和田清子, 大武義人, 福岡市.
- 5) American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) 2019 Annual Meeting, 2019. 9. 21, Investigation of factors that influence concentration of serum 25-hydroxyvitamin D, Kiyoko Nawata, Mika Yamauchi, Masahiro Yamamoto, Toshitsugu Sugimoto, Orlando.
- 6) 特定非営利活動法人日本咀嚼学会 第 32 回学術大会, 2019. 10, 若年者の口腔機能および嗅覚機能と食事内容の関連について, 荒井恵美子, 石田千津恵, 名和田清子, 浦安市.
- 7) 第 21 回日本骨粗鬆症学会, 2019. 10, Trabecular bone score (TBS) に 影響を与える因子についての検討, 名和田清子, 山内美香, 山本昌弘, 杉本利嗣, 神戸市.
- 8) 第 37 回日本骨代謝学会学術集会, バセドウ病が椎体骨折におよぼす影響, 竹谷海, 野津雅和, 竹野歩, 田中賢一郎, 金沢一平, 山本昌弘, 名和田清子, 山内美香, 杉本利嗣, 神戸市.

#### 講演

- 1) 出雲市食のボランティア連絡協議会研修会, 2019. 5. 29, 青年期の食課題と効果的なアプローチの方法, 出雲市.
- 2) ひまわり第一保育園保護者総会における研修会, 2019. 6. 8, 人生 100 年時代の食育, 出雲市
- 3) しまね女性会議研修会, 2019. 7. 23, 人生 100 年時代の食育, 大田市.
- 4) 島根県教育研究会栄養教諭部会研修会, 2019. 8. 1, 研究ことはじめ, 出雲市.
- 5) 北浜コミュニティセンター研修会, 2019. 8. 27, 人生 100 年時代を豊かに生きるための食生活, 出雲市.
- 6) 松苑会役員研修会, 2019. 9. 9, 島根県立大学看護栄養学部健康栄養学科について, 出雲市.
- 7) 令和元年度保育士キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】, 2019. 9. 27, 食物アレルギーをもつ子どもへの対応, 隠岐の島町.
- 8) 邑智地区栄養士会研修会, 2019. 10. 5, 食物アレルギー ~最近の話題, 川本町.
- 9) 一般社団法人島根県薬剤師会研修会, 2019. 10. 6, 今, 地域で求められる栄養ケア~在宅における食支援~, 浜田市.
- 10) 平成 30 年度保育士キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】, 2019. 10. 18, 食物アレルギーをもつ子どもへの対応, 松江市.
- 11) 一般社団法人島根県薬剤師会研修会, 2019. 10. 20, 今, 地域で求められる栄養ケア~在宅における食支援~, 松江市.
- 12) 奥出雲町食育推進委員会研修会, 2019. 11. 26, 出雲町におけるこれからの食の同職種間の連携について, 奥出雲町.
- 13) 平成 30 年度保育士キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】, 2019. 11. 29, 食物アレルギーをもつ子どもへの対応, 浜田市.
- 14) 在宅療養懇話会 (出雲医師会), 2019. 12. 12, 今地域で求められる栄養ケア ~在宅における食支援~, 出雲市.
- 15) まつえ市民大学「いきいき健康コース」講師, 2020. 1. 16, 健康への栄養学からのアプローチ, 松江市.

#### 学会活動

- 1) 第 15 回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15-16, 副大会長

- 2) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15-16, 座長 (教育講演)
- 3) 第8回日本栄養学教育学会学術総会, 2019. 9. 4, 座長 (一般演題口頭発表)
- 4) 第66回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9. 6, 座長 (一般演題口頭発表)
- 5) 栄養学雑誌 (特定非営利活動法人日本栄養学教育学会), 査読者
- 6) 日本栄養学教育学会雑誌, 査読者

## 教授 秦 幸 吉

### 論文

- 1) 大学生における食生活が精神健康状態に及ぼす影響-第2報-, 秦 幸吉, 藤田小矢香, 名和田清子: 島根医学 39 (2), 74-81, 2019.
- 2) 妊娠・産褥期女性の主観的睡眠と体温・冷えスコアの関連, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦 幸吉: 島根医学 39 (2), 82-87, 2019.
- 3) エゴマ油摂取が月経困難症に及ぼす影響, 秦 幸吉, 藤田小矢香: 第49回中国四国大学保健管理研究集会報告書, 64, 2019
- 4) 超音波検査を初めて行う助産師が超音波実践演習において描出した画像項目と技能の内容 -実習レポートのKH Coderによる分析-, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦 幸吉, 長島玲子, 濱村美和子, 狩野鈴子, 中谷陽子, 植田 恵: 日本医学看護学教育学会誌, 28 (2), 35-40, 2019
- 5) 低糖質食導入による血糖値変動への影響と減量効果の検討, 秦 幸吉, 福島加菜美, 藤田小矢香: 島根医学 39 (3), 159-167, 2019

### 学会発表

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 5, 「大学生におけるn-3系脂肪酸摂取量が精神健康状態に及ぼす影響」, 名和田清子, 藤田小矢香, 秦 幸吉, 出雲市.
- 2) 第49回中国四国大学保健管理研究集会, 2019. 8, 「エゴマ油摂取が月経困難症に及ぼす影響」, 秦 幸吉, 藤田小矢香, 松山市.

### 講演

- 1) 平成31年度島根県立大学保健管理センター健康教育講演I, 2019. 4. 17, 子宮頸がんヒトパピローマウイルス-子宮頸がん検診の重要性-, 島根県立大学出雲キャンパス.
- 2) 令和元年度島根県立助産師研修会, 2019. 6. 27, 胎児心拍数モニタリングの判読, 島根県立大学出雲キャンパス.
- 3) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパス公開講座, 2019. 7. 24, 心と食事, そしてエンターテインメントという隠し味, 島根県立出雲キャンパス.
- 4) 第18回島根県立大学新生児蘇生法「専門コース」講習会, 2019. 7. 24, インストラクター, 島根県立大学出雲キャンパス.
- 5) 令和元年度島根県立大学保健管理センター健康教育講演, 2019. 9. 18, 感染症の知識と予防～インフルエンザに焦点を当てて～, 島根県立大学松江キャンパス.
- 6) 令和元年度島根県立助産師研修会, 2019. 10. 24, 胎児心拍数モニタリングの判読, 島根県立大学出雲キャンパス.
- 7) 令和元年度島根県立大学保健管理センター講演, 2020. 1. 22, 大学生における食生活と精神健康状態との関連, 島根県立大学出雲キャンパス.
- 8) 認知症カフェ「みかんの木」ミニ講話, 2020. 2. 19, 脳の老化を防ぐための健康法, 島根県立大学出雲キャンパス.
- 9) 第19回島根県立大学新生児蘇生法「専門コース」講習会, 2020. 9. 19, インストラクター, 島根

県立大学出雲キャンパス.

## 教授 平野 文子

### その他

- 1) 令和元年度島根県緩和ケアアドバイザー養成研修報告書, 平野文子, 今岡恵美, 吉本歩, 竹元千恵, 山田理絵, 松本愛, 石井朋子, 2020. 3, 島根県看護協会.

### 学会発表

- 1) 第24回日本緩和医療学会学術大会, 2019. 6, 緩和ケアアドバイザー養成研修の成果と課題 第1報-修了生からみえた実態, 吉本歩, 小松歩美, 竹元千恵, 土江真弓, 平野文子, 山田理恵, 横浜市.
- 2) 第24回日本緩和医療学会学術大会, 2019. 6, 緩和ケアアドバイザー養成研修の成果と課題 第2報-看護管理者の役割期待-, 平野文子, 土江真弓, 山田理恵, 小松歩美, 吉本歩, 竹元千恵, 横浜市.
- 3) 第24回日本老年看護学会学術集会, 2019. 6, オーダーメイド運動処方プログラムによる介入が高齢者の心身の健康状態に与える影響, 林健司, 松本祐香, 平松喜美子, 加藤さゆり, 渡邊克俊, 梶谷みゆき, 平野文子, 濱村由香, 仙台市.
- 4) 第34回日本がん看護学会学術集会, 2020. 2, 緩和ケアアドバイザー養成研修修了生の看護実践の実際と役割の変化, 平野文子, 小松歩美, 吉本歩, 竹元千恵, 土江真弓, 山田理恵, 山田理恵, 東京.
- 5) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3, 看護系女子大学生の子宮頸がん・子宮頸がん検診に対する知識・意識の実態, 荒田泰葉, 齋賀小夏, 平野文子, 佐藤美紀子, 出雲市.
- 6) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3, 看護系大学生における生活習慣の実態と健康意識, 田辺渉, 平野文子, 佐藤美紀子, 出雲市.

### 講演

- 1) 島根県立大学しまね看護栄養交流センター認知症看護認定看護師教育課程, 2019. 6. 6, 12, 19, 指導, 出雲市.
- 2) 島根県立大学しまね看護交流センター実習指導者養成講習, 2019. 8. 8, 看護論-セルフケア理論, 出雲市.
- 3) 島根県立大学しまね看護交流センター実習指導者養成講習, 2019. 8. 9, 8. 16, 9. 13, 実習指導計画・発表会, 出雲市.
- 4) 島根県看護協会令和元年度緩和ケアアドバイザー養成研修, 2019. 8. 20, 島根のがんサロン/患者・家族の声を聴く, 松江市.
- 5) 島根県看護協会令和元年度緩和ケアアドバイザー養成研修, 2019. 9. 24, がん看護に活かせる看護理論, 松江市.
- 6) 島根県看護協会令和元年度緩和ケアアドバイザー: フォローアップ研修, 2019. 10. 5, コミュニケーション演習, 松江市.
- 7) 令和元年度難病相談員支援研修, 2019. 11. 19, 相談対応の基本-ピア・サポートの立場から, 出雲市.

### 学会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会誌査読委員
- 2) 第13回日本看護倫理学会年次大会企画委員

## 教授 平松喜美子

### 論文

- 1) 「学生・教員で取り組む地域貢献活動 高齢者の健康づくり応援プロジェクト 買い物ついでに介護予防「健幸フェスタ2018」の開催」  
林 健司, 松本 祐香, 平松 喜美子, 石橋 鮎美, 梶谷 みゆき, 荒木 さおり, 福島 彩花, 今井 敬人, 大月 彩菜, 野々村 奏子, 佐々木 朋佳, 加藤 大志, 鹿毛 沙綾, 出羽 葵, 前原 知佳, 柳川 莉子, 石田 菜々美, 板持 智之, 保健師ジャーナル, 75 (10), 856-861, 2019.
- 2) オーラル・フレイルの早期発見によるフレイル予防—口腔機能低下が地域在住高齢者の栄養状態に及ぼす影響の検討—, 佐藤公子, 平松喜美子, 渡邊克俊, 日本未病システム学会雑誌, 25 (3), 1-9, 2019.
- 3) 在宅高齢者のフレイル（虚弱）と口腔機能・栄養状態の関連性, 平松喜美子, 佐藤公子, 渡邊克俊, 日本医学看護学教育学会誌, 28 (3) 10~18. 2020.
- 4) ドイツの地方都市における周産期医療の現状, 三瓶まり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 91-97, 2019.
- 5) ドイツの高齢者施設の現状, 梶谷みゆき, 平松喜美子, 三瓶まり, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 107-111, 2019.

### 学会発表

- 1) 「オーダーマード運動処方プログラムによる介入が高齢者の心身の健康状態に与える影響」  
林 健司, 松本祐香, 平松 喜美子, 加藤さゆり, 渡邊克俊, 梶谷 みゆき, 平野文子, 濱村由香  
第24回日本老年看護学会学術集会（宮城 6.7.）
- 2) 「大腿骨近位部骨折術後高齢者の居宅退院後における転倒不安感の変化」  
林 健司, 岡安 誠子, 平松 喜美子, 荒木 さおり, 梶谷 みゆき, 目次 早苗  
第6回日本転倒予防学会学術集会（新潟 10.6.）
- 3) 「大腿骨近位部骨折術後高齢者における居宅での生活様相」  
林健司, 荒木さおり, 岡安誠子, 梶谷みゆき, 平松喜美子  
第39回日本看護科学学会学術集会（石川 11.30.）

### 講演

- 1) フレイル予防で健康寿命を延ばそう, 2019, 10, 4, 島根県雲南市マルシェリーズテナント会。
- 2) フレイル予防で健康寿命を延ばそう, 2019, 11, 13, 健幸大学
- 3) フレイル予防で健康寿命を延ばそう, 2019,
- 4) 健康寿命を延ばすお口のリハビリと認知症予防, 2020, 2, 25, 神門コミュニティーセンター

### 学会活動

- 1) 島根県立大学出雲キャンパス紀要査読委員

## 教授 矢田昭子

### 論文

- 1) 化学療法を受けている女性がん患者のパートナーの子育てに関する困難, 篠田理絵, 矢田昭子, 大森眞澄他: 家族看護学研究, 25 (1), 2019.



- 2) 大切な人を亡くした人のための遺族会の実践報告, 矢田昭子, 美川寛, 金井理恵他: 島根県立大学研究紀要, 73-80, 2019.
- 3) 一施設における子育て中のがん患者とその家族に関わる病棟看護師の困難 ~がん診断時, 治療期, 終末期, 看取り期に焦点を当てて~, 矢田昭子, 大森眞澄, 森山美香他, ヒューマンケア研究学会誌, 11 (1), 19-24, 2020. (掲載予定)

#### 学会発表

- 1) 第34回日本がん看護学会学術集会, 2020. 2, 内分泌療法を5年以上継続している成人期の初発乳がん患者の心理的状況, 原真紀, 矢田昭子, 吉川洋子, 東京都.
- 2) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 人工呼吸器を装着した在宅療養中の3歳の子どもへプレパレーションの実施とその効果, 廣瀬文美, 錦織幸枝, 津村弘人, 矢田昭子, 出雲市.

#### 講演

- 1) 斐川訪問看護ステーションさくら研修会, 2019. 4. 20, 医療的ケアが必要な子どもと家族支援, 出雲市.
- 2) 斐川訪問看護ステーションさくら研修会, 2019. 6. 29, 医療的ケアが必要な子どもと家族支援, 出雲市.
- 3) 島根県看護協会緩和ケアアドバイザー養成研修, 2019. 10, 18, 小児・子育て世代のがん患者と子どもの支援, 松江市.
- 4) 雲南保健所研修会, 2019. 11. 1, 医療的ケア児の支援, 雲南市.
- 5) 島根県医療的ケア児コーディネーター養成研修, 2019. 12. 4, 医療的ケア児と家族の支援, 松江市.
- 6) 島根県医療的ケア児コーディネーター養成研修, 2019. 12. 10, 医療的ケア児と家族の支援, 江津市.
- 7) 島根県医療的ケア児コーディネーター養成研修, 2020. 1. 10, 医療的ケア児と家族の支援, 松江市.
- 8) 島根県医療的ケア児コーディネーター養成研修, 2020. 1. 17, 医療的ケア児と家族の支援, 松江市.
- 9) こころね訪問看護ステーション研修, 2020. 1. 29, 子育て世代のがん患者と子どもの支援, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 第13回日本看護倫理学会年次大会企画委員.
- 2) 日本看護倫理学会査読委員.

## 教授 吉川洋子

#### 学会発表

- 1) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 少子高齢化が顕著な地方における看護師の継続的なキャリア開発ニーズ, 梶谷麻由子, 吉川洋子, 勝部真美枝, 大阪市.
- 2) 23<sup>rd</sup> EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, 2020. 1. 11, Learning of Nursing Students in Community Visit Practice ;Analysis of Mind Map Records, Yoko Yoshikawa, Masako Okayasu-Kimura, Mayuko Kajitani, Ichie Matsumoto, Yuka Hirai, Yoshiko Kawase, Ching Mai, Thailand.
- 3) 第34回日本がん看護学会学術集会, 2020. 2. 22, 内分泌療法を5年以上継続している成人期の初発乳がん患者の心理的状況, 原真紀, 矢田昭子, 吉川洋子, 東京.



- 4) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 14, 「教育信念」の概念に関する文献検討—国内研究から導出された概念の特徴について—, 岡安誠子, 川瀬淑子, 平井由佳, 松本玄智江, 梶谷麻由子, 吉川洋子, 出雲市.

#### 講演

- 1) 島根県立中央病院実習指導者研修, 2019. 7. 5, 看護理論, 出雲市.
- 2) 島根県看護協会新人看護職員における教育担当者研修, 2019. 9. 5, 松江市.
- 3) 島根リソースナース会研修, 看護倫理研修「基礎編」, 2019. 12. 21, 出雲市.
- 4) いずも健康市民大学講座「最期まで自分らしく生きるために」, 2019. 10. 10, 出雲市.

## 准教授 阿川啓子

#### 著書

- 1) 身近な病気こうして予防Ⅱ - 生涯健康のために - : 3章, ヒートショック, 13 - 16, 阿川啓子, 2020. 3, 報光社.
- 2) 身近な病気こうして予防Ⅱ - 生涯健康のために - : 22章, 夏場の肌ケア, 89 - 92. 阿川啓子, 2020. 3, 報光社.
- 3) 身近な病気こうして予防Ⅱ - 生涯健康のために - : 23章, 皮膚のかゆみ, 93 - 96. 阿川啓子, 2020. 3, 報光社.
- 4) 身近な病気こうして予防Ⅱ - 生涯健康のために - : 24章, ブーツの水虫, 97 - 101, 阿川啓子, 2020. 3, 報光社.

#### その他

- 1) 文化的な視点を導入した在宅看護論における看護基礎教育の試み, 阿川啓子, 谷口敏代, 吉松恵子, 伊藤重美, 文化看護学会誌, 12 (1), 2020.

#### 学会発表

- 1) 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 2020. 1. 10, Relationship between Mothers' Sense of Comfort of Child-Rearing in Their Residential Areas and Their Connection with Regional Society in Japan, Noriko Kaneko, Kazuko Ishigaki, Keiko Agawa.
- 2) 日本ルーラルナース学会代14回学術集会, 2019. 11. 9, 高齢化率65%の海岸地域の古民家を活用した在宅看護過程における教育の実践報告, 阿川啓子, 谷口敏代, 吉松恵子, 沖縄県宮古島.
- 3) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 14 (3. 27-29Web開催へ変更), 高齢化率60%を超える過疎地域における互助の実態調査, 石本桐子, 長崎亜美, 阿川啓子, 出雲市.

#### 講演

- 1) 島根県立出雲商業高等学校, 島根県立大学出雲キャンパス出張講座, 2019. 10. 28, 出雲市.
- 2) 学校法人澤田学園松江総合医療専門学校, 看護研究講義, 2020. 3. 13, 松江市.

#### 学会活動

- 1) 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 2019. 7. 27. シンポジウム指定発言者, 仙台市.
- 2) 文化看護学会誌編集委員.
- 3) 第12回文化看護学会誌, 査読.
- 4) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 会場係.

## 准教授 井上千晶

### 論文

- 1) 超音波検査を初めて行う助産師が超音波実践演習において抽出した画像項目と技能の内容-実習レポートのKH Coderによる分析-, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 長島玲子, 濱村美和子, 狩野鈴子, 中谷陽子, 植田恵, 日本医学看護学教育学会誌, 28(2), 35-40, 2019.
- 2) 精神疾患を有する母親の育児ストレスとサポートの関連, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 高橋恵美子, 井上千晶, 松谷ひろみ, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 57-54, 2019.
- 3) 大学院修士課程における助産師教育の現状, 三瓶まり, 長島玲子, 藤田小矢香, 井上千晶, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 99-105, 2019.
- 4) 妊娠・産褥期女性の主観的睡眠と体温・冷えスコアの関連, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 島根医学, 39(2), 22(82)-27(87), 2019.

### 学会発表

- 1) International council of nurses, 2019. July, Situations of mothers' use of smartphones during rearing 1-to 3-month old infants, Chiaki Inoue, Mitsuko Ohira, Yuri Hashimoto, Singapore.
- 2) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8, 精神疾患を有する母親への保健所保健師の支援の実態, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 井上千晶, 大阪市.
- 3) 第60回日本母性衛生学会学術集会, 2019. 10, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の課題, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 高橋恵美子, 大森眞澄, 浦安市web学会(1月23日~3月31日).
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の支援実態, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 高橋恵美子, 金沢市.
- 5) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神科外来において看護師が行う精神疾患を有する母親への支援の実態調査, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 井上千晶, 高橋恵美子, 金沢市.
- 6) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県における女子学生への大学院助産師養成課程に対するニーズ調査, 植田恵, 中谷陽子, 井上千晶, 狩野鈴子, 濱村美和子, 藤田小矢香, 長島玲子, 出雲市.
- 7) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県内進路指導担当高校教員の大学院助産師養成課程に対する意向, 濱村美和子, 井上千晶, 狩野鈴子, 藤田小矢香, 植田恵, 中谷陽子, 長島玲子, 出雲市.
- 8) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 周産期における父親への支援と育児実施の関連, 高野養子, 井上千晶, 出雲市(WEB学会).
- 9) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 在日ブラジル人の夫が周産期に抱いた思い, 松本紗枝, 高野養子, 井上千晶, 出雲市(WEB学会).

### 講演

- 1) 済生会江津総合病院, 2019. 4. 16, 研究支援研修会, 江津市.
- 2) 国立病院機構松江医療センター, 2019. 4. 25, 研究の進め方計画書の作成等, 松江市.
- 3) 広島大学, 2019. 5. 30, 母子看護論「母子相互作用の理論と観察及びアセスメントの実際」, 広島市.
- 4) 国立病院機構松江医療センター, 2019. 5. 23, 研究の進め方等, 松江市.
- 5) しまね看護交流センター事業, 2019. 8. 27, 臨床看護研究計画書立案研修, 出雲市.
- 6) 出雲市子育て支援センター, 2019. 5. 28, ベビーマッサージ, 出雲市.

- 7) 出雲市子育て支援センター, 2019. 8. 6, ベビーマッサージ, 出雲市.
- 8) 島根県実習指導者養成講習会, 母性看護学, 2019. 8. 26, 出雲市.
- 9) 島根県看護協会助産師職能, 両親教室, 2019. 10. 19, 出雲市.
- 10) 国立病院機構松江医療センター, 2018. 11. 1, 院内研修, 松江市.
- 11) 出雲市子育て支援センター, 2020. 2. 4, ベビーマッサージ, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 日本母性看護学会, 2019. 6, 第 21 回日本母性看護学会学術集会, 実行委員.
- 2) 日本医学看護学教育学会, 2020. 3, 第 30 回日本医学看護学教育学会学術集会, 運営委員.
- 3) 日本看護倫理学会, 2019. 3~日本看護倫理学会第 13 回年次大会, 企画委員.

## 准 教 授      大 塚 美 樹

#### 論 文

- 1) Coping strategies for self-perceived burden among advanced cancer patients, Miki Oeki, Miyuki Takase: Cancer Nursing, 1-7, 2019.
- 2) ケアマネジメントの実践力向上に生かす動画教材の作成と評価, 中谷久恵, 金藤亜希子, 大塚美樹, 青木宥裕子, 油野初音, 松永眞樹, 若山明美, 米澤一志: コミュニティケア, 21 (4), 67-70, 2019.
- 3) 看護学生の認知症高齢者のイメージとの関連, 2 年生と 4 年生を比較して, 角野加恵子, 中谷久恵, 大塚美樹, 金藤亜希子, 吉本知恵, 小川智子, 三宅弘枝: 日本認知症ケア学会誌, 18 (2), 485-494, 2019.

#### 学会活動

- 1) 日本在宅医療連合学会大会, 2019. 7. 15, 介護者に感じる負担感 (Self-perceived burden) の軽減に向けた看護師の役割, シンポジスト.

## 准 教 授      大 森 眞 澄

#### 論 文

- 1) 篠田理恵, 矢田昭子, 大森眞澄, 森山美香: 化学療法を受けている女性がん患者のパートナーの子育てに関する困難, 日本家族看護学会誌第 25 巻 1 号, 1-11, 2019.
- 2) 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 高橋恵美子, 井上千晶, 松谷ひろみ: 精神疾患を有する母親の育児ストレスとサポートの関連, 島根県立大学出雲キャンパス紀要 15 巻, P. 57~P. 64, 2019.

#### 学会発表

- 1) 曾我美里子, 勝部千賀子, 高田佳世, 大森眞澄 2019. 6, 精神科で働く新任看護師の倫理的ジレンマと対処, 第 44 回日本精神科看護学術集会, 長崎.
- 2) 森山香澄, 大森眞澄, 石橋照子, 2019. 8, 一般就労を目指す統合失調症をもつ成人期女性のライフストーリー, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 大阪.
- 3) 大森眞澄, 日野雅洋, 井上千晶, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 石橋照子, 2019. 8, 精神疾患を有する女性の育児ストレスとソーシャルサポートの実態, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 大阪.
- 4) 可知朋子, 大森眞澄, 石橋照子, 2019. 8, 精神科看護師のうつ病患者に対する自殺リスクの予見と危機回避に至る体験-A氏の語りから-, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 大阪.
- 5) 錦織典子, 石橋照子, 大森眞澄, 2019. 8, 精神科入院認知症患者の家族に生じる代理決定に伴う

心理, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 大阪.

- 6) 大國慧, 石橋照子, 大森眞澄, 2019. 8, D P A T先遣隊の活動より生じたストレス内容とケア, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 大阪.
- 7) 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 井上千晶, 2019. 8, 精神疾患を有する母親への保健所保健師の支援の実態, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 大阪.
- 8) 松谷ひろみ, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 井上千晶, 高橋恵美子, 2019. 12, 精神科外来において看護師が行う精神疾患を有する母親への支援, 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 金沢.
- 9) 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 高橋恵美子, 2019. 12, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親への周産期病棟看護者の支援の実態第, 39 回日本看護科学学会学術集会, 金沢.
- 10) 青戸由理子, 大森眞澄, 2020. 3. 22, 事例検討「グループの外で起きたメンバー間の葛藤をグループ内で扱おうとしたことの意味」, 日本集団精神療法学会第 37 回学術大会, 大阪 (紙面発表)

#### 学会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会誌査読, 2019. 7-12.
- 2) 第 30 回日本医学看護学教育学会学術学会運営委員 (会計) 2019. 4 - 2020. 3, 出雲市.
- 3) 日本精神看護協会島根県支部看護研究論文推薦会議, 2019. 10. 23, 査読委員, 出雲市.
- 4) 第 13 回日本看護倫理年次大会学会企画委員会, 2019. 4 - 2020. 3, 出雲市.
- 5) 日本認知症ケア学会 2019 年度年度中国・四国地区事例検討会ファシリテーター, 2019. 12. 14, 出雲市.

## 准 教 授      岡 安 誠 子

#### 著 書

- 1) 身近な病気こうして予防Ⅱ ー生涯健康のためにー: 岡安誠子, 2020. 3, 報光社, 第 8 章, 便秘, 32-35.
- 2) 身近な病気こうして予防Ⅱ ー生涯健康のためにー: 岡安誠子, 2020. 3, 報光社, 第 13 章, 座位姿勢と健康, 52-55.

#### 論 文

- 1) 特別養護老人ホーム看護師が捉える家族と家族支援の様相, 岡安誠子: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 45-55, 2019.
- 2) 学生の授業経験・学習態度や能力・知識の獲得状況からみた A 大学における看護教育の現状～2017 年度 IR コンソーシアム標準調査から～, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 小林洋貴, 山下一也: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 35-43, 2019.

#### 学会発表

- 1) 日本看護学教育学会第 29 回学術集会, 2019. 8. 3-4, A 大学看護学生の学年進行に伴う知識・能力の獲得状況, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 山下一也, 京都市.
- 2) 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 2019. 8. 20-21, 学生による学習活動および能力評価からみた学習環境の意義, 岡安誠子, 高橋恵美子, 吾郷美奈恵, 小田美紀子, 大阪市 .
- 3) 第 30 回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 27-29, サークルとアルバイトからみた A 大学看護学科の学生文化, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 山下一也, 出雲市.
- 4) 23rd. EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, 2020. 1. 11, Clinical Facts of Proxy Decision Making in nursing home; Analysis of a Family's Experience., Masako Okayasu-Kimura, Ching Mai, Thailand.
- 5) 23rd. EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, 2020. 1. 11, Learning of Nursing Students in

Community Visit Practice ;Analysis of Mind Map Records. , Yoko Yoshikawa, Masako Okayasu-Kimura, Mayuko Kajitani, Ichie Matsumoto, Yuka Hirai, Yoshiko Kawase, Ching Mai, Thailand.

- 6) 第6回日本転倒予防学会学術集会, 2019. 10. 6, 大腿骨近位部骨折術後高齢者の居宅退院後における転倒不安感の変化, 林 健司, 岡安誠子, 平松喜美子, 荒木さおり, 梶谷みゆき, 目次早苗, 新潟.
- 7) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11. 30, 大腿骨近位部骨折術後高齢者における居宅での生活様相, 林健司, 荒木さおり, 岡安誠子, 梶谷みゆき, 平松喜美子, 石川.
- 8) The 6th International Nursing Research Conference, 2020. 2. 28, Determine the reliability and validity of a clinical decision-making scale for nurses, Yoshiko Kawase, Mika Miyashita, Yuka Hirai and Masako Okayasu, Osaka.
- 9) 日本看護研究学会中国・四国地方会第33回学術集会, 2020. 3. 8, 看護学生1年次生が認識する“食の問題”, 平井由佳, 岡安誠子, 川瀬淑子, 梶谷麻由子, 徳島.
- 10) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 14, 「教育信念」の概念に関する文献検討—国内研究から導出された概念の特徴について—, 岡安誠子, 川瀬淑子, 平井由佳, 松本亥智江, 梶谷麻由子, 吉川洋子, 出雲市.

#### その他

- 1) 特別養護老人ホーム入居者・家族用教材「特別養護老人ホームに入所される利用者様・家族の皆様へ『入所時から考えておきたいこと』」, 岡安誠子, 林健司, 荒木さおり, 勝部真美枝, 寺本純代 編集・執筆, 2020年3月, 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 特別養護老人ホーム入所初期における家族支援プログラム研究, オリジナル.

#### 講演

- 1) 鳥巣地区慶人会総会, 2019. 6. 1, 健康づくりのためのヘルスリテラシー, 出雲市.
- 2) 令和元年度実習指導者養成講習会, 2019. 8. 2, 看護教育課程, 出雲市.
- 3) 令和元年度実習指導者養成講習会, 2019. 8. 28, 8. 29, 実習指導概論, 出雲市.
- 4) 2019年度島根県免許法認定講習講師, 2019. 8. 6, 看護学, 出雲市.
- 5) 島根県看護協会連携事業臨床看護研究計画書立案研修, 2019. 8. 27, 看護計画立案演習, 出雲市.
- 6) 島根県看護協会新人看護職員における教育担当者研修, 2019. 10. 30-11. 01, 松江市.
- 7) 島根県済生会江津総合病院, 2019. 10. 24, 研究支援研修会, 江津市.
- 8) 出雲北陵高校看護体験学習, 2019. 12. 16, ベッドメイキング, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会評議員
- 2) 日本医学看護学教育学会編集委員
- 3) 日本ヒューマンヘルスケア学会誌編集委員
- 4) 日本医学看護学教育学会査読委員
- 5) 日本看護倫理学会第13回年次大会企画委員
- 6) Geriatric Nursing 査読

准教授 小田美紀子

#### 論文

- 1) 学生の授業経験・学習態度や能力・知識の獲得状況からみたA大学における看護教育の現状～2017年度 IR コンソーシアム標準調査から～, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 小林



洋貴, 山下一也, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 35-43, 2019.

#### その他

- 1) 出雲市受託事業 令和元年度児童虐待防止推進研修事業報告書, 山下一也, 高橋恵美子, 小田美紀子, 祝原あゆみ, 金山俊介, 中谷陽子, 石飛享子, 後藤尊宣, 2020. 3, 出雲市要保護児童対策地域協議会&島根県立大学出雲キャンパス.

#### 学会発表

- 1) 日本看護学教育学会第29回学術集会, 2019. 8. 4, A大学看護学生の学年進行に伴う知識・能力の獲得状況, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 山下一也, 京都市.
- 2) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 21, 発達障害児支援プログラム参加を通じた看護学生のADHD児に対する理解の過程, 金山俊介, 小田香澄, 小田美紀子, 高橋恵美子, 大阪市.
- 3) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 21, 学生による学習活動および能力評価からみた学習環境の意義, 岡安誠子, 高橋恵美子, 吾郷美奈恵, 小田美紀子, 大阪市.
- 4) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 日帰りヘルスツーリズム前後の自律神経機能変化, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林健司, 大阪市.
- 5) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 成人期を対象としたメンタルヘルス対策におけるヘルスツーリズムの効果, 林健司, 小田美紀子, 藤田小矢香, 大阪市.
- 6) 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2020. 1. 11, A大学看護学生の保健師教育選択の有無による授業経験の機会・学習体験と能力・知識の獲得状況, 小田美紀子, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 山下一也, 松山市.
- 7) 第4回臨床自律神経機能Forum, 2020. 2. 1, 日帰りヘルスツーリズムが自律神経活動に与える影響, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林健司, 川崎市.
- 8) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, 青年期における心理的自立に関連する要因について, 小田美紀子, 吉岡伸一, 出雲市.
- 9) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, A県B市における在住ブラジル人女性の母子保健サービス利用状況と支援のあり方, 鈴木恵美子, 小田美紀子, 出雲市.
- 10) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, 地域に責任を持つ保健師の活動と人材育成のあり方, 高向陽菜, 岩田雅衣, 小田美紀子, 出雲市.
- 11) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, サークルとアルバイトからみたA大学看護学科の学生文化, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 山下一也, 出雲市.
- 12) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, 日帰りヘルスツーリズムが就労者の自律神経機能に及ぼす影響, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林健司, 出雲市.

#### 講演

- 1) 飯南町立来島小学校学校保健委員会, 2019. 6. 11, 子育てコーチング, 飯南町.
- 2) 島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程職業体験前講演, 2019. 7. 4, 地域で働く仕事について, 松江市.
- 3) 令和元年度こんにちは赤ちゃん訪問事業研修会, 2019. 7. 30, 幸せにつながる家庭訪問をめざして, 大田市.
- 4) 令和元年度島根大学教員免許状更新講習, 2019. 9. 14, 行動変容を促すための健康相談・保健指導, 出雲市.
- 5) 雲南市立斐伊小学校学校保健員会講演会, 2019. 9. 20, 子育てコーチング, 雲南市.
- 6) 出雲市児童クラブ研修会, 2019. 9. 30, 児童クラブにおける保護者対応に関する研修会～コミュニケーション技法を通じて～, 出雲市.
- 7) 飯南町森林セラピーメディカルプログラム, 2019. 11. 15, 行動変容と目的・目標について, 出雲市.
- 8) 飯南町森林セラピーメディカルプログラム, 2019. 11. 15, 目標設定, 飯南町.



- 9) 出雲市母子保健包括支援センターきずな研修, 2019. 11. 26, 行動変容を促す支援技術, 出雲市.
- 10) 島根県立大学ヘルスツーリズム, 2019. 12. 14・15 (2回), マイナス思考をプラス思考にかえる話, 松江市.
- 11) 上遥堪健康クラブ, 2020. 1. 9, 認知症予防の講話と作品づくり, 出雲市.
- 12) 令和元年度出雲市あかちゃん声かけ訪問員研修会, 2020. 1. 28, 幸せにつながる家庭訪問をめざして, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会, 2020. 3, 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 運営委員.

## 准教授 落合のり子

#### 講演

- 1) 第92回日本産業衛生学会 自由集会 産業疲労研究会特別講演, 2019. 5. 23, 島根で震度5強の地震! その時在日外国人は?, 名古屋市.
- 2) いずもファミリーサポートセンター講習会, 2019. 7. 19, 子育て期のストレス解消法, 出雲市.
- 3) いづも農縁研修会, 2019. 10. 11, 職場コミュニケーションの促進法～さらなる健康いきいき職場を目指して～, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 第3回日本産業衛生学会中国地方会研究会, 2019. 9. 22, 産業看護部会研修会, 座長.

## 准教授 籠橋有紀子

#### 著書

- 1) 日本人は絶滅危惧民族 ー誤った脂質栄養が拍車ー: 奥山治美, 大原直樹, 浜六郎, 内野, 岩本晃明, 橋本道男, 籠橋有紀子, 2019. 9, 中日出版.
- 2) 身近な病気こうして予防II ー生涯健康のためにー: 籠橋有紀子, 2020. 3, 報光社, 第10章, 味覚障害, 40-43.

#### 論文

- 1) 炊飯米の物理特性についての検討, 籠橋有紀子: 島根県立大学出雲キャンパス紀要 第15巻, 7-13, 2019.

#### その他

- 1) ジビエの「ヒトサラ」レシピ集 第1弾, 籠橋有紀子, 赤松遥, 江本愛未, 二宮芽生, 三島亜美, 宮迫瑞穂, 2020. 3, あしたの為のデザイン.
- 2) 令和元年度 KENDAI 縁結びフォーラム, 2020. 2, 出雲北山地域の鹿のジビエ料理・商品開発 ー出雲北山のごちそうをいただくー, 籠橋有紀子, 赤松遥, 江本愛未, 二宮芽生, 三島亜美, 宮迫瑞穂, 浜田市.

#### 学会発表

- 1) 第73回日本栄養食糧学会大会, 2019. 5, 栄養・医療課程女子学生の食生活が葉酸摂取におよぼす影響, 松尾拓哉, 籠橋有紀子, 千賀靖子, 福田博美, 竹森久美子, 大谷浩, 近藤厚生, 静岡市.
- 2) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会 2019. 6, 炊飯米の品質特性についての検討, 籠橋有紀子, 高橋志帆, 田中愛望, 田中互, 山本朗, 出雲市.
- 3) The 59th Annual Meeting of Japanese Teratology society The 13th world congress of the international cleft lip and palate foundation -CLEFT 2019- 2019. 7, Maternal nutritional

status during pregnancy in Shimane Prefecture : Third report - Comparison among early, middle and late pregnancy -, Yoko Nakatani, Yukiko Kagohashi, Reiko Nagashima, Aiko Katsube, Hiroki Otani, Nagoya.

- 4) The 59 th Annual Meeting of Japanese Teratology society The 13 th world congress of the international cleft lip and palate foundation -CLEFT 2019- 2019. 7, Maternal nutritional status during pregnancy in Shimane Prefecture : Fourth report - A comparison by meal skipping -, Yukiko Kagohashi, Yoko Nakatani, Reiko Nagashima, Aiko Katsube, Hiroki Otani, Nagoya.
- 5) The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), 2019. 12, Maternal nutritional status during pregnancy and nursing period - A comparison by meal skipping -, Yukiko Kagohashi, Yoko Nakatani, Reiko Nagashima, Aiko Katsube, Hiroki Otani, Kobe.
- 6) The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), 2019. 12, The physical properties of cooked rice, Yukiko Kagohashi, Anon Tanaka, and Shiho Takahashi, Kobe.
- 7) The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), 2019. 12, Maternal Dietary Inulin after pregnancy affected the development of T1D in the offspring, Yukiko Kagohashi, Reiko Ikeda, Kobe.
- 8) The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), 2019. 12, Diet with an inulin prolongs the honeymoon period of NOD mice, Yukiko Kagohashi, Reiko Ikeda, Hiroki Otani, Kobe.
- 9) The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (The 6<sup>th</sup> WANS), 2020. 2, Maternal nutritional intake condition during pregnancy and one month after delivery in Shimane Prefecture, Japan, Yoko Nakatani, Yukiko Kagohashi, Reiko Nagashima, Aiko Katsube, Hiroki Otani, Osaka.

#### 講演

- 1) 低アレルギー化小麦研究会セミナー, 2019. 6. 28, 低アレルギー化小麦の育種と食品への展開について, 益田市.
- 2) 雲南市食生活改善推進員勉強会, 2020. 1. 9, 低アレルギー化小麦の活用について, 雲南市.

#### 学会活動

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15-16, 大会運営委員.

准教授                      加藤典子

#### 講演

- 1) 益田医師会病院研修会, 6. 29. 2019, 看護研究の進め方, 益田市.
- 2) 介護労働安定センター, ケアサポート講習, 7. 29. 2019, 介護職の医療行為, 松江市.
- 3) 介護労働安定センター, ケアサポート講習, 10. 25. 2019, 感染症の予防と対策, 大田市.
- 4) 介護労働安定センター, 介護職員実務者研修科, 11. 15~12. 16. 2019, 発達と老化の理解II (30時間), 松江市.
- 5) 島根大学大学院医学系研究科看護学専攻, 11. 1・22, 緩和ケア論, 出雲市.
- 6) 松江総合医療専門学校, 9. 1~10. 4. 2019, 在宅看護論の概論 (12時間), 松江市.

## 准教授 狩野 鈴子

### 論文

- 1) 超音波検査を初めて行う助産師が超音波実践演習において抽出した画像項目と技能の内容-実習レポートのKH Coderによる分析-, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 長島玲子, 濱村美和子, 狩野鈴子, 中谷陽子, 植田恵: 日本医学看護学教育学会誌, 28-2, 35-40, 2019.

### 学会発表

- 1) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県における女子学生への大学院助産師養成課程に対するニーズ調査, 植田恵, 中谷陽子, 井上千晶, 狩野鈴子, 濱村美和子, 藤田小矢香, 長島玲子, 出雲市.
- 2) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県内進路指導担当高校教員の大学院助産師養成課程に対する意向, 濱村美和子, 井上千晶, 狩野鈴子, 藤田小矢香, 植田恵, 中谷陽子, 長島玲子, 出雲市.

### 講演

- 1) 性教育, 2019. 5. 9, 島根県立出雲農林高等学校.
- 2) 性教育, 2019. 11. 12, 島根県立出雲工業高等学校.
- 3) 性教育, 2019. 12. 6, 出雲市立第二中学校.
- 4) 令和元年度出雲市健康増進課 『いのちの尊さ「性・生」に関する学習支援』事業, 2020. 1. 23, 思春期にあらわれる変化~体のはたらきや心の変化, 出雲市立荘原小学校.

## 准教授 川瀬 淑子

### 論文

- 1) 空港航空機事故消火救難訓練参加による学生の気づきの様相, 平井由佳, 渡邊克俊, 川瀬淑子: インターナショナルNursing Care Research, 18(4), 21-27, 2019.

### 学会発表

- 1) International Council of Nurses, 2019. 7, Lessons learned by students who participated in a disaster relief training at an airport, Yuka HIRAI, Katsutoshi WATANABE, Yoshiko KAWASE, Shingapore.
- 2) 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 2020, 1. Learning of nursing students in community visit practice; Analysis of mind map records. Yoko Yoshikawa, Masako Okayasu-Kimura, Mayuko Kajitani, Ichie Matsumoto, Yuka Hirai, Yoshiko Kawase, Thailand.
- 3) The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020, 2, Determine the reliability and validity of a clinical decision-making scale for nurses, Yoshiko Kawase, Mika Miyashita, Yuka Hirai, Masako Okayasu, Osaka.
- 4) 日本看護研究学会中国・四国地方会第33回学術集会, 2020. 3. 8, 看護学生1年次生が認識する“食の問題”, 平井由佳, 岡安誠子, 川瀬淑子, 梶谷麻由子, 徳島.
- 5) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 14, 「教育信念」の概念に関する文献検討-国内研究から導出された概念の特徴について-, 岡安誠子, 川瀬淑子, 平井由佳, 松本亥智江, 梶谷麻由子, 吉川洋子, 出雲市.

### 講演

- 1) 独立行政法人浜田医療センター研究指導, 2019. 5. 23, 浜田市.

- 2) しまね看護交流センター事業，臨床看護研究計画書立案研修，2019. 8. 26，出雲市.
- 3) 島根県看護職員実習指導者養成講習会，2019. 8. 6，看護技術論，出雲市.
- 4) 独立行政法人浜田医療センター研究指導，2019. 9. 19，浜田市.
- 5) いずも健康市民大学，2019. 10. 24，腸を整える～便秘予防の基本～，出雲市.
- 6) 独立行政法人浜田医療センター研究指導，2019. 12. 19，浜田市.
- 7) 独立行政法人浜田医療センター研究指導，2019. 2. 18，浜田市.

#### 学会活動

- 1) 日本看護倫理学会第13回年次大会，2019. 3. 25～，企画委員.
- 2) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会，2019. 4. 1～，運営委員.
- 3) 島根県看護協会，2019. 7. 13，第12回島根看護学術集会，座長.
- 4) 島根県看護協会，2019. 第12回島根看護学術集会，査読委員.

## 准 教 授      高 橋 恵 美 子

#### 論 文

- 1) A 県の保健・医療・福祉施設における看護研究の実態と課題，高橋恵美子，竹田裕子，今井美夏，木山宏子，佐藤基，澄川千亜紀，田中成子，第12回島根看護学術集会論文集，25-28，2019.
- 2) A 県の医療・保健・福祉施設における看護研究の実態と看護学術集会に期待すること，竹田裕子，高橋恵美子，今井美夏，木山宏子，佐藤基，澄川千亜紀，田中成子，第12回島根看護学術集会論文集，29-31，2019.
- 3) 精神疾患を有する母親の育児ストレスとサポートの関連，日野雅洋，大森眞澄，石橋照子，高橋恵美子，井上千晶，松谷ひろみ，島根県立大学出雲キャンパス紀要，15，57-64，2019.
- 4) 学生の授業経験・学習態度や能力・知識の獲得状況からみたA大学における看護教育の現状～2017年度 IR コンソーシアム標準調査から～，吾郷美奈恵，高橋恵美子，岡安誠子，小田美紀子，小林洋貴，山下一也，島根県立大学出雲キャンパス紀要，15，35-43，2019.

#### その他

- 1) 出雲市受託事業 令和元年度児童虐待防止推進研修事業報告書，山下一也，小田美紀子，高橋恵美子，祝原あゆみ，小田香澄，後藤尊宣，2020. 3，出雲市要保護児童対策地域協議会&島根県立大学出雲キャンパス.

#### 学会発表

- 1) 第12回島根看護学術集会，2019. 7. 13，A県内で看護研究に取り組んでいる施設の実態と課題，高橋恵美子，竹田裕子，今井美夏，木山宏子，佐藤基，澄川千亜紀，田中成子，出雲.
- 2) 第12回島根看護学術集会，2019. 7. 13，A県の医療・保健・福祉施設における看護研究の実態と看護学術集会に期待すること，竹田裕子，高橋恵美子，今井美夏，木山宏子，佐藤基，澄川千亜紀，田中成子，出雲.
- 3) 日本看護学教育学会第29回学術集会，2019. 8. 4，A大学看護学生の学年進行に伴う知識・能力の獲得状況，吾郷美奈恵，高橋恵美子，岡安誠子，小田美紀子，山下一也，京都.
- 4) 日本看護研究学会第45回学術集会，2019. 8. 21，精神疾患を有する母親への保健所保健師の支援の実態，高橋恵美子，松谷ひろみ，日野雅洋，石橋照子，大森眞澄，井上千晶，大阪.
- 5) 日本看護研究学会第45回学術集会，2019. 8. 21，精神疾患を有する女性の育児ストレスとソーシャルサポートの実態，大森眞澄，日野雅洋，井上千晶，高橋恵美子，松谷ひろみ，石橋照子，大阪.

- 6) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 21, 発達障害児支援プログラム参加を通じた看護学生のADHD児に対する理解の過程, 金山俊介, 小田香澄, 小田美紀子, 高橋恵美子, 大阪.
- 7) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 21, 学生による学習活動および能力評価からみた学習環境の意義, 岡安誠子, 高橋恵美子, 吾郷美奈恵, 小田美紀子, 大阪.
- 8) 第60回日本母性衛生学会学術集会, 2020. 10. 12, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の課題, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 高橋恵美子, 石橋照子, 東京.
- 9) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 12. 1, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親への周産期病棟看護者の支援実態, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 高橋恵美子, 金沢.
- 10) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 12. 1, 精神科外来において看護師が行う精神疾患を有する母親への支援の実態調査, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 井上千晶, 高橋恵美子, 金沢.
- 11) 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2020. 1. 11, A大学看護学生の保健師教育選択の有無による授業経験の機会・学習体験と能力・知識の獲得状況, 小田美紀子, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 山下一也, 松山.
- 12) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, 学童期にある発達障害児を育てる母親の育児困難に関する文献検討, 高橋恵美子, 谷口敏代, 山下一也, 出雲.
- 13) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, 小学校における発達障害のある児童に対する養護教諭の関わりの実態, 森山南美, 一の瀬沙帆, 高橋恵美子, 金山俊介, 出雲.
- 14) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 27, サークルとアルバイトからみたA大学看護学科の学生文化, 吾郷美奈恵, 高橋恵美子, 岡安誠子, 小田美紀子, 山下一也, 出雲.

#### 講演

- 1) 大切な子どもの生活リズムと健康, 出雲市子育て支援センター, 2020. 2. 7, 出雲市.

### 准教授 橋本由里

#### 学会発表

- 1) 日本人間工学会第60回大会, 2019. 6, 他者の視線と表情が選考判断に及ぼす影響—注視時間と好意度の関係について—, 土屋諒太, 片山優, 橋本由里, 東京都.
- 2) International council of nurses, 2019. July, Situations of mothers' use of smartphones during rearing 1-to 3-month old infants, Chiaki Inoue, Mitsuko Ohira, Yuri Hashimoto, Singapore.
- 3) 日本心理学会第83回大会, 2019. 9, 他者の視線と表情が好意度に及ぼす影響—注視位置との関連—, 橋本由里, 土屋諒太, 片山優, 茨木市.
- 4) 日本教育心理学会第61回大会, 2019. 9, 小学生の情動知能とストレスとの関連, 橋本由里, 平井由佳, 島井哲志, 東京都.

### 准教授 濱村美和子

#### 論文

- 1) 超音波検査を初めて行う助産師が超音波実践演習において抽出した画像項目と技能の内容—実習レポートのKH Coderによる分析—, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 長島玲子, 濱



村美和子, 狩野鈴子, 中谷陽子, 植田恵: 日本医学看護学教育学会誌, 28-2, 35-40, 2019.

#### 学会発表

- 1) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県における女子学生への大学院助産師養成課程に対するニーズ調査, 植田恵, 中谷陽子, 井上千晶, 狩野鈴子, 濱村美和子, 藤田小矢香, 長島玲子, 出雲市.
- 2) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県内進路指導担当高校教員の大学院助産師養成課程に対する意向, 濱村美和子, 井上千晶, 狩野鈴子, 藤田小矢香, 植田恵, 中谷陽子, 長島玲子, 出雲市.

#### 講演

- 1) しまね看護交流センター事業, 2019. 8. 26, 臨床看護研究計画書立案研修, 出雲市.
- 2) 出雲市生涯学習講座(共催), 2019. 8. 20, ベビーヨガ, 出雲市.
- 3) 出雲市子育て支援センター, 2019. 11. 12, ベビーマッサージ, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会, 2020. 3, 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 運営委員.

## 准教授 原田 永勝

#### 著書

- 1) 基礎栄養学第4版:【編】木戸康博, 桑波田雅士, 原田永勝, 2020. 3, 講談社, 分担執筆, 9章 脂質の栄養, 11章 栄養素の相互作用
- 2) 応用栄養学第6版:【編】木戸康博, 小倉嘉夫, 眞鍋祐之, 青井 渉, 2020. 3, 講談社, 分担執筆, 12章(12.2, 12.5, 12.6) 思春期の栄養

#### 学会発表

- 1) 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年. 5, 膵beta細胞機能に關与するPrss53の解析, 水澤典子, 原田永勝, 岩田武男, 吉本勝彦, 仙台市.
- 2) 第73回日本栄養・食糧学会大会, 2019. 5, ステロール調節エレメント結合蛋白質SREBPはビタミンD代謝酵素CYP24A1の発現を調節する, 香川知博, 山本浩範, 中橋乙起, 原田永勝, 増田真志, 武田英二, 竹谷豊, 静岡市.

## 准教授 平井 由佳

#### 論文

- 1) 空港航空機事故消火救難訓練参加による学生の気づきの様相, 平井由佳, 渡邊克俊, 川瀬淑子, *インターナショナルNursing Care Research*, 18(4), 21-27, 2019.

#### 学会発表

- 1) International Council of Nurses Congress 2019, 2019. 06. 28, Lessons learned by students who participated in a disaster relief training at an airport, Yuka Hirai, Katsutoshi Watanabe, Yoshiko Kawase, Singapore.
- 2) 日本教育心理学会第61回総会, 2019. 09. 15, 小学生の情動知能とストレスとの関連, 橋本由里, 平井由佳, 島井哲志, 東京.
- 3) 第21回一般社団法人日本救急看護学会学術集会, 2019. 10. 04, 避難所運営ゲーム(HUG)を体験した学生の学びと防災に対する意識の変化, 渡邊克俊, 平井由佳, 千葉市.
- 4) 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 2020. 1. 10, Learning of nursing students in



community visit practice ; Analysis of mind map records, Yoshikawa Yoko, Masako Okayasu -Kimura, Mayuko Kajitani, Ichie Matsumoto, Yuka Hirai and Yoshiko Kawase, Chiang Mai.

- 5) The 6th International Nursing Research Conference, 2020. 2. 28, Determine the reliability and validity of a clinical decision-making scale for nurses, Yoshiko Kawase, Mika Miyashita, Yuka Hirai and Masako Okayasu, Osaka.
- 6) 日本看護研究学会中国・四国地方会第33回学術集会, 2020. 3. 8, 看護学生1年次生が認識する“食の問題”, 平井由佳, 岡安誠子, 川瀬淑子, 梶谷麻由子, 徳島.
- 7) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 27-29, 「教育信念」の概念に関する文献検討—国内研究から導出された概念の特徴について—, 岡安誠子, 川瀬淑子, 平井由佳, 松本亥智江, 梶谷麻由子, 吉川洋子, 出雲市.
- 8) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3. 27-29, 市における一般市民の一次救命処置に対する意識, 吉川優奈, 野々村奏子, 平井由佳, 出雲市.

#### その他

- 1) 令和元年度 KENDAI 縁結びフォーラム, 2020. 2. 20, 浜田市の一般市民の応急処置に関する意識調査, 渡邊克俊, 平井由佳, 浜田市.

#### 講演

- 1) 島根県済生会江津総合病院, 2019. 4. 16, 研究支援研修会, 江津市.
- 2) 独立行政法人国立病院機構松江医療センター看護職員研修, 2019. 5. 10, 研究テーマの絞り方, 量的研究の基礎を学ぶ, 松江市.
- 3) 独立行政法人国立病院機構松江医療センター看護職員研修, 2019. 5. 2, 研究計画書の作成, 松江市.
- 4) 鳶巣地区慶人会総会, 2019. 6. 1, 基礎看護学実習 I (家庭)について, 出雲市.
- 5) 島根県看護協会連携事業臨床看護研究計画書立案研修, 2019. 8. 26, 質的研究 I, 出雲市.
- 6) 島根県看護協会連携事業臨床看護研究計画書立案研修, 2019. 8. 27, 質的研究 II, 出雲市.
- 7) 島根県看護職員実習指導者養成講習会, 2019. 8. 27, 実習指導の実際—基礎看護実習—, 出雲市.
- 8) 島根県看護職員実習指導者養成講習会, 2019. 8. 30-9. 13, 実習指導案作成演習, 出雲市.
- 9) 独立行政法人国立病院機構松江医療センター看護職員研修, 2019. 11. 1, データ分析を学ぶ, 松江市.
- 10) 島根県立大田高校模擬授業, 2019. 11. 7, ヒトの睡眠, 大田市.
- 11) 出雲北陵高校看護医療体験学習, 2019. 12. 16, ベッドメイキング, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 日本看護倫理学会第13回年次大会, 2019. 3. 25~, 企画委員.
- 2) 日本医学看護学教育学会, 2019. 4. 1~, 学会情報委員.
- 3) 日本医学看護学教育学会, 2019. 4. 1~, 査読委員.
- 4) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2019. 4. 1~, 運営委員.
- 5) 第12回島根看護学術集会, 2019. 7. 17, 座長
- 6) 第12回島根看護学術集会, 2019. 8. 27, 査読委員.

准教授 藤田小矢香

#### 著書

- 1) 隔月刊誌臨床助産ケア, 藤田小矢香, 2019年11-12月号, 日総研, 特集妊産婦のマイナートラブル予防・改善「ストレスと上手につきあう リラックス効果があるアロマセラピー」65-69, 担当.

## 論文

- 1) 妊娠・産褥期女性の主観的睡眠と体温・冷えスコアの関連, 島根医学, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 39 (2), 82-87, 2019
- 2) 大学生における食生活が精神健康状態に及ぼす影響-第2報-, 島根医学, 秦幸吉, 藤田小矢香, 名和田清子, 39 (2), 74-86, 2019
- 3) 超音波検査を初めて行う助産師が超音波実践演習において描出した画像項目と技能の内容-実践レポート KH coder による分析, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 長島玲子, 濱村美和子, 狩野鈴子, 中谷陽子, 植田恵, 日本医学看護学教育学会誌, 28 (2), 35-40, 2019
- 4) 大学院修士課程における助産師教育の現状, 三瓶まり, 長島玲子, 藤田小矢香, 井上千晶, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 99-106, 2019

## その他

- 1) -未来へつなぐ-鳥取県看護協会史 (平成 22 年度~平成 30 年度), 公益社団法人 鳥取県看護協会, 2019
- 2) 第7回島根県立大学出雲キャンパスタウンミーティング in 飯南町報告書 看護栄養交流センター地域連携推進部, 2020

## 学会発表

- 1) 第15回栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 5, 大学生におけるn-3系脂肪酸摂取量が精神健康状態に及ぼす影響, 名和田清子, 藤田小矢香, 秦幸吉, 松江.
- 2) 一般社団法人日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 日帰りヘルスツーリズム前後の自律神経機能変化, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林健司, 大阪.
- 3) 一般社団法人日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 成人期を対象としたメンタルヘルス対策におけるヘルスツーリズムの効果, 林健司, 小田美紀子, 藤田小矢香, 大阪.
- 4) 第49回中国四国大学保健管理研究集会, 2019. 8, エゴマ油摂取が月経困難症に及ぼす影響, 秦幸吉, 藤田小矢香, 愛媛.
- 5) 第60回日本母性衛生学会総会, 2019. 10. 12, 成熟期女性の月経周期における性ホルモンとストレスホルモンの関係, 藤田小矢香, 千葉.
- 6) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11. 30, 学生FD活動と所属する大学への愛校心や満足度の関係, 金山俊介, 吾郷美奈恵, 小田香澄, 松谷ひろみ, 藤田小矢香, 長島玲子, 石川.
- 7) 第30回日本医学看護学教育学術学会, 2020. 3. 日帰りヘルスツーリズムが就労者の自律神経機能に及ぼす影響, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林健司, 島根.
- 8) 第30回日本医学看護学教育学術学会, 離島における高齢者の認知機能と心機能の関連, 藤田小矢香, 山下一也, 今中美栄, 大草知子, 島根.

## 講演

- 1) 島でお産すること座談会, 2019. 5. 23, 妊娠期から子育て期の切れ目ない支援のポイント, 知夫村.
- 2) 鳥取赤十字病院看護教育研修会, 2019. 5. 18, 第1回看護研究とは, 鳥取市.
- 3) 出雲市生涯学習講座 (共催), 2019. 6. 12, 出産前後のからだ作り講座~温活塾~ 第1回心と体を温めて分娩に向けたリラックス法, 出雲市.
- 4) 令和元年度鳥取県看護職員指導者養成講習会, 2019. 7. 8, 「教育方法 看護研究」鳥取市.
- 5) 島根県臨床指導者研修会 (共催), 2019. 8. 22-23, 「研究倫理」
- 6) 平成29年度しまね看護交流センター事業, 2019. 8. 26, 「臨床看護計画立案」, 出雲市.
- 7) 出雲市生涯学習講座 (共催), 2019. 9. 11, 出産前後のからだ作り講座~温活塾~ 第2回心と体を温めるベビーマッサージ, 出雲市.

- 8) 出雲市生涯学習講座（共催），2020. 2. 12, 出産前後のからだ作り講座～温活塾～ 第4回心と体を温めるベビーマッサージ, 出雲市.

## 准教授 細川 優

### 論文

- 1) 日韓交流における健康栄養学科の学生の学びについて～異文化研修（韓国）とさくらサイエンスプランの参加報告から～, 今中美栄, 金美玉, 細川優, 多々納浩, 福田詩織, 南星姫: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15. 81-90, 2019.

### その他

- 1) 2019年度地域貢献推進奨励金「廃棄野菜問題に挑む! 県立大Nラボ・プロジェクト」  
2) 2019年度「食と教育」学術研究委託研究: 韓国と日本の食育における牛乳・乳製品の価値観について～成長期におけるヘルスリテラシーの醸成教育に向けての比較検討～

### 学会発表

- 1) THE KOREAN SOCIETY OF FOOD AND NUTRITION 2019, 2019. 5, Effectiveness of Fieldwork Practice for Nutrition Education in Registered Dietician Training Course: Exploring the Challenges of Elderly Support as a Joint Project between Korea and Japan, Mie Imanaka, Masaru Hosokawa, Hiroshi Tatano, Shiori Fukuda, Kim Miok, seoul KORIA.  
2) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019, 6, 島根県立大学における隠岐の島町と知夫村での地域実践活動教育の評価方 KH Coder による共起ネットワーク分析の試み～, 今中美栄, 細川優, 多々納浩, 福田詩織, 島根県.  
3) 第55回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9, 隠岐諸島における栄養教育実践活動の評価～ARCSモデルによる学習意欲の向上について～, 今中美栄, 細川優, 多々納浩, 福田詩織, 富山県.  
4) THE KOREAN SOCIETY OF FOOD AND NUTRITION 2019, 2019. 11, 대학생 대상의 우유 및 유제품의 섭취를 위한 사전 조사 (大学生対象の牛乳や乳製品の摂取のための事前調査), Miok Kim, Chie Kuwajima, Hiroko Sakamoto, Masaru Hosokawa, Hiroshi Tatano, Shiori Fukuda, Naoko Nakagi, Jiro Takeuchi, Mie Imanaka, seoul KORIA.  
5) THE KOREAN SOCIETY OF FOOD AND NUTRITION 2019, 2019. 11, 한일 식품 영양 전공 학생의 교류 활동에 대한 의견 (日韓食物栄養学専攻の学生の交流活動への意見), Miok Kim, Masaru Hosokawa, Mie Imanaka, seoul KORIA.

### 講演

- 1) ぎんざんテレビ出前講座「認知症予防の食事のヒント」2019. 10. 8, 大田市.  
2) ふるさと健康づくり支援講演会, 「食は健康寿命をのばす」2019. 12. 1, 益田市安田公民館.

## 准教授 松本 亥智江

### 著書

- 1) 身近な病気 こうして予防II: 松本亥智江, 2020. 2, 島根県立大学出雲キャンパス, 認知症予防, 75-78, 難聴, 79-82.

### 学会発表

- 1) 23<sup>rd</sup> EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, 2020.1.11, Learning of Nursing Students in Community Visit Practice ;Analysis of Mind Map Records, Yoko Yoshikawa, Masako Okayasu-Kimura, Mayuko Kajitani, Ichie Matsumoto, Yuka Hirai, Yoshiko Kawase, Ching Mai, Thailand.
- 2) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020.3.14, 「教育信念」の概念に関する文献検討—国内研究から導出された概念の特徴について—, 岡安誠子, 川瀬淑子, 平井由佳, 松本玄智江, 梶谷麻由子, 吉川洋子, 出雲市.

### 講演

- 1) JA 厚生連揖斐厚生病院看護部看護教育研修会, 2019.5.10, 看護研究とは, 岐阜市.
- 2) 島根県立大学しまね看護交流センター認知症看護認定看護師教育課程, 2019.7.11, 7.24, 対人関係, 出雲市.
- 3) 島根県令和元年度実習指導者講習会, 2019.8.5, ロイ看護理論, 出雲市.
- 4) 島根県令和元年度実習指導者講習会, 2019.8.28, 看護過程の展開, 出雲市.
- 5) 令和元年度しまね看護交流センター事業「シミュレーション研修(静脈注射)」, 2019.9.9, 静脈注射における看護師の責務, 静脈注射の基礎, 出雲市.
- 6) 出雲高校平成31年度「PDG z セミナー」, 2019.10.17, 11, 14, コミュニケーションを豊かにするために, 出雲市.
- 7) 鹿島公民館健康講座, 2019.10.25, 今日から実践! 認知症予防, 松江市.
- 8) 松江赤十字病院看護部研修会, 2019.11.15, 問題解決研修, 松江市.

### 学会活動

- 1) 日本看護倫理学会第13回年次大会, 2019.3.25~, 企画委員.
- 2) 日本看護学教育学会第30回学術集会, 2019.4.1~, 運営委員.
- 3) 第12回島根看護学術集会, 2019.7.13, 学会委員会委員長.

## 准教授 森山美香

### 著書

- 1) 身近な病気こうして予防Ⅱ—生涯健康のために—, 島根県立大学出雲キャンパス, 森山美香, 2020.3.30. 報光社, 第4章心不全, 第15章秋の花粉症, 第27章乳がん.

### 論文

- 1) 化学療法を受けている女性がん患者のパートナーの子育てに関する困難, 篠田里絵, 矢田昭子, 大森真澄, 森山美香, 家族看護学研究, 25(1), 1-11, 2019.
- 2) Do Not Attempt Resuscitation の意思決定を行う家族に関わるクリティカルケア看護師の困難感 (CND-FDNAR) 尺度の開発, 森山美香, 松本啓子, 伊東美佐江, 秋鹿都子, 日本看護科学学会(投稿中), 2020.

### 学会発表

- 1) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019.11.30, DNAR の意思決定を行う家族に関わるクリティカルケア看護師の困難感尺度の開発, 森山美香, 松本啓子, 伊東美佐江, 秋鹿都子, 金沢市.
- 2) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019.11.30, 小児アレルギーエドケーターによる食物アレルギー乳幼児の家族に対する看護, 秋鹿都子, 山本八千代, 宮城由美子, 伊東美佐江, 森山美香, 金沢市.
- 3) 22<sup>th</sup> East Asian Forum Of Nursing Scholars, 2020.1.10, A Research Trend of Research on

Decision making for the elderly with heart disease in Japan, Nagasaki Emiko, Ono, Satoko, Hamamatsu Keiko, Moriyama Mika, Ito, Misae, Thai.

#### その他

- 1) Ottawa Patient Decision Aid Research Group Meeting, Japanese situation of decision making support for elderly with heart disease, 2019. 8. 27, Misae Ito, Emiko Nagasaki, Satoko Ono, & Mika Moriyama, Ottawa, Canada.
- 2) オタワ大学心臓研究所(カナダ)における心疾患患者さんの管理, 長崎恵美子, 小野聡子, 森山美香, 伊東美佐江, Erik Mac Phee, Quinlan, Kristina B. Lewis, 2020. 3月, ハートナーシング, 33 (3), 71-78.

#### 講演

- 1) 宇部フロンティア大学, 2019. 6. 21, 平成31年度看護学概論「看護倫理」, 宇部市.
- 2) 島根県看護職員実習指導者養成講習会, 2019. 8. 16, 実習指導の実際—成人看護学実習—, 出雲市.
- 3) 島根県看護職員実習指導者養成講習会, 2019. 8. 30—9. 13, 実習指導案作成演習, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2019. 4. 1~, 運営委員.
- 2) 第21回日本救急看護学会学術集会, 2019. 5. 15~6. 30, 査読.
- 3) 第45回日本看護研究学会学術, 2019. 8. 20—21, 実行委員.
- 4) 第45回日本看護研究学会学術, 交流集会「患者とその家族の価値観を尊重する意思決定支援プロセス」, 2019. 8. 20, 交流集会の進行およびコメント.
- 5) 第21回日本救急看護学会学術集会, 2019. 10. 5, ワークショップⅡ「第9回 ともに考えよう — 救急看護実践における倫理的課題への対応—」, 倫理委員として企画・実行.
- 6) 日本医学看護学教育学会学会誌, 査読.
- 7) 日本エンドオブライフケア学会会誌, 査読.

## 講師 荒井恵美子

#### 著書

- 1) 調理の科学—基礎から実践まで—: 吉田勉 監修, 高崎禎子・小林理恵 編集, 学文社, 2020, 第10章「食事設計」10-3. 生活習慣病予防への活用と展開, 10-4. 食事療法への活用と展開.
- 2) Nブックス新版 調理学: 鈴野弘子, 真部真里子 編著, 建帛社, 2020, 第4章「食品の調理特性」  
1. 植物性食品の調理特性, 1.1 穀類, 3. 抽出食品素材, 3.1 油脂類, 3.2 でんぷん類, 3.3 ゲル化素材.

#### その他

- 1) 若年者の口腔機能および嗅覚機能と食事内容の関連について, 荒井恵美子, 石田千津恵, 名和田清子, 2019. 11, 日本咀嚼学会雑誌, 29 (2), 102, 日本咀嚼学会第30回記念学術大会抄録.

#### 学会発表

- 1) 日本調理科学会 2019年度大会, 2019. 8, 揚げ油の新規劣化分析手法の開発, 荒井恵美子, 名和田清子, 大武義人, 福岡県.
- 2) 日本咀嚼学会第30回記念学術大会, 2019. 10, 若年者の口腔機能と食事内容との関連について, 荒井恵美子, 石田千津恵, 名和田清子, 東京都.

#### 講演

- 1) いずも健康市民大学: 出雲キャンパス公開講座「噛むこと, 飲み込むことが難しい高齢者の食事について」2019. 5. 14, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 第15回日本栄養改善学会 中国支部学術総会, 2019. 6, 会計幹事.



## 講 師 佐 藤 美 紀 子

### 論 文

- 1) 脳卒中患者のセルフマネジメントに関する国内外の文献レビュー, 佐藤美紀子, 原祥子, 福間美紀, 加藤真紀, 日本看護研究学会誌, 42 (4), 803-818, 2019年6月.

### 学会発表

- 1) 第45回日本看護研究学会学術集会, 2019年8月, 脳卒中後に著しい意欲低下・セルフマネジメントの障害をきたした症例の分析によるセルフマネジメントの阻害要因, 佐藤美紀子, 原祥子, 加藤真紀, 大阪府.
- 2) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020年3月, 看護系女子大学生の子宮頸がん・子宮頸がん検診に対する知識・意識の実態, 荒田泰葉, 齋賀小夏, 平野文子, 佐藤美紀子, 島根県.
- 3) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020年3月, 看護系大学生における生活習慣の実態と健康意識, 田辺渉, 平野文子, 佐藤美紀子, 島根県.

### 学会活動

- 1) 第12回 島根看護学術集会 査読委員
- 2) 第12回 島根看護学術集会 座長

## 講 師 中 畑 典 子

### 学会発表

- 1) 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019. 10, 家庭血圧測定実施者における食習慣と食物摂取状況の変化【益田研究: 第2報】, 中畑典子, 福田茉莉, 宮川健, 谷口かおり, 久松隆史, 神田秀幸, 高知市.

### 講 演

- 1) 令和元年度中堅教諭等資質向上研修(栄養教諭)第Ⅱ回教育センター研修会, 2019. 6, こころの栄養～私の思い出の料理～, 松江市.
- 2) 島根県栄養士会 2019年度生涯教育研修会, 2019. 8, 食事調査法～結果をまとめて発表してみよう, 大田市.
- 3) 浜田市保健福祉課研修会, 浜田健活プロジェクト研修会, 2019. 9, 食事調査手法と特徴について, 出雲市.
- 4) いずもファミリーサポートセンター研修会, 2019. 11, 子どもの栄養と食生活, 出雲市.

## 講 師 林 健 司

### 論 文

- 1) 認知症高齢者に対する「聞き書き」による看護学生の実習での学び, 荒木さおり, 伊藤智子, 加藤さゆり, 林 健司, 濱村由香, 梶谷みゆき: 島根県立大学出雲キャンパス研究紀要, 15, 25-33, 2019.
- 2) 学生・教員で取り組む地域貢献活動, 高齢者の健康づくり応援プロジェクト, 買い物ついでに介護予防「健幸フェスタ2018」の開催, 林 健司, 松本祐香, 平松喜美子, 石橋鮎美, 梶谷みゆ



き, 荒木さおり, 福島彩花, 今井敬人, 大月彩菜, 野々村奏子, 佐々木朋佳, 加藤大志, 鹿毛沙綾, 出羽 葵, 前原知佳, 柳川莉子, 石田菜々美, 板持智之: 保健師ジャーナル, 75 (10), 856-861, 2019.

#### 学会発表

- 1) 第24回日本老年看護学会学術集会, 2019. 6. 7, オーダーメイド運動処方プログラムによる介入が高齢者の心身の健康状態に与える影響, 林 健司, 松本祐香, 平松喜美子, 加藤さゆり, 渡邊克俊, 梶谷みゆき, 平野文子, 濱村由香, 宮城.
- 2) 第24回日本老年看護学会学術集会, 2019. 6. 7, 看護学生による認知症高齢者に対する聞き書き実習の学び, 荒木さおり, 加藤さゆり, 林 健司, 濱村由香, 伊藤智子, 梶谷みゆき, 宮城.
- 3) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 21, 日帰りヘルスツーリズム前後の自律神経機能変化, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林 健司, 大阪.
- 4) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 21, 成人期を対象としたメンタルヘルス対策におけるヘルスツーリズムの効果, 林健司, 小田美紀子, 藤田小矢香, 大阪.
- 5) 日本家族看護学会第26回学術集会, 2019. 9. 14, 回復期脳血管障害患者と配偶者の家族機能を高める看護師の面談スキル, 梶谷みゆき, 加藤さゆり, 荒木さおり, 林健司, 京都.
- 6) 第6回日本転倒予防学会学術集会, 2019. 10. 6, 大腿骨近位部骨折術後高齢者の居宅退院後における転倒不安感の変化, 林 健司, 岡安誠子, 平松喜美子, 荒木さおり, 梶谷みゆき, 目次早苗, 新潟.
- 7) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11. 30, 大腿骨近位部骨折術後高齢者における居宅での生活様相, 林健司, 荒木さおり, 岡安誠子, 梶谷みゆき, 平松喜美子, 石川.
- 8) 第4回臨床自律神経機能Forum, 2020. 2. 1, 日帰りヘルスツーリズムが自律神経活動に与える影響, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林 健司, 川崎市.
- 9) KENNDAI 縁結びフォーラム, 2020. 2. 20, 高齢者の健康づくり応援プロジェクト～健幸フェスタ2019～, 松本祐香, 林 健司, 板持智之, 平松喜美子, 荒木さおり, 梶谷みゆき, 島根.
- 10) 第30回日本医学看護学教育学会, 2020. 3. 27-29, 商業施設で行う健康増進啓発活動の紹介と参加者におけるサルコペニアの実態, 松本祐香, 林 健司, 板持智之, 荒木さおり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根.
- 11) 第30回日本医学看護学教育学会, 2020. 3. 27-29, 商業施設で行う健康イベントに参加した地方高齢者のフレイルの実態, 板持智之, 林 健司, 松本祐香, 荒木さおり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根.
- 12) 第30回日本医学看護学教育学会, 2020. 3. 27-29, 再入院することなく在宅での生活が1年以上経過した高齢心不全患者の生活様相, 廣江桃香, 梅田大志, 林 健司, 板持智之, 島根.
- 13) 第30回日本医学看護学教育学会, 2020. 3. 27-29, 認知症と診断された高齢者と生活する配偶者が認知症カフェに参加するプロセス, 倉橋彩香, 島田奈津美, 林 健司, 荒木さおり, 島根.
- 14) 第30回日本医学看護学教育学会, 2020. 3. 27-29, 日帰りヘルスツーリズムが就労者の自律神経機能に及ぼす影響, 藤田小矢香, 小田美紀子, 林 健司, 島根.

#### 講演

- 1) いずも健康市民大学, 2019. 10. 3, ロコモ予防で健幸(けんこう)生活, 出雲市.
- 2) 介護予防事業「健幸大学」, 2019. 10. 16, ロコモ予防で素敵にウェルエイジング, 出雲市.
- 3) 介護予防教室「ひまわりの会」, 2020. 1. 23, ロコモ予防で健幸生活, 大田市.

## 講 師 渡 邊 克 俊

### 論 文

- 1) 世帯単位での家庭備蓄(口腔ケア衛生材料, 非常食)の現状と備蓄要因の検討, 佐藤公子, 渡邊克俊, 日本未病システム学会雑誌, 25 (3) : 1-10, 2019.
- 2) オーラル・フレイルの早期発見によるフレイル予防ー口腔機能低下が地域在住高齢者の栄養状態に及ぼす影響の検討ー, 佐藤公子, 平松喜美子, 渡邊克俊, 日本未病システム学会雑誌, 25(3), 11-19, 2019.
- 3) 空港航空機事故消火救難訓練参加による学生の気づきの様相, 平井由佳, 渡邊克俊, 川瀬淑子, インターナショナル Nursing Care Research, 18(4), 21-27, 2019.
- 4) 平成 30 年 7 月豪雨災害の被災地を訪問した看護学生の学び, 祝原あゆみ, 渡邊克俊, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 65-71, 2019.
- 5) 在宅高齢者のフレイル(虚弱)と口腔機能・栄養状態の関連性, 平松喜美子, 佐藤公子, 渡邊克俊, 平松哲哉, 日本医学看護学教育学会誌, 28 (3) 10-18. 2020.

### その他

- 1) 令和元年度 KENDAI 縁結びフォーラム, 2020. 2. 20, 災害に備える活動 ~災活~ 今こそ備える時災害研究会 (DSAC), 本末あゆみ, 宮迫瑞穂, 渡邊克俊, 祝原あゆみ, 浜田市.
- 2) 令和元年度 KENDAI 縁結びフォーラム, 2020. 2. 20, 浜田市の一般市民の応急処置に関する意識調査, 渡邊克俊, 平井由佳, 浜田市.

### 学会発表

- 1) 第 24 回日本老年看護学会学術集会, 2019. 6. 7, オーダーメイド運動処方プログラムによる介入が高齢者の心身の健康状態に与える影響, 林健司, 松本祐香, 平松喜美子, 加藤さゆり, 渡邊克俊, 梶谷みゆき, 平野文子, 濱村由香, 仙台市.
- 2) 第 21 回日本救急看護学会学術集会, 2019. 10. 4, 避難所運営ゲーム (HUG) を体験した学生の学びと防災に関する意識の変化, 渡邊克俊, 平井由佳, 千葉市.
- 3) 第 25 回日本災害医学会総会・学術集会, 2020. 2. 22, DMAT の局地災害における役割と消防との連携 出雲空港航空機事故消化救難訓練と出雲消防多数傷病者対応ガイドラインセミナー, 室野井智博, 松本亮, 岡和幸, 下条芳秀, 木谷昭彦, 比良英司, 日下あかり, 渡邊克俊, 瀧波慶和, 山森祐治, 渡部広明, 神戸市.

### 講 演

- 1) 令和元年度島根県看護協会男性看護師研修会, 2020. 1. 25, 俺のキャリアプラン, 松江市.

## 助 教 荒 木 さ お り

### 論 文

- 1) 認知症高齢者に対する「聞き書き」による看護学生の実習での学び, 荒木さおり, 伊藤智子, 加藤さゆり, 林健司, 濱村由香, 梶谷みゆき: 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 第 15 巻, 25 - 33, 2019.

### その他

- 1) 学生・教員で取り組む地域貢献活動 高齢者の健康づくり応援プロジェクト, 林健司, 松本祐香, 平松喜美子, 石橋鮎美, 梶谷みゆき, 荒木さおり, 福島彩花, 今井敬人, 大月彩菜, 野々村奏子, 佐々木朋佳, 加藤大志, 鹿毛沙綾, 出羽葵, 前原知佳, 柳川莉子, 石田菜々美, 板持智之: 保健師ジャーナル, 第 75 巻, 第 10 号, 2019. 10 月 10 日発行. 医学書院, 活動報告, 856 - 861.

## 学会発表

- 1) 日本老年看護学会第24回学術集会, 2019. 6. 7, 看護学生による認知症高齢者に対する聞き書き実習の学び, 荒木さおり, 加藤さゆり, 林健司, 濱村由香, 伊藤智子, 梶谷みゆき, 宮城県仙台市.
- 2) 日本家族看護学会第26回学術集会, 2019. 9. 14, 回復期脳血管障害患者と配偶者の家族機能高める看護師の面談スキル, 梶谷みゆき, 加藤さゆり, 荒木さおり, 林健司, 京都府京都市.
- 3) 日本転倒予防学会第6回学術集会, 2019. 10. 6, 大腿骨近位部骨折術後高齢者の居宅退院後における転倒不安感の変化, 林健司, 岡安誠子, 平松喜美子, 荒木さおり, 梶谷みゆき, 目次早苗, 新潟県新潟市.
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11. 30, 大腿骨近位部骨折術後高齢者における居宅での生活様相, 林健司, 荒木さおり, 岡安誠子, 梶谷みゆき, 平松喜美子, 石川県金沢市.
- 5) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 14 (3. 27—29Web 開催へ変更), 認知症と診断された高齢者と生活する配偶者が認知症カフェに参加するプロセス, 倉橋彩香, 島田奈津美, 林健司, 荒木さおり, 島根県出雲市.
- 6) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 14 (3. 27—29Web 開催へ変更), 商業施設で行う健康増進啓発活動の紹介と参加者におけるサルコペニアの実態, 松本祐香, 林健司, 板持智之, 荒木さおり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根県出雲市.
- 7) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3. 14 (3. 27—29Web 開催へ変更), 商業施設で行う健康イベントに参加した地方高齢者のフレイルの実態, 板持智之, 林健司, 松本祐香, 荒木さおり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根県出雲市.
- 8) 令和元年度「KENDAI 縁結びフォーラム」, 2020. 2. 20, 学生による認知症カフェプロジェクト, 荒木さおり, 本田明理, 榎原千絵, 二宮芽生, 高砂和佳, 三島亜美, 島根県浜田市.
- 9) 令和元年度「KENDAI 縁結びフォーラム」, 2020. 2. 20, 高齢者の健康づくり応援プロジェクト～健康フェスタ2019～, 松本祐香, 林健司, 板持智之, 荒木さおり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根県浜田市.
- 10) 2019年度日本認知症ケア学会中国・四国ブロック大会, 2020. 2. 23, 重度認知症者の言動に込められた思いに目を向けたケアの一例, 飯島可奈子, 荒木さおり, 勝部真美枝, 岡山県倉敷市.

## 助 教 石 田 千 津 恵

## 著 書

- 1) 伝え継ぐ日本の家庭料理—米のおやつともち—: 一般社団法人日本調理科学会 企画・編集, 島根県担当 (石田千津恵, 藤江未沙), 2019. 6, 農山漁村文化協会, <106-109>
- 2) 伝え継ぐ日本の家庭料理—漬物 佃煮 なめ味噌—: 一般社団法人日本調理科学会 企画・編集, 島根県担当 (石田千津恵, 藤江未沙), 2019. 9, 農山漁村文化協会, <18, 29>
- 3) 伝え継ぐ日本の家庭料理—汁もの—: 一般社団法人日本調理科学会 企画・編集, 島根県担当 (石田千津恵, 藤江未沙), 2019. 12, 農山漁村文化協会, <37-39>
- 4) 伝え継ぐ日本の家庭料理—そば うどん 粉もの—: 一般社団法人日本調理科学会 企画・編集, 島根県担当 (石田千津恵, 藤江未沙), 2020. 3, 農山漁村文化協会, <22-23>

## 学会発表

- 1) 日本調理科学会2019年度大会, 2019. 8, 島根県産コシヒカリ (浜田市旭町坂本集落) の天日干しと非天日干しの食味評価 —食事サービス実習 (給食管理実習) におけるアンケート調査—, 石田千津恵, 福岡市.
- 2) 日本咀嚼学会第30回記念学術大会, 2019. 10, 若年者の口腔機能と食事内容との関連について,

荒井恵美子, 石田千津恵, 名和田清子, 東京都.

#### 講演

- 1) 出雲市子ども政策課出前講座, 2019. 8. 22, 栄養士さんと話そう! 離乳食・幼児食 (間食含む) のこと, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15-16, 実行委員 (事務局) (懇親会・昼食).

## 助教 祝原 あ ゆ み

#### 論文

- 1) 平成30年7月豪雨災害の被災地を訪問した看護学生の学び, 祝原あゆみ, 渡邊克俊, 島根県立大学出雲キャンパス紀要. 15, 65-72, 2019. 12.

#### その他

- 1) 令和元年度児童虐待防止推進研修事業報告書, 山下一也, 高橋恵美子, 小田美紀子, 金山俊介, 中谷陽子, 石飛享子, 祝原あゆみ, 後藤尊宜, 2020. 3, 出雲市要保護児童対策地域協議会・島根県立大学出雲キャンパス, 第9巻, 1・4-8, 児童虐待防止と対応講座の趣旨とプログラム・第3回講座報告.

#### 学会発表

- 1) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 高齢化が進む地域で暮らす男性高齢者の通所型介護予防事業への継続的参加要因, 祝原あゆみ・伊藤智子, 出雲市.

#### 講演

- 1) 大津慶人会7単位クラブ茶話会, 2019. 9. 11, 熱中症の対応と予防, 出雲市.
- 2) 出雲市介護予防・日常生活支援総合事業なないろ教室 (月曜教室), 2019. 11. 18, 回想法でイキイキ子どもの頃の遊び一, 出雲市.
- 3) 出雲市介護予防・日常生活支援総合事業なないろ教室 (木曜教室), 2020. 1. 16, 回想法でイキイキ子どもの頃の遊び一, 出雲市.
- 4) 出雲市介護予防・日常生活支援総合事業なないろ教室 (木曜教室), 2020. 2. 20, オーボエと一緒に歌おう, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 会計.

## 助教 植田 恵

#### 論文

- 1) 超音波検査を初めて行う助産師が超音波実践演習において抽出した画像項目と技能の内容-実習レポートのKH Coderによる分析-, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 長島玲子, 濱村美和子, 狩野鈴子, 中谷陽子, 植田恵: 日本医学看護学教育学会誌, 28-2, 35-40, 2019.

#### 学会発表

- 1) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県における女子学生への大学院助産師養成課程に対するニーズ調査, 植田恵, 中谷陽子, 井上千晶, 狩野鈴子, 濱村美和子, 藤田小矢香, 長島玲子, 出雲市.
- 2) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020. 3, A県内進路指導担当高校教員の大学院助産師養成課程に対する意向, 濱村美和子, 井上千晶, 狩野鈴子, 藤田小矢香, 植田恵, 中谷陽子, 長島玲子, 出雲市.

## 講 演

- 1) いのちの楽習出前講座「お誕生日ってなあに？」日本助産師会島根県支部バースディプロジェクト講師，2019. 6. 20，出雲市立神西小学校.
- 2) いのちの楽習出前講座「お誕生日ってなあに？」日本助産師会島根県支部バースディプロジェクト講師，2019. 12. 17，出雲市立河南中学校.
- 3) いのちの楽習出前講座「お誕生日ってなあに？」日本助産師会島根県支部バースディプロジェクト講師，2020. 1. 10，出雲市立平田幼稚園.
- 4) いのちの楽習出前講座「お誕生日ってなあに？」日本助産師会島根県支部バースディプロジェクト講師，2020. 1. 16，出雲市立北陽小学校.
- 5) いのちの楽習出前講座「お誕生日ってなあに？」日本助産師会島根県支部バースディプロジェクト講師，2020. 2. 7，川本町立川本中学校.

## 助 教 小 川 智 子

## 論 文

- 1) 看護学生の認知症高齢者のイメージとの関連，2年生と4年生を比較して，角野加恵子・中谷久恵・大塚美樹・金藤亜希子・吉本知恵・小川智子・三宅弘枝，日本認知症ケア学会誌，18(2)，485-494，2019. 7.
- 2) Factors associated with professional confidence in Japanese public health nurses: A cross-sectional survey, Tomoko Ogawa・Hisae Nakatani, Public Health Nursing, 37(2), 272-280, 2020. 1.

## 講 演

- 1) 介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」，2019. 12. 9，冬は入浴に気をつけよう-ヒートショックを中心に-，出雲市平田町.

## 助 教 小 田 香 澄

## 学会発表

- 1) 日本看護研究学会第45回学術集会，2019. 8，発達障害児支援プログラム参加を通じた看護学生のADHD児に対する理解の過程，金山俊介，小田香澄，小田美紀子，高橋恵美子，大阪市.
- 2) 第39回日本看護科学学会学術集会，2019. 11，学生FD活動と所属する大学への愛校心や満足度の関係，金山俊介，吾郷美奈恵，小田香澄，松谷ひろみ，藤田小矢香，長島玲子，金沢市.

## 助 教 梶 谷 麻 由 子

## 学会発表

- 1) 日本看護学教育学会 第29回学術集会，2019. 8，結婚・妊娠・出産を経てキャリア継続している看護職の体験，梶谷麻由子，京都市.
- 2) 日本看護研究学会 第45回学術集会，2019. 8，高齢化および医療過疎が顕著なA県における特定行為に係る看護師の研修制度に関するニーズ，梶谷麻由子，吉川洋子，勝部真美枝.
- 3) 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 2020. 1, Learning of nursing students in community



visit practice ; Analysis of mind map records, Yoshikawa Yoko, Masako Okayasu—Kimura, Mayuko Kajitani, Ichie Matsumoto, Yuka Hirai and Yoshiko Kawase, Chiang Mai.

- 4) 日本看護研究学会中国・四国地方会第33回学術集会, 2020. 3, 看護学生1年次生が認識する“食の問題”, 平井由佳, 岡安誠子, 川瀬淑子, 梶谷麻由子, 徳島.
- 5) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 「教育信念」の概念に関する文献検討—国内研究から導出された概念の特徴について—, 岡安誠子, 川瀬淑子, 平井由佳, 松本玄智江, 梶谷麻由子, 吉川洋子, 出雲市.

#### 学会活動

- 1) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会, 2020. 3, 運営委員.
- 2) 日本看護倫理学会第13回年次大会, 2019. 3, 事務局兼企画委員.

## 助 教 加 藤 さ ゆ り

#### 論 文

- 1) 認知症高齢者に対する「聞き書き」による看護学生の実習での学び, 荒木さおり, 伊藤智子, 加藤さゆり, 林健司, 濱村由香, 梶谷みゆき : 島根県立大学出雲キャンパス研究紀要, 第15巻, 25-33, 2019.
- 2) 七田式脳トレーニング法による健常高齢者の認知機能への影響(2), 伊藤智子, 加藤さゆり, 牛尾巧, 岡田英子 : 島根県立大学出雲キャンパス研究紀要, 第15巻, 15-24, 2019.

#### 発 表

- 1) 日本老年看護学会, 2019. 6. 8, 地域高齢者への死生観インタビューによる高齢者の死生観の理解と活用—2年課程定時制に通う看護学生の学びレポートの分析から—, 加藤さゆり, 横島啓子, 徳重あつ子, 久山かおる, 仙台国際センター.
- 2) 日本老年看護学会, 2019. 6. 7, 看護学生による認知症高齢者に対する聞き書き実習の学び, 荒木さおり, 加藤さゆり, 林健司, 濱村由香, 伊藤智子, 梶谷みゆき, 仙台国際センター.
- 3) 日本老年看護学会, 2019. 6. 7, オーダーメイド運動処方プログラムによる介入が高齢者の心身の健康状態に与える影響, 林健司, 松本祐香, 平松喜美子, 加藤さゆり, 渡邊克俊, 梶谷みゆき, 平野文子, 濱村由香, 仙台国際センター.
- 4) 日本家族看護学会, 2019. 9. 14, 回復期脳血管障害患者と配偶者の関係改善を図る看護師の面談スキル, 梶谷みゆき, 加藤さゆり, 荒木さおり, 林健司, 京都テルサ.

#### 講 演

- 1) 出雲市介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」, 2020. 3. 26, 手洗いについて, 出雲市.

## 助 教 金 山 俊 介

#### 論 文

- 1) 低身長小児・若年者のもつ体格イメージと性格特性の関連, 性差, 出生順の要因について, 花木啓一, 長谷川慶幸, 金山俊介, 木村真司, 西村直子, 神崎晋, 長石純一, 片山威, 梶俊策 : 成長科学協会研究年報, 9, (1), 55-60, 2019.

#### 学会発表

- 1) 第66回日本小児保健協会学術集会, 2019. 6, フィリピンにおける小児の食習慣に関する質問紙調査, 青戸春香, 永久武志, 両見知将, 谷村千華, 小林伸行, Majbauddin Abir, 森田鉄二, 徳嶋靖子, 深田美香, 大谷眞二, 井上和興, 金山俊介, 花木啓一, 東京.



- 2) 第 66 回日本小児保健協会学術集会, 2019. 6, 若年者の急な傷病者への応急救護実施を阻害・促進する要因の解析 評価尺度開発の試み, 長谷川慶幸, 青戸春香, 金山俊介, 遠藤有里, 南前恵子, 花木啓一, 東京.
- 3) 日本看護研究会第 45 回学術集会, 2019. 7, 発達障害児支援プログラム参加を通じた看護学生の ADHD 児に対する理解の過程, 金山俊介, 小田香澄, 小田美紀子, 高橋恵美子, 大阪.
- 4) 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 学生 FD 活動と所属する大学への愛校心や満足度の関係, 金山俊介, 吾郷美奈恵, 小田香澄, 松谷ひろみ, 藤田小矢香, 長島玲子, 石川.

#### 講演

- 1) 講演会, 2019. 7. 19, 考えてみよう子どもの睡眠について, 社会法人出雲南福祉会一の谷保育園.

## 助教 多々納 浩

#### 論文

- 1) 日韓交流における健康栄養学科の学生の学びについて～異文化研修(韓国)とさくらサイエンスプランの参加報告から～, 今中美栄, 金美玉, 細川優, 多々納浩, 福田詩織, 南星姫, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15. 81-90, 2019.

#### 学会発表

- 1) 第 15 回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15, 「ヒト尿メタボローム解析による肉および魚摂取バイオマーカーの探索」, 多々納浩, 奥村仙示, 増田真志, 竹谷豊, 出雲市.
- 2) 第 66 回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9. 6, 「カロリー密度に注目した「デンシエット」弁当事業化への取り組み」, 奥村仙示, 井端知咲, 多々納浩, 山口智勢, 窪田友華, 近藤知佳, 大西康太, 大南博和, 増田真志, 竹谷豊, 富山市.
- 3) 第 13 回メタボロームシンポジウム, 2019. 10. 16, 「1 滴の血漿や尿から食事摂取を評価するフードメタボロミクスによる栄養検査の開発」, 奥村仙示, 多々納浩, 平山明由, 曾我朋義, 富田勝, つくば市.
- 4) 第 260 回徳島医学会, 2019. 11. 18, 「フードメタボロミクスを用いた肉・魚介類摂取を評価するための新規栄養検査の開発」, 奥村仙示, 多々納浩, 大西康太, 大南博和, 増田真志, 平山明由, 曾我朋義, 富田勝, 竹谷豊, 徳島市.
- 5) 第 23 回日本病態栄養学会年次学術集会, 2020. 1. 24, 「血漿や尿から肉・魚介類の摂取を評価する栄養検査開発の取り組み」, 奥村仙示, 多々納浩, 平山明由, 渡邊果りん, 大西康太, 大南博和, 増田真志, 栗原綾子, 原田成, 武林亨, 曾我朋義, 富田勝, 竹谷豊, 京都市.
- 6) 15th Metabolomics Society Conference (Metabolomics 2019), 2019. 6. 23, Screening of Biomarkers of Citrus unshiu Consumption Using Metabolomics, Hisami Yamanaka-Okumura, Akiyoshi Hirayama, Aina Imai, Hiroshi Tatano, Daisuke Kajiura, Tomoyoshi Soga, Masaru Tomita, The Hague, The Netherlands.

#### 学会活動

- 1) 第 15 回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15-16, 大会運営委員.

## 助 教 中 川 忠 彦

### 論 文

- 1) EGFR-targeted molecular imaging of colorectal tumors: detection and treatment evaluation of tumors in animal models, Yoshihiko Miyamoto, Naoki Muguruma, Shota Fujimoto, Yasuyuki Okada, Yoshifumi Kida, Fumika Nakamura, Kumiko Tanaka, Tadahiko Nakagawa, Shinji Kitamura, Koichi Okamoto, Hiroshi Miyamoto, Yasushi Sato, Tetsuji Takayama, *Cancer Sci*, 110(6):1921-1930, 2019 Jun.
- 2) MicroRNA-296-5p promotes cell invasion and drug resistance by targeting BOK, leading to a poor prognosis in pancreatic cancer, Jun Okazaki, Toshihito Tanahashi, Yasushi Sato, Jinsei Miyoshi, Tadahiko Nakagawa, Tetsuo Kimura, Hiroshi Miyamoto, Yasuteru Fujino, Fumika Nakamura, Masanori Takehara, Beibei Ma, Masahiro Bando, Shinji Kitamura, Koichi Okamoto, Naoki Muguruma, Masahiro Sogabe, Tetsuji Takayama, *Digestion*, 27:1-13, 2019 Sep.
- 3) JMJD2A sensitizes gastric cancer to chemotherapy by cooperating with CCDC8, Tadahiko Nakagawa, Yasushi Sato, Toshihito Tanahashi, Yasuhiro Mitsui, Yoshifumi Kida, Yasuteru Fujino, Misato Hirata, Shinji Kitamura, Hiroshi Miyamoto, Koichi Okamoto, Naoki Muguruma, Yoshimi Bando, Tetsuji Takayama, *Gastric Cancer*. 2019 Nov, in press.
- 4) Development of a novel automatic ascites filtration and concentration equipment with multi-ring-type roller pump units for cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy, Toshiya Okahisa, Masahiro Sogabe, Tadahiko Nakagawa, Kumiko Tanaka, Tetsu Tomonari, Tatsuya Taniguchi, Akira Takahashi, Yousuke Kinouchi, Jyunji Nishioka, Naoki Igata, Hiroaki Yanagawa, Takatoshi Komatsu, Yoshiaki Ohnishi, Masashi Fukuhara, Masashi Ishikawa, Hiroshi Shibata, Hirohiko Shinomiya, Masahiko Nakasono, Fumiko Kishi, Keiko Komai, Yayoi Tatsuki, Toru Murashima, Yoshihiro Deguchi, Hiroshi Aramaki, Hideyuki Fukumitsu, Tetsuji Takayama, *Artificial Organs*. 2020 Mar, accepted.

### 学会発表

- 1) Digestive Disease Week2019, May 2019, MicroRNA-296-5p promotes EMT process and cell invasion by targeting BOK leading to poor prognosis in pancreatic cancer, Jun Okazaki, Toshihito Tanahashi, Yasushi Sato, Jinsei Miyoshi, Tadahiko Nakagawa, Tetsuo Kimura, Hiroshi Miyamoto, Yasuteru Fujino, Fumika Nakamura, Masanori Takehara, Masahiro Bando, Shinji Kitamura, Koichi Okamoto, Naoki Muguruma, Masahiro Sogabe and Tetsuji Takayama, San Diego.
- 2) 第111回日本消化器病学会四国支部例会, 2019年6月, 肝疾患の診断と治療 プロジェクトマネージメントに基づいた医工連携による胸腹水濾過濃縮専用装置の研究開発, 曾我部 正弘, 岡久稔也, 川口 智之, 佐藤 康史, 下畑 隆明, 上番増 喬, 馬渡 一諭, 高橋 章, 中川 忠彦, 榎本 崇宏, 芥川 正武, 楊河 宏章, 田代 善彦, 石川 正志, 野田 和克, 田中 宏典, 田中 久美子, 友成 哲, 谷口 達哉, 高山 哲治, 高松市.
- 3) ESMO congress, Sep 2019, JMJD2A is a novel epigenetic factor of chemotherapeutic susceptibility in gastric cancer, Yasushi Sato, Tadahiko Nakagawa, Toshihito Tanahashi, Shinji Kitamura, Hiroshi Miyamoto, Koichi Okamoto, Naoki Muguruma, Tetsuji Takayama, Barcelona.
- 4) 第78回日本癌学会学術総会, 2019年9月, JMJD2A (KDM4A) は切除不能進行胃癌において CCDC8 を介して抗癌剤感受性を制御する, 中川 忠彦, 棚橋 俊仁, 宮本 佳彦, 岡崎 潤, 武原 正典, 村

山 典聡, 三好 人正, 谷口 達哉, 坂東 良美, 岡本 耕一, 佐藤 康史, 六車 直樹, 高山 哲治, 京都市.

- 5) 第12回国際アフェレシス学会学術大会・第40回日本アフェレシス学会学術大会, 2019年10月, チューブホルダー型胸腹水濾過濃縮用回路セットの開発, 小松 崇俊, 小林 誠司, 緒方 良輔, 大西 芳明, 青野 宏樹, 福原 正史, 中川 忠彦, 友成 哲, 宮本 弘志, 高山 哲治, 曾我部 正弘, 岡久 稔也, 京都市.
- 6) 第12回国際アフェレシス学会学術大会・第40回日本アフェレシス学会学術大会, 2019年10月, 多職種連携による胸腹水濾過濃縮専用装置 (M-CART) の開発と臨床評価, 福原 正史, 青野 宏樹, 石川 正志, 小松 崇俊, 大西 芳明, 楊河 宏章, 柴田 啓志, 岸 史子, 四宮 寛彦, 中園 雅彦, 中川 忠彦, 武原 正典, 友成 哲, 高山 哲治, 曾我部 正弘, 岡久 稔也, 京都市.

#### 学会活動

- 1) 第15回日本栄養改善学会 中国支部学術総会, 2019.6, 実行委員 (学術部).

## 助 教 中 谷 陽 子

#### 論文

- 1) 超音波検査を初めて行う助産師が超音波実践演習において抽出した画像項目と技能の内容 - 実習レポートのKH Coderによる分析 -, 藤田小矢香, 井上千晶, 秦幸吉, 長島玲子, 濱村美和子, 狩野鈴子, 中谷陽子, 植田恵: 日本医学看護学教育学会誌, 28-2, 35-40, 2019.

#### 学会発表

- 1) 第59回日本先天異常学会 The 13th World Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation CLEFT 2019 合同学術集会, 2019.7, Maternal nutritional status during pregnancy in Shimane Prefecture : Second report -Comparison among early , middle and late pregnancy -, Yoko Nakatani, Yukiko Kagohashi, Reiko Nagashima, Aiko Katsube, Hiroki Otani, Nagoya.
- 2) The 6<sup>th</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing science, 2020.2, Maternal nutritional intake condition during pregnancy and one month after delivery in Shimane Prefecture, Japan, Yoko Nakatani, Yukiko Kagohashi, Reiko Nagashima, Aiko Katsube, Hiroki Otani, Osaka.
- 3) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020.3, A県における女子学生への大学院助産師養成課程に対するニーズ調査, 植田恵, 中谷陽子, 井上千晶, 狩野鈴子, 濱村美和子, 藤田小矢香, 長島玲子, 出雲市.
- 4) 第24回島根県母性衛生学会学術集会, 2020.3, A県内進路指導担当高校教員の大学院助産師養成課程に対する意向, 濱村美和子, 井上千晶, 狩野鈴子, 藤田小矢香, 植田恵, 中谷陽子, 長島玲子, 出雲市.

#### 講演

- 1) 島根県看護協会助産師職能, 両親教室, 2019.10.19, 出雲市.

## 助 教 日 野 雅 洋

#### 論文

- 1) 精神疾患を有する母親の育児ストレスとサポートの関連, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 高橋恵美子, 井上千晶, 松谷ひろみ, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 57-54, 2019.12.

## 学会発表

- 1) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8, 精神疾患を有する女性の育児ストレスとソーシャルサポートの実態, 大森眞澄, 日野雅洋, 井上千晶, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 石橋照子, 大阪市.
- 2) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8, 精神疾患を有する母親への保健所保健師の支援の実態, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 井上千晶, 大阪市.
- 3) 第60回日本母性衛生学会学術集会, 2019. 10, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の課題, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 高橋恵美子, 大森眞澄, web学会.
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神科外来において看護師が行う精神疾患を有する母親への支援の実態調査, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 井上千晶, 高橋恵美子, 金沢市.
- 5) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の支援実態, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 高橋恵美子, 金沢市.

## 助 教 福 田 詩 織

## 論 文

- 1) 日韓交流における健康栄養学科の学生の学びについて～異文化研修(韓国)とさくらサイエンスプログラムの参加報告から～, 今中美栄, 金美玉, 細川優, 多々納浩, 福田詩織, 南星姫, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15. 81-90, 2019.

## 学会発表

- 1) 第73回日本栄養・食糧学会大会, 2019. 5, 妊娠期の高リン摂取が仔の発育やリン代謝調節系に及ぼす影響, 岸本麻希, 福田詩織, 林眞由, 増田真志, 竹谷豊, 静岡市.
- 2) 日本ビタミン学会第71回大会, 2019. 6, 成長期における短期的・長期的食餌性リン負荷がFGF23/ $\alpha$ -klotho シグナルに及ぼす影響, 福田詩織, 山本浩範, 中橋乙起, 吉川亮平, 林眞由, 岸本麻希, 伊美友紀子, 奥村仙示, 増田真志, 大西康太, 竹谷豊, 鳥取市.
- 3) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6, 成長期における過剰なリン摂取がリン・ビタミンD代謝に及ぼす影響, 福田詩織, 山本浩範, 中橋乙起, 吉川亮平, 林眞由, 岸本麻希, 伊美友紀子, 奥村仙示, 増田真志, 大西康太, 竹谷豊, 出雲市.
- 4) The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) 2019 Annual Meeting, 2019. 9, Regulation of  $\alpha$ -klotho Expression by Dietary Phosphate during Growth Periods, Shiori Fukuda-Tatano, Hironori Yamamoto, Otoki Nakahashi, Ryouhei Yoshikawa, Mayu Hayashi, Maki Kishimoto, Yukiko Imi, Hisami Okumura-Yamanaka, Kohta Ohnishi, Masashi Masuda and Yutaka Taketani, Orlando, Florida, USA.

## 学会活動

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15-6. 16, 大会運営委員.

## 助 教 松 谷 ひろみ

## 論 文

- 1) 精神疾患を有する母親の育児ストレスとサポートの関連, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 高橋恵美子, 井上千晶, 松谷ひろみ, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 15, 57-54, 2019. 12.

#### 学会発表

- 1) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8, 精神疾患を有する女性の育児ストレスとソーシャルサポートの実態, 大森眞澄, 日野雅洋, 井上千晶, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 石橋照子, 大阪市.
- 2) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8, 精神疾患を有する母親への保健所保健師の支援の実態, 高橋恵美子, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 井上千晶, 大阪市.
- 3) 第60回日本母性衛生学会学術集会, 2019. 10, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の課題, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 高橋恵美子, 大森眞澄, web学会.
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神科外来において看護師が行う精神疾患を有する母親への支援の実態調査, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 大森眞澄, 石橋照子, 井上千晶, 高橋恵美子, 金沢市.
- 5) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 精神疾患等メンタルヘルスに問題を有する母親支援における周産期看護職者の支援実態, 井上千晶, 松谷ひろみ, 日野雅洋, 石橋照子, 大森眞澄, 高橋恵美子, 金沢市.
- 6) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11, 学生FD活動と所属する大学への愛更新や満足度の関係, 金山俊介, 吾郷美奈恵, 小田香澄, 松谷ひろみ, 藤田小矢香, 長島玲子, 石川県金沢市.
- 7) 第30回日本医学看護学教育学会学術集会, 2020. 3, 労継続支援B型事業所での農作業を通して育まれた精神疾患患者の就労継続につながるエンパワメント, 松谷ひろみ, 石橋照子, Web開催.

## 助 教 松 本 祐 香

#### 論 文

- 1) 学生・教員で取り組む地域貢献活動, 高齢者の健康づくり応援プロジェクト, 買い物ついでに介護予防「健幸フェスタ2018」の開催, 林 健司, 松本祐香, 平松喜美子, 石橋鮎美, 梶谷みゆき, 荒木さおり, 福島彩花, 今井敬人, 大月彩菜, 野々村奏子, 佐々木朋佳, 加藤大志, 鹿毛沙綾, 出羽 葵, 前原知佳, 柳川莉子, 石田菜々美, 板持智之: 保健師ジャーナル, 75 (10), 856-861, 2019.

#### 学会発表

- 1) 第24回日本老年看護学会学術集会, 2019. 6. 7, オーダーメイド運動処方プログラムによる介入が高齢者の心身の健康状態に与える影響, 林 健司, 松本祐香, 平松喜美子, 加藤さゆり, 渡邊克俊, 梶谷みゆき, 平野文子, 濱村由香, 宮城.
- 2) KENNDAI 縁結びフォーラム, 2020. 2. 20, 高齢者の健康づくり応援プロジェクト～健幸フェスタ2019～, 松本祐香, 林 健司, 板持智之, 平松喜美子, 荒木さおり, 梶谷みゆき, 島根.
- 3) 第30回日本医学看護学教育学会, 2020. 3. 27-29, 商業施設で行う健康増進啓発活動の紹介と参加者におけるサルコペニアの実態, 松本祐香, 林 健司, 板持智之, 荒木さおり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根.
- 4) 第30回日本医学看護学教育学会, 2020. 3. 27-29, 商業施設で行う健康イベントに参加した地方高齢者のフレイルの実態, 板持智之, 林 健司, 松本祐香, 荒木さおり, 平松喜美子, 梶谷みゆき, 島根.

## 助 教 吉 松 恵 子

### 論 文

- 1) Keiko Yoshimatsu, Hisae Nakatani : Home Visiting Nurses' Job Stress and Error Incidents, Home Health Care Management & Practice 32(2), 110-117, DOI:10.1177/1084822319899392.

## 助 手 川 谷 真 由 美

### 論 文

- 1) 隠れ肥満指数 (MaskedObesityIndex : MOI) の検証, 酒元誠治, 藤井文子, 村上淳, 柏下淳子, 棚町祥子, 三浦康平, 松本エリ, 川谷真由美, 辻雅子, 小瀬千晶, 久野一恵 : 健康科学研究, 3, 21-31, 2019.
- 2) 3種類の体組成測定機の互換性の検討, 酒元誠治, 藤井文子, 村上淳, 柏下淳子, 棚町祥子, 三浦康平, 岡崎史子, 川谷真由美, 辻雅子, 小瀬千晶, 久野一恵 : 健康科学研究, 3, 33-45, 2019.

### 学会発表

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6, 在宅高齢女性における身長短縮が体組成に及ぼす影響の補正式, 川谷真由美, 島根県立大学出雲キャンパス.
- 2) 第66回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9, 在宅高齢女性における身長短縮が体組成に及ぼす影響の補正式2, 川谷真由美, 富山県富山市.

### 学会活動

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6, 学会運営.



## 2. 学外の社会活動

学長代行・教授 山 下 一 也

### 学外の社会活動

- 1) 日本老年医学会代議員
- 2) 日本内科学会中国支部評議員
- 3) 日本医学看護学教育学会会長
- 4) 日本脂質栄養学会評議員
- 5) 全国膠原病友の会島根県支部顧問
- 6) 日本ALS協会島根県支部顧問
- 7) 島根県企業局経営計画評価委員会委員長
- 8) 島根大学医学部等臨床研究利益相反マネジメント委員会委員
- 9) 出雲市認知症医療支援診療所地域連携モデル実施委員会委員
- 10) 島根県立中央病院臨床研究・治験審査委員会委員
- 11) 島根県立中央病院地域医療支援病院運営委員会委員
- 12) 日本医学看護学教育学会 第30回大会会長
- 13) 出雲市スポーツ振興審議会臨時委員

副学長・教授 石 橋 照 子

### 学外の社会活動

- 1) 島根県自死総合対策連絡協議会委員
- 2) 島根県自立支援協議会 退院支援部会委員
- 3) 日本医学看護学教育学会誌査読委員
- 4) 特定非営利活動法人 障がい者就労支援ネットワークつわぶき・理事長

教授 赤 浦 和 之

### 学外の社会活動

- 1) 島根県製菓衛生師試験委員会委員
- 2) 平田くらふとしょっふイベント, 2019. 10. 6, ブース出展, 平田本陣記念館

教授 吾 郷 美 奈 恵

### 学外の社会活動

- 1) 一般社団法人全国保健師教育機関協議会理事／広報・国際委員会委員長
- 2) 一般社団法人全国保健師教育機関協議会機関紙「保健師教育」査読委員
- 3) 公益社団法人日本看護科学学会代議員
- 4) 一般社団法人日本看護学教育学会評議員

- 5) 一般社団法人日本看護学教育学会専任査読者
- 6) 一般社団法人日本看護学教育学会選挙管理委員会委員
- 7) 一般社団法人日本看護研究学会評議員
- 8) 一般社団法人日本看護研究学会編集委員会委員
- 9) 一般社団法人日本看護研究学会学会誌専任査読委員
- 10) 一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会運営委員
- 11) 一般社団法人日本公衆衛生学会代議員（職能別）
- 12) 日本医学看護学教育学会指名理事
- 13) 日本医学看護学教育学会学会誌編集委員
- 14) 日本医学看護学教育学会査読委員
- 15) 日本看護倫理学会第13回年次大会企画委員
- 16) 第30回日本医学看護学教育学会学会誌編集委員
- 17) 一般社団法人日本看護学教育学会第30回学術集会査読委員
- 18) 一般社団法人日本看護研究学会第46回学術集会査読委員
- 19) 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会査読委員
- 20) 日本看護研究学会第45回学術集会座長
- 21) 中国地区公衆衛生学会評議員
- 22) 島根県土地開発公社理事
- 23) 島根県住宅供給公社理事
- 24) 出雲市環境審議会委員副委員長
- 25) 出雲市健康のまちづくり推進会議委員長
- 26) 雲南市健康づくり推進協議会・委員
- 27) 一般財団法人島根県建築住宅センター評議員
- 28) 公益財団法人島根県環境保健公社健診データ活用委員会委員
- 29) 島根県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員
- 30) 島根大学医学部嘱託講師「学校保健」
- 31) 2019年度島根県免許法認定講習講師
- 32) 島根県保健師現任教育支援検討会構成員
- 33) 島根県立中央病院看護局「看護研究」指導・助言
- 34) 雲南市令和元年度公衆衛生実践活動及び研究発表会助言
- 35) 島根県立中央病院造血幹細胞移植を受けた者の団体「むくの木」の活動支援

## 教授 安藤 彰 朗

### 学外の社会活動

- 1) 島根県立大学松江キャンパス非常勤講師

## 教授 伊藤 智 子

### 学外の社会活動

- 1) 島根県介護職員の行う医療的ケア関係業務に関する検討委員会委員
- 2) 島根県福祉サービス第三者評価委員会委員

- 3) 島根県河川整備計画検討委員会委員
- 4) 島根県水防計画検討委員会委員
- 5) 国土交通省斐伊川水系河川整備アドバイザー会議委員
- 6) 特定非営利活動法人なないろネット理事
- 7) 島根大学研究・学術情報機構地域包括ケア教育研究センター客員研究員

## 教授 今中美栄

### 学外の社会活動

- 1) 日本栄養改善学会評議員
- 2) 日本栄養改善学会中国支部庶務幹事
- 3) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会実行委員長

## 教授 梶谷みゆき

### 学外の社会活動

- 1) 日本老年看護学会学術誌査読委員
- 2) 日本老年看護学会代議員
- 3) 日本老年看護学会研究論文表彰対象論文評価委員
- 4) 日本家族看護学会学術誌（家族看護学研究）査読委員
- 5) 日本医学看護学教育学会評議員・選出理事
- 6) 日本医学看護学教育学会誌 査読委員
- 7) 島根県認知症ケア研究会 世話人
- 8) 島根県社会福祉審議会 委員
- 9) 島根県看護協会圏域別看護関係者連絡会議 看護相談員
- 10) 島根県立大学ナラティブ研究会 代表世話人
- 11) 2019年度中小企業組合等課題対応支援事業運営委員会 委員

## 教授 加納尚之

### 学外の社会活動

- 1) ALS協会島根県支部顧問
- 2) 日本医学看護学教育学会理事（学会誌編集委員長）
- 3) 日本医学看護学教育学会誌査読委員
- 4) 島根県立出雲高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業 外部連携指導員

## 教授 亀山良子

### 学外の社会活動

- 1) 日本栄養改善学会評議員
- 2) 日本給食経営管理学会理事

- 3) 日本給食経営管理学会評議員
- 4) 日本栄養改善学会誌（栄養学雑誌）査読委員
- 5) 日本消費者教育学会誌（消費者教育）査読委員
- 6) 日本消費者教育学会中部支部研究推進委員
- 7) 島根県「環境農業」推進協議会委員
- 8) 島根県多面的機能支払交付金検討委員会委員

## 教授 金城祥教

### 学外の社会活動

- 1) (社) 日本看護学教育学会評議員
- 2) (社) 日本看護学教育学会査読委員
- 3) 国際ケアリング学会監事
- 4) 大宜味ルネサンス 100 人委員会運営委員
- 5) 国立療養所沖縄愛楽園公開ケアリング事例検討会座長
- 6) 国立療養所沖縄愛楽園ライフサポートシンポジウムコメンテータ
- 7) 国立療養所沖縄愛楽園介護・看護研究指導 講師
- 8) 公益社団法人北部地区医師会北部看護学校非常勤講師

## 教授 倉鋪桂子

### 学外の社会活動

- 1) 佐田町 塩の井会（高齢者の集い）支援 記録を担当

## 教授 三瓶まり

### 学外の社会活動

- 1) 島根県看護協会 助産師職能委員会
- 2) 島根県 助産師出向導入事業協議会委員長
- 3) 島根県母性衛生学会 理事
- 4) 島根県看護協会主催「助産師新人研修会」講師

## 教授 谷口敏代

### 学外の社会活動

- 1) 日本介護福祉学会理事（研究倫理担当）
- 2) 日本介護福祉学会誌査読委員
- 3) 介護福祉士国家試験委員（副委員長）
- 4) 社会福祉法人王慈福祉会評議員選任・解任委員会における外部委員
- 5) 認定介護福祉士研修認証委員会幹事審査委員・科目認定審査委員
- 6) 社会福祉法人天神会評議員

- 7) 31年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  
第三者評価事業評価調査委員
- 8) 長寿社会開発センター「介護職員関係養成研修テキスト作成委員会」委員
- 9) 出雲市川跡地区住民対象出前講座 講師
- 10) セルナジャ・インドネシア介護技能実習生トレーナー養成講師（介護の基本，健康管理とストレスマネジメント）
- 11) 梅花女子大学紀要 外部査読員
- 12) 日本介護福祉学会 中国四国地区 2019年度公開講座 企画と閉会の辞担当
- 13) 介護の国際カリキュラム作成のための企画協力者会議 協力者

## 教授 直 良 博 之

### 学外の社会活動

- 1) 日本先天異常学会 評議員
- 2) 栄養士・管理栄養士養成施設教員顕彰，全国栄養士養成施設協会，2019. 11. 3

## 教授 中 山 真 美

### 学外の社会活動

- 1) 日本臨床栄養代謝学会 代議員・学術評議員
- 2) 藤田医科大学医学部 緩和医療学講座 客員教授
- 3) 兵庫医科大学ささやま医療センター 非常勤講師
- 4) 島根大学医学部 臨床准教授
- 5) 島根県認知症サポート医
- 6) 島根県地域医療介護総合確保促進基金事業「出雲在宅NST」代表

## 教授 名 和 田 清 子

### 学外の社会活動

- 1) 島根県島根県食育・食の安全推進協議会委員
- 2) 島根県健康長寿しまね推進会議委員
- 3) 島根県糖尿病専門委員会委員
- 4) 島根県中山間地域振興対策検討会委員
- 5) 島根県健康課題施策化研修指導助言者
- 6) 松江市高齢者の低栄養・重症化予防事業における検討委員会委員
- 7) 松江市民大学運営協議会委員
- 8) 雲南市学校給食調理業務委託評価委員会委員長
- 9) 奥出雲町食育推進委員会委員長
- 10) 出雲保健所主催，出雲圏域における食育推進に関する関係機関との連絡会出席
- 11) 出雲市健康のまちづくり推進会議・食育のまちづくり推進会議 食育推進ネットワーク  
会議委員
- 12) 公益社団法人日本栄養士会研究教育事業部企画運営委員会副委員長

- 13) 公益社団法人島根県栄養士会会長
- 14) 公益社団法人島根県体育協会 医・科学サポート事業サポートスタッフ
- 15) 公益財団法人島根県体育協会専門委員会委員
- 16) 身体教育医学研究所うなん運営委員
- 17) 令和元年度牛乳・乳製品料理コンクール島根県大会 審査員長
- 18) 保育園栄養士・管理栄養士の研究における助言指導者
- 19) 島根県立松江養護学校寄宿舎における食支援（献立指導及び食育）
- 20) 一般社団法人日本病態栄養学会評議員
- 21) 特定非営利活動法人日本栄養改善学会理事
- 22) 特定非営利活動法人日本栄養改善学会中国支部 支部長
- 23) 一般社団法人日本栄養学教育学会 代議員
- 24) 一般社団法人日本栄養学教育学会 ニュースメール委員

## 教授 秦 幸 吉

### 学外の社会活動

- 1) 日本産科婦人科学会認定指導医・専門医
- 2) 日本超音波医学会認定指導医・専門医
- 3) 日本超音波医学会代議員
- 4) 日本周産期・新生児医学会評議員
- 5) 新胎児研究会世話人
- 6) Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 査読委員
- 7) 日本周産期・新生児医学会雑誌査読委員
- 8) 香川産科婦人科雑誌編集委員
- 9) 第56回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会査読委員
- 10) 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター
- 11) 日本ファンクショナルダイエット協会認定ケトジェニックダイエットシニアアドバイザー
- 12) 健康長寿しまね推進会議委員
- 13) 香川大学医学部非常勤講師
- 14) 松江総合医療専門学校非常勤講師

## 教授 平 野 文 子

### 学外の社会活動

- 1) 島根県がん対策推進協議会 患者家族支援情報提供部会委員
- 2) 島根県がん患者支援事業アドバイザー
- 3) 島根県看護協会 緩和ケア推進委員会委員長
- 4) 島根県子宮頸がん啓発キャンペーン実行委員
- 5) 松江市たばこ対策推進会議委員長
- 6) 学生サークル「がんを考える学生の会」顧問：学外での課外活動指導
- 7) 学生サークル茶道部顧問：学外での課外活動連絡調整



8) 日本医学看護学教育学会誌査読委員

## 教授 矢田 昭子

### 学外の社会活動

- 1) 平成30年度健やか親子21全国大会における公益社団法人母子保健推進会議会長表彰
- 2) 島根県依頼のAYA世代がん患者・家族を対象にしたアンケート調査の内容協議および資料作成
- 3) 出雲圏域母子推進協議会 構成員
- 4) 出雲圏域医療依存度の高い在宅療養児の生活支援研修会, アドバイザー
- 5) 遺族会「きらきら星」事務局 (月1回開催)

## 教授 吉川 洋子

### 学外の社会活動

- 1) 島根県男女共同参画社会形成促進会議委員
- 2) 島根県医療勤務環境改善支援センター運営協議会会長
- 3) しまね働く女性きらめき応援会議構成員
- 4) 島根県看護教員継続研修検討会委員
- 5) 島根県看護教員継続研修検討会作業部会長
- 6) 島根県看護協会認定看護管理者運営委員会委員
- 7) 島根県ナースセンター運営協議会委員
- 8) 島根県看護協会看護エピソード審査員
- 9) がん対策募金活用事業審査委員会委員長
- 10) 出雲市建築審査会委員
- 11) 日本看護倫理学会第13回年次大会大会長
- 12) 日本看護倫理学会査読委員
- 13) 日本医学看護学教育学会査読委員
- 14) 一畑電車活性化協議会オブザーバー

## 准教授 阿川 啓子

### 学外の社会活動

- 1) 文化看護学会編集委員会委員
- 2) 平成30年度青少年の家運営委員会委員
- 3) 令和元年度島根県総合学科発表会審査員
- 4) 令和元年度島根県看護協会出雲支部役員
- 5) 令和元年度島根県看護協会選挙管理委員会委員
- 6) 島根大学病院 子どもサポートチームワーキンググループ委員
- 7) 平成30年度日本ALS協会島根県支部定時総会運営補助
- 8) 平成30年度心臓病患者家族を守る会療育キャンプ救護班
- 9) 平成30年度ふるさとあったかスクラム事業運営補助員
- 10) メイク・ア・ウィッシュオブジャパン広島支部出雲部会ボランティア登録員

11) 島根県看護協会連携事業臨床看護研究計画書立案研修会講師

准 教 授      井 上 千 晶

学外の社会活動

- 1) 日本母性看護学会 評議員
- 2) 日本医学看護学教育学会 査読委員
- 3) 広島大学 非常勤講師
- 4) 島根県母性衛生学会 理事・幹事
- 5) 島根県母性衛生学会 雑誌編集委員
- 6) 島根新生児研究会 世話人 監事
- 7) 出雲市水道事業推進懇話会 委員
- 8) 独立行政法人国立病院機構松江医療センター看護研修講師
- 9) 島根県看護協会助産師職能 両親教室講師

准 教 授      大 塚 美 樹

学外の社会活動

- 1) 島根県がん対策推進協議会委員

准 教 授      大 森 眞 澄

学外の社会活動

- 1) 鳥取大学医学部保健学科精神看護学非常勤講師
- 2) 日本認知症ケア学会中国地区部会事例検討会ファシリテーター
- 3) 日本精神看護協会島根県支部看護研究論文推薦会議査読委員
- 4) 日本医学看護学教育学会査読委員
- 5) 30回日本医学看護学教育学会学術学会運営委員（会計）
- 6) 日本看護倫理学会第
- 7) 島根グループ研究会代表

准 教 授      岡 安 誠 子

学外の社会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会評議員
- 2) 日本医学看護学教育学会誌編集委員会委員
- 3) 日本ヒューマンケア学会誌編集委員
- 4) 日本医学看護学教育学会査読委員
- 5) Geriatric Nursing ピアレビューアー
- 6) 日本看護倫理学会第13回年次大会企画委員
- 7) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会運営委員

- 8) 島根県都市計画審議会委員
- 9) 島根県立都市公園指定管理者候補選定委員会
- 10) 島根県看護協会 教育事業委員会委員長
- 11) 島根県委託事業 看護教員継続研修企画・運営
- 12) 島根県看護協会連携事業 臨床看護研究計画書立案研修会運営
- 13) 島根県看護協会連携事業 臨床看護研究計画書立案研修会講師
- 14) 島根県看護協会 新人看護職員研修事業 教育担当者研修講師
- 15) 島根県済生会江津総合病院看護研究講師

## 准 教 授      小 田 美 紀 子

### 学外の社会活動

- 1) 一般社団法人全国保健師教育機関協議会広報・国際委員会委員
- 2) 保健師長会島根県支部理事
- 3) 島根県行政不服審査会委員
- 4) 大田市障がい者自立支援協議会委員
- 5) 出雲市要保護児童対策地域協議会共同事業：児童虐待防止推進研修事業企画・運営
- 6) 島根県看護職員実習指導者養成講習会講師
- 7) 臨床看護研究計画書立案研修会講師（島根県看護協会連携事業）
- 8) 日本コーチ協会山陰チャプター役員

## 准 教 授      落 合 の り 子

### 学外の社会活動

- 1) 日本産業看護学会理事
- 2) 日本産業看護学会査読者
- 3) 日本産業看護学会教育研修委員会委員
- 4) 日本産業看護学会産業看護学体系化検討委員会オブザーバー
- 5) 日本産業衛生学会産業看護部会教育研修担当幹事・中国地方会幹事
- 6) 日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度専門家試験委員
- 7) 全国保健師教育機関協議会中国・四国副委員長
- 8) 島根県産業看護部会長
- 9) 島根産業保健総合支援センター産業看護交流会オブザーバー
- 10) 島根県建築審査会委員
- 11) 島根県公務災害補償等審査委員会委員
- 12) 出雲圏域健康長寿しまね推進会議委員
- 13) 出雲市男女共同参画推進委員会副委員長
- 14) 社会福祉法人創文会苦情処理第三者委員
- 15) 産業保健と看護(メディカ出版)編集同人

准 教 授      籠 橋 有 紀 子

学外の社会活動

- 1) 日本先天異常学会評議員
- 2) 日本脂質栄養学会評議員・理事
- 3) 日本脂質栄養学会男女共同参画担当委員・委員長
- 4) 日本脂質栄養学会 学会賞選考委員
- 5) 出雲ブランド商品認定審査会委員・副委員長
- 6) 島根米食味向上コンテスト選抜委員
- 7) 日本脂質栄養学会糖尿病・生活習慣病予防委員会
- 8) 島根県東部高等技術校非常勤講師
- 9) 出雲高等学校スーパーサイエンススクール外部連携教員

准 教 授      加 藤 典 子

学外の社会活動

- 1) 島根県立石見高等看護学院副学院長
- 2) 島根県准看護師試験委員
- 3) 島根県看護協会ナースセンター 看護相談員
- 4) 松江総合医療専門学校非常勤講師
- 5) 介護福祉士基礎講習会（介護労働安定センター）講師
- 6) 島根大学医学部嘱託講師

准 教 授      狩 野 鈴 子

学外の社会活動

- 1) 性に関する講演会講師（出雲市）
- 2) 島根県母性衛生学会理事・事務局員
- 3) 島根県母性衛生学会学術集会雑誌編集
- 4) 島根県立石見高等看護学院 非常勤講師
- 5) 助産師出向支援導入事業協議会委員（島根県看護協会）
- 6) 出雲圏域思春期保健ネットワーク連絡会
- 7) 出雲圏域看護連絡会委員
- 8) 出雲圏域母子保健推進検討会委員
- 9) 出雲市親子健康づくりネットワーク会議委員

准 教 授      川 瀬 淑 子

学外の社会活動

- 1) 第12回島根看護学術集会査読委員（島根県看護協会事業）
- 2) 第12回島根看護学術集会座長（島根県看護協会事業）
- 3) 臨床看護研究計画立案研修講師（島根県看護協会連携事業）

- 4) 日本看護倫理学会第13回年次大会事務局（会計）
- 5) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会運営委員
- 6) 島根県看護協会看護師職能委員会 I 委員
- 7) 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター看護研究指導
- 8) 出雲総合医療センター看護研究支援
- 9) いずも健康市民大学 講師

准 教 授      高 橋 恵 美 子

**学外の社会活動**

- 1) 出雲市特別支援教育推進委員会委員長
- 2) 出雲市子ども・子育て会議副会長
- 3) 出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員
- 4) 出雲市定住自立圏共生ビジョン懇談会委員
- 5) 出東地区幼保連携型認定こども園運営事業者選定委員会委員
- 6) 島根県看護学術集会査読委員
- 7) 日本看護研究学会中国・四国地方会運営委員
- 8) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会実行委員長
- 9) 第13回日本看護倫理学会年次大会企画委員
- 10) 日本医学看護学教育学会誌査読委員
- 11) 出雲市要保護児童対策地域協議会共同事業：児童虐待防止推進研修事業企画・運営
- 12) NPO法人障がい者就労支援ネットワークつわぶき理事
- 13) メイク・ア・ウィッシュオブジャパン広島支部出雲部会ボランティア登録員

准 教 授      橋 本 由 里

**学外の社会活動**

- 1) 松江キャンパス非常勤講師
- 2) 出雲医療看護専門学校非常勤講師
- 3) 島根大学医学部医の倫理委員
- 4) 島根大学医学部付属病院臨床研究審査委員
- 5) 出雲市生涯学習委員

准 教 授      濱 村 美 和 子

**学外の社会活動**

- 1) 一般社団法人島根県助産師会研修委員・選挙管理委員
- 2) 島根県母性衛生学会理事・事務局員
- 3) 島根県母性衛生学会学術集会プログラム編集
- 4) 第24回島根県母性衛生学会総会・学術集会運営
- 5) 島根県立石見高等看護学院 母性看護学概論 非常勤講師
- 6) ベビーマッサージ協会公認講師

准教授 原田永勝

学外の社会活動

- 1) 日本栄養・食糧学会 役職：参与
- 2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology 誌 査読者
- 3) Drug Research 誌 査読者
- 4) Cell Stress and Chaperones 誌 査読者

准教授 平井由佳

学外の社会活動

- 1) 独立行政法人国立病院機構松江医療センター看護研修講師
- 2) 島根県済生会江津総合病院看護職員院内研修講師
- 3) 公益社団法人島根県看護協会看護師職能 I 委員会委員(2019.6まで)
- 4) 島根県看護職員実習指導者養成研修(島根県委託事業)講師
- 5) 臨床看護研究計画書立案研修会(島根県看護協会連携事業)講師
- 6) 島根県看護教員継続研修(島根県委託事業)運営
- 7) 日本医学看護学教育学会誌査読委員
- 8) 島根県看護学術集会査読委員
- 9) 平田商工会議所商工従業員表彰式式典参加箏演奏支援
- 10) 特別養護老人ホームみとやの郷慰問演奏会ボランティア支援
- 11) 鳶巢年賀の集い箏演奏支援

准教授 藤田小矢香

学外の社会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会誌編集委員・査読委員・評議員
- 2) 全国助産師教育協議会広報委員
- 3) 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コースインストラクター
- 4) 島根県母性衛生学会理事
- 5) 令和元年度鳥取県看護職員実習指導養成講習会 講師
- 6) 令和元年度しまね看護交流センター「臨床看護研究計画書立案」講師
- 7) 鳥取赤十字病院研究指導
- 8) 島根県看護職員実習指導者養成講習会 実習指導方法検討演習講師

准教授 松本亥智江

学外の社会活動

- 1) JA厚生連揖斐厚生病院看護部 看護研究指導
- 2) しまね模擬患者の会 事務局



- 3) 看護連携型ユニフィケーション事業 講師
- 4) 日本看護倫理学会第13回年次大会 事務局長

准 教 授      森 山 美 香

**学外の社会活動**

- 1) 日本救急看護学会倫理員会副委員長
- 2) 日本救急看護学会評議員
- 3) 日本医学看護学教育学会会誌査読委員
- 4) 隠岐広域連合立隠岐病院看護研究指導
- 5) 島根県看護職員実習指導者養成研修（島根県委託事業）講師

講 師      荒 井 恵 美 子

**学外の社会活動**

- 1) 第15回日本栄養改善学会 中国支部学術総会 会計幹事
- 2) 日本栄養改善学会 中国支部 会計幹事
- 3) 平成31年度「地域貢献推進奨励金」活動プロジェクト 専任教員

講 師      佐 藤 美 紀 子

**学外の社会活動**

- 1) 第12回 島根看護学術集会 査読委員
- 2) 第12回 島根看護学術集会 座長
- 3) 大田市立病院 看護研究支援（2016年度から現在に至る）

講 師      中 畑 典 子

**学外の社会活動**

- 1) しまね公衆衛生の会Ship事務局
- 2) 益田研究～家庭血圧管理状況と血圧変動要因に関する探索的研究～
- 3) 島根県健康福祉部健康推進課主催令和元年度健康課題施策化研修，地域診断に基づくPDCAサイクルの実際，受講者への指導助言
- 4) 平田高等学校食育講座，食べよう朝食「脳力」アップは朝食から，講師

講 師      林   健 司

**学外の社会活動**

- 1) 島根県ナースセンター連携事業 シミュレーション研修（静脈注射）研修運営
- 2) 島根県看護協会連携事業 臨床看護研究計画書立案研修会 講師

- 3) 島根県看護協会事業 第12回島根看護学術集会査読委員
- 4) 島根県看護協会事業 第12回島根看護学術集会座長
- 5) 島根県准看護師試験委員
- 6) 日本医学看護学教育学会 評議員・事務局

## 講 師 渡 邊 克 俊

### 学外の社会活動

- 1) 出雲市立高松小学校5年生 保健福祉体験学習講師
- 2) 出雲市立神西小学校3年生 福祉体験学習講師
- 3) 出雲市立第三中学校1年生 福祉体験学習講師
- 4) 島根県看護職員実習指導者養成研修（島根県委託事業）講師
- 5) 臨床看護研究計画書立案研修会（島根県看護協会連携事業）講師
- 6) 公益社団法人島根県看護協会男性看護師会研修講師・パネリスト
- 7) 出雲市立河南中学校 学校保健委員会委員
- 8) いずも健康市民大学「災活」講座講師
- 9) 石見ぎんざんテレビ「災害に対する備え」出演
- 10) いずも産業未来博2019 県大PR活動
- 11) KIDS フェス おしごと体験 in 松江「看護師体験」支援
- 12) 高大連携「大学の先生による出張講義」講師 松江市立女子高校
- 13) 関西医療大学「海の安全講習」講師
- 14) 出雲市内小学校 着衣泳教室「浮いて待て」講師
- 15) 第30回 JAMNE 学術集会運営委員
- 16) 第1回防災ピクニック&防災ミニオリンピック活動支援
- 17) 災害研究会「DSAC」サークル顧問
- 18) 災害研究会 島根県立大学学長賞受賞2020.3
- 19) 献血サークル「あかえんぴつくん」顧問
- 20) 献血サークル「あかえんぴつくん」文部科学大臣賞受賞（SYD ボランティア奨励賞）2020.2
- 21) 出雲市総合ボランティアセンター災害支援ミーティング参加
- 22) 第34回スイムラン in 多伎 救護委員
- 23) 第31回国民体育大会中国地区予選 卓球 救護委員
- 24) 第4回さくらおろち湖トライアスロン 救護委員
- 25) キララビーチ海難事故防止・救助ボランティア活動（ライフセーバー）
- 26) 日本骨髄バンクドナー登録説明員 骨髄ドナー登録啓発活動

## 助 教 荒 木 さ お り

### 学外の社会活動

- 1) 令和元年度看護職員認知症対応力向上研修：講師およびファシリテーター
- 2) 松江総合医療専門学校看護学科：非常勤講師
- 3) 島根県立中央病院ICUにおけるユニフィケーション研修：講師
- 4) 介護労働安定センター介護労働講習および介護職員実務者研修科ケアサポート講習：非常勤講師
- 5) いずも健康市民大学：講師

- 6) 湖陵コミュニティーセンターにおける出張講演：講師
- 7) 公立邑智病院における地域連携協議会研修：アドバイザーおよびファシリテーター

助 教 石 田 千 津 恵

学外の社会活動

- 1) 日本調理科学会中国・四国支部役員
- 2) 農林水産省「地域の食文化の保護・継承事業」島根県地域検討委員会委員
- 3) 内閣府食品安全委員会 食品安全モニター

助 教 祝 原 あ ゆ み

学外の社会活動

- 1) 出雲市受託事業：令和元年度児童虐待防止推進研修事業の実施
- 2) NPO法人なないろネット理事
- 3) 災害研究会サークル活動支援：防災イベントの鳶巣コミュニティーセンターとの合同開催等
- 4) 出雲ボランティアセンター災害支援ミーティングへの参加
- 5) 岡山県倉敷市真備町災害ボランティア参加：写真洗浄

助 教 植 田 恵

学外の社会活動

- 1) 島根県母性衛生学会理事
- 2) 島根県母性衛生学会雑誌編集委員
- 3) 日本助産師会島根県支部バースディプロジェクト
- 4) 出雲市性教育外部講師
- 5) 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター

助 教 小 川 智 子

学外の社会活動

- 1) NPO法人なないろネット理事
- 2) 島根県看護協会保健師職能委員
- 3) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会運営委員

助 教 梶 谷 麻 由 子

学外の社会活動

- 1) 出雲市立神西小学校3年生 保健福祉体験学習 車椅子ブース担当

- 2) 出雲市立第三中学校「SAN-chuふくしプロジェクト」講座 衛生的な手洗い担当
- 3) 島根県委託事業 島根県看護教員継続研修 企画・運営
- 4) 島根県委託事業 島根県看護職員 実習指導者養成講習会 事例検討ファシリテータ
- 5) 看護学生ハンセン病療養所 長島愛生園 交流研修 引率
- 6) 島根県立大学出雲キャンパス 公開講座 模擬患者（SP）養成講座
- 7) 島根県立大学出雲キャンパス 公開講座 無理なくできる移乗・移動介助のコツ

## 助 教 加 藤 さ ゆ り

### 学外の社会活動

- 1) 出雲市受託事業：七田教育研究のデータ解析
- 2) 特定非営利活動法人なないろネット理事
- 3) ナラティブ研究会の事務局リーダー
- 4) 高齢者生活機能向上プロジェクト事業：フレイル予防のための運動機能の測定
- 5) 高松小・出雲三中福祉体験：出前講座講師
- 6) 無理をしないいきかた～ゆるカフェ～：公開講座講師

## 助 教 金 山 俊 介

### 学外の社会活動

- 1) 日本医学看護学教育学会，評議員
- 2) 日本医学看護学教育学会，査読委員
- 3) 出雲市委託事業児童虐待防止推進研修事業運営委員
- 4) JANS若手の会エリア・コーディネーター

## 助 教 多 々 納 浩

### 学外の社会活動

- 1) 出雲市立高松小学校5年生 保健福祉体験学習 講師
- 2) 出雲市身体障がい者福祉協会鳶巣支部 料理教室 講師
- 3) 鳶巣地区社会福祉協議会 総合支援事業「12月 はは tomo 料理教室」講師

## 助 教 中 川 忠 彦

### 学外の社会活動

- 1) 出雲市立高松小学校5年生 保健福祉体験学習担当

## 助 教 中 谷 陽 子

### 学外の社会活動

- 1) 島根県母性衛生学会理事・幹事
- 2) 島根県母性衛生学会 会計
- 3) 島根県看護協会主催「両親学級」講師
- 4) 出雲三中福祉体験「出前講座」講師

## 助 教 日 野 雅 洋

### 学外の社会活動

- 1) 出雲市立神西小学校3年生 保健福祉体験学習 ブラインドウォーク担当
- 2) 島根県委託事業 島根県看護教員継続研修 企画・運営
- 3) 島根県委託事業 島根県看護職員 実習指導者養成講習会 事例検討ファシリテーター
- 4) 石見銀山テレビ「手洗い・うがいの方法」担当

## 助 教 福 田 詩 織

### 学外の社会活動

- 1) 出雲市立高松小学校5年生 保健福祉体験学習 講師
- 2) 鳶巣地区社会福祉協議会 総合支援事業「12月 はは tomo 料理教室」講師

## 助 教 松 谷 ひ ろ み

### 学外の社会活動

- 1) 特定非営利活動法人障がい者就労支援ネットワークつわぶき会員
- 2) 出雲市高松小学校保健福祉体験学習講師
- 3) JAMNE 学術集会運営委員

## 助 教 松 本 祐 香

### 学外の社会活動

- 1) 島根県ナースセンター連携事業 シミュレーション研修（静脈注射）研修運営
- 2) 出雲市立高松小学校5年生 保健福祉体験学習講師
- 3) 出雲市立神西小学校3年生 福祉体験学習講師
- 4) 出雲市立第三中学校1年生 福祉体験学習講師
- 5) 島根県看護職員実習指導者養成研修（島根県委託事業）
- 6) いずも健康市民大学「災活」講座

助 教      吉 松 恵 子

学外の社会活動

- 1) JAMNE 学術集会運営委員

助 手      川 谷 真 由 美

学外の社会活動

- 1) 出雲市身体障がい者福祉協会鳶巣支部料理教室，鳶巣コミュニティーセンター，2019. 10.



### 3. 教育活動

学長代行・教授 山 下 一 也

#### 教育方法の実践例

「島根の地域医療」「しまねの健康と長寿」のフィールド学習を行った。

#### その他の教育活動

いづもサマースクール実施において、実行委員長として組織の全体の統括の任にあたった。

#### 作成した教科書・教材

島根の地域医療において、フィールド毎の学生の学びをフィールド学習報告書として一冊にまとめ、学習の成果を一覧にした。

副学長・教授 石 橋 照 子

#### 教育方法の実践

- 1) 「精神看護学特論Ⅱ」では、課題探求力育成と知識拡大をめざして、ゼミ形式で課題・レポートの活用、プレゼンテーションの導入、ディスカッションの導入で授業を展開した。
- 2) 「コンサルテーション論」では、院生と共にナラティブ研究会に参加し、事例の検討を通して、コンサルテーションについて検討した。
- 3) 「専門演習（精神看護学領域）」では、フィールド学修先との調整を通してコーディネート力育成と、質的データ分析を通して洞察力育成に努めた。
- 4) 「特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、研究力育成と知識の深化・拡大を目指して、研究方法に関する演習を行うなどして、研究実施及び修士論文作成の指導を行った。
- 5) 「精神地域看護論」において、精神障害者宅の訪問看護のDVDを活用しながら、訪問看護におけるかかわり方やコツについて探求した。

#### 作成した教科書、教材

- 1) 毎授業において、A4用紙2頁程度にまとめたレジュメを作成した。
- 2) 科研費を活用して患者参画型糖尿病教育の進め方について、DVDを作成した。

教授 吾 郷 美 奈 恵

#### 教育方法の実践

- 1) 「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護管理論」の各科目で、学生が毎時の目標と学びを蓄積して俯瞰できるシャトルカードを作成し、毎時の学生の学びを確認するとともにコメントを記載した。
- 2) 「公衆衛生看護技術演習」と「公衆衛生看護学実習」が体系的に学べるよう、学生の特徴に配慮しながら教育効果がより得られるよう指導した。
- 3) 「公衆衛生看護管理論」において、「公衆衛生看護学実習」各グループにおける学びをクラス全体で共有しながら授業を展開し、理論と実践の統合をめざした。

#### 作成した教科書・教材等

- 1) 担当した毎時の講義・演習において、最新のデータや情報をもとに学生が追記して完成する授業資料を作成した。

## 教授 安藤 彰 朗

### 教育方法の実践

- 1) 生物学では、動物を中心に生物の基本的な営み（細胞・器官の働きや仕組み）を概観し、また動物の系統や人類の進化、動物の中のヒトの位置づけを理解する。その際に関連するビデオや哺乳動物の標本、頭骨標本を見る機会を作った。生物と栄養（松江キャンパス）では、授業内容に関連したビデオ視聴や普段の生活を振り返る課題を出すことで理解を深める工夫をした。
- 2) 自然科学の基礎では、細胞の話や、原子量・分子量・モルの話、濃度と単位の話などを、身近なこと（例えばお米の量を測ること）に例えながら教授した。
- 3) 人体機能学では、身近なもの（例えば灯油ポンプ）を利用して臓器の機能を理解する工夫をした。
- 4) 担当する全ての科目において、毎回質問カードを配布し、学生からの質問や感想を記入する時間を設けた。次の授業の最初に前回授業の復習を兼ねて、質問とその返答を共有する時間を設けた。

### 作成した教科書・教材

- 1) 担当するすべての科目において授業内容に沿った資料プリントを作成し、毎回学生に配布した。また課題プリントを適宜作成し配布した。

## 教授 伊藤 智 子

### 教育方法の実践

- 1) 看護総合演習Ⅱ（4年生）において、家族への退院指導を考える事例を作成し、小グループ演習プログラムを実施した。
- 2) 老年臨床看護論（2年生）において、ヘルスアセスメントについて老年看護技術教育プログラムを地域の方々を模擬患者とし、実施した。また、同じく老年看護臨床論において、目標志向型思考の看護過程について学ぶため、作成した事例にてアセスメント、ケアプラン作成を小グループで行い、合同の発表会を行う学習方法を取り入れた。
- 3) 老年看護学実習オリエンテーションに看護師国家試験形式の小テストを取り入れ、実習前の動機づけを行った。
- 4) 老年看護学実習（高齢者施設実習）に認知症高齢者への「聞き書き」実習を取り入れ、認知症高齢者の生活史アセスメントから的高齢者ケア学習を行った。

### 作成した教科書・教材

- 1) 看護学実習（医療施設実習）にて、目標志向型思考で行う看護の実践を学習するため、「目標志向で展開する老年看護過程ガイドブック」を再編集し、学生・実習指導者に配布し、活用した。
- 2) 臨床判断力や看護実践力を高めることを目的とした看護総合実習Ⅱにおいて、今後益々必要となる退院支援の能力を養うために、事例教材を作成し、活用した。

### その他

- 1) 老年看護学領域の実習施設を対象に実習指導者会議を実施した。実習の打ち合わせ会と合わせて「地域包括ケア時代における老年看護学実習指導者の役割を考える～高齢者のその人らしさを大切に医療と介護の連携～」をテーマに研修会を行った。

## 教授 今中美栄

### 教育方法の実践

- 1) 栄養教育論 I において、基礎知識の習得に伴い、知識を以下に実践につなげるかについて、主体的学習習慣を身につけることを目的としてアクティブラーニングを取り入れた。島根県の健康課題の抽出から、目標設定、プランニング、実施、結果のまとめに至るまでの一貫したPDCAサイクルを学生自身が自主的に経験するための地域実践教育を実施。42名7グループが、それぞれ、浜田キャンパスの海遊祭、松江キャンパスの飛鳥祭、出雲キャンパスのつわぶき祭で、集団栄養教育を実施。貴重な経験を得ることにより、学習意欲の向上につながった。
- 2) 平成31年度しまね地域研究センタープロジェクトでは、学生主体の食生活支援活動について計画立案を行い、隠岐の島町の第14回いきいき祭りへの参加し、食生活調査を行った。また、知夫村では、小学校の図書館行事とコラボレーションした「健康ハート♥カフェ」を開催した。
- 3) 平成31年度地域貢献推進奨励金活動：平田高校との連携による旧平田市での「だんだん減塩運動町ぐるみ」プロジェクトでは、平田商工会議所の協力を頂き、もち街イベントに参加。学生自身が減塩もちメニューを考案し、また食塩に対する意識調査を行うなど、栄養教育の実践教育として、地域の方々学ぶ貴重な機会となった。2)、3)ともに地域の方々への感動と感謝の気持ちを醸成し、学習意欲の向上につながる結果となった。

## 教授 梶谷みゆき

### 教育方法の実践

- 1) 発達健康看護論（2年 春学期 必修）において、VTR「20世紀の島根」を視聴させ、現在の高齢者が生きてきた歴史をイメージ化し考察できるよう教育方法を検討した。学生は、自分たちが生きている社会情勢と経済や暮らし方の違いを映像を通して体感した。
- 2) 臨床家族看護（4年 春学期 選択）において、回復期にある高齢者と家族における療養上の課題や退院支援における課題を持つ事例を取り上げ、カルガリー家族看護アセスメントモデルならびに介入モデルを用いて、家族看護介入におけるアセスメントと介入手法の基本的な考え方を教授し、学生が討論を通して介入方法を学修できるよう支援した。

### 作成した教科書・教材

- 1) 回復期にある高齢者と家族における療養上の課題や退院支援における課題を持つ事例の作成
- 2) 目標志向で実践する老年看護過程ガイドブック 令和元年度版 老年看護学領域教員と共著

## 教授 加納尚之

### 教育方法の実践例

- 1) 情報リテラシー（看護学科・健康栄養学科1年次生）：学習のツールとしての基礎的技術を教授した。
- 2) 自然科学の基礎（看護学科・健康栄養学科1年次生）：看護学分野に関連する物理学の基礎を教授した。

3) 統計学 (看護学科 2 年次生), 情報処理演習 (別科助産学専攻): 統計処理について基礎的技術を教授した。

#### 作成した教科書・教材

1) 各講義において資料 (ワード, エクセル, パワーポイント, 授業ノート) を作成した。  
また, 課題プリントを作成し学生に配布した。

## 教授 亀山良子

#### 教育方法の実践

- 1) 給食経営管理論 I では, 共著の教科書・専門用語辞典を使用し, 管理栄養士・栄養士に関わる実務的な内容について, 学生がより理解しやすく興味を持ちやすくするために, 彼らがこれまでに習得した他分野の科目の内容と関連づけ, また, 身近な事柄を取り上げながら授業を展開した。
- 2) 給食経営管理実習 I では, 本人編著の実習テキスト等を使用し, 特定給食施設における管理栄養士の基本的業務である給食の運営, 経営管理に関する実習内容を展開した。すなわち, 給食対象者の栄養・食事管理を行うための食事計画, 栄養計画, 生産計画, 経営計画を立て, 大量調理による食事提供の実施, 実施後の各業務の評価, 改善案の提案といった PDCA により模擬的給食業務を実践し, 各種業務の基本事項を体得させた。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 給食経営管理論 I では, 本人が共著者となっている教科書 (テキストブックシリーズ 給食経営管理論 第 3 版, 第一出版) を用いるとともに, 教科書の内容を補足するパワーポイントの資料, および学生たちの自主学習に役立つワークシートを作成した。
- 2) 給食経営管理実習 I では, 本人が編著者となっている教科書 (PDCA による給食マネジメント実習 第 2 版, 医歯薬出版) を用いるとともに, 学生たちのデスクワークおよび厨房作業を補助するための各種帳票類の様式を, エクセルファイルにて作成し, 帳票の流れおよび帳票間の関連性を理解させる教材とした。

## 教授 金城祥教

#### 教育方法の実践

- 1) 精神臨床看護論 (2 年次生): 精神科看護における「患者 - 看護者」の関係性の特色とその発展のプロセスを理解することの治療的な意義について教授した。また関係の相互作用の記述 (プロセスレコード) の意味について解説した。
- 2) 看護研究 I・II (4 年次生): 看護研究の計画書の作成, テーマの絞り込みについて学生の実習経験を語りあいながら研究テーマ, 目的などを明確化して, データの収集法や分析, 考察など論文の作成から発表までのプロセスを指導した。

## 教授 三瓶まり

#### 教育方法の実践

- 1) 発達健康看護論 IV (母性), 母性臨床看護論において, 視聴覚教材を用いて講義内容の理解を促進した。

## 教授 谷口敏代

### 教育方法の実践

- 1) 在宅看護概論では介護保険制度，地域包括ケアシステムについて，看護職の役割を教授した。
- 2) 在宅ケアマネジメントでは災害時における訪問看護師の役割について教授した。
- 3) 在宅看護分野における教育内容を充実するため，高齢化が進む鶴鷺地区の住民と交流し意見交換を行い，学生が住民と共に看護技術が獲得できるフィールドを構築した。
- 4) 大学院教育においては院生の研究活動に役立つ先行研究及び自身の研究成果を用いて教授した。

### 作成した教科書・教材

- 1) 社会福祉論では，学生たちの生活の暮らしと密接にかかわっている社会保障制度に関心が持てる事例作成や視覚教材を作成した。
- 2) 在宅看護分野では，介護保険制度の仕組みが理解できるようなスライドを作成した。

## 教授 直良博之

### 教育方法の実践

- 1) 人体構造学および人体構造学実習においては，講義と実験をリンクさせ，座学で学んだ事柄を実物で確認させる事で理解を深める工夫を行った。解剖学ソフトウェアおよび走査型電子顕微鏡での観察を取り入れる事で臓器や組織の微細構造を立体的に理解させるようにつとめた。
- 2) 人体構造学において毎回の講義後に講義内容に対する質問を記入させ，それぞれの質問に対し用紙に答えを記入し返却した。
- 3) 情報処理の基礎においてはコンピュータを利用するための基礎的な技術と知識について数人のグループを作り，学生同士が教えあう環境を作り効率的な学習が行えるよう工夫した。

### 作成した教科書・教材

- 1) 全ての講義および実習において自作のプリント，ビデオ映像等を作成し利用した。

## 教授 名和田清子

### 教育方法の実践

- 1) 予習・復習が効果的に行えるよう，毎回の講義に，振り返りと次回講義の予告の時間を取り入れた。
- 2) 定期的に課題を出し，学生の理解度を確認するとともに，コメントを記載した。

### 作成した教科書・教材

- 1) 毎回の講義において，最新の情報をもとに資料を作成し，配布した。
- 2) 学生が積極的に授業に取り組めるよう資料は，学生が追記して完成する形式とした。



## 教授 秦 幸 吉

### 教育方法の実践例

看護師・助産師を志す学生を教育するにあたって、学生が看護師・助産師から見た医学とくに個々の疾患の病態生理のおもしろさや深さを理解し、興味を持ち、モチベーションを高めながら、学習できるように具体的に以下に示す点を導入し、学習効果を高めるよう努力した。

- ・疾患の病態生理解明のためのディスカッションの導入による自学自習能力の充実
- ・双方向授業の実践
- ・e-mailによる質問およびその解答
- ・内容の充実したよい客観試験問題作成法の工夫
- ・学生の授業評価の活用とそのフィードバック

### 作成した教科書・教材

- ・講義用スライド・ビデオ
- ・講義用プリント
- ・自己学習のチェックアップ用の資料

### その他の教育活動

- ・リメディアル教育として病態治療学Ⅳの成績不良の学生に対して補習授業を施行した。
- ・産婦人科領域だけでなく、循環器領域・糖尿病領域などの学会に参加して、当大学で行っている講義の充実・アップデートを図った。
- ・国家試験対策ワーキンググループのメンバーとして学生の国家試験対策を支援した。

## 教授 平 野 文 子

### 教育方法の実践例

- 1) 講義・演習毎にミニットペーパーを用いて、学習ポイントや疑問点、理解度、評価等を把握しながら活用し、定期的な小テストによる自己学習への動機づけと知識の定着化に努めた。
- 2) 最新の統計データ、国や自治体の施策、メディア情報等を提示し、わが国や島根県の健康課題の理解を促した。
- 3) 臨視聴覚教材を用いて臨床での看護実践や講義内容の理解を促した。
- 4) 看護過程の演習では臨床で遭遇しやすい事例を作成し、講義内容とも併せて資料(アセスメントの視点)の配布、個別のフィードバックを行い、アセスメント能力の育成に努めた。
- 5) 成人看護学実習初日に看護師国家試験形式等の小テストを取り入れ、学習の動機づけを行った。
- 6) 臨地実習では実習指導者と教員間で指導内容・方法の確認を定期的・段階的に行い、学生個々の
- 7) 能力に応じた指導の連携を図るよう努めた。

### 作成した教科書・教材

- 1) 毎回の講義資料の作成：国内外・島根県の現状を示す特徴的な統計データ、最新の知見や動向等を加えた資料の作成・配布
- 2) 科目毎の自己学習・課題学習ガイダンスの作成
- 3) 看護過程の事例と評価表の作成：成人臨床看護論Ⅰ(慢性期・終末期)



## 教授 矢田 昭子

### 教育方法の実践

- 1) がん看護学では、課題に対して個人ワーク、グループワーク、全体会と発展させ、学生の論理的な思考が育成できるように工夫した。また、看護者として必要な姿勢間については、学生同士で語り合い深めるように工夫した。

### 作成した教科書・教材

- 1) 学生ががん看護学を理解しやすいように視聴覚教材の作成。

## 教授 吉川 洋子

### 教育方法の実践

アクティブ・ラーニングの機会を以下のように設けた。

- 1) 看護学概論 1年次春学期 2単位

①看護の対象の理解を図るため、ビブリオバトルの手法を使い、患者・家族の手記を読み、患者・家族の心理や多様性についてグループごとに発表を行い、全体で代表が発表し、投票した。理解を深めた。

②「看護倫理」をテーマとする授業において、自著「学生のための患者さんの声に学ぶ看護倫理」の中から、7事例を活用しグループワーク、発表を行った。実習で遭遇しやすい事例から看護倫理に対する理解を深めた。

- 2) 看護倫理 4年次春学期 1単位

・学生が臨地実習で体験した倫理的問題があると認識した事例をもとに、看護倫理事例検討のステップに沿って、グループワーク、まとめを行った。

- 3) 看護管理論 4年次秋学期 1単位

・学生が臨地実習で体験した事例をもとに自己の看護に対する考え方を個々に記述後、グループワークでの意見交換を通して深め、自己の看護観をレポートにまとめるようにした。

### 作成した教科書・教材

- 1) 「看護学概論」「看護倫理」「看護管理論」の講義において、最新の動向や知見を取り入れた資料を作成し配布した。

## 准教授 阿川 啓子

### 教育方法の実践

「地域をフィールドとした看護実践力向上」の機会を設けた。

3年次春学期、在宅看護技術論において、地域で暮らす療養者および家族への看護が、系統的な思考の整理につながる授業構築にした。

具体的には、学修するフィールドの協力を得て、①フィールドワークをすることで地域を理解する、②その地域にUターンで移住し在宅介護経験のある方の招致講義で家族の思いを聞く、③地域住民との交流から生活を知る、④在宅で暮らす在宅酸素療法の高齢者夫婦の暮らしのアセスメントをする、⑤看護計画立案をすることを実践した。

学生は、自ら考え、自ら行動することで、地域文化や地域の生活環境が健康に影響することを経験していた。

#### 作成した教科書・教材

フィールドワークで活用できる地域で看護をする視点を取り入れた教材作成をした。

## 准教授 井上千晶

#### 教育方法の実践

母性臨床看護論（3年）で看護計画実施を想定した演習にユニフィケーション事業を活用して臨地実習指導者へ参加を依頼し、臨床的な判断について学びイメージを深める機会を設けた。

#### 作成した教科書・教材

母性臨床看護技術論において臨地実習につなげる補助資料を作成した。

#### その他の教育活動

4年次生チューター長として学生の生活と学習を支援し、チューター会や学生及び保護者面談を行った。

## 准教授 大森眞澄

#### 教育方法の実践

- 1) 精神看護学概論（2年次生）：心の構造と機能、精神医療の歴史など、精神看護学の基盤となる理論や心の発達について教授した。
- 2) 精神臨床看護論（2年次生）：精神障がいをもつ人の理解とケアに必要な知識、倫理的視点、法制度、治療的なコミュニケーション技法について教授した。
- 3) 精神看護学実習（3年次生）：精神保健福祉法に基づく入院形態と行動制限・リスクマネージメントの観点から患者の安全と安心への配慮、個別的なケアについて臨地実習を支援した。
- 4) 看護研究Ⅰ・Ⅱ（4年次生）：看護研究計画書の書き方、テーマの絞り込み、看護研究方法研究データの収集・分析・考察・研究発表・論文作成まで指導した。
- 5) 看護研究の基礎（3年次生）：研究倫理、文献クリティーク、質的研究について講義した。
- 6) キャリアセミナー1B（1年次生）：「考え抜く力を養うために－文献の活用方法（読み方）」について講義した。
- 7) 島根県立大学看護学研究科博士前期課程（精神看護学領域）精神看護学特論Ⅰ・Ⅱ及び基盤科目コンサルテーション論を担当した。
- 8) 島根県立大学看護学研究科博士前期課程修士論文指導の主指導教員を担当した。
- 9) 認知症看護認定看護師養成課程にて、共通科目「相談」を担当した。
- 10) 令和元年度島根県看護職員実習指導者養成講習会にて、実習指導の実際－精神看護学実習－及び実習指導案作成を担当した。

#### その他

- 1) ユニフィケーション学習会「看護師のストレスと対処」を3部署に各1回実施した。
- 2) 鳥取大学医学部保健学科（2年次生）において、精神看護学演習（統合失調症・感情障害）を担当した。

## 准教授 岡安誠子

### 教育方法の実践

- 1) 担当科目において、常に学生の準備状況を踏まえつつ各回授業の到達目標を調整・設定した。
- 2) 講義および演習において、いずれの場合にも学生の授業への参加を促進するよう設計を行った。
- 3) シミュレーション演習においては、学生の視点や判断を確認しながら、事象の捉え方や分析視点への気づきにつながるよう問いを発する・助言を行うなどした。
- 4) 基礎看護学実習Ⅱ等においては、学生が体験をケアの後やカンファレンスを活用し、場面を振り返り意味づけを支援し、知識の統合と内在化の促進に努めた。

### 作成した教科書・教材

- 1) 新たな担当科目であった授業の資料を作成した。また、これまでの既存の教材においても、学生の準備状況を踏まえつつ各回授業の到達目標を調整・設定する中で内容を刷新するなどした。

## 准教授 小田美紀子

### 教育方法の実践例

- 1) 授業科目「公衆衛生看護方法論Ⅰ」「公衆衛生看護方法論Ⅲ」において、授業終了後出席カードに感想・質問・テーマについてのメッセージ投稿を行い、次の授業にまとめを報告するとともに、授業内容に反映させるようにした。
- 2) 授業においては、現場で経験した事例を多く紹介し、理論と実践が結びつくようにした。
- 3) 演習を多く取り入れ、学生が受け身ではなく自分で考え学ぶことにより、実践力が身につくようにした。特に「公衆衛生看護方法論Ⅰ」では、学んだ技術を次の講義まで日常生活の中で実践し、実践したことを講義の始まりに確認しあった。
- 4) 保健師としての視点や考え方を広げ、対象にあった支援ができるように、外国人家族の事例や一般的な書物、名言・格言を講義内容と関連づけて紹介した。
- 5) 演習・実習において、コーチング技法を用いて、個人やグループの目標達成に向けて支援を行い、特にグループが機能していくように、学生間の関係づくりに力を入れた。

### 作成した教科書・教材

- 1) 各講義において最新の動向や知見を取り入れたパワーポイント資料を作成した。

## 准教授 落合のり子

### 教育方法の実践

- 1) 産業保健論では、視覚教材を用いて職場環境や作業状況のアセスメント方法を紹介した。事業所見学において作業環境管理・作業管理・健康管理の視点からレポートを課すことにより、産業保健の基本的な考え方が身につくように工夫した。また、産業保健師に事前に質問を提出し、活発なディスカッションができるように配慮した。
- 2) 健康教育論では、1分間のプレゼンテーションを学生間で相互評価し、話し合いによる学習方法ではファシリテーターの役割を意識できるような演習を取り入れた。対集団を相手にした時に、相手に合わせてどんな工夫がいるのかを自分で考え、実践できるように課題を与えて意識付けを行った。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 健康教育論では課題にした健康教室の案内チラシを一冊にまとめ配布した。
- 2) 講義用スライド

### 准教授 籠橋有紀子

#### 教育方法の実践

- 1) 化学では、視覚教材を用い化学構造の理解を深め医療との関連や専門教科の導入とした。
- 2) 生化学Ⅰでは、視覚教材を用いて理解へつなげた。また、演習問題を行い知識の定着を図った。
- 3) 食品学Ⅰでは、視覚教材を用い、食品学実験Ⅰ・Ⅱでは、実験書（プリント）を用いて食品の機能性への理解と知識の定着を図った。
- 4) 島根県の食文化では、視聴覚教材および株式会社ローソンと共同開発したスイーツとベーカリー、地元企業との共同開発したレトルト食品の紹介を行い、島根県の食材の利用とマーケティングについての理解を図った。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 化学の講義について視聴覚教材の作成、演示・体験用の実験教材作成
- 2) 生化学Ⅰおよび生化学Ⅱでは、視聴覚教材の作成と演習ノートの配布
- 3) 食品学Ⅰおよび食品学Ⅱでは、視覚教材を作成
- 4) 食品学実験Ⅰおよび食品学実験Ⅱでは、実験書（プリント）の作成
- 5) 島根県の食文化では、視聴覚教材の作成および開発食品（レトルト食品）の紹介

### 准教授 加藤典子

#### 教育方法の実践

- 1) 在宅看護概論では、視聴覚教材を用い学生がイメージしやすいように授業を展開した。在宅看護における倫理については、事例を用いてのグループワークを実施し、在宅における倫理的課題についてディスカッションを実施した。在宅看護概論の各項目を統合し、地域における看護についてのレポート作成により、まとめる力を育成した。また、レポートの評価は、ルーブリックを使用し客観的な評価基準を用いることで、学生へのフィードバックへの効果を認めた。
- 2) 出向先の島根県立石見高等看護学院において、Ⅰ年次生に「看護学概論Ⅰ」、Ⅱ年次生に「看護関係法規」講義を実施した。看護学概論Ⅰでは、夏期休暇中に出身地の病院での見学実習を企画し、地域における課題について検討する機会をもった。事前学習として、見学実習予定の病院のある地域の特徴・課題等についてグループワークを行い、発表を通して共有を図った。看護関係法規では、臓器移植コーディネーターに招致講義を依頼した。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 在宅看護概論では、教科書とあわせてパワーポイントの資料を作成した。授業時間内で、学生が教科書などを参考にしながら記入できるようにワークシートを活用した。知識の定着を図るため毎回小テスト若しくはワークシートの作成を授業時間内で実施した。

## 准教授 狩野 鈴子

### 教育方法の実践

- 1) 総合助産診断技術学において、母親学級を、妊婦および家族を対象に実施し、健康教育の企画・実践力の向上を図った。  
助産診断と助産過程の展開のための母子の事例を作成・展開し、小グループおよび学生個々とディスカッションを実施し、実践につながる診断能力の向上を図った。
- 2) 助産診断技術学Ⅲ（母子）において、小テストを実施し知識の定着を確認しながら講義を進めた。
- 3) 島根の母子保健において、地域における母子支援に関し開業助産師と意見交換を行なう機会を設定し、地域母子保健活動の理解を深め実習につなげた。

### 作成した教科書・教材

- 1) 実習要項の産褥期および新生児期を担当し、記録用紙、評価表を作成した。
- 2) 総合助産診断技術学において出生直後の新生児の取扱手順の修正を行った。
- 3) 助産師国家試験教員模試問題を作成した。

## 准教授 川瀬 淑子

### 教育方法の実践

- 1) 「生活援助方法論Ⅱ」の担当の単元において、小テストを取り入れ、知識の定着に努めた。演習では、グループワークやカンファレンスを取り入れ、学びの共有や振り返りを行い、双方向の授業に努めた。看護技術試験を実施し、看護技術の習得に努めた。
- 2) 「基礎看護学実習Ⅰ（家庭）」のカンファレンスではラベルワークを取り入れ、学生の実習における問題点と解決方法、今後の課題が明確になるよう工夫した。
- 3) 「生活援助方法論Ⅰ」「生活援助方法論Ⅱ」「診療援助方法論」の各担当の単元において、スライドを用いた講義を行った。
- 4) 看護総合演習Ⅰでは、模擬患者を取り入れたリアルな状況下での演習と演習後のリフレクションを実施し、看護実践力の向上のための支援を行った。

### 作成した教科書・教材

- 1) 「生活援助方法論Ⅰ」「生活援助方法論Ⅱ」「診療援助方法論」の担当単元の講義において、最新の知見を取り入れたスライドを作成した。

## 准教授 高橋 恵美子

### 教育方法の実践例

- 1) 講義は出席カードを利用し、出席の確認をおこなった。カードには、授業の感想や学び、疑問点などを書かせ、学生の理解度や興味などを把握し、次の授業に活かすよう努めた。
- 2) 授業内容の知識の定着を目的に小テストを行った。小テストでは、授業の重要なポイントを押さえ、自己学習の指針にした。



- 3) 健康な子どもの成長・発達の理解を促進する目的で、保育所での体験型学習を取り入れた。
- 4) 実習のカンファレンスにラベルワークをとり入れ、討議への全員参加および活性化、討議内容の可視化を図った。
- 5) 小児臨床看護論のプレパレーション演習に、県立病院とのユニフィケーション事業制度を利用し、ホスピタルプレイスペシャリストの資格をもつ看護師に参加してもらった。
- 6) 発達障がいと看護の授業では、いずもサマースクールの参加により子ども達との関わりを体験し、発達障がいの子どもの理解を深めた。

#### 作成した教科書・教材等

- 1) 各授業において、最新的话题を取り入れた補足資料を作成・配布した。
- 2) 実習終了時に小児看護学領域の国家試験問題を配布した。

### 准教授 橋本由里

#### 教育方法の実践

- 1) 「心理学」：逆さメガネ等の実験器具を用いて、実際に学生に知覚体験させた。
- 2) 「臨床心理学」：心理療法を体験させた。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 「心理学」、「臨床心理学」、「発達心理学」、「教育心理学」、「母子の心理・社会学」において最新の動向を捉えたパワーポイント資料を作成した。

### 准教授 濱村美和子

#### 教育方法の実践

- 1) 学生の分娩介助演習では、ビデオ撮影による技術確認、相互評価を行い自己教育、評価の力を高めながら技術を習得できるシステムの構築を行った。
- 2) 総合助産技術学における診断過程の展開の理論について、アセスメント分析シートを用いて、情報分析、アセスメント、統合に関する思考過程をステップに応じて理解を促した。また、グループディスカッションと全体統合により思考力を高めるよう工夫した。
- 3) 助産業務管理では、医療過誤に関する事例について、SHEEL分析シートを用いて検討し多角的に思考できるよう企画した。また、災害看護活動、助産所運営に関してメディアを活用し先駆的活動について相互紹介により広く学べるよう組み立てた。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 助産診断事例と展開例の作成を行い、産婦における1)入院から分娩まで、2)分娩後2時間までの助産診断事例と展開例を作成した。
- 2) 「助産管理・経営論」では、医療過誤に関するディベート用の検討事例を作成した。
- 3) 実習要項を作成し分娩経過記録の修正を行った。
- 4) 「助産診断技術学Ⅱ：産婦」、「助産管理学」、「助産学研究」では、パワーポイント教材を修正、一部追加作成した。学生の自己学習用目標管理シートを作成し使用した。



## 准教授 原田永勝

### 教育方法の実践

- 1) 基礎栄養学講義（1年生）では、食事で摂取する様々な栄養素（糖質、脂質、タンパク質など）の消化管における消化と吸収について詳細なメカニズムを解説した。また、各栄養素の構造や機能について講義するとともに、体内におけるそれぞれの栄養素の相互作用、相互変換について生化学的・生理的観点から解説した。
- 2) 応用栄養学Ⅰ講義（2年生）では、各ライフステージにおけるエネルギーおよび栄養素の食事摂取基準について説明するとともに、妊娠期・成長期や栄養不良時の栄養素代謝（タンパク質代謝など）の評価法について解説した。また、妊娠期・成長期の栄養素摂取不足や摂取過剰の人体に与える影響について解説した。
- 3) 基礎栄養学実験（2年生）では、食事での栄養素組成の違いが、体組成（体重、内臓脂肪量や骨格筋量など）や血糖値、脂質代謝に関わる遺伝子の発現に及ぼす影響について、実験動物（マウス）を用いた解析と手技を指導した。解析の中で、タンパク質の電気泳動など栄養素の物性について講義・実験も行った。栄養摂取・栄養代謝と生活習慣病との関係性について考察させた。

### 作成した教科書・教材

- 1) 基礎栄養学講義では、講義ごとに教科書の内容を補足する資料（プリント）を作成し配布した。
- 2) 応用栄養学Ⅰ講義では、講義ごとに教科書の内容を補足する資料（プリント）を作成し配布した。
- 3) 基礎栄養学実験では、実習書を作成し配布した。

## 准教授 平井由佳

### 教育方法の実践

- 1) 診療援助方法論では毎回の授業後に、出席カードで授業の感想や疑問・意見等を投稿させ、学生にコメントを返すことにより双方向の授業が構築できるよう心がけた。看護技術を確実に習得させるため、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、学生のグループ学習、技術動画の作成支援を行った。看護技術試験を2回行い、看護技術の確実な修得を目指した。
- 2) 生活援助方法論Ⅰ、生活援助方法論Ⅱの担当単元において、自己学習ノートの作成、演習ワークシートの作成を通じ、学生が積極的に図書館を活用し、できるだけ様々な知見にあたるよう、文献検索に基づく課題を課すようにし、予習・復習が効果的に行えるための工夫をした。
- 3) ヘルスアセスメント、看護過程論、看護管理論で演習を担当した。
- 4) 看護総合演習Ⅰでは、看護実践力の向上、主体的学習への動機付け等を目的に模擬患者を活用した演習の計画・実施を行った。

### 作成した教科書・教材

- 1) 生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ、診療援助方法論において、最新の動向や知見を取り入れた資料を作成した。
- 2) 診療援助方法論で履修する技術演習項目において視聴覚教材を独自で作成した。

## 准教授 松本亥智江

### 教育方法の実践

- 1) 講義科目において授業の感想・質問・意見等をシャトルカードとして提出させ、コメントを付記し

学生に返却した。授業に対する理解度・疑問点などを把握し次回の講義に活用した。

- 2) 看護過程論，ヘルスアセスメントにおいて毎回小テストを実施し，知識の定着を図った。
- 3) ヘルスアセスメントにおいて，学生自身がノートをとる習慣をつけること，予習・復習が効果的に行えるための支援を行った。また，実技試験において，自己の練習ビデオへコメントを付記して返却し，自己練習支援を行った。
- 4) 看護総合演習Ⅰ，コミュニケーション論において，模擬患者等の教育資源を活用し臨床に近いリアリティある演習を行い，看護実践能力向上を図るための支援を行った。
- 5) 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱにおけるカンファレンスではラベルワークの手法を用いて学びの視覚化，共有化を図った。

#### その他の教育活動

- 1) 2年次生および4年次生チューターとしてチューター会や学生との面談を行い，学生の生活と学習を支援した。

## 准教授 森山美香

#### 教育方法の実践

成人臨床看護論Ⅱ（急性・回復期）では，既習の病態生理を想起させ，疾病や治療による影響を踏まえて，必要となる看護が考えられるよう講義を行った。演習では，学生が個々にストーマパウチを装着するという患者体験をすることで，患者理解を深められるようにした。また看護過程の展開では，個人ワークとグループワークの両方により看護過程の展開になれさせることや，グループワークでの意見交換を行うことで患者や病態の捉え方の視野を広げられるようにした。成人看護学実習では，既習の内容と臨床で起きている現象がつながるように，個々の学生の理解度や受け持ち患者の重症度も加味し，講義内容を想起させ，起きている現象が理解でき，看護実践につながるよう指導した。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 成人臨床看護論Ⅱ（急性・回復期）では，最新の動向や知見を取り入れ，臨地実習に活用できる資料を作成し配布した。
- 2) 看護過程の展開において学生が手術侵襲による呼吸・循環への影響を捉えられるよう事例を作成した。

## 講師 荒井恵美子

#### 教育方法の実践

- 1) 調理学実習Ⅰ・Ⅱでは，食材の特性や調理による科学的な変化を説明しながらデモンストレーションを行ない，基本的な調理技術を理論と結び付けながら修得できるよう工夫した。また，実習度に関連課題を与え，自己評価と共にノートにまとめることで実習内容の振り返りと定着を支援した。献立には島根県の食材を積極的に取り入れ，日本の食文化の理解と郷土料理の伝承を促した。また，諸外国の食文化や特殊な状況下での調理について，実践に役立つ体験学習を行なった。
- 2) 食事設計論では演習を多く取り入れ，献立作成を通して食事計画の意義と手順が身に付くよう支援した。食品成分表や日本人の食事摂取基準を的確に活用できるよう指導した。
- 3) 口腔・嚥下機能と健康では，現場での事例を多く紹介し，理論と実践が結び付くよう支援した。授

業の初めには、前回授業の復習プリント（穴埋め形式）を配付し、自身の理解度を確認できるよう工夫した。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 各講義において、最新の動向や知見を取り入れた資料を作成し、配布した。
- 2) 各講義において、学生がイメージし易いよう図・表を多く取り入れたパワーポイント教材を作成し、配布した。
- 3) 口腔・嚥下機能と健康では、復習と自己評価を兼ねた穴埋め形式のプリントを作成し、配布した。
- 4) 調理学実習Ⅰ・Ⅱでは、実習献立とテーマ毎のポイントを整理した資料を作成し、配布した。
- 5) 調理学実習Ⅰでは、授業内容をまとめたポスターを作成し、オープンキャンパスや管理栄養士セミナー等で展示した。

講 師 佐 藤 美 紀 子

#### 教育方法の実践

- 1) 2年次必修科目「成人臨床看護論Ⅰ（慢性・終末期）」において、「慢性腎臓病患者の看護」「慢性心不全患者の看護」について講義を行った。
- 2) 2年次必修科目「成人臨床看護論Ⅰ（慢性・終末期）」において、「自己血糖測定」「インスリン自己注射」「がん患者の事例に基づくロールプレイング」の演習を行った。
- 3) 2年次必修科目「成人臨床看護論Ⅰ（慢性・終末期）」において、事例に基づく看護過程の展開演習における学生レポートの指導・評価を行った。
- 4) 3年次必修科目「成人看護学実習」において、実習指導を行った。
- 5) 4年次必修科目「看護研究Ⅱ」において、研究指導を行った。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 「慢性の腎機能障害のある患者の看護ー慢性腎臓病患者の看護ー」についてのパワーポイント教材を作成した。
- 2) 「慢性の循環機能障害のある患者の看護ー慢性心不全患者の看護ー」についてのパワーポイント教材を作成した。

講 師 中 畑 典 子

#### 教育方法の実践

- 1) 高齢者の健康問題を把握するために、学生各自が祖父母に対し聞き取り調査を行い、得られた情報をグループワークによって集約し、高齢期の健康問題の特徴について理解を深めさせた。
- 2) 食事調査方法の特徴と長所・短所を理解するために、簡易型自記式食事歴法質問票調査、半定量的食物摂取頻度調査票を用いた食事調査を実施し、疫学に用いられる調査方法の違いを体験させた。
- 3) 学生各自が食生活・健康をテーマとした卓上メモを作成し、学食に公開することによって読者から卓上メモの内容に対する意見・感想を募集した。媒体作りに必要な要素について学ぶ機会とした。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 公衆栄養学について視聴覚教材の作成
- 2) 公衆衛生学について視聴覚教材の作成

## 講師 林 健 司

### 教育方法の実践

老年臨床看護論において、地域の高齢者の協力を得て、老年看護技術教育プログラムを実施した。また、看護実践能力向上のために高齢者ケアの臨床で必要な技術について演習を実施した。看護過程演習では、目標志向型の看護過程について事例を作成し、高齢者の「もてる力」に着眼した看護過程演習を実施した。

老年看護学実習において、学生が目標志向で看護過程を展開できるよう、実習指導者ならびに担当教員とともに支援した。

### 作成した教科書・教材

老年臨床看護論における講義資料の他に、「看護過程の展開」演習において、脳梗塞を発症し片麻痺と嚥下障害を有する高齢者のリハビリテーション期の事例を作成した。

## 講師 渡 邊 克 俊

### 教育方法の実践例

3年次生の成人看護学実習において、2病棟を担当し、各病棟の臨床実習指導者との調整を図り、呼吸器疾患および消化器疾患を持つ患者の理解と看護実践において学生指導を実践した。また、成人臨床看護論Ⅱ（急性・回復期）において、循環機能障害・呼吸機能障害および胃切除術後の患者の看護について、既習科目の知識を活用し事例を用いて学習し、実習で受け持ちやすい事例から病態に対する理解を深めた。災害時の一次トリアージや搬送法の演習では、支援者と被災者の立場を体験し、学びが深まるよう支援した。災害派遣医療チーム（DMAT）の資機材を供覧し、被災地での実体験をもとにした被災地支援活動の重要性を伝えた。4年次生の臨地実習においては、複数患者の受け持ちの中から、重症度や優先度を考慮し主体性をもって計画・実践ができるよう支援した。

### 作成した教科書・教材

手術後の患者の状態の理解促進を目的に、胸腔ドレーンバッグやストーマ用具など実際の医療用具を用いて、イメージ化を図れるよう工夫した。また、3年次生の臨地実習では、肺の模型や術後合併症予防における看護の思考を補助する病態や看護問題の関連図を作成した。災害看護の演習では、一次トリアージや二次トリアージ演習に使用する具体的な事例を作成して提示した。

## 助教 荒 木 さ お り

### 教育方法の実践

- 1) 老年看護学実習では病院および施設の指導者と連絡調整を図りながら、施設生活を営む高齢者や入院治療を受けている高齢者への看護実践について指導した。
- 2) 看護総合演習Ⅱでは脳梗塞後遺症患者の安全・安楽な食事援助の工夫について担当教員と共に演習を実施した。
- 3) 老年臨床看護論では「腎・泌尿器疾患をもつ高齢者の看護」「皮膚疾患をもつ高齢者の看護」に関する講義を行い、また脳梗塞の事例を使った看護過程の展開について担当教員と共に演習を実施した。

4) 看護研究Ⅰ・Ⅱでは、認知症高齢者に関する研究に取り組む学生の指導およびフィールド調整に関わった。

#### 作成した教科書・教材

1) 老年臨床看護論では、「腎・泌尿器疾患をもつ高齢者の看護」「皮膚疾患をもつ高齢者の看護」を担当し、学生が理解しやすいよう図を多く取り入れたパワーポイント教材を作成した。

### 助 教 石 田 千 津 恵

#### 教育方法の実践

- 1) 調理学実習Ⅰでは、調理実習室の機器や器具の取り扱い方法および留意事項等の概要説明を初回に行った。毎回、学生に対してデモンストレーションを担当教員とともに実施し、調理工程の理解を深める工夫をした。デモ後の学生の調理においては、各班で円滑に取り組めるよう支援した。
- 2) 調理学実習Ⅱでは、調理学実習Ⅰで習得した調理の基礎知識と技術を活かしながら、担当教員とともにデモンストレーションを実施した。主に、行事に関わる献立において島根県の食材を用いて、食文化的背景も含めて説明をした。また、新調理システムや災害時の献立も担当教員とともに紹介した。
- 3) 給食経営管理実習Ⅰ（基礎）において、約90食の大量調理を学生が安全かつ効率的に作業できるよう支援した。主に作業区域別の調理作業管理や、大量調理機器の使用方法等の設備管理、また実習室内のふき取り検査（細菌検査）の衛生管理を指導した。

#### 作成した教科書・教材

1) 調理学実習Ⅰ・Ⅱに関連する調理実習時における留意事項の資料を作成した。

### 助 教 祝 原 あ ゆ み

#### 教育方法の実践

- 1) 公衆衛生看護学領域の実習やフィールド学習においては、講義・演習内容との整合性の確保を図り、学生が地域への関心を深められるよう支援した。また、指導者を中心に地域の関係者との連携に努め、実習地における地域包括ケアや公衆衛生看護活動に対する学生の理解促進を図った。
- 2) 「公衆衛生看護方法論Ⅲ」の講義においては、主担当教員とともに並行して実施しているコミュニティ実習との関連を考慮しながら授業を進めた。学生グループ同士で困ったことを出し合い、意見交換の時間を取ることで、講義や実習に対する学生の理解が深まり前向きに取り組めるよう工夫した。

#### 作成した教科書・教材

1) 次年度のコミュニティ実習について学生に分かりやすいものとなるよう、記録方法の説明や記載例を充実させるなど要項の見直しを行った。出雲市と出雲保健所から実習地となる出雲市の健康に関するデータの提供を受け、学生が実習中に十分活用できる資料ボックスの準備に勤めた。

### 助 教 植 田 恵

#### 教育方法の実践例

1) 学生毎に経験録にそって看護学技術の確認を行い、助産学に関する演習が始まる前に、基礎看護技



術・分娩機材等のプレゼンテーションと演習を行った。

- 2) 「助産診断技術学Ⅲ（母子）」において「母乳育児支援」の講義を担当し、最新の母乳育児のエビデンスや臨床での実際を伝え、母子を支援することへの学びが深まるよう工夫した。
- 3) 担当する実習施設毎において臨床指導者に協力を仰ぎ、実習施設内オリエンテーションや演習を計画・支援した。また夏季休業中の学内で効果的な演習ができるよう支援・指導を実施した。
- 4) 臨地実習において学生がケースカンファレンスを実施するため、助産診断や資料作成のためディスカッションを通し指導を行った。また報告会実施に向けた支援・指導を実施した。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 助産師国家試験教員模試問題を作成した。

## 助 教 小 川 智 子

#### 教育方法の実践

- 1) コミュニティ実習では、学生5名を担当し、地域診断技術や保健医療福祉活動における保健師の専門性についての学生の理解を支援した。
- 2) 公衆衛生看護学実習では、学生6名を担当し、実習地における住民、行政および専門職の協働活動への参加を促し、保健師に必要とされる力量や機能への理解を支援した。
- 3) 公衆衛生看護活動方法論Ⅱでは、講義の3コマを担当し、学生の集団や組織を対象に展開する公衆衛生看護技術の理解を支援した。
- 4) 公衆衛生看護管理論では、講義の1コマを担当し、公衆衛生看護管理における事例管理や事業管理、予算管理の内容を公衆衛生看護学実習の体験内容と結びつけながら講義して学生の理解を促した。
- 5) 島根の地域医療では、講義全体の調整を図るとともに、フィールド学習における全体10フィールドの日程や内容調整を行った。フィールド学習では、学生19名を担当し、学生の地域医療への理解を支援した。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 公衆衛生看護学実習において、学生の実習目標に対する自己評価、実習体験内容の集計、授業アンケートなどを公衆衛生看護学実習実施報告として一冊にまとめ、実習の成果を一覧にした。
- 2) 島根の地域医療において、フィールド毎の学生の学びをフィールド学習報告書として一冊にまとめ、学習の成果を一覧にした。

## 助 教 梶 谷 麻 由 子

#### 教育方法の実践

- ・「看護過程論」、「ヘルスアセスメント」では、担当教員の指導の下で学生個々の理解度に合わせて指導を行った。「生活援助方法論Ⅰ」では、褥瘡防止の基礎技術に関する講義を「診療援助方法論」では、呼吸・循環を整える技術に関する講義・演習を計画し実施した。「看護総合演習Ⅰ」では、看護実践力の向上、主体的学習への動機付け等を目的に模擬患者参加による演習の計画・実施をした（共同）。「生活援助方法論Ⅱ」では、安楽リラクゼーションの技術に関する講義・演習を計画し実施した。講義では、最新の知見をふまえた配布資料を作成し、演習では、学生が理解しやすいように作成しておいたビデオを使用し、技術修得ができるように努めた。「基礎看護学実習Ⅱ」、「基礎看護学実習Ⅰ」では、学生がカンファレンスに主体的に取り組めるように、カンファレンスの運



営・テーマ設定・ディスカッション方法等についてのオリエンテーションを実施し、ラベルワークやフィッシュ・ボーンズなどを取り入れ、主体的・系統的に取り組めるように支援した。

#### 作成した教科書・教材

・講義スライド・配付資料

## 助 教 加 藤 さ ゆ り

#### 教育方法の実践

- 1) 老年看護学実習では、学生が高齢者施設や医療施設において実習目標を達成できるよう、実習指導者と共に指導した。
- 2) 老年地域看護論では、エンドオブライフケアや地域におけるアドバンスケアプランニングの重要性について授業を展開した。
- 3) 老年臨床看護論では、運動器に障害のある高齢者の病態治療や看護について授業を展開し、また脳梗塞の事例を使った看護過程の展開を担当教員と共に演習を実施した。
- 4) 看護総合演習Ⅱでは、介護老人保健施設から在宅に復帰する事例の家族への食事指導について、シミュレーション教育を行った。
- 5) 基礎看護学実習Ⅱならびに看護総合実習では、学生が医療施設において実習目標を達成できるよう、実習指導者と共に指導した。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 老年臨床看護論では、大腿骨および膝関節、脊椎疾患において具体的に学生が理解しやすいよう写真や図を多く取り入れたパワーポイント教材を作成した。
- 2) 老年地域看護論では、厚生労働省の統計データを活用し、日本国民が考える人生の最終段階の医療に関する意識の実態把握できるよう努め、また事例を用いて地域で暮らす高齢者の終末期を支える看護についてパワーポイント教材を作成した。

## 助 教 金 山 俊 介

#### 教育方法の実践

- 1) 小児看護学実習におけるカンファレンスでは、学生が主体的に学びを深めることができるように支援をした。
- 2) 小児看護学実習オリエンテーションでは、乳児シミュレーターを用いた呼吸音の聴診と症状の評価を行い、乳児に対する看護のイメージ化を図った。
- 3) 小児看護学技術論では、インストラクショナルデザインを用いて演習を組み立て学生が主体的に学び目標達成のための支援をした。

## 助 教 多 々 納 浩

#### 教育方法の実践

- 1) しまね地域研究センタープロジェクト研究助成金の支援を頂き、隠岐の島町での第14回いきいき

祭りへの参加, 知夫村では, 健康カフェを開催し, 地域の方々との会話から食生活調査を実施した。ともに教室内だけでは得られない感動と感謝の気持ちを醸成し, 学習意欲の向上につながる結果となった。

- 2) 食品学実験Ⅰ(基礎)では, 食品中の成分(水分やたんぱく質, 脂質, 炭水化物, ビタミン, ミネラル, 有機酸等)の分離や定性, 定量分析を行い, 食品成分の化学的性質や分析方法, 実験上の基礎知識を修得できるよう, 担当教員の指示のもと実習を補助した。
- 3) 食品学実験Ⅱ(応用)では, 食品学実験Ⅰで修得した技術を基礎として, ポリフェノール等のより精密な定量操作を必要とする食品成分の分析や調理・加工に伴う食品成分の変化(硬さや粘性等の物性の変化, 褐変反応や色素・香成分等の化学的変化, 水分活性やビタミン等の栄養学的変化)についての測定が出来るよう, 担当教員の指示のもと実習を補助した。
- 4) 調理科学実験では, 食品中の栄養成分の分離, 定性, 定量, 合成および食品の加工や調理を通して食品の栄養成分やその機能について理解を深めることが出来るよう, 担当教員の指示のもと実習を補助した。

## 助 教 中 川 忠 彦

### 教育方法の実践

「生化学実験Ⅰ(基礎)」および「生化学実験Ⅱ(応用)」, 「基礎栄養学実験」では, 主担当教員と共に実験・実習を行った。

## 助 教 中 谷 陽 子

### 教育方法の実践

- 1) 母性臨床看護論では, 褥婦の生理的経過についての講義を行った。
- 2) 母性臨床看護技術論では, 妊婦・褥婦・新生児の看護に必要な基本的技術を習得できるよう, 担当教員とともに演習を実施した。
- 3) 母性看護学実習では, 実習指導者と連携をとり学生が実習目標を達成できるように指導した。安全に沐浴を実施できるよう, 実習前に個別の技術確認チェックを行った。
- 4) 基礎看護学実習Ⅱおよび看護総合実習では, 実習の目的・目標をふまえ実習指導者と調整を図りながら学生の学習状況にあわせて指導した。
- 5) 異文化交流研修Ⅱ(米国)では, 事前学習, 報告書作成等の指導, 現地での研修支援を主担当と共にを行った。

### 作成した教科書・教材

- 1) 母性臨床看護論の講義資料を作成した。
- 2) 母性臨床看護技術論の演習で, 新生児・乳児の計測, 新生児の清潔ケアの資料を作成した。

## 助 教 日 野 雅 洋

### 教育方法の実践

- 1) 精神看護学実習では, 実習病棟との連携調整を図りながら, 長期入院にある精神疾患患者への看護実践について指導した。また, 国家試験問題を課し, 臨床とこれまでの学びを繋げて考えることが

できるように支援した。

- 2) 看護総合実習では、精神疾患を有する複数の患者への看護実践について指導した。
- 3) 精神臨床看護論では、薬物療法・電気けいれん療法についての講義を担当し、臨床の事例を交えつつ臨床場面と一般知識を繋げることができるよう支援した。
- 4) 精神地域看護論では、施設見学を企画し、地域で生活する精神障害者への援助について学生の学びが促進されるよう支援した。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 精神臨床看護論で薬物療法・電気けいれん療法についてのスライドを作成した。
- 2) 精神地域看護論でリエゾン精神看護についてのスライドを作成した。

## 助 教 福 田 詩 織

#### 教育方法の実践

- 1) 食品衛生学実験では、衛生的検査・実験の技術や意義、食品の安全性確保の重要性について認識し、理解できるように、担当教員の指示のもと実験を補助した。
- 2) 人体機能学実習では、基本的な生理機能の測定方法や原理を理解し、データ収集や結果の解釈方法を習得できるように、担当教員の指示のもと実習を補助した。
- 3) 異文化研修Ⅱ（米国）では、異文化に関する事前・事後の学修全般、報告書作成等の指導、現地での研修支援を担当教員の指示のもと補助した。
- 4) 地域貢献活動の一環で学生と隠岐諸島に行き、地域住民に対する食生活調査・食育活動を実施した。地域活動は、学生の学習意欲向上に寄与した。

## 助 教 松 谷 ひ ろ み

#### 教育方法の実践

- 1) 精神看護学実習におけるカンファレンス（プロセスレコードの検討、服薬治療をする患者さんへの支援、倫理に関する学習会）では、学生が主体的に学びを深めることができるように支援をした。また、毎日、国家試験過去問題を課題とし、国家試験対策を行った。
- 2) 精神臨床看護論（専門科目、3年次、春学期、必修2単位）の「看護過程演習」において、学生がスムーズに演習に取り組み、疾患や疾患に対する看護について学生が自ら学べるよう助言・指導、講義を行った。
- 3) 精神地域看護論（専門科目、3年次、春学期、必修1単位）のポートフォリオ学習「地域生活を支える施設訪問」の演習資料作成、関係施設との連絡調整、訪問計画の指導を行った。
- 4) 異文化研修Ⅰ（韓国）（1年次、春学期、選択1単位）において、異文化に関する事前・事後の学修全般、報告書作成等の指導、現地での研修支援を科目主担当教員と共に行った。

#### 作成した教科書・教材

- 1) 精神地域看護論（専門科目、3年次、春学期、必修1単位）において、パワーポイントおよび資料を作成した。県内の指定した地域精神保健福祉施設13施設の見学実習での学びを冊子・PDFにまとめ、学生及び見学施設先へ配布した。
- 2) 精神臨床看護論（専門科目、2年次、秋学期、必修2単位）の「気分障害」の講義において、パワーポイントおよび資料を作成した。

## 助 教 松 本 祐 香

### 教育方法の実践

- 1) 成人臨床看護論Ⅰでは、糖尿病患者の心理的側面に配慮して、血糖自己測定、インスリン自己注射の技術を体験できるよう担当教員とともに演習を支援した。
- 2) 看護総合演習Ⅱにおいては、事例を用いて狭心症発作時の観察と緊急時の対応ができるよう担当教員とともに演習を支援した。
- 3) 看護総合実習では、複数患者を受け持ち看護実践する過程において、優先度、時間管理、グループダイナミクスを考え主体的に行動できるように実習を支援した。
- 4) 成人看護学実習においては、慢性期疾患の理解と慢性期疾患を抱えている患者の生活の理解ができ、実習で看護過程が展開できるように実習指導者と連携をとり支援した。

### 作成した教科書・教材

- 1) 成人臨床看護論Ⅱ（急性・回復期）の看護過程の演習において、学生が臨床場面をイメージし易いように担当教員と共に事例を検討し作成した。

## 助 教 吉 松 恵 子

### 教育方法の実践

- 1) 在宅看護論実習において、事前学習、看護過程展開の個別指導を行い実習が円滑に行えるよう支援を行った。また、カンファレンスでは学生が主体的に参加出来るよう支援し、在宅看護の学びを深めることができるように支援した。
- 2) 在宅看護技術論「在宅での基本的な生活を支える日常生活援助」の足浴の演習において、学生が主体的に取り組めるよう準備、実施について担当教員とともに支援した。

### 作成した教科書・教材

- 1) 在宅看護論実習の実習施設資料（閲覧用）を写真や図を使用し、最新の情報に改訂し、学生が事前に実習をイメージできるよう、また実習中に教員が傍にいなくても困ることがないように工夫した。

## 4. FD活動

学長代行・教授 山下 一也

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科後期博士課程開講記念講演, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学副学長/研究科長)
- 2) 島根県立大学出雲キャンパスアドミッション研修会, 2019. 7. 31, 2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向, 延原範昭 (株式会社進研アド中・四国支社)
- 3) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会・特別講演, 2020. 3. 27-29, 「"The National Health Service and Social Care System in England" (イングランドのNHSとソーシャルケアシステム)」, Natasha Curry (Senior Fellow in health Policy Nuffield Trust)

副学長・教授 石橋 照子

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学副学長/研究科長)
- 2) 第5回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 10, 島根県立大学出雲キャンパス, 「ケースメソッド教授法: 看護学教育への活用」, 小池智子 (慶應義塾大学准教授)
- 3) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」 大江和彦 (海士町長)
- 4) 障がいのある学生の就職支援に関する講演会, 2019. 10. 30, 障がい学生支援の現状と課題, 野崎明彦 (島根大学障がい学生支援室)
- 5) 島根県立大学大学院高度実践者コース助産領域設置キックオフ講演会, 2020. 2. 8, 島根県立大学, 「令和の時代を助産師の力で健康に」, 福井トシ子 (公益社団法人日本看護協会会長)

教授 吾郷 美奈恵

### FD

- 1) 日本看護学教育学会第29回学術集会, 2019. 8. 3-4, 会長講演「未来の看護学教育を描く」, 任和子 (京都大学・教授)
- 2) 日本看護学教育学会第29回学術集会, 2019. 8. 3-4, 特別講演「ゴリラと学ぶ人間の未来」, 山極 壽一 (京都大学・総長)
- 3) 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 202. 1. 10, プレセミナー「地域診断を活かした健康ま

- ちづくり～保健師活動とまちづくり活動の連携」, 鵜飼修 (滋賀県立大学地域共生センター・准教授)
- 4) 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2020.12, 市民公開講座「在宅医療が地域を変えるー『人生会議』から『看取り』まで」, 永井康徳 (医療法人ゆうの森 たんぼぼクリニック・理事長)
  - 5) 第30回日本医学看護学教育学会学術学会・特別講演, 2020.3.27-29, 「The National Health Service and Social Care System in England」(イングランドのNHSとソーシャルケアシステム), Natasha Curry (Senior Fellow in health Policy Nuffield Trust)

## 教授 安藤 彰 朗

### FD

- 1) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパスFD研修会  
2019.8.28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」, 大江和彦 (海士町長)
- 2) 令和元年度島根県立大学修学支援研修会  
2019.10.23, 「障がい学生支援の現状と課題」, 野崎明彦 (島根大学障がい学生支援室教授)
- 3) 島根県立大学大学院看護学研究科博士課程開設記念講演会  
2019.4.24, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学 副学長/研究科長)
- 4) 令和元年度アドミッション研修会  
2019.7.31, 「入試環境に関する研修」, 進研アド営業本部 延原・上原
- 5) 2019年度島根県立大学コンプライアンス研修会,  
2020.3.6, 「公的研究費コンプライアンス研修 研究倫理教育研修」

## 教授 伊藤 智 子

### FD

- 1) 2019年度 島根県立大学出雲キャンパス第5回看護学研究科セミナー, 2018.8.10, 島根県立大学大学院看護研究科, 「ケースメソッド教授法: 看護学教育への活用」, 小池智子 (慶応義塾大学看護医療学部, 大学院健康マネジメント研究科准教授)
- 2) 日本地域看護学会第22回学術集会, 2019.8.17, 日本地域看護学会, 「地域組織活動からなるコミュニティ・エンパワメント～保健師活動の視座から～」, 金子仁子 (慶応義塾大学看護医療学部, 大学院健康マネジメント研究科教授)
- 3) 日本地域看護学会第22回学術集会, 2019.8.17, 日本地域看護学会, 「地域のサステナビリティとコミュニティ政策」, 小島聰 (法政大学人間環境学部教授)
- 4) 2019年度 島根県立大学出雲キャンパス第6回看護学研究科セミナー, 2018.8.24, 島根県立大学大学院看護研究科, 「なぜ老いる? ならば上手に老いるには フレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」, 飯島勝矢 (東京大学高齢社会総合研究機構 教授)
- 5) 日本公衆衛生看護学会第8回学術集会, 2020.1.11, 日本公衆衛生学会, 「地域診断を生かした健康まちづくり～保健師活動とまちづくり活動の連携」, 鵜飼修 (滋賀県立大学地域共生センター准教授)



## 教授 今中美栄

### FD

- 1) 第65回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9. 5, 日本栄養改善学会, 「日本人の食事摂取基準の新たな視点とその活用」, 木戸康博氏(金沢学院大学 人間健康科学部 教授)
- 2) 2019年度ダイバーシティ推進委員会研修会, 2019. 10. 5, 島根県立大学, 「働き方改革とプロフェッショナルリズム」, 高田朝子氏(法政大学経営大学校イノベーション・マネジメント研究科 教授)
- 3) 客員教授特別講演, 2019. 10. 23, 島根県立大学, 「がん患者の栄養アセスメント」, 桑原 節子氏(淑徳大学 看護栄養学部栄養学科 教授)
- 4) 第14回子どもの食育を考えるフォーラム～子どもたちの健康を守るために知っておきたい「ヘルスリテラシー」と食育～, 2020. 1. 25, 日本小児医療保健協議会, 「健康を決める力“ヘルスリテラシー”を身につけるために保健医療従事者ができること」, 中山和弘氏(聖路加国際大学大学院看護学研究科)

## 教授 梶谷みゆき

### FD

- 1) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 5. 30, Amosによる構造方程式モデリング」 矢嶋裕樹(新見公立大学健康科学部看護学科 准教授)
- 2) 第6回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 24, 島根県立大学大学院看護研究科, 「なぜ老いる・ならば上手に老いるにはフレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」, 飯島勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構 教授)
- 3) 島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義, 2019. 10. 23, 「がん患者の栄養アセスメント」 桑原節子(淑徳大学看護栄養学部栄養学科 教授)
- 4) 島根県立大学大学院看護学研究科高度実践者養成コース助産学領域設置キックオフ講演会, 2020. 2. 9, 「令和の時代を助産師の力で健康に」 福井トシ子(日本看護協会会長)
- 5) 看護連携型ユニフィケーション協議会研修会, 2020. 2. 15, 「特別な支援や配慮が必要な看護学生及び看護師の理解」, 稲垣卓司(島根大学教育学部特別支援教育専攻 教授)

## 教授 加納尚之

### FD

- 1) 令和元年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 「入試環境に関する研修」 延原範昭(進研アド)
- 2) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」 大江和彦(海士町長)
- 3) 島根県立大学公的研究費コンプライアンス研修会 研究倫理教育研修, 2020. 3. 6, SRK 総合リスク研究所講師

## 教授 亀山良子

### FD

- 1) 第27回日本給食経営管理学会研修会, 2019. 6. 29, 日本給食経営管理学会, 「日本人の食事摂取基準(2020年版)の概要と主な変更点」, 女子栄養大学にて。
- 2) 島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「海士町流町民とのパートナーシップと地域づくり」, 大江和彦氏(海士町 町長)
- 3) 第28回日本給食経営管理学会研修会, 2020. 2. 19, 日本給食経営管理学会, 「健康経営の推進における従業員食堂の役割と期待—健康な食事・食環境の整備を効果的に推進するために必要なことは—」, 東京国際フォーラムにて。

## 教授 金城祥教

### FD

- 1) ケアの意味をみつめる事例研究セミナー, 2019. 7, 東京大学大学院, 高齢者在宅長期ケア看護学分野
- 2) 日本看護学教育学会第29回学術集会, 2019. 8, 日本看護学教育学会, 会長講演「未来の看護学教育を開く」, 任和子
- 3) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8, 日本看護研究学会, 会長講演「研究成果をためる, つかう, ひろげる」 泊裕子
- 4) 協同教育ワークショップ 2019. 8 日本協同教育学会 沖縄
- 5) 国際ケアリング学会第4回学術集会, 2019. 9. 国際ケアリング学会, 学術集会会長講演「Family Nursing and Caring」 中村由美子

## 教授 三瓶まり

### FD

- 1) 日本看護サミット2019, 2019. 12. 6, 日本看護協会, 看護が創る地域の未来, 福井トシ子(日本看護協会会長) 他
- 2) 新生児NCPR, 2020. 1. 11, 島根県看護協会, 秦美恵子(島根県看護協会会長)

## 教授 谷口敏代

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程解説記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子(東京医療保健大学副学長/研究科長)

- 2) 第92回日本産業衛生学会, 2019. 5. 25, 産業看護フォーラム, 「あなたの心にリーダーシップを：ビジョンをつくり活動することを考えよう」, 川上憲人（東京大学大学院医学系研究科教授）
- 3) 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 2019. 7. 28 特別講演, 「自分らしく生きる」を支えるケア 臨床死生学の視点から, 清水哲郎（岩手保健医療大学学長）
- 4) 島根県立大学大学院 第5回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 10, 島根県立大学出雲キャンパス。「ケースメソッド教授法：看護学教育への活用」, 小池智子（慶應義塾大学看護医療学部 教授）
- 5) 島根県立大学大学院 第6回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 24, 島根県立大学出雲キャンパス。「なぜ老いる？ならば上手に老いるには フレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」, 飯島勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構 教授）。
- 6) 2019年度島根県立大学島根県立大学短期大学部公的研究費コンプライアンス研修研究倫理教育研修, 2020. 3. 6, SKR 総合リスク研究所

## 教授 直 良 博 之

### FD

- 1) 2019年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」, 延原範昭（進研アド中・四国支社）
- 2) 客員教授特別講義, 2019. 10. 23, 「がん患者の栄養アセスメント」, 桑原節子（淑徳大学教授）
- 3) 客員教授特別講義, 2019. 11. 6, 「助産師の専門性と将来展望」, 岡本喜代子（東京都助産師会館理事長）
- 4) 「エコ」について学ぶ研修会, 2020. 2. 19, 「島根県企業局における再生可能エネルギーへの取り組み」 福富昭（島根県企業局）
- 5) 島根県栄養士会生涯教育, 2019. 10. 6, 「栄養（食物）が医薬品に及ぼす影響, 医薬品が栄養（食物）に及ぼす影響」, 直良浩司（島根大学教授）

## 教授 中 山 真 美

### FD

- 1) 地域貢献奨励金事業
- 2) Nラボプロジェクト

## 教授 名 和 田 清 子

### FD

- 1) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 島根県立大学出雲キャンパス, 「ないものはない！離島からの挑戦」, 大江和彦（海士町長）
- 2) 2019年度島根県栄養士会生涯教育研修会, 2019. 10. 22, 公益社団法人島根県栄養士会, 「専門職としての役割と倫理綱領」, 木戸康博（金沢学院大学）

## 教授 秦 幸吉

### FD

- 1) 第55回日本周産期・新生児医学会総会, 2019. 7. 13, 日本周産期・新生児医学会, 「健康寿命延伸都市・松本の創造に向けて」, 菅谷 昭 (松本市長)
- 2) 第55回日本周産期・新生児医学会総会, 2019. 7. 13, 日本周産期・新生児医学会, 「安心して産み育てられる社会」, 根津八紘 (産科・婦人科・小児科病院 医療法人登誠会 諏訪マタニティークリニック)
- 3) 第55回日本周産期・新生児医学会総会, 2019. 7. 13, 日本周産期・新生児医学会, 「Why to integrate parents in neonatal care - and how?」, Lisa Lehtonen (Professor in Pediatrics, University of Turku / Head of Neonatology, Turku University Hospital, Finland)
- 4) 島根県立大学出雲キャンパス 令和元年度FD研修会, 2019. 7. 31, 「入試環境に関する研修」 延原範昭 (株式会社進研アド 中・四国支社 支社長)
- 5) 島根県立大学出雲キャンパス 令和元年度FD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」 大江和彦 (海士町長)

## 教授 平野 文子

### FD

- 1) 第24回日本緩和医療学会学術大会, 2019. 6. 21, 日本緩和医療学会, 「アドバンス・ケア・プランニングの本質～他者に語りかけること (dialogue) の意味」, 田村恵子 (京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻教授)
- 2) 2019年ELNEC-J コアカリキュラム指導者フォローアップ研修, 2019. 10. 19, 日本緩和医療学会, 「グループ力をMAXにする～ファシリテーションスキル」, 川村和美 (ウイズサポ代表&株式会社ジョヴィ: 日本緩和医療学会教育研修委員会副委員長)
- 3) 2019年度 島根県立大学出雲キャンパス第6回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 24, 島根県立大学大学院看護研究科, 「なぜ老いる? ならば上手に老いるには フレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」, 飯島勝矢 (東京大学高齢社会総合研究機構教授)
- 4) 令和元年度がん教育研修会・シンポジウム, 2020. 1. 28, 文部科学省, 「外部講師によるがん教育に期待されること」, 横嶋剛 (文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官), 上田弘樹 (和歌山県立医科大学病院教授), 長谷川一男 (神奈川県がん患者団体連合会事務局長)
- 5) 第34回日本がん看護学会学術集会, 2020. 2. 22, 日本がん看護学会, 「社会に求められるがん看護: 患者や地域の人々の視点からの探究」, 小松浩子 (慶応義塾大学看護医療学部教授)

## 教授 平松 喜美子

### FD

- 1) 第6回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 24, 島根県立大学大学院看護研究科, 「なぜ老いる・ならば上手に老いるにはフレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」, 飯島勝矢 (東京大学高齢社

会総合研究機構 教授)

- 2) 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11. 30~12. 1, 「ヒトと人間の科学を看護へ」石川県立音楽堂
- 3) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 5. 30, 「Amos による構造方程式モデリング」矢嶋裕樹 (新見公立大学健康科学部看護学科)
- 4) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 6. 13, 「項目反応理論」矢嶋裕樹 (新見公立大学健康科学部看護学科)
- 5) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 6. 27, 「統計的検定の問題と対処」矢嶋裕樹 (新見公立大学健康科学部看護学科)

## 教授 矢田 昭子

FD

- 1) 日本看護倫理学会 第 12 回年次大会, 2019. 6. 8, ワークショップ 倫理コンサルテーションライブ 臨床看護の倫理課題を相談してみよう, 田中京子, 部川玲子
- 2) 第 34 回日本がん看護学会学術集会, 2020. 2. 22, がんゲノム医療で看護師として抑えるべき基本的な知識と技術, 西垣昌和, 田中敦子

## 教授 吉川 洋子

FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科後期博士課程開講記念講演, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学 副学長/研究科長)
- 2) 第 12 回日本看護倫理学会年次大会, 2018. 5. 26, 日本看護倫理学会, 「幸福の視点とケアの倫理」 ポジティブな倫理学としての幸福学とは何か?, 前野 隆司 (慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科)
- 3) 2019 年度 島根県立大学出雲キャンパス第 5 回看護学研究科セミナー, 2018. 8. 10, 島根県立大学大学院看護研究科, 「ケースメソッド教授法: 看護学教育への活用」, 小池智子 (慶應義塾大学看護医療学部, 大学院健康マネジメント研究科准教授)
- 4) 2019 年度 島根県立大学出雲キャンパス第 6 回看護学研究科セミナー, 2018. 8. 24, 島根県立大学大学院看護研究科, 「なぜ老いる? ならば上手に老いるには フレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」, 飯島勝矢 (東京大学高齢社会総合研究機構 教授)
- 5) 第 5 回日本 NP 学会学術集会, 2019. 11. 16, 「ナース・プラクティショナー (仮称) の制度化に向けた考え方と取り組み」, 岡谷恵子 (一般社団法人日本看護系大学協議会常任理事), 井本寛子 (公益社団法人日本看護協会常任理事), 小野美喜 (公立大学法人大分県立看護科学大学教授)

## 准教授 阿川啓子

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学副学長/研究科長)
- 2) 令和元年度 島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義・公開講座, 2019. 6. 21, 島根県立大学出雲キャンパス, 「人間回復と街づくりー誰もが自分らしく生活できる街づくりー」, 酒向正春 (ねりま健育会病院院長)
- 3) 2019年度英語論文投稿セミナー, 2019. 11. 14, 島根大学医学部看護学科棟, 「論文作成・投稿をよりスムーズに Web of Science 等のツールを活用して」, 石堂きよみ (クラリベイト・アナリティクス)
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会会長講演, 2019. 11. 30, 石川県立音楽堂, 「ヒトと人間 (ひと) の科学を看護へ」, 石垣和子 (石川県立看護大学学長)
- 5) 第39回日本看護科学学会学術集会特別講演, 2019. 11. 30, 石川県立音楽堂, 「知られざるヒトの適応機構の解明: フィールドワークからの挑戦」, 梅崎昌裕 (東京大学大学院名誉教授)

## 准教授 井上千晶

### FD

- 1) 2019年島根県立大学特別講義, 2019. 11. 6, 島根県立大学, 「助産師の専門性と将来展望」, 岡本喜代子 (社団法人日本助産師会会長)
- 2) 超音波セミナー, 2019. 10. 6, 超音波検査 US-ism, 「医用超音波の基礎セミナー」, 清水裕章ほか (GEヘルスケア・ジャパン講師)
- 3) 日本看護科学学会交流集会, 2019. 12. 1, 第39回日本看護科学学会学術集会, 「エビデンスに基づく産前・産後における家族支援システムの構築に向けた試み」, 岡光 基子 (東京医科歯科大学大学院), 大久保 功子 (東京医科歯科大学大学院), 三国 久美 (北海道医療大学看護福祉学部), 矢郷 哲志 (東京医科歯科大学大学院)
- 4) 島根県立大学大学院高度実践者コース助産領域設置キックオフ講演会, 2020. 2. 8, 島根県立大学, 「令和の時代を助産師の力で健康に」, 福井トシ子 (公益社団法人日本看護協会会長)
- 5) 看護連携型ユニフィケーション事業協議会研修会, 2020. 2. 10, 看護連携型ユニフィケーション事業協議会, 「特別な支援や配慮が必要な看護学生及び看護師の理解と対応」, 稲垣卓司 (島根大学教育学部教授) 他 8件



## 准教授 大森眞澄

### FD

- 1) LFA JAPAN 2019, 2019. 5. 17 - 5. 19, 「意思決定のプロセス&ことばで説明すること」, Huca Mingarrelli (青年期治療共同体ディレクター サイコジスト)
- 2) 日本看護系大学協議会, 2019. 6. 14, 「高等教育改革の動向について」, 杉田由加里 (文部科学省高等教育局医学教育課 看護教育専門官)
- 3) 令和元年度公立大学協会看護・保健医療部会, 2019. 8. 26 - 27, 「大学における看護学教育の動向と公立大学への期待」, 杉原由加里 (文部科学省高等教育局医学教育課 看護教育専門官)
- 4) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパス FD 研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」 大江和彦 (海士町長)
- 5) 3) 2019年度島根県立大学出雲キャンパスダイバーシティ推進委員会研修会, 2019. 11. 5, 人脈作りのプロセス, 高田朝子 (法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授)

## 准教授 岡安誠子

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科後期博士課程開講記念講演, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学 副学長/研究科長)
- 2) 島根県立大学出雲キャンパスアドミッション研修会, 2019. 7. 31, 2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向, 延原範昭 (株式会社進研アド中・四国支社)
- 3) 日本看護研究学会第45回学術集会 2018. 8. 20, 大阪国際会議場グランキューブ大阪, 特別講演「質的研究の構築と発展 ー理論から実践へー」, 鯨岡 峻 (京都大学 名誉教授)
- 4) 障がいのある学生の就職支援に関する講演会, 2019. 10. 30, 障がい学生支援の現状と課題, 野崎明彦 (島根大学障がい学生支援室)
- 5) 23th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2020. 01. 11, Achieving a Doctorate Through Mixed Methods/Combined Research, Mari Kondo (Professor at Kansai Medical University)

## 准教授 小田美紀子

### FD

- 1) 第1回児童虐待防止と対応講座, 2019. 7. 20, 出雲市要保護児童対策地域協議会&島根県立大学出雲キャンパス共同事業, 「家族理解」が「家族支援」である, 団士郎 (立命館大学客員教授)
- 2) 令和元年度中四国ブロック保健師等研修会, 2019. 9. 4, 日本公衆衛生協会&島根県, 「地域保健の動向と今後の保健師に期待すること」, 加藤典子 (厚生労働省健康局健康課保健指導室室長)

- 3) 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2020. 1. 11, 日本公衆衛生看護学会学術集会事務局, 公衆衛生看護職のプロフェッショナルリズム, 野村美千江 (愛媛県立医療技術大学教授)
- 4) 令和元年度ユニフィケーション研修会, 2020. 2. 14, ユニフィケーション協議会, 特別な支援や配慮が必要な看護学生および看護師の理解と対応, 稲垣卓司 (島根大学教育学部教授)
- 5) 令和元年度中堅期・管理期保健師等研修会, 2020. 2. 23, 全国保健師長会島根県支部&島根県健康福祉部健康推進課, 自治体保健師のキャリア形成を考える-住民が望む保健師と自分自身の夢を重ねる-, 村嶋幸代 (東京大学名誉教授)

## 准 教 授      落 合 の り 子

### FD

- 1) 第92回日本産業衛生学会教育講演 1, 2019. 5. 23, 日本産業衛生学会, 「ダイバーシティ・マネジメント寄与するアンガーマネジメント」, 安藤俊介 (一般社団法人アンガーマネジメント協会)
- 2) 第92回日本産業衛生学会教育講演 2, 2019. 5. 23, 日本産業衛生学会, 「我が国の将来人口推計と産業保健への影響」, 別府志海 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 3) 第92回日本産業衛生学会教育講演 8, 2019. 5. 25, 日本産業衛生学会, 「働く人のメンタルヘルスと栄養」, 西 大輔 (東京大学医学系研究科精神保健学分野)

## 准 教 授      籠 橋 有 紀 子

### FD

- 1) 2019年度島根県立大学ダイバーシティ推進委員会報告会, 2019. 6. 7, 島根県立大学, 「ダイバーシティ現状調査・働き方改革実施結果報告会」, 島根県立大学ダイバーシティ推進委員会・衛生委員会
- 2) 2019年度島根県立大学アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」, 延原範昭 (進研アド中・四国支社)
- 3) 2019年度島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 島根県立大学出雲キャンパスFD委員会, 「ないものはない! 離島からの挑戦」, 大江和彦 (海士町長)
- 4) 島根県立大学ダイバーシティ推進委員会研修会, 2019. 11. 5, 島根県立大学, 「人脈作りのプロセス」, 高田朝子 (法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授)
- 5) 島根県立大学出雲キャンパスエコキャンパス研修会, 2020. 2. 19, 島根県立大学, 「島根県企業局の再生可能エネルギーへの取り組み」, 福富昭 (島根県企業局西部事務所 所長)

## 准 教 授      加 藤 典 子

### FD

- 1) 島根県看護協会3職能合同研修会, 2019. 8. 3, 「地域包括ケアシステムの中での看護の役割」 桐田和幸他 (島根県高齢者福祉課 地域包括ケア推進室長), 島根県看護協会, 大田市
- 2) 看護教員継続研修, 2019. 8. 9, 「カリキュラム評価と開発」 池西静江 (日本看護学校協議会)

- 会長), 出雲市
- 3) 島根看護協会研修会, 2019. 11. 2, 「島根における看護師基礎教育を考える会」岡島さおり他 (日本看護協会 常任理事), 出雲市.
  - 4) 第 34 回日本がん看護学会, 2002. 2. 22~23, 「社会に求められるがん看護: 患者や地域の人々からの探求」小松浩子 (慶応義塾大学 看護医療学部), 東京都.
  - 5) 石見高等看護学院 FD 研修会, 2020. 3. 20, 「指導者のファシリテータースキルを向上させよう」, 内藤知佐子 (京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター), 石見高等看護学院, 益田市.

## 准 教 授      狩 野 鈴 子

### FD

- 1) 助産師キャリアラダー研修, 2019. 6. 28, 島根県助産師会, 「産科出血への対応」, 山上育子 (島根県立中央病院 産婦人科医長)
- 2) 公益社団法人全国助産師教育協議会中国・四国地区研修会, 2019. 9. 7, 公益社団法人全国助産師教育協議会中国・四国地区, 「新生児のディベロップメンタルケア」, 儀間裕貴 (鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター特命講師)
- 3) 島根県助産師会研修会, 2019. 9. 16, 島根県助産師会, 「ずばりききたい男の子たちの性教育」, 今井伸 (聖隷浜松病院リプロダクションセンター長 総合性治療科部長)
- 4) 2019 年島根県立大学特別講義, 2019. 11. 6, 島根県立大学, 「助産師の専門性と将来展望」, 岡本喜代子 (社団法人日本助産師会会長)
- 5) 周産期母子医療研修会, 2019. 12. 15, 島根県立中央病院総合周産期母子医療センター, 「赤ちゃんに優しいケアと医療」, 仁志田博司 (東京女子医大名誉教授)

## 准 教 授      川 瀬 淑 子

### FD

- 1) 日本看護倫理学会第 12 回年次大会, 2019. 6. 8, 日本看護倫理学会, 格差社会の中で看護倫理を考える, 勝原裕美子 (オフィス KATSUHARA 代表)
- 2) 日本看護倫理学会第 12 回年次大会, 2019. 6. 8, 日本看護倫理学会, 格差社会の現状と課題, 橘木俊詔 (京都女子大学)
- 3) 日本看護倫理学会第 12 回年次大会, 2019. 6. 9, 日本看護倫理学会, 看護師の語りから透けて見える倫理について, 村上靖彦 (大阪大学)
- 4) 島根県立大学出雲キャンパス令和元年アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 島根県立大学出雲キャンパス, 「H31 年度入試分析等」, 延原範昭 (株式会社進研アド営業本部 中・四国支社)
- 5) 島根県看護協会看護師職能 I 交流集会, 2019. 9. 15, 島根県看護協会看護師職能委員会 I, ヘルシーワークプレイスを実現するための看護職の働き方と職場づくり, 熊谷雅美 (日本看護協会常任理事)

准 教 授      高 橋 恵 美 子

FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み, 草間朋子 (東京医療保健大学 副学長/研究科長)
- 2) 島根県立大学大学院第5回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 10, 島根県立大学出雲キャンパス, ケースメソッド教授法: 看護学教育への活用, 小池智子 (慶応義塾大学看護医療学部大学院健康管理マネジメント研究科教授)
- 3) 日本看護研究学会第45回学術集会学術特別企画2, 2019. 8. 20, 質的研究における倫理, 北素子 (東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授)
- 4) 第2回児童虐待防止と対応講座, 2019. 8. 30, 出雲市要保護児童対策地域協議会&島根県立大学出雲キャンパス共同事業, 子どもの「いや」に困ったとき一叱ればいいのか? 受け止めればいいのか? - , 大河原美以 (東京学芸大学 教育心理学講座教授)
- 5) 令和元年度ユニフィケーション研修会, 2020. 2. 14, ユニフィケーション協議会, 特別な支援や配慮が必要な看護学生および看護師の理解と対応, 稲垣卓司 (島根大学教育学部教授)

准 教 授      橋 本 由 里

FD

- 1) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」大江和彦 (海士町長)
- 2) 日本心理学会第83回大会シンポジウム, 2019. 9. 11, 「スポーツの眼, ロボットの眼, 武術の眼 (2) - 視点の行き場・置き場が動作の成否を決める? 佐藤祐介 (日本大学)
- 3) 日本基礎心理学会第38回大会シンポジウム, 2019. 11. 30, 「バーチャルリアリティと基礎心理学」清川清 (奈良先端科学技術大学院大学)
- 4) 日本基礎心理学会第38回大会シンポジウム, 2019. 12. 1, 「コミュニケーションと知覚の脳研究の今」佐藤弥 (京都大学こころの未来研究センター)
- 5) 「エコ」について学ぶ研修会, 2020. 2. 19, 「島根県企業局における再生可能エネルギーへの取り組み」福富昭 (島根県企業局)

准 教 授      濱 村 美 和 子

FD

- 1) 平成31年度島根県助産師会総会後研修会, 2019. 4. 29, 島根県助産師会, 「助産師のマタニティケア能力を高めるために~保健指導力を磨く~」, 淵元純子 (ふちもと助産院 院長 助産師).
- 2) 助産師キャリアラダー研修, 2019. 6. 28, 島根県助産師会, 「産科出血への対応」, 山上育子 (島根県立中央病院 産婦人科医長)
- 3) 島根県助産師会研修会, 2019. 9. 16, 島根県助産師会, 「ずばりききたい男の子たちの性教育」,

今井伸(聖隷浜松病院リプロダクションセンター長 総合性治療科部長)

- 4) 島根県助産師会安全研修会, 2019. 12. 1, 島根県助産師会, 「災害を知り, 備えよう」, 河野操 (元日本赤十字島根県支部勤務助産師), 八澤京子 (松江赤十字病院看護師長)
- 5) 島根県立大学大学院看護学研究科高度実践者養成コース助産学領域設置キックオフ講演会, 2020. 2. 9, 「令和の時代を助産師の力で健康に」 福井トシ子 (日本看護協会会長) 島根県助産師会災害

## 准 教 授 原 田 永 勝

FD

- 1) 島根県立大学コンプライアンス研修会, 2020. 3. 6, 島根県立大学, 「公的研究費コンプライアンス研修 研究倫理教育研修」, 三宮紀彦 (三宮紀彦公認会計士事務所)

## 准 教 授 平 井 由 佳

FD

- 1) 島根県看護教員継続研修－組織力を高める研修－, 2019. 8. 9, 「カリキュラムの評価と開発」, 池西静江 (Office Kyo-Shien代表・日本看護学校協議会会長)
- 2) 島根県看護教員継続研修－教育力を高める研修－, 2019. 9. 20, 「インストラクショナルデザインを活かした授業改善」, 平岡齊士 (熊本大学教授システム学研究センター准教授)
- 3) 第21回一般社団法人日本救急看護学会学術集会交流集会, 2019. 10. 5, 「採用される臨床看護研究の論文を書くためのTips」, 佐々木吉子 (東京医科歯科大学大学院教授)
- 4) 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業令和元年度島根大学グローバル月間関連イベント「2019年度英語論文投稿セミナー<第1回>」, 2019. 11. 14, 「論文作成・投稿をよりスムーズに」Web of Science等のツールを活用して, 石堂きよみ (クラリベイト・アナリティクス)
- 5) 出雲市生涯学習講座, 2019. 12. 1, 「みんなが主役の地域防災～やさしい日本語 HUG～あなたならどうする?体験!避難所」, 立花裕行, 西田祐子 (出雲市多文化共生マネージャー, 防災安全課職員)

## 准 教 授 藤 田 小 矢 香

FD

- 1) 助産師教育セカンドステージ研修 2019. 6月, 9月, 全国助産師教育協議会
- 2) 助産師の専門性と将来展望, 2019. 11. 6, 岡本喜代子 (東京助産師会館)
- 3) 効果的な大学広報について, 2020. 2. 7, 白根慎介 (TSK)



## 准 教 授 細 川 優

### FD

- 1) 2019 年度島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 5. 17, 島根県栄養士会, 「仕事が回らなかったからこそ手を出した嚙下食・・・そして新調理システム」小笠原隆之(介護付き有料老人ホーム)
- 2) 2019 年度島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 5. 17, 島根県栄養士会, 「災害支援における管理栄養士・栄養士の役割について～平成 30 年度に発生した災害での日本栄養士会災害支援チーム JDA-DAT の活動概要～」下浦佳之(公益社団法人栄養士会常務理事)
- 3) 2019 年度島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 5. 18, 島根県栄養士会, 「知っておきたい食物アレルギーの最新情報」, 森田栄伸(島根大学医学部皮膚科講座教授)
- 4) 第 15 回日本栄養改善学会中国支部学術総会教育講演, 2019. 6. 16, 日本栄養改善学会中国支部, 「日本人の食事摂取基準(2020 年度版) の新たな視点!」, 木戸康博(金沢学院大学人間健康学部健康栄養学科教授)
- 5) 2019 年度出雲地区栄養士会 2019. 6. 30, 「みんなで考えよう災害の食事」平井順子(島根大学医学部付属病院栄養治療室栄養士長)
- 6) 2019 年度出雲地区栄養士会 2019. 6. 30, 「施設における非常食の現状と取組」遊木真由美(ケアセンターかんど)
- 7) 2019 年度島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 8. 18, 島根県栄養士会「栄養ケアプロセスを習得する! -Part1-」石長孝二郎(広島女学院大学人間生活学部教授)
- 8) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義, 2019. 10. 23, 島根県立大学, 「がん患者の栄養アセスメント」, 桑原節子(淑徳大学看護栄養学部栄養学科教授)
- 9) 2019 年度島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 11. 30, 島根県栄養士会「栄養ケアプロセスを習得する! -Part2-」山本貴博(国立病院機構福岡病院栄養管理室長)

## 准 教 授 松 本 亥 智 江

### FD

- 1) 島根県看護教員継続研修「教育力を高める研修」, 2019. 9. 20・21, 「インストラクショナルデザインを活かした授業改善」, 平岡斉士(熊本大学教授システム学研究センター 准教授)
- 2) 第 12 回島根県看護学術集会 特別講演, 2019. 7. 13, 公益社団法人島根県看護協会, 「臨床現場における教育担当者の育成 ～ともに育つ組織を作る～」, 松浦正子(日本赤十字豊田看護大学 教授)
- 3) 第 24 回 DMORT 養成研修会 in 京都, 2019. 12. 21, 一般社団法人日本 DMORT, 吉永和正(医療法人協和会) 他
- 4) 看護師特定行為研修指導者講習会, 2020. 2. 8, 公益社団法人日本看護協会(神戸研修センター), 溝上裕子(公益社団法人日本看護協会看護研修学校) 他
- 5) 島根県立大学大学院看護学研究科 高度実践者養成コース助産学領域設置キックオフ講演会, 2020. 2. 9, 島根県立大学大学院看護学研究科, 「令和の時代を助産師の力で健康に」, 福井トシコ(公益社団法人日本看護協会会長)



## 准 教 授      森 山 美 香

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学副学長/研究科長)
- 2) 令和元年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 島根県立大学出雲キャンパス, 「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」, 延原範昭 (株式会社進研アド営業本部 中・四国支社)
- 3) 2019年度英語論文投稿セミナー, 2019. 11. 14, 島根大学医学部看護学科棟, 「論文作成・投稿をよりスムーズに Web of Science 等のツールを活用して」, 石堂きよみ (クラリベイト・アナリティクス)
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会会長講演, 2019. 11. 30, 石川県立音楽堂, 「ヒトと人間(ひと)の科学を看護へ」, 石垣和子 (石川県立看護大学学長)
- 5) JANPU 看護教育評価検討委員会企画ワークショップ, 2020. 2. 16, 聖路加国際大学大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター (CCA), 看護学士課程における学生のコンピテンシーの育成ー「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の有効活用ー, 小山眞理子 (看護学教育評価検討委員会委員長)

## 講 師      荒 井 恵 美 子

### FD

- 1) ソーシャルメディアに関する研修会「ソーシャルメディアを適正に利用するために」, 2019. 6. 12, 出雲キャンパス, 竹下由紀子 (サイバーセキュリティーアドバイザー)
- 2) 2019年度アドミッション研修会「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」, 2019. 7. 31, 出雲キャンパス, 延原範昭 (進研アド中・四国支社)
- 3) 出雲キャンパスFD研修会「ないものはない! 離島からの挑戦」, 2019. 8. 28, 出雲キャンパス, 大江和彦 (海士町長)
- 4) 客員教授特別講義「がん患者の栄養アセスメント」, 2019. 10. 23, 出雲キャンパス, 桑原節子 (淑徳大学看護栄養学部栄養学科教授)
- 5) コンプライアンス研修会「2019年度島根県立大学公的研究費コンプライアンス研修研究倫理教育研修」, 2020. 3. 6, 出雲キャンパス, SRK 総合リスク研究所

## 講 師      佐 藤 美 紀 子

### FD

- 1) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 日本看護研究学会, 仕事をもつ心不全患者の生活の調整に向けた退院支援のあり方の検討, 齋藤有美他
- 2) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 日本看護研究学会, 糖尿病専門外来に通院している2型糖尿病患者における身体活動量に影響する要因, 寄本光稀他
- 3) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 日本看護研究学会, 孤立小型離島における住民のヘルスリテラシーの特徴, 山本敬子他

- 4) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 日本看護研究学会, 慢性心不全患者の病気認知の実態とその関連要因, 浅井克仁他
- 5) 日本看護研究学会第45回学術集会, 2019. 8. 20, 日本看護研究学会, 老年期クローン病患者の療養生活の実際およびニーズの明確化, 山本孝治

講 師 中 畑 典 子

FD

- 1) 2019年度公益社団法人島根県栄養会研修会, 2019. 5. 17, 島根県栄養会, 「災害支援における管理栄養士の役割～JDA-DATの取り組み～」, 下浦佳之(公益社団法人日本栄養士会常任理事)
- 2) 2019年度出雲地区栄養士会研修会, 2019. 6. 30, 出雲地区栄養士会研修会, 「みんなで考えよう災害時の食事」, 平井順子(島根大学医学部付属病院栄養治療室栄養士長)
- 3) 2019年度公益社団法人島根県栄養会研修会, 2019. 8. 18, 島根県栄養会, 「栄養ケアプロセスを習得するPart1」, 石長考二(広島女学院大学人間生活学部教授)
- 4) 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019. 10. 24, 日本公衆衛生学, 「オーラルフレイルの研究の現状と展望」, 渡邊裕, 北海道大学大学院歯学研究科教授)

講 師 林 健 司

FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科後期博士課程開講記念講演, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子(東京医療保健大学 副学長/研究科長)
- 2) 日本老年看護学会第24回学術集会ランチョンセミナー1, 2019. 6. 7, 日本老年看護学会, 「トイレの手すりの進化論: 手すりが壁から飛び出した!」, 國澤尚子(埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科)
- 3) 日本老年看護学会第24回学術集会ランチョンセミナー4, 2019. 6. 8, 日本老年看護学会, 看護学教育におけるICTの活用に関する取り組み事例, 出貝裕子(宮城大学看護学群)
- 4) 第6回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 24, 島根県立大学大学院看護研究科, 「なぜ老いる・ならば上手に老いるにはフレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」, 飯島勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構 教授)
- 5) 令和元年度島根県立出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」大江和彦(海士町長)

講 師 渡 邊 克 俊

FD

- 1) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 5. 30, 「Amosによる構造方程式モデリング」, 矢嶋裕樹(新見公立大学健康科学部看護学科)
- 2) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 6. 13, 「項目反応理論」, 矢嶋裕樹(新見公立大学健康科学部看護学科)

- 3) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 6. 27, 「統計的検定の問題と対処」, 矢嶋裕樹 (新見公立大学健康科学部看護学科)
- 4) 令和元年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 島根県立大学出雲キャンパス, 「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」, 延原範昭 (株式会社進研アド営業本部 中・四国支社)
- 5) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2020. 3. 17, 「尺度開発のプロセスと統計的データ処理」, 吉田いつこ (安田女子大学看護学部看護学科)

## 助 教      荒 木 さ お り

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科後期博士課程開講記念講演, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学 副学長/研究科長)
- 2) 学長代行・副学長と助教との意見交換会, 2019. 6. 13, 島根県立大学出雲キャンパス
- 3) 国際交流サークル 国境なき医師団講演会, 2019. 7. 2, 島根県立大学出雲キャンパス, 「国境なき医師団の活動と世界の現状について」加藤寛幸 (国境なき医師団 日本会長・小児科医)
- 4) 令和元年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 島根県立大学出雲キャンパス, 「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」延原範昭 (株式会社進研アド営業本部 中・四国支社)
- 5) 看護学科 IR コンソーシアム調査結果に関する意見交換会, 2019. 8. 1, 島根県立大学出雲キャンパス
- 6) 令和元年度島根県立出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」大江和彦 (海士町長)

## 助 教      石 田 千 津 恵

### FD

- 1) 2019年度島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 5. 18, 島根県栄養士会, 「知っておきたい食物アレルギーの最新情報」, 森田栄伸 (島根大学医学部皮膚科学講座教授)
- 2) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会教育講演, 2019. 6. 16, 日本栄養改善学会中国支部, 「日本人の食事摂取基準(2020年度版)の新たな視点!」, 木戸康博 (金沢学院大学人間健康学部健康栄養学科教授)
- 3) 日本調理科学会2019年度大会教育講演, 2019. 8. 27, 日本調理科学会, 「食品安全委員会のリスク評価についてーアクリルアミドを例にー」, 吉田充 (内閣府食品安全委員会委員)
- 4) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義, 2019. 10. 23, 島根県立大学, 「がん患者の栄養アセスメント」, 桑原節子 (淑徳大学看護栄養学部栄養学科教授, 前: 国立がん研究センター中央病院栄養管理室長)
- 5) 2019年度島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 11. 30, 島根県栄養士会, 「栄養ケアプロセスを修得する!ーpart2ー」, 山本貴博 (国立病院機構福岡病院栄養管理室長)

## 助 教 祝 原 あ ゆ み

### FD

- 1) 第34回全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会, 2019. 8. 19, 全国保健師教育機関協議会, 住民とともにある公衆衛生看護学への期待「学部保健師教育課程の課題, 目指すこと」, 岸恵美子 (東邦大学看護学部/看護学研究科教授)
- 2) 第34回全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会, 2019. 8. 19, 全国保健師教育機関協議会, 住民とともにある公衆衛生看護学への期待「大学院保健師過程の課題, 目指すこと」, 井伊久美子 (香川県立保健医療大学学長)
- 3) 島根県立大学看護栄養学部看護学科学習会, 2019. 9. 13, 島根県立大学看護栄養学部看護学科, 地域包括ケア時代における看護師の基礎能力強化のためのカリキュラム～看護学教育モデルコア・カリキュラムを導入して～, 上山和子 (新見公立大学健康科学部看護学科長)
- 4) 令和元年度全国保健師教育委機関協議会中国四国ブロック研究会, 2019. 9. 28, 全国保健師教育委機関協議会中国四国ブロック, 公衆衛生看護管理を学生にどう教授していくか, 大木幸子 (杏林大学保健学部看護学科地域看護学教授)
- 5) 島根県立大学大学院看護学研究科高度実践者養成コース助産額領域設置キックオフ講演会, 2020. 2. 9, 島根県立大学大学院看護学研究科, 令和の時代を助産師の力で健康な社会に, 福井トシ子 (日本看護協会会長)

## 助 教 植 田 恵

### FD

- 1) 平成31年度島根県助産師会総会后研修会, 2019. 4. 29, 「助産師のマタニティケア能力を高めるために～保健指導力を磨く～」, 淵元純子 (ふちもと助産院 院長 助産師)
- 2) 令和元年度出雲支部総会后研修, 2019. 6. 15, 「魅力的な話し方」, 竹内駒江 (フリーアナウンサー)
- 3) 助産師キャリアラダー研修, 2019. 6. 27, 「新人・後輩助産師を育てるために必要な知識と考え方」, 渋川あゆみ (マザリー参加婦人科医院 副院長)
- 4) 助産師キャリアラダー研修, 2019. 6. 28, 「産科出血への対応」, 山上育子 (島根県立中央病院 産婦人科医長)
- 5) 島根県助産師会性に関する研修会, 2019. 9. 16, 「ずばりききたい男の子たちの性教育」, 今井伸 (聖隷浜松病院リプロダクションセンター長 総合性治療科部長)

## 助 教 小 川 智 子

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学副学長/研究科長)
- 2) 島根の地域医療招致講義, 2019. 5. 29, 島根県における保健医療の現状と課題 医療連携体制と

地域包括ケアシステムを中心に，村下伯（島根県浜田保健所）

- 3) 島根県立大学出雲キャンパスアドミッション研修会，2019. 7. 31， 2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向，延原範昭（株式会社進研アド中・四国支社）
- 4) 2019年度英語論文投稿セミナー（第1回）， 2019. 11. 14， 島根大学出雲キャンパス看護学科棟，「論文作成・投稿をよりスムーズに Web of Science 等のツールを活用して」，石堂きよみ（クラリベイト・アナリティクス）
- 5) 2019年度英語論文投稿セミナー（第2回）， 2019. 12. 11， 島根大学松江キャンパス教養講義棟，「アクセプトされやすい英語論文とは」，高石雅人（エルゼビア・ジャパン）

## 助教 梶谷麻由子

### FD

- 1) 令和元年度 島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義・公開講座，2019. 6. 21， 島根県立大学出雲キャンパス，「人間回復と街づくり—誰もが自分らしく生活できる街づくり—」，酒向正春（ねりま健育会病院院長）
- 2) 島根県立大学出雲キャンパス令和元年アドミッション研修会，2019. 7. 31， 島根県立大学出雲キャンパス，「H31年度入試分析等」，アドミッション委員会
- 3) 令和元年度 島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義，2019. 10. 23， 島根県立大学出雲キャンパス，「がん患者の栄養アセスメント」，桑原節子（淑徳大学看護栄養学部栄養学科教授）
- 4) 令和元年度 島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義，2019. 11. 6， 島根県立大学出雲キャンパス，「助産師の専門性と将来展望」，岡本喜代子（公益財団法人東京都助産師会館理事長）

## 助教 加藤さゆり

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会，2019. 4. 24， 島根県立大学，「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」，草間朋子（東京医療保健大学副学長研究科長）
- 2) 第6回島根県立大学出雲キャンパス看護学研究科セミナー，2019. 8. 24， 島根県立大学出雲キャンパス，「なぜ老いる？ならば上手に老いるにはフレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」，飯島勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構教授）
- 3) FD研修会，2019. 8. 28， 島根県立大学出雲キャンパス，「ないものはない！離島からの挑戦」，大江和彦（海士町長）
- 4) 第8回いのちの輝きを考える日～いつもの力，出雲の力～，2019. 10. 19，出雲市役所くにびきホール，「尊厳ある最期を看取ってきた特養医師の立場から」，石飛幸三（世田谷区立特養芦花ホーム常勤医）他
- 5) 島根県立大学修学支援研修会，2019. 10. 30， 島根県立大学出雲キャンパス，「障がい学生支援の現状と課題」，野崎明彦（島根大学障がい支援室）



## 助 教 金 山 俊 介

### FD

- 1) 日本看護研究会第45回学術集会, 2019. 6. 20, 日本看護研究学会, 「社会にひろげる看護の成果・知恵・経験」, 多田真寿美 (株式会社ナースあい 代表取締役), 宇都宮宏子, (在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス), 三輪恭子 (大阪府立大学大学院看護学研究科)
- 2) 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019. 11. 30, 日本看護科学学会, 「看護研究と実践・教育の環境づくり」, Ardith Doorenbos (University of Illinois)

## 助 教 多 々 納 浩

### FD

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15, 「これからの地域医療連携と管理栄養士への期待」, 佐藤利昭 (松江赤十字病院 糖尿病・内分泌内科部長, 日本糖尿病協会 理事)
- 2) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 16, 「人生100年時代に向けて!～健康長寿新ガイドライン～」, 石崎達郎 (地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム研究部長)
- 3) 第66回日本栄養改善学会学術総会, 2019. 9. 6, 「私たちは、何を学び、何を実践しようとしているのか?～管理栄養士, 栄養士はAIに勝てますか～」, 中村丁次 (神奈川県立保健福祉大学 学長)
- 4) 2019年度公益社団法人島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 10. 22, 「専門職としての役割と倫理綱領～医の倫理, 生命倫理, 患者・障害者の権利, インフォームドコンセント, 守秘義務, 管理栄養士・栄養士倫理綱領, コミュニケーション～」, 木戸康博 (金沢学院大学 人間健康学部健康栄養学科 教授, 日本栄養士会常任理事)
- 5) 2019年度公益社団法人島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 10. 22, 「根拠に基づいた栄養管理～食事摂取基準2020年版のポイント～」, 上西一弘 (女子栄養大学 栄養学部 教授)

## 助 教 中 川 忠 彦

### FD

- 1) 2019年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」, 延原範昭 (進研アド中・四国支社)
- 2) 令和元年度島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」, 大江和彦 (海士町長)
- 3) 2019年度ダイバーシティ推進委員会研修会, 2019. 11. 5, 「働き方改革とプロフェッショナルリズム」, 高田朝子 (法政大学経営大学院教授)
- 4) 「エコ」について学ぶ研修会, 2020. 2. 19, 「島根県企業局における再生可能エネルギーへの取り組み」 福富昭 (島根県企業局)
- 5) コンプライアンス研修会, 2020. 3. 6, 「2019年度島根県立大学公的研究費コンプライアンス研修研究倫理教育研修」, SRK 総合リスク研究所



## 助 教 中 谷 陽 子

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保健大学副学長/研究科長)
- 2) 助産師キャリアラダー研修, 2019. 6. 28, 「産科出血への対応」, 山上育子 (島根県立中央病院 産婦人科医長)
- 3) 2019年度 島根県立大学出雲キャンパス客員教授特別講義, 2019. 11. 6, 島根県立大学出雲キャンパス, 「助産師の専門性と将来展望」, 岡本喜代子 (東京都助産師会館理事長)
- 4) 島根県助産師会災害看護研修会, 2019. 12. 1, 松江赤十字病院, 「災害を知り, 備えよう」, 河野操 (元日本赤十字島根県支部勤務助産師), 八澤京子 (松江赤十字病院看護師長)
- 5) 島根県立大学大学院看護学研究科高度実践者養成コース助産学領域設置キックオフ講演会, 2020. 2. 9, 島根県立大学出雲キャンパス, 「令和の時代を助産師の力で健康に」, 福井トシ子 (日本看護協会会長)

## 助 教 日 野 雅 洋

### FD

- 1) 第2回児童虐待防止と対応講座, 2019. 8. 31, 出雲市要保護児童対策地域協議会&島根県立大学出雲キャンパス共同事業, 子どもの「いや」に困ったとき一叱ればいいのか? 受け止めればいいのか? -, 大河原美以 (東京学芸大学 教育心理学講座教授)
- 2) 島根県看護教員継続研修ー教育力を高める研修ー, 2019. 9. 20, 「インストラクショナルデザインを活かした授業改善」, 平岡斉士 (熊本大学教授システム学研究センター准教授)
- 3) 障がいのある学生の就職支援に関する講演会, 2019. 10. 30, 障がい学生支援の現状と課題, 野崎明彦 (島根大学障がい学生支援室)
- 4) 第39回日本看護科学学会学術集会会長講演, 2019. 11. 30, 石川県立音楽堂, 「ヒトと人間 (ひと) の科学を看護へ」, 石垣和子 (石川県立看護大学学長)
- 5) 第39回日本看護科学学会学術集会特別講演, 2019. 11. 30, 石川県立音楽堂, 「知られざるヒトの適応機構の解明: フィールドワークからの挑戦」, 梅崎昌裕 (東京大学大学院教授)

## 助 教 福 田 詩 織

### FD

- 1) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 15, 「これからの地域医療連携と管理栄養士への期待」, 佐藤利昭 (松江赤十字病院 糖尿病・内分泌内科部長, 日本糖尿病協会 理事)
- 2) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 16, 「人生100年時代に向けて!~健康長寿新ガイドライン~」, 石崎達郎 (地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム研究部長)

- 3) 2019 年度公益社団法人島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 10. 22, 「専門職としての役割と倫理  
網領～医の倫理, 生命倫理, 患者・障害者の権利, インフォームドコンセント, 守秘義務, 管理栄  
養士・栄養士倫理網領, コミュニケーション～」, 木戸康博 (金沢学院大学 人間健康学部健康栄養  
学科 教授, 日本栄養士会常任理事)
- 4) 2019 年度公益社団法人島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 10. 22, 「根拠に基づいた栄養管理～  
食事摂取基準 2020 年版のポイント～」, 上西一弘 (女子栄養大学 栄養学部 教授)
- 5) 2019 年度英語論文投稿セミナー, 2019. 12. 11, 島根大学医学部看護学科棟, 「アクセプトされや  
すい英語論文とは: 編集者・査読者の視点から」, 高石雅人氏 (エルゼビア・ジャパン)

## 助 教      松 谷 ひ ろ み

### FD

- 1) 島根県立大学大学院看護学研究科博士後期課程開設記念講演会, 2019. 4. 24, 島根県立大学出雲  
キャンパス, 「看護・看護学の進展・発展に向けた看護研究への取り組み」, 草間朋子 (東京医療保  
健大学副学長/研究科長)
- 2) 第 5 回看護学研究科セミナー, 2019. 8. 10, 島根県立大学出雲キャンパス, 「ケースメソッド教  
授法: 看護学教育への活用」, 小池智子 (慶應義塾大学准教授)
- 3) 2019 年度英語論文投稿セミナー, 2019. 11. 14, 島根大学医学部看護学科棟, 「論文作成・投稿を  
よりスムーズに Web of Science 等のツールを活用して」, 石堂きよみ (クラリベイト・アナリテ  
ィクス)
- 4) 第 39 回日本看護科学学会学術集会会長講演, 2019. 11. 30, 石川県立音楽堂, 「ヒトと人間 (ひ  
と) の科学を看護へ」, 石垣和子 (石川県立看護大学学長)
- 5) 第 39 回日本看護科学学会学術集会特別講演, 2019. 11. 30, 石川県立音楽堂, 「知られざるヒトの  
適応機構の解明: フィールドワークからの挑戦」, 梅崎昌裕 (東京大学大学院教授)

## 助 教      松 本 祐 香

### FD

- 1) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 5. 30, 「Amos による構造方程式モデリング」, 矢嶋裕樹  
(新見公立大学健康科学部看護学科)
- 2) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 6. 13, 「項目反応理論」, 矢嶋裕樹 (新見公立大学健康科  
学部看護学科)
- 3) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2019. 6. 27, 「統計的検定の問題と対処」, 矢嶋裕樹 (新見公立  
大学健康科学部看護学科)
- 4) 令和元年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 島根県立大学出雲キャンパス, 「2019 年度入試  
結果分析と 2021 年度入試改革の動向」, 延原範昭 (株式会社進研アド営業本部 中・四国支社)
- 5) 高齢者生活プロジェクト招聘講義, 2020. 3. 17, 「尺度開発のプロセスと統計的データ処理」, 吉  
田いつこ (安田女子大学看護学部看護学科)

## 助 教 吉 松 恵 子

### FD

- 1) 令和元年度アドミッション研修会, 2019. 7. 31, 島根県立大学出雲キャンパス, 「2019年度入試結果分析と2021年度入試改革の動向」延原範昭(株式会社進研アド営業本部 中・四国支社)
- 2) 令和元年度島根県立出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 島根県立大学出雲キャンパス, 「ないものはない! 離島からの挑戦」大江和彦(海士町長)
- 3) 看護学科学習会, 2019. 9. 13, 島根県立大学出雲キャンパス, 「地域包括ケア時代における看護師の基礎能力強化のためのカリキュラム」上山和子(新見公立大学健康科学学部看護学科長)
- 4) 2019年度ダイバーシティ推進委員会研修会, 2019. 11. 5, 島根県立大学出雲キャンパス, 「働き方改革とプロフェッショナルリズム」高田朝子(法政大学経営大学校 イノベーション・マネジメント研究科教授)
- 5) コンプライアンス研修会, 2020. 3. 6, 島根県立大学出雲キャンパス, 「2019年度島根県立大学公的研究費コンプライアンス研修研究倫理教育研修」SRK 総合リスク研究所

## 助 手 川 谷 真 由 美

### FD

- 1) 実践栄養学研究セミナー, 2019. 4. 13, 「研究ことはじめ」, 名和田清子(島根県立大学看護栄養学部健康栄養学科教授)
- 2) 2019年度公益社団法人島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 5. 18, 「知っておきたい食物アレルギーの最新情報」, 森田栄伸(島根大学医学部皮膚科学講座教授)
- 3) 第15回日本栄養改善学会中国支部学術総会, 2019. 6. 16, 「日本人の食事摂取基準(2020年版)の新たな視点!」, 木戸康博(金沢学院大学人間健康学部健康栄養学科教授)
- 4) 島根県立大学出雲キャンパスFD研修会, 2019. 8. 28, 「ないものはない! 離島からの挑戦」, 大江和彦(海士町長)
- 5) 2019年度公益社団法人島根県栄養士会主催生涯教育, 2019. 10. 6, 「授乳・離乳の支援ガイド」, 堤ちはる(相模女子大学栄養科学部教授)

付) 資 料

平成31年度／令和元年度主要行事の概要

年月日(曜日)		行 事 等	
平成31年	4月 1日(月)	学年始め	
	2日(火)	入学式前オリエンテーション(～4/4), 学生生活支援講演(学生生活の安全・カルト)	
	3日(水)	学生生活支援講演(防犯)	
	4日(木)	入学式, 保護者ガイダンス, キャリアガイダンス(別科生)	
	5日(金)	春学期授業開始	
	10日(水)	大学生生活スタートセミナー	
	17日(水)	ES対策講座, 面接対策講座(看護学部4年次生, 別科生), 健康診断(看護栄養学部1年次生, 別科生)	
	24日(水)	健康教育講演 I 健康診断(看護栄養学部2・3年次生), キャリアガイダンス(看護栄養学部1年次生) 小論文対策講座(看護学科4年次生, 別科生) 看護学研究科博士後期課程開設記念講演会(草間先生)	
	令和元年	5月 8日(水)	健康診断(看護学科4年次生)
		15日(水)	健康教育講演 II
29日(水)		学生寮火災避難訓練	
6月 1日(土)		開学記念日	
5日(水)		マナーアップ講座(看護学部2年次生)	
8日(土)		つわぶき祭(～9日), 卒業生・修了生フォローアップ交流会	
8日(土)		看護学志望者セミナー	
21日(金)		酒向客員教授特別講義	
22日(土)		地域課題総合理解(2年次生)(～23日)	
26日(水)		大学火災非難訓練	
7月 4日(木)		看護栄養学部説明会	
6日(土)		保護者懇談会	
7日(日)		3キャンパス合同学生ボランティア交流会(浜田キャンパス)	
13日(土)		オープンキャンパス(1回目)	
17日(水)		キャリアプラン講座 I(看護学科3年次生)	
30日(火)		前期補講期間(～31日)	
31日(水)		アドミッション研修会	
8月 1日(木)		春学期試験	
10日(土)		夏季休業(～9/29)	
20日(火)		第5回看護学研究科セミナー(小池先生)	
21日(水)		異文化研修(韓国～8/25)(米国～8/30)	
24日(土)		島根の地域医療フィールドワーク(前半グループ)	
28日(水)		第6回看護学研究科セミナー(飯島先生)	
9月 2日(月)		前期再試験期間(～9/4)	
6日(金)		大学院看護学研究科(一般選抜・社会人入試):A日程	
10日(火)		島根の地域医療フィールドワーク(後半グループ)	
16日(月)		就職対策総合講座(～9/18看護学科2・3年次生)	
21日(土)		別科助産学専攻推薦入試(学内推薦・島根特別入試)	
30日(月)		秋学期授業開始(別科学生は実習・授業計画による)	
10月 3日(木)		春学期卒業式	
5日(土)		管理栄養士セミナー	
16日(水)		キャリアデザイン講座(看護学科1年次生)	
19日(土)		2019体育祭	
23日(水)		桑原客員教授特別講義	
30日(水)		キャリアアンカー講座 I(看護学科2年次生) 障害のある学生の就学支援研修会	
11月 2日(土)		3年次編入試験, 保健師国家試験受験資格取得希望者選抜試験	
6日(水)		岡本客員教授特別講義	
20日(水)		護身術セミナー	
23日(土)		別科助産学専攻一般入学試験	
27日(水)		国際交流活動報告会	
12月 4日(水)		看護研究発表会	
7日(土)		看護栄養学部推薦(一般, 地域特別A・B, 専門・総合), 社会人・学士, 帰国子女入学試験	
11日(水)	人権研修(学部生向け, 島根県女性センター共催)		
23日(月)	アカデミック・インターンシップ(～24日)		
25日(水)	冬季休業(～1/5)		
令和2年	1月 14日(火)	秋学期定期試験開始(看護学部4年次生)	
	18日(土)	大学入試センター試験(～1/19)	
	20日(月)	別科助産学専攻秋学期試験(～21日)	
	22日(水)	修士論文公開発表会	
	29日(水)	秋学期補講(～30日), 修士論文最終試験	
	31日(金)	秋学期定期試験開始(学部)	
	2月 5日(水)	大学院博士前期課程「専門演習」報告会	
	9日(日)	大学院看護学研究科高度実践者養成コース助産学領域設置キックオフ講演会(福井先生)	
	12日(水)	看護栄養学部推薦(一般, 地域特別A・B)入学試験合格発表	
	13日(木)	秋学期定期試験開始(看護栄養学部1・2年次生～16日)	
	13日(木)	第103回助産師国家試験	
	14日(金)	第106回保健師国家試験	
	16日(日)	第109回看護師国家試験	
	25日(火)	看護栄養学部一般入試(～26日)	
	3月 3日(火)	就職対策総合講座(～6日)	
	6日(金)	大学院入試C日程	
	12日(木)	秋学期卒業式・修了式, 学位記授与式	
	18日(水)	春季休業(～4/5)	
	19日(木)	保健師・助産師・看護師国家試験合格発表	
	31日(火)	学年終り	

## 編集後記

2019年度の年報をお届けします。島根県立大学の年報は、島根県立看護短期大学が開設した平成7年から毎年度末に作成してきました。今年度は看護学部が看護栄養学部となり2年目を迎え、キャンパスが益々にぎやかになってきました。また、今年度から大学院看護学研究科博士後期課程が開設され、研究力を持つ優れた看護実践者の教育が本格的に始まりました。このようなキャンパスの発展を記録に残した年報を発刊できたことを嬉しく思います。

この年報の作成にあたりご協力いただいた皆様に感謝し、本学の発展のために活用されることを願っています。

FD委員会委員長 伊藤智子

---

学長代行	山下 一也
副学長	石橋 照子
教授 (FD 委員長)	伊藤 智子
准教授	井上 千晶
准教授	籠橋有紀子
准教授	濱村美和子
講師	荒井恵美子
助教	松谷ひろみ
助教	日野 雅洋
助教	小田 香澄
事務室長	森本 勝志
教務学生課長	坂田栄一郎

## 島根県立大学出雲キャンパス

### 2019年度 年報

編集・発行 島根県立大学出雲キャンパス FD 委員会  
〒693-8550 島根県出雲市西林木町 151 番地  
TEL 0853-20-0200 FAX 0853-20-0200  
Home Page <http://www.u-simane.ac.jp>

印刷 株式会社 三和印刷  
〒693-0063 島根県出雲市大塚町 1148  
TEL 0853-22-8225



島根県立大学マスコットキャラクター  
オロリン